茨城県教育財団文化財調査報告第365集

日　向　遺　跡

一般国道293号常陸太田東バイパス及び主要地方道
日立笠間線バイパス整備事業地内埋蔵文化財調査報告書

下　巻

平 成 25 年 3 月

茨城県常陸太田工事事務所
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第365集

日向（ひなた）遺跡

一般国道293号常陸太田東バイパス及び主要地方道
日立笠間線バイパス整備事業地内埋蔵文化財調査報告書

下　巻

平成25年3月

茨城県常陸太田工事事務所
公益財団法人茨城県教育財団

目　　次

－下　巻－

4　奈良・平安時代の遺構と遺物

(2)　掘立柱建物跡 …… 271

(3)　竪穴遺構 …… 272

(4)　焼土遺構 …… 287

(5)　土坑 …… 289

(6)　ピット群 …… 306

5　中世・近世の遺構と遺物 …… 310

(1)　墓坑 …… 310

(2)　溝跡 …… 312

6　その他の遺構と遺物 …… 313

(1)　竪穴住居跡 …… 313

(2)　掘立柱建物跡 …… 315

(3)　道路跡 …… 316

(4)　土坑 …… 317

(5)　溝跡 …… 340

(6)　ピット群 …… 342

(7)　遺構外出土遺物 …… 349

第４節　まとめ …… 353

写真図版 …… PL 1 ～ PL64

抄　録

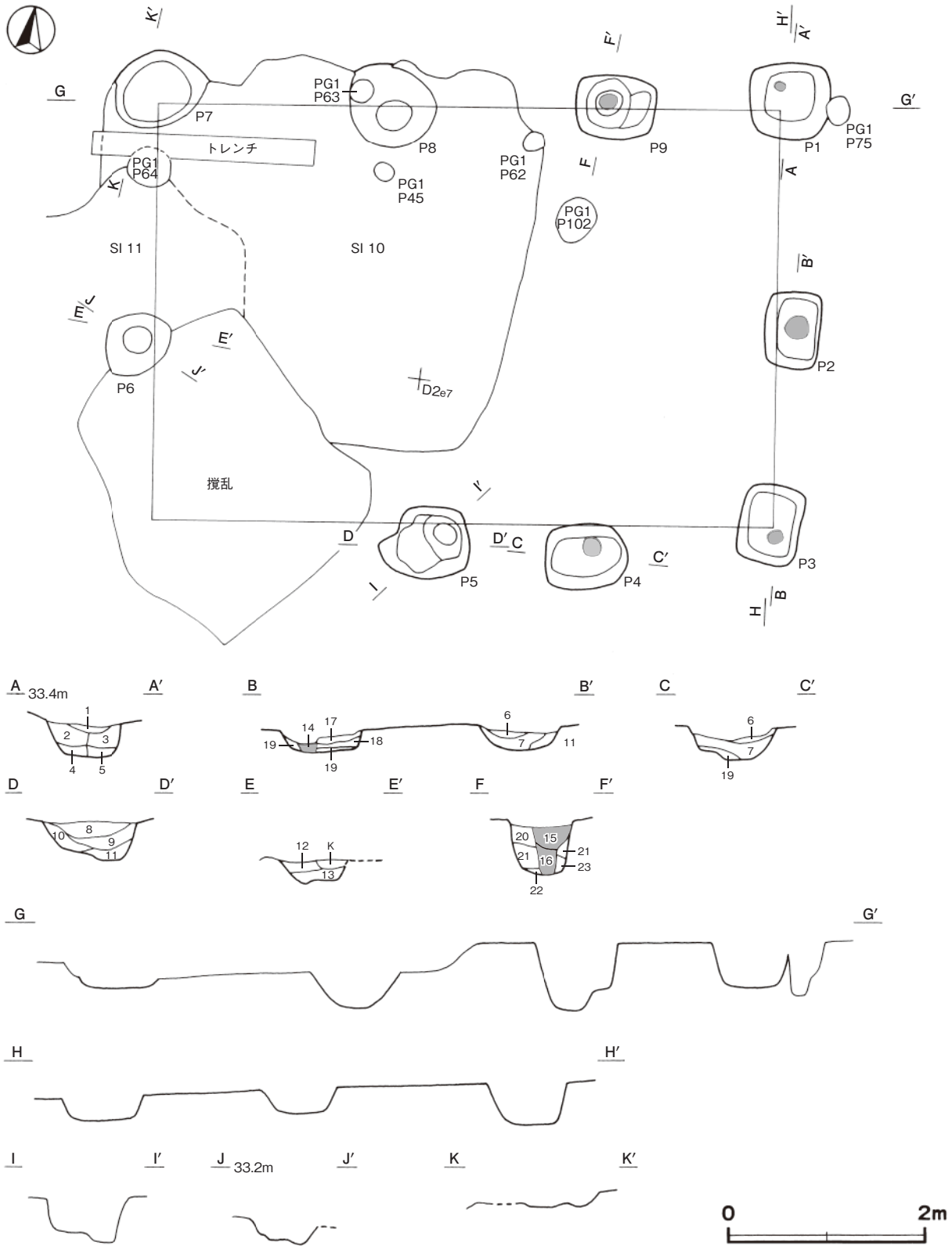
付　図

(2) 掘立柱建物跡

第１号掘立柱建物跡（第 237･238 図）

位置　調査区中央部のＤ２d6 ～ Ｄ２e7 区，標高 33 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　西半部が第 10・11 号住居に，Ｐ１・Ｐ８が第１号ピット群に掘り込まれている。



第 237 図　第１号掘立柱建物跡実測図

規模と形状　桁行３間，梁行２間の側柱建物跡で，桁行方向Ｎ－83°－Ｅの東西棟である。規模は桁行 6.3 m，梁行 4.2 mで，面積 26.46㎡である。柱間寸法は，北桁行が西妻から 2.4 m（８尺）・2.1 m（７尺）・1.8 m（６尺）で，東梁行は 2.1 mの均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

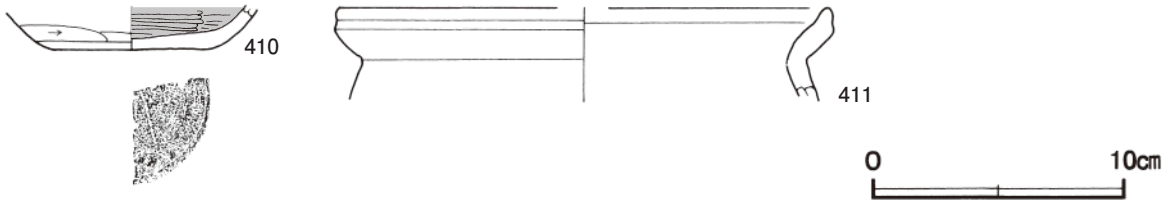
柱穴　９か所。平面形は隅丸(長)方形または楕円形で，長軸・径 78 ～ 94 ㎝，短軸・径 56 ～ 81㎝である。深さは 22 ～ 69㎝で，掘方の断面形は逆台形である。第１～ 13 層は柱の抜き取り痕，第 14 ～ 16 層は柱痕跡，第 17 ～ 23 層は掘方への埋土である。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

1　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子中量
6　暗　褐　色　ロームブロック微量
7　黒　褐　色　ロームブロック微量
8　褐　　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
9　暗　褐　色　ロームブロック中量
10　暗　褐　色　ロームブロック少量
11　暗　褐　色　ロームブロック微量（第６層より明るい色調）
12　褐　　色　ロームブロック・焼土ブロック少量
13　暗　褐　色　焼土粒子中量，ロームブロック少量
14　黒　褐　色　ローム粒子微量
15　黒　褐　色　ロームブロック少量
16　黒　褐　色　ロームブロック微量（第７層より明るい色調）
17　褐　　色　ロームブロック中量
18　暗　褐　色　ローム粒子少量
19　褐　　色　ロームブロック多量
20　黒　褐　色　ロームブロック中量
21　褐　　色　ロームブロック少量
22　褐　　色　ローム粒子中量（第５層より暗い色調）
23　黒　褐　色　ロームブロック少量（第 15 層より暗い色調）

遺物出土状況　土師器片 145 点（坏 22，甕 10，甕類 113），須恵器片１点（坏），剥片１点，粘土塊２点（6.1 ｇ）が各柱穴から出土している。また，混入した縄文土器片 13 点，弥生土器片６点，古墳時代の土師器片７点（坏１，坩１，高坏５）も出土している。410・411 はＰ７の柱の抜き取り痕から出土している。

所見　時期は，９世紀中葉に比定できる第 10 号住居に掘り込まれており，重複関係や出土土器から９世紀前葉と考えられる。



第 238 図　第１号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第１号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 238 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
410	土師器	坏	－	(1.8)	[6.0]	長石・石英	褐	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り　内面ヘラ磨き	Ｐ７	20%
411	土師器	甕	[19.4]	(3.7)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	Ｐ７	５%

(3)　竪穴遺構

平面形が方形または長方形を呈する竪穴の遺構で，竈や柱穴を持たないことから住居跡と区別して竪穴遺構とした。その多くは性格不明である。規模は，小形のもので一辺が２～３mほど，大形もので一辺が６～９mほどの大･小に大別される。今回の調査で確認した９基について，遺構と遺物の特徴を解説する。

第１号竪穴遺構（第 239・240 図）

位置　調査区南部のＥ２d7 区，標高 33 mの緩斜面部に位置している。

重複関係　第２号竪穴遺構，第 47･74 号土坑に掘り込まれている。また，第 122 号土坑とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　長軸 6.18 m，短軸 3.42 mの隅丸長方形で，長軸方向はＮ－３°－Ｗである。壁高は 10 ～ 32cmで，緩やかに立ち上がっている。

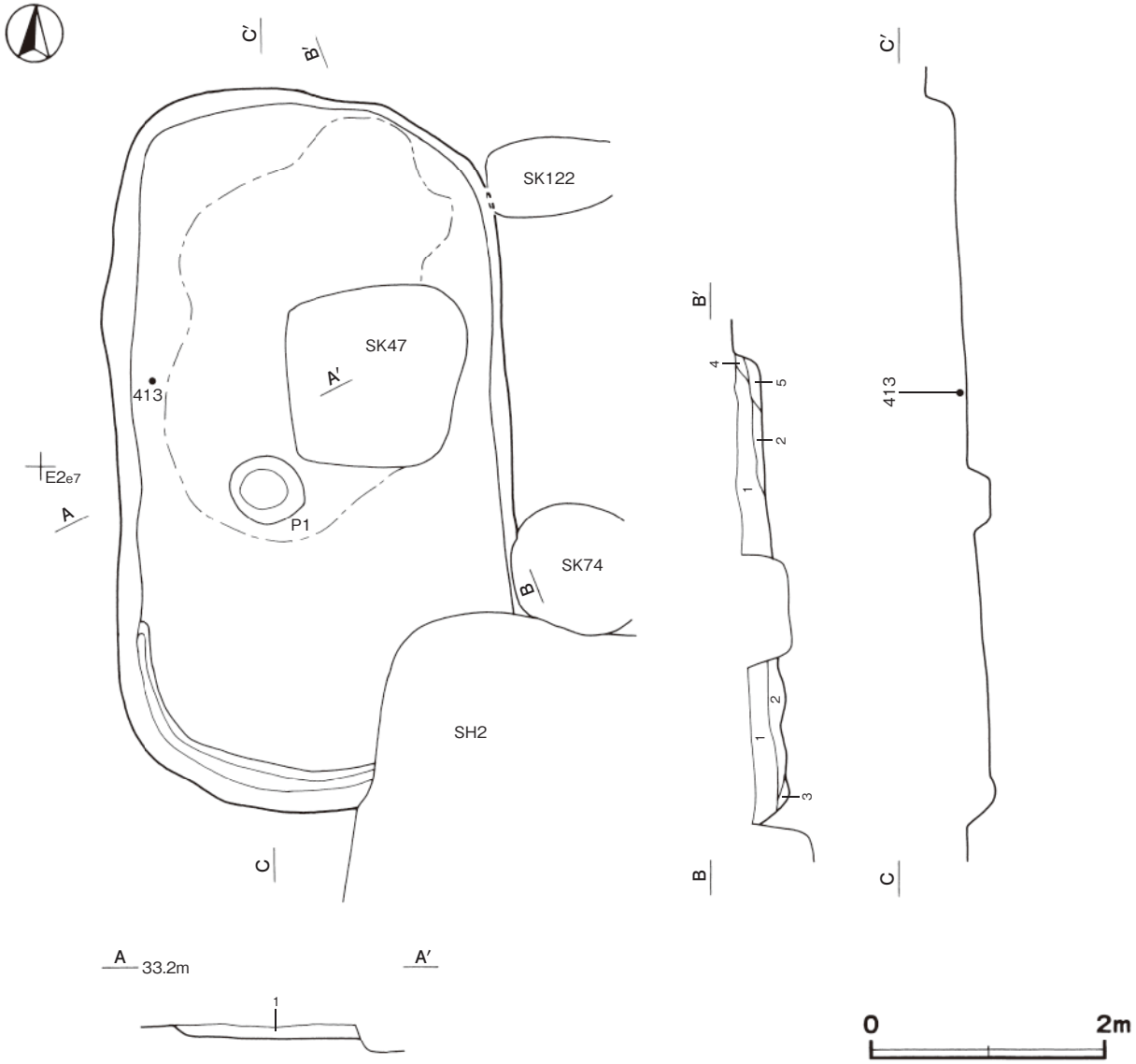
床　斜面部の傾斜方向である南部に向かって緩やかに傾斜している。北壁から中央部にかけて踏み固められている。南西コーナー部の壁下には，壁溝が巡っている。

ピット　深さは 21cmで，中央部に位置している。性格は不明である。

覆土　５層に分層できる。各層にロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

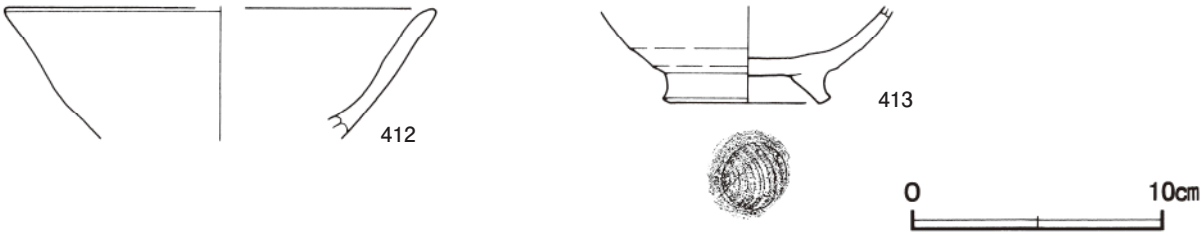
1	暗　褐　色	ロームブロック中量，炭化物少量，焼土ブロック微量	
2	黒　褐　色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量	
3	にぶい黄褐色	ロームブロック少量	
4	灰 黄 褐 色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量	
5	暗　褐　色	ロームブロック少量，焼土粒子微量	



第 239 図　第１号竪穴遺構実測図

遺物出土状況　土師器片 116 点（坏 32, 高台付椀６, 甕１, 甕類 77), 須恵器片５点（坏２, 甕３), 粘土塊１点（10.1ｇ）が出土している。また，混入した縄文土器片４点，弥生土器片８点，古墳時代の土師器片８点（坏６，高坏２）も出土している。413 は西壁際中央部の覆土下層，412 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器や重複関係から 10 世紀後葉に比定できる。規模や形状から工房跡の可能性があるが，その痕跡を確認することはできなかった。



第 240 図　第１号竪穴遺構出土遺物実測図

第１号竪穴遺構出土遺物観察表（第 240 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
412	土師器	坏	［17.0］	(5.2)	－	長石・石英	橙	普通	器面摩滅のため，調整痕不明	覆土中	20%
413	土師器	高台付椀	－	(3.9)	5.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	下層	10%

第２号竪穴遺構（第 241・242 図）

位置　調査区南部のＥ２e8 区，標高 33 ｍの緩斜面部に位置している。

重複関係　第１号竪穴遺構 , 第 116・124 号土坑を掘り込み，第６号竪穴遺構，第 46・74 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　東壁が削平されており，長軸は推定 9.40 ｍで，短軸は 3.92 ｍの隅丸長方形である。長軸方向はＮ－ 78゜－ W である。壁高は 25 ～ 35㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，壁際を除いて中央部が踏み固められている。

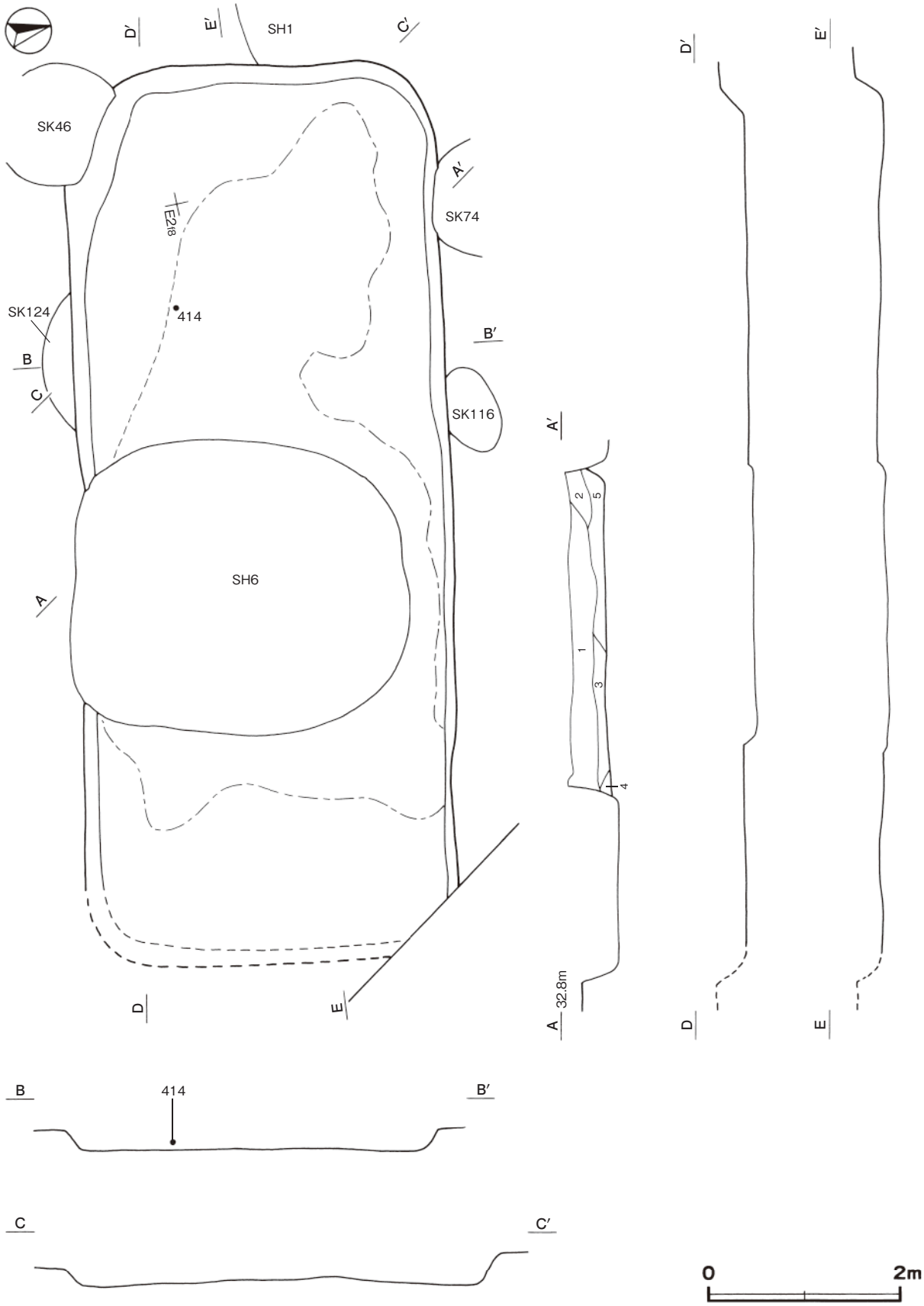
覆土　５層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

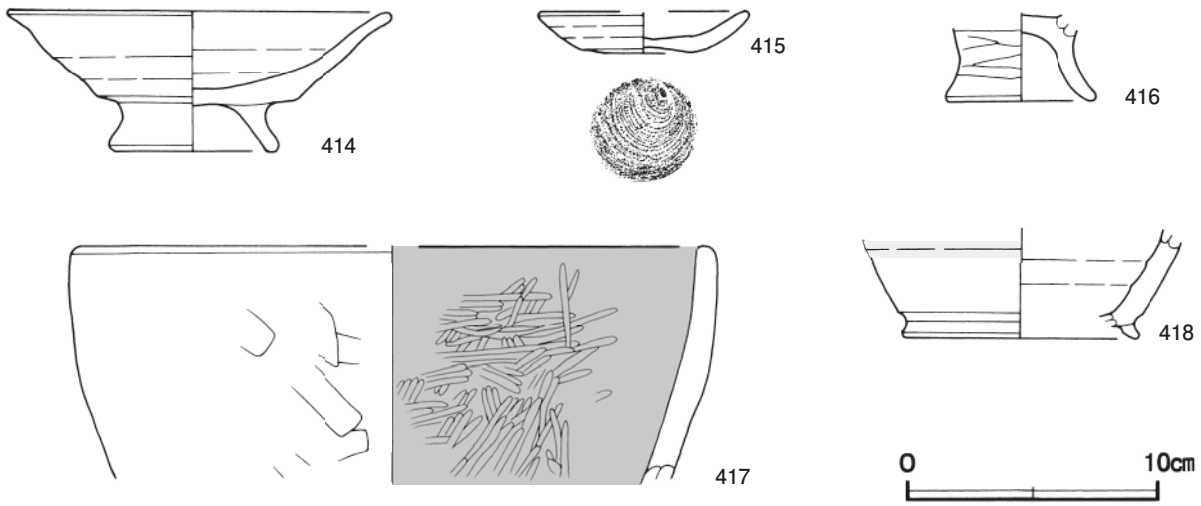
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化物少量，焼土ブロック微量
2　灰 黄 褐 色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
5　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況　土師器片 404 点（坏 121，高台付椀 13，小皿 24，高台付皿ヵ１，鉢１，甕９，甕類 235)，須恵器片９点（坏２，蓋１，甕６)，灰釉陶器片１点（瓶)，鉄製品１点（釘)，粘土塊４点（37.5 ｇ）が出土している。また，混入した縄文土器片９点，弥生土器片 32 点，古墳時代の土師器片８点（坏３，坩２，高坏３）も出土している。土器は細片が多く，覆土上層から下層にかけて散在した状態で出土しており，出土状況に特異な傾向は認められない。414 は西部の覆土下層から逆位で，415 ～ 418 は東部の覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器や重複関係から 11 世紀前葉に比定できる。規模や形状から工房跡の可能性があるが，その痕跡を確認することはできなかった。



第 241 図　第２号竪穴遺構実測図



第 242 図　第２号竪穴遺構出土遺物実測図

第２号竪穴遺構出土遺物観察表（第 242 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
414	土師器	高台付椀	15.0	5.7	6.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	ロクロナデ	下層	80%　PL53
415	土師器	小皿	[8.1]	1.6	4.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	60%
416	土師器	高台付皿ヵ	－	(3.4)	[6.0]	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	高台部外面ヘラナデ	覆土中	30%
417	土師器	鉢	[24.8]	(9.5)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラナデ　内面ヘラ磨き	覆土中	５%
418	灰釉陶器	瓶	－	(4.6)	[9.3]	長石	浅黄	良好	ロクロナデ	覆土中	５%　PL63 東濃ヵ

第３号竪穴遺構（第 243 ～ 245 図）

位置　調査区南部のＥ２h8 区，標高 32 mの緩斜面部に位置している。

重複関係　第 57・65・67・73・74・81 号住居跡 , 第９号竪穴遺構を掘り込み，第 59・62 号住居に掘り込まれている。また，床下から本跡より古い第 102・130 号土坑を確認した。

規模と形状　長軸 9.34 m，短軸 3.60 mの隅丸長方形で，長軸方向はＮ－２°－Ｅである。壁高は 26 ～ 42cmで，外傾して立ち上がっている。

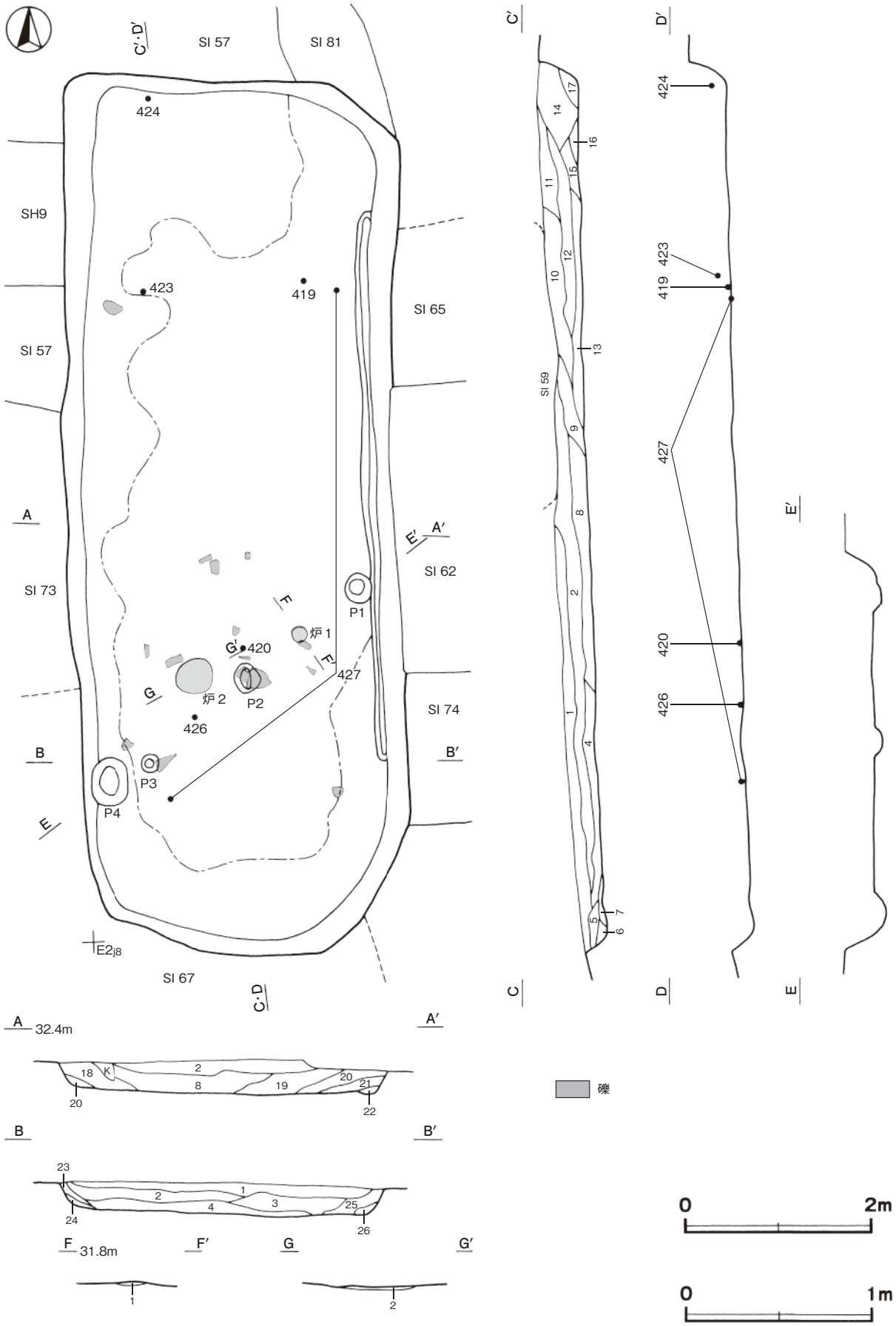
床　斜面部の傾斜方向である南部に向かって緩やかに傾斜している。北東コーナー部から南部にかけて，踏み固められている。また，東壁下に長さ６mほどの範囲で壁溝が存在している。

炉　床面から焼土の範囲２か所が確認されており，赤変硬化していることから炉と判断した。炉１・２ともに，中央部の南寄りに付設された地床炉である。炉１は径 16cm，炉２は径 38cmの円形であり，ともに炉床は床面とほぼ同じ高さで，赤変硬化している。併設か否かは不明である。

炉１・２土層解説
１　赤　褐　色　焼土粒子多量　　２　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，炭化粒子微量

ピット　４か所で，いずれも南部に位置している。Ｐ１～Ｐ４は深さ９～ 16cmで，性格は不明である。

覆土　26 層に分層できる。第１・２層は周囲からの土の流入を示す自然堆積で，第３層以下はブロック状の堆積状況から埋め戻されている。北部の覆土は細分して分層することが可能であり，主に北壁側から埋め戻されたと想定できる。



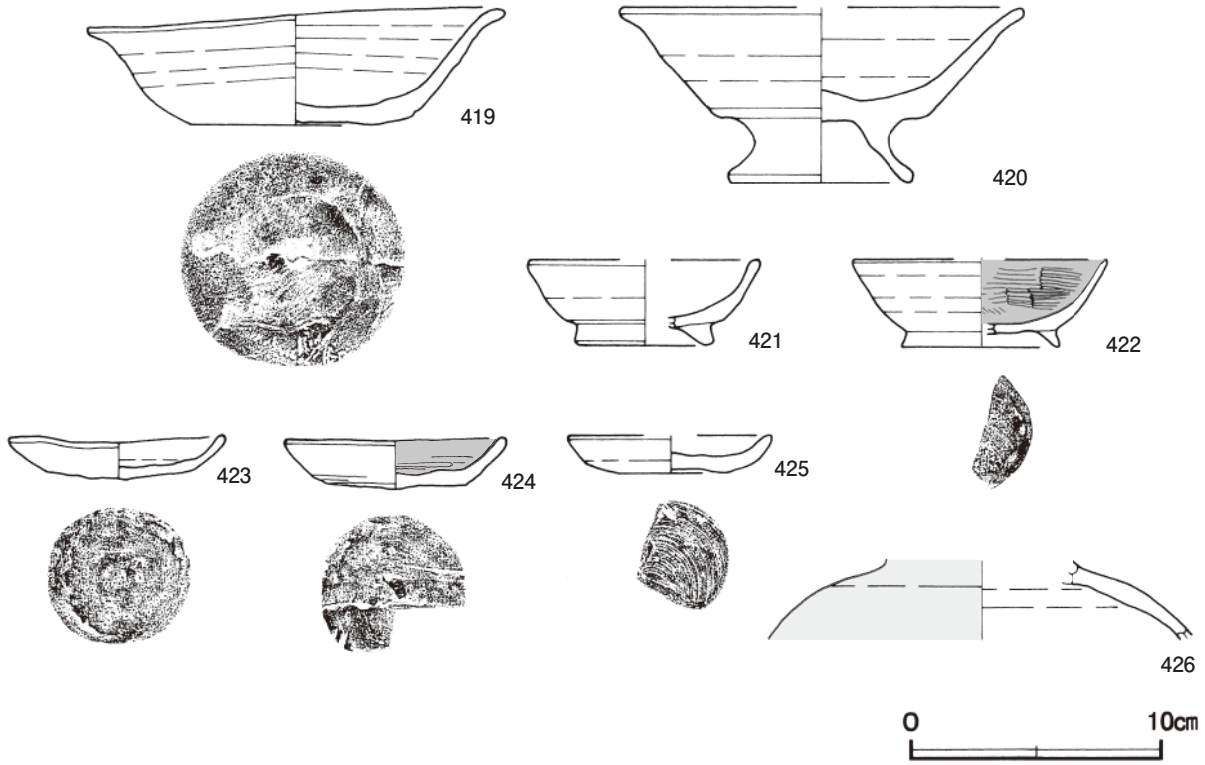
第 243 図　第３号竪穴遺構実測図

土層解説

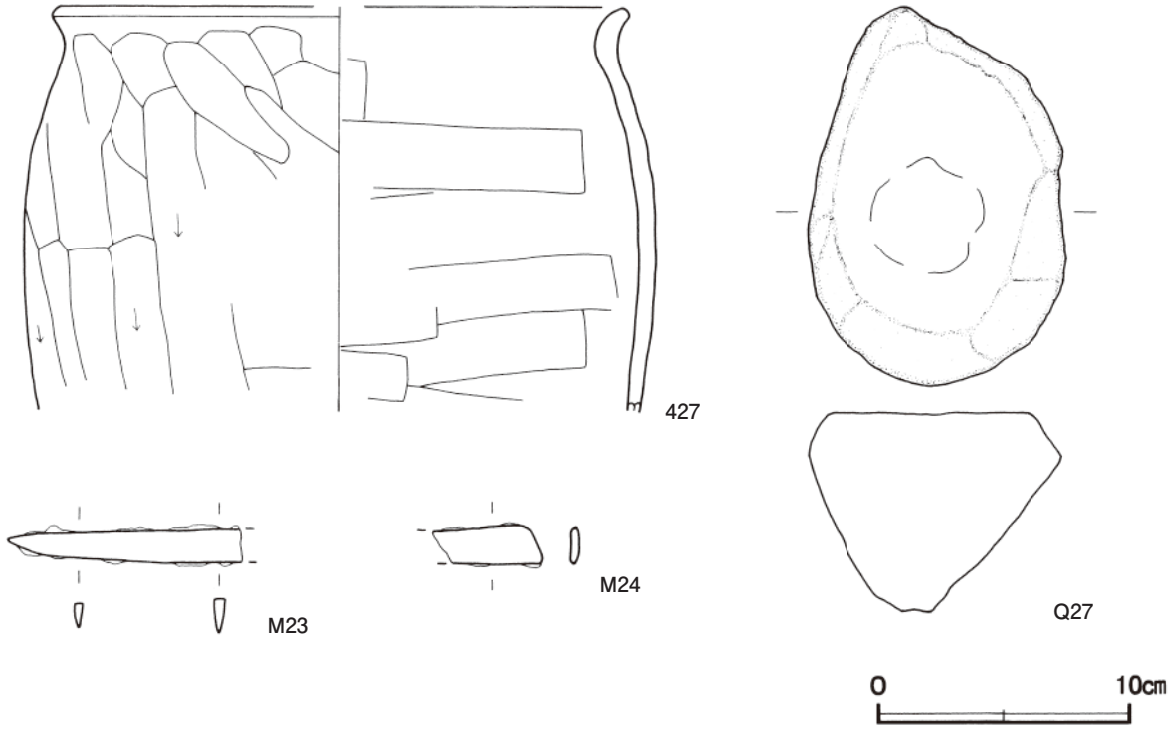
1　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
4　黒　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
9　灰　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量・炭化粒子微量
10　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
11　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
12　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
13　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
14　灰黄褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
15　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量（第６層より明るい色調）
16　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
17　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
18　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
19　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
20　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
21　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量（第10層より明るい色調）
22　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
23　暗　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
24　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
25　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
26　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片1618点（坏375，高台付坏１，高台付椀65，小皿15，甕42，甕類1118，羽釜１，手捏土器１），須恵器片49点（坏15，蓋５，瓶１，甕28），灰釉陶器片３点（広口瓶ヵ１，瓶２），鉄製品２点（刀子，不明），土製品１点（不明），石器１点（金床石ヵ），粘土塊６点（27.2ｇ）が，主に覆土下層から床面にかけて散在した状態で出土している。また，混入による縄文土器片８点，弥生土器片61点も出土している。419は北部，420・426は南部，427は北部と南部の床面，423は北部の覆土下層，424は北壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。また，425・M 23・M 24は覆土下層，421・422・Q 27は覆土中からそれぞれ出土している。また，南部の覆土下層から床面にかけて，20cmほどの礫が10点ほど出土している。その多くが被熱のため赤変しているが，性格は不明である。

所見　時期は，出土土器から11世紀前葉に比定できる。鍛造剥片や鉄滓等の遺物は確認できなかったが，炉が確認されていることや金床石とみられる石器も出土しており，鍛冶関連の工房跡の可能性がある。



第244図　第３号竪穴遺構出土遺物実測図（１）



第 245 図　第３号竪穴遺構出土遺物実測図（２）

第３号竪穴遺構出土遺物観察表(第 244･245 図)

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
419	土師器	坏	16.3	4.6	8.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り	床面	95%　PL53
420	土師器	高台付椀	[15.8]	6.9	7.0	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ	床面	70%　PL53
421	土師器	高台付椀	[9.0]	3.4	[5.2]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	ロクロナデ	覆土中	30%
422	土師器	高台付椀	[10.1]	3.5	[6.2]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内面ヘラ磨き	覆土中	40%
423	土師器	小皿	8.4	1.8	6.0	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	底部回転ヘラ切り	下層	100%　PL53
424	土師器	小皿	8.6	2.1	5.7	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ切り	中層	80%　PL53
425	土師器	小皿	[8.0]	1.5	4.5	長石･石英･雲母･針状鉱物･角閃石	橙	普通	底部回転糸切り	下層	50%　PL53
426	灰釉陶器	広口瓶ヵ	－	(3.1)	－	黒色粒子	灰白	良好	ロクロナデ	床面	５％
427	土師器	甕	[22.5]	(16.1)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	床面	30%　PL53

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
Q 27	金床石ヵ	15.2	10.3	7.9	1795	安山岩	被熱のため赤変　表面は平滑で，中央部に５cmほどの褐灰色に変色した部位があり，わずかに凹む	覆土中	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
M 23	刀子	(9.4)	(1.3)	0.5	(12.9)	鉄	刃部断面三角形　基部欠損	下層	PL61
M 24	不明鉄製品	(4.5)	1.5	0.4	(6.7)	鉄	端部が丸みをおびる断面形	下層	

第４号竪穴遺構（第 246 図）

位置　調査区中央部のＥ２b7 区，標高 33 mの台地平坦部に位置している。

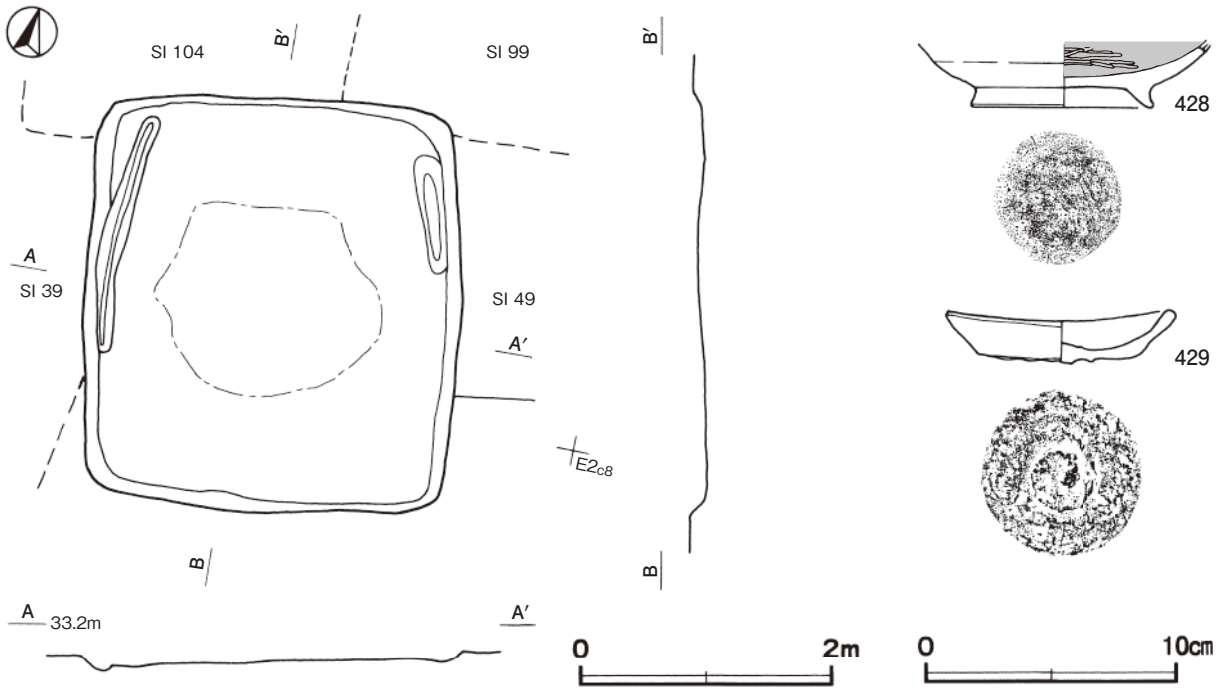
重複関係　第 39･49･99･104 号住居跡を掘り込んでいる。また, 床下から本跡より古い第 143 号土坑を確認した。

規模と形状　長軸 3.31 m，短軸 3.03 mの方形で , 長軸方向はＮ－ 10゜－ Ｗである。壁高は６～ 11cmで，緩やかに立ち上がっている。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。東壁下及び西壁下には，壁溝が存在している。

遺物出土状況　土師器片 78 点（坏 15，高台付椀 12，小皿３，甕５，甕類 43），須恵器片６点（坏２，蓋１，甕３）が出土している。また，混入した縄文土器片２点，弥生土器片 11 点も出土している。428・429 は，覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から 11 世紀前葉に比定できる。



第 246 図　第４号竪穴遺構・出土遺物実測図

第４号竪穴遺構出土遺物観察表（第 246 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
428	土師器	高台付椀	－	(2.5)	7.0	長石・石英・針状鉱物・角閃石	にぶい黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き　底部回転糸切り	覆土中	60％
429	土師器	小皿	8.8	2.1	6.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ切り	覆土中	95％　PL54

第５号竪穴遺構（第 247 図）

位置　調査区南部のＥ２i7 区，標高 32 mの緩斜面部に位置している。

重複関係　第 67・73 号住居跡を掘り込み，第 80 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 2.60 m，短軸 2.15 mの隅丸長方形で，長軸方向はＮ－１°－Ｗである。壁高は 28 ～ 32㎝で，緩やかに立ち上がっている。

床　中央部が周囲よりやや高く，踏み固められている。

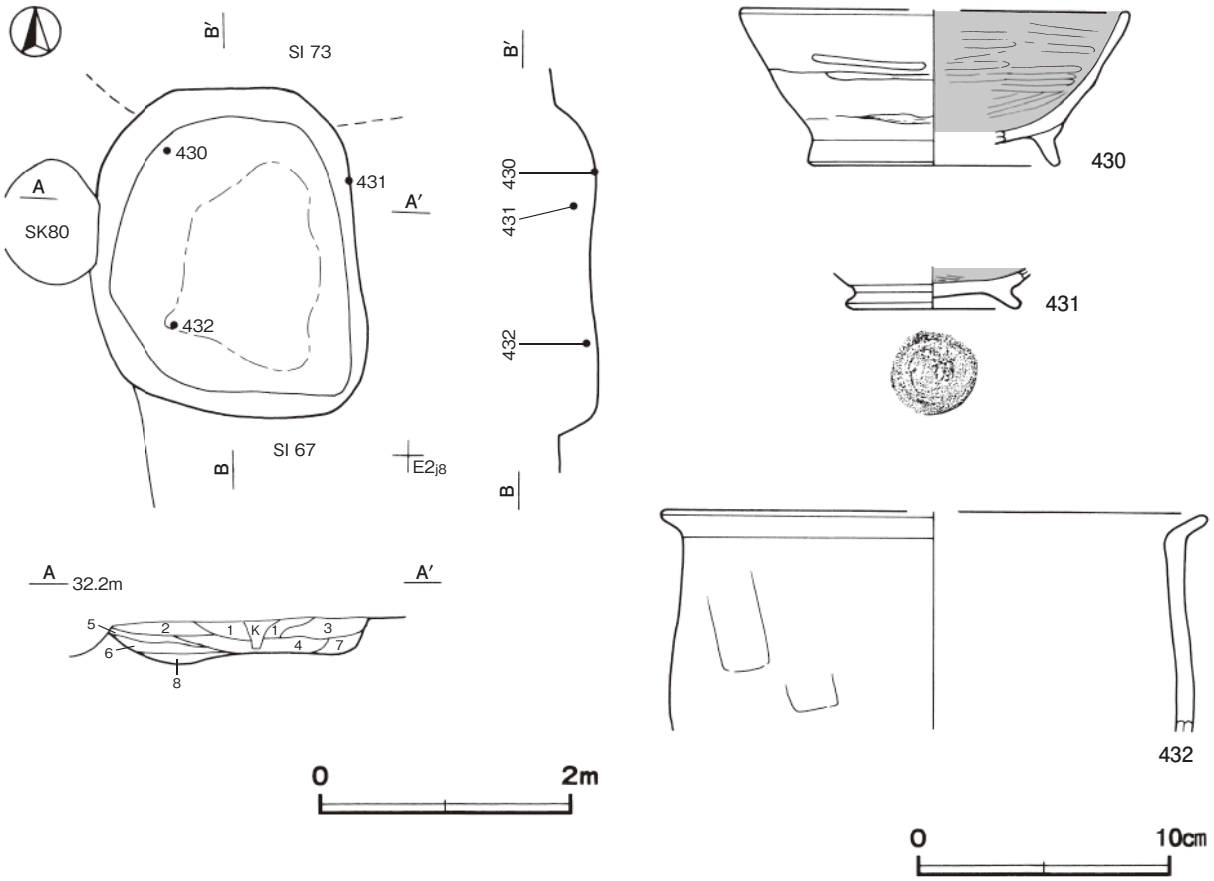
覆土　８層に分層できる。第１～７層は，周囲からの土の流入を示す自然堆積である。第８層はロームブロックが多く含まれていることから，埋め戻されている可能性がある。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・凝灰岩の小ブロック微量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　灰　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　明　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物微量

遺物出土状況　土師器片 232 点（坏 52，高台付椀 9，甕 12，甕類 159），須恵器片 5 点（坏 2，蓋 2，瓶 1）が出土している。また，流れ込みによる弥生土器片 2 点，古墳時代の土師器片 3 点（坏 2，高坏 1）も出土している。430 は北西部の床面，432 は南部の覆土下層，431 は東壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から 10 世紀後葉に比定できる。



第 247 図　第 5 号竪穴遺構・出土遺物実測図

第 5 号竪穴遺構出土遺物観察表（第 247 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
430	土師器	高台付椀	[15.4]	6.2	[9.6]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内面ヘラ磨き	床面	40%
431	土師器	高台付椀	－	(1.6)	[6.6]	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	にぶい黄橙	普通	内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ切り	中層	30%
432	土師器	甕	[21.8]	(8.6)	－	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	橙	普通	外面ヘラナデ　内面ナデ	下層	10%

第６号竪穴遺構（第 248・249 図）

位置　調査区南部のＥ２f8 区，標高 33 mの緩斜面部に位置している。

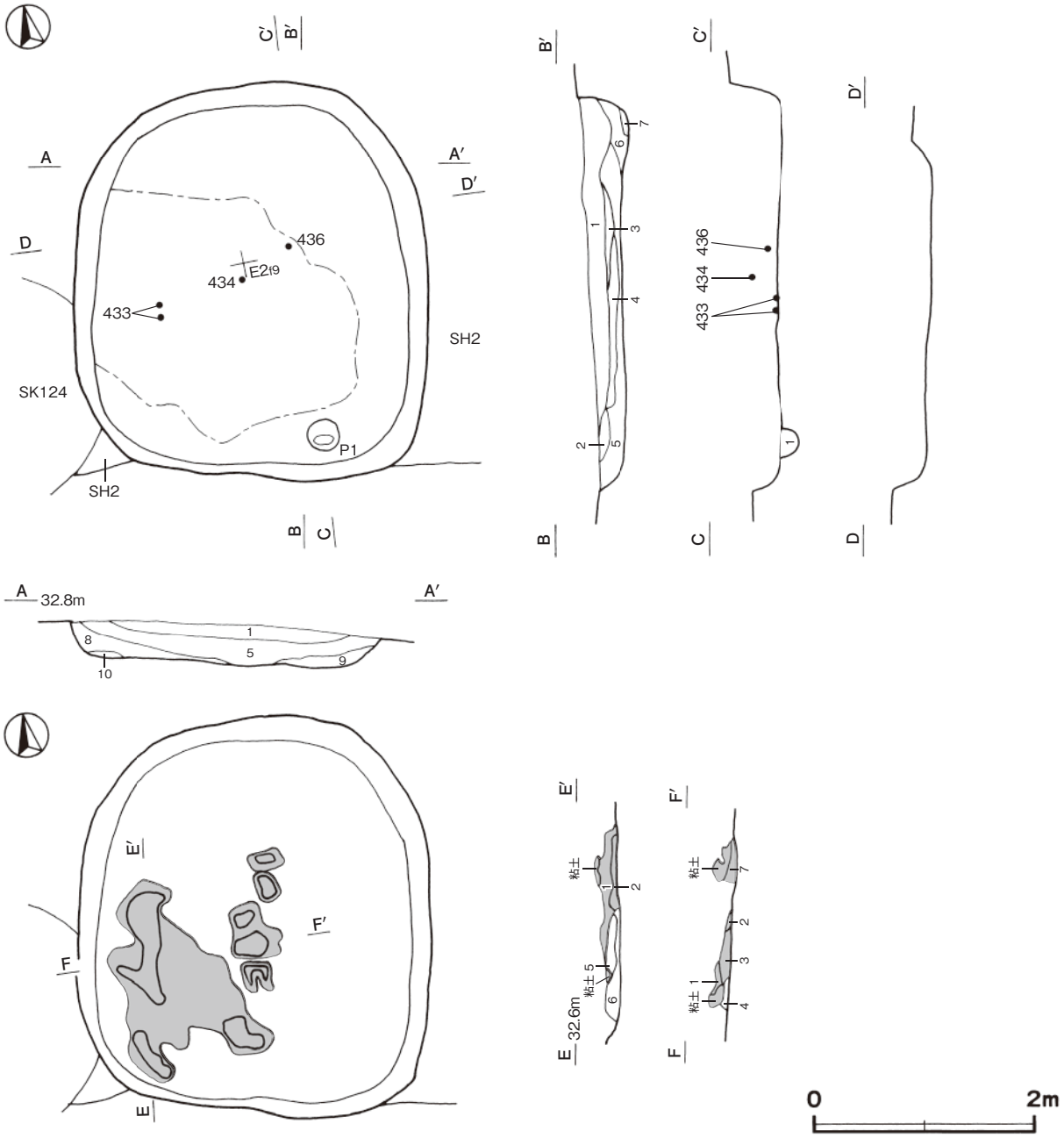
重複関係　第 2 号竪穴遺構 , 第 124 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸 3.60，短軸 3.20 ｍの隅丸長方形で，長軸方向はＮ－ 11 ゜－ Ｅである。壁高は 16 ～ 45㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部から西部にかけて踏み固められている。南西部の覆土中層から床面にかけて，焼土を含む粘土塊を確認した。

粘土塊土層解説

1　暗　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
2　灰　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子微量
3　黄　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
4　灰　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
6　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　明　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量



第 248 図　第６号竪穴遺構実測図

ピット　深さ17cmで，性格不明である。

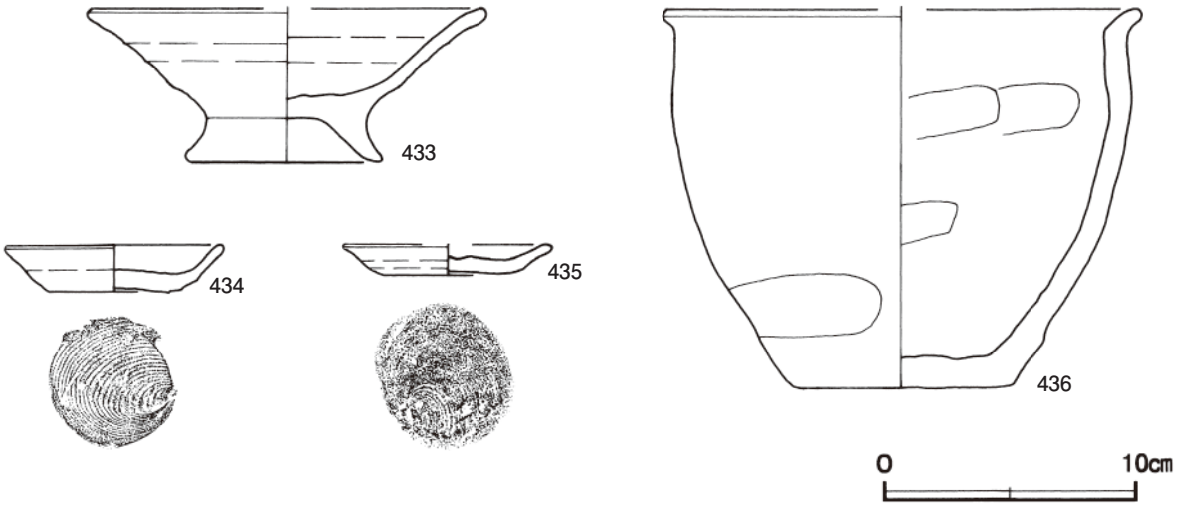
ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量

覆土　10層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
6　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
8　灰　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
9　にぶい黄褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
10　暗　褐　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片201点（坏97, 椀1, 高台付椀15, 小皿23, 甕3, 小形甕1, 甕類61), 須恵器片4点（坏2，甕2），鉄滓1点（16.5 g），粘土塊3点（34.7 g）が出土している。また，混入した弥生土器片5点も出土している。433は西壁寄りの床面，粘土塊の下から出土している。436は中央部の覆土下層，434は中央部の覆土中層，435は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器と重複関係から第2号竪穴遺構より新しい時期の11世紀前葉に比定できる。出土状況や堆積状況から，南西部の覆土下層から床面にかけて確認された粘土塊は，埋め戻しの過程で土器とともに投棄されたものと想定できるが，性格は不明である。



第249図　第6号竪穴遺構出土遺物実測図

第6号竪穴遺構出土遺物観察表（第249図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
433	土師器	高台付椀	［15.6］	6.1	7.6	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	浅黄橙	普通	ロクロナデ	床面	60%
434	土師器	小皿	8.4	1.9	5.3	長石・石英・雲母・赤色粒子・針状鉱物・角閃石	橙	普通	底部回転糸切り	中層	100%　PL54
435	土師器	小皿	［8.2］	1.2	5.0	長石・石英・針状鉱物・黒色粒子・角閃石	橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	70%
436	土師器	小形甕	［18.6］	15.1	8.7	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面ナデ　内面ヘラナデ	下層	50%

第７号竪穴遺構（第 250 図）

位置　調査区北部のＣ３a5 区，標高 29 ｍの緩斜面部に位置している。

確認状況　埋没谷の上部に構築されている。

重複関係　第 142 号住居跡を掘り込み，第 200 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 2.43 ｍ，短軸 1.92 ｍの長方形で，長軸方向はＮ－ 35 °－ Ｗである。壁高は６～ 16㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　南部が一段高く，北部に向かって緩やかに傾斜している。硬化した範囲が，北部と南部の一部に確認されているのみで，全体としては締まりは弱い。

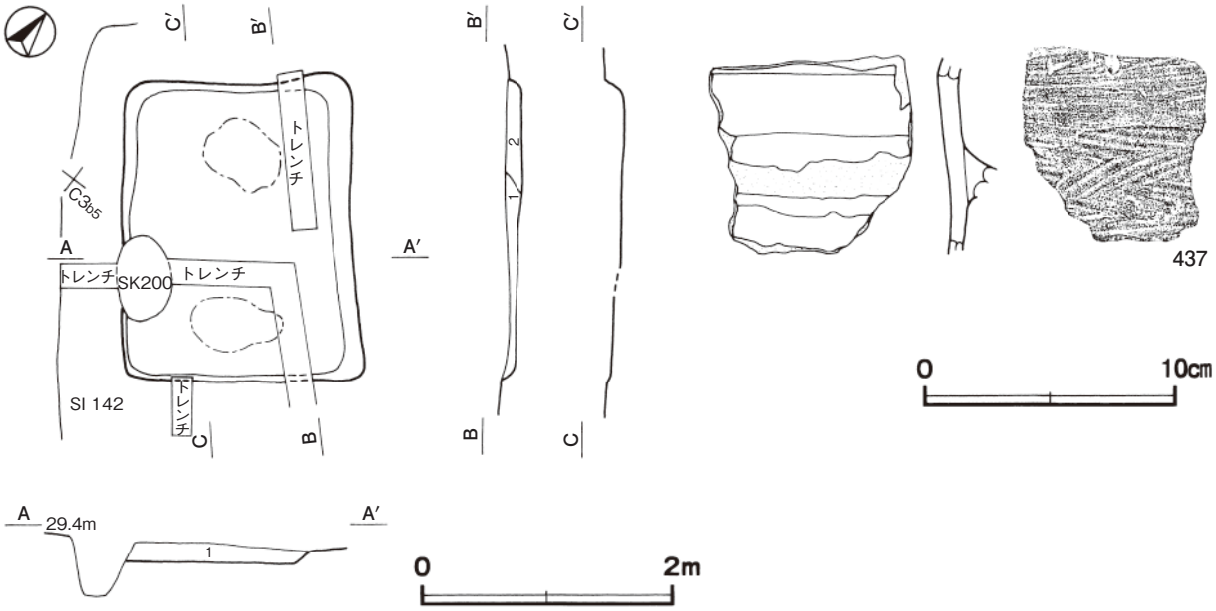
覆土　２層に分層できる。堆積状況に乱れもないことから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　極 暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子微量　　2　極 暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土ブロック微量

遺物出土状況　土師器片 97 点（坏２，甕９，甕類 85，羽釜１），須恵器片３点（坏），鉄製品１点（刀子）が出土している。また，混入した縄文土器片５点，弥生土器片 51 点，古墳時代の土師器片 11 点（坏６，高坏５）も出土している。437 は，確認面から出土している。

所見　時期は，出土土器や重複関係により，10 世紀後葉から 11 世紀前葉と考えられる。



第 250 図　第７号竪穴遺構・出土遺物実測図

第７号竪穴遺構出土遺物観察表（第 250 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
437	土師器	羽釜	－	7.8	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	内面ヘラナデ	確認面	５％

第８号竪穴遺構（第 251・252 図）

位置　調査区中央部のＤ２g9 区，標高 33 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第１号墳，第５・89 号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸3.58ｍ，短軸2.60ｍの長方形である。主軸方向はＮ－５°－Ｗである。壁高は104～112㎝で，ほぼ直立している。

床　平坦で，顕著な硬化範囲は確認できなかった。

ピット　深さ90㎝で，性格不明である。

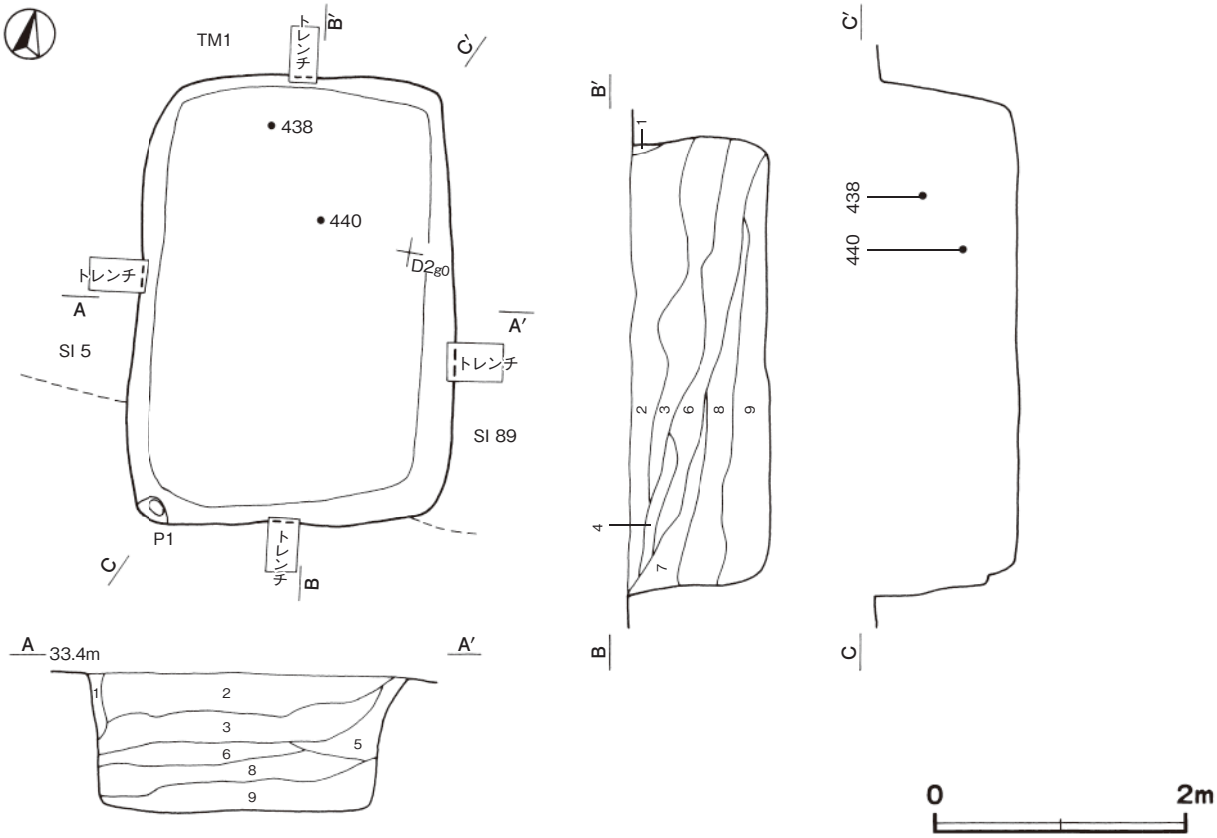
覆土　９層に分層できる。全体的にロームブロックが多く含まれており，堆積状況から南側から埋め戻されている。

土層解説

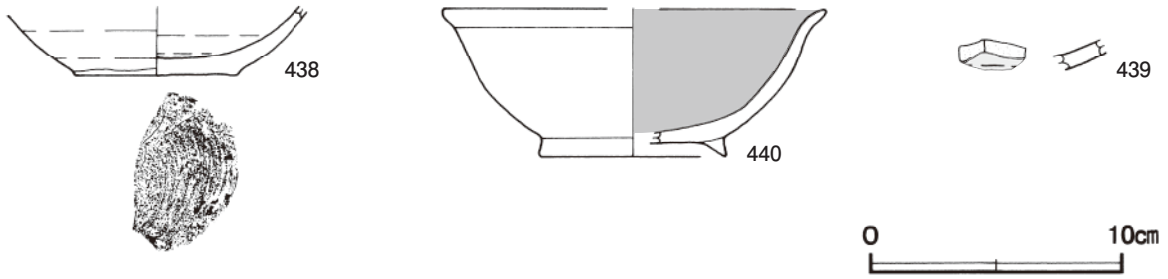
1	褐	色	ロームブロック中量，焼土粒子微量
2	黒褐	色	焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量
3	黒褐	色	ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
4	黒褐	色	ロームブロック・焼土粒子少量
5	暗褐	色	ロームブロック中量
6	暗褐	色	ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量
7	暗褐	色	ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
8	褐	色	ロームブロック多量，鹿沼パミス少量，炭化物，焼土粒子微量
9	褐	色	ロームブロック多量，鹿沼パミス微量

遺物出土状況　土師器片628点（坏96，高台付椀９，甕18，甕類504，手捏土器１），須恵器片７点（坏５，高台付坏２），緑釉陶器片１点（椀），粘土塊２点（15.3ｇ），剥片２点が出土している。また，混入した縄文土器片21点，弥生土器片79点，古墳時代の土師器片27点（坩１，高坏26）も出土している。土器は細片が多く，主として覆土上層から中層にかけて散在した状態で出土している。440は北部の覆土中層，438は北部の覆土上層，439は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，10世紀後葉に比定される第５号住居跡を掘り込んでおり，重複関係や出土土器から10世紀後葉以降で11世紀前半が下限と考えられる。



第251図　第８号竪穴遺構実測図



第 252 図　第８号竪穴遺構出土遺物実測図

第８号竪穴遺構出土遺物観察表（第 252 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
438	土師器	坏	－	(2.5)	[6.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄	普通	底部回転糸切り	上層	40%
439	緑釉陶器	椀	－	(1.2)	－	緻密	にぶい黄	良好	ロクロナデ	覆土中	５％ PL64 猿投
440	土師器	高台付椀	[15.2]	5.9	[7.4]	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	器面摩滅のため，調整不明	中層	40%

第９号竪穴遺構（第 253 図）

位置　調査区南部のＥ２h7 区，標高 32 ｍの緩斜面部に位置している。

重複関係　第 57 号住居跡を掘り込み，第３号竪穴遺構に掘り込まれている。また，床下から本跡より古い第 130 号土坑を確認した。

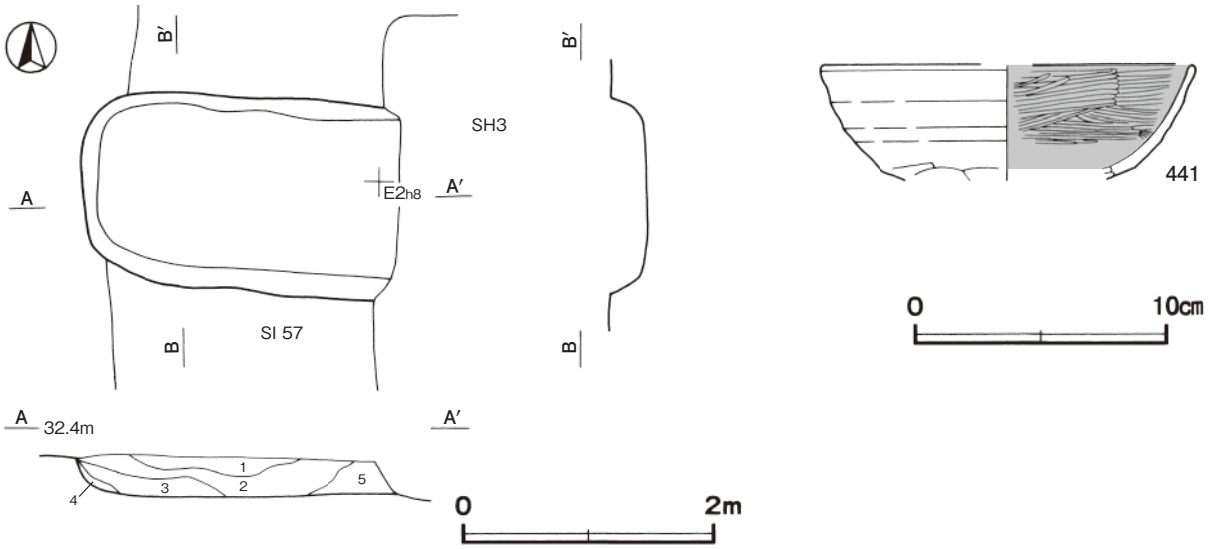
規模と形状　東部を第３号竪穴遺構に掘り込まれているため，長軸は 2.54 ｍしか確認できず，短軸は 1.54 ｍである。平面形は隅丸長方形と推定でき，長軸方向はＮ－ 88°－ Ｗである。壁高は 28㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，特に硬化した部分は認められなかった。

覆土　５層に分層できる。周囲からの土の流入を示す自然堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量



第 253 図　第９号竪穴遺構・出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片 126 点（坏 24, 高台付椀３, 鉢１, 甕類 97, 羽釜ヵ１), 須恵器片８点（蓋２, 甕５, 甑１）が出土している。また, 混入した弥生土器片 11 点, 古墳時代の土師器片７点（坏２, 高坏５）も出土している。441 は，覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器や重複関係から 10 世紀前葉に比定できる。

第９号竪穴遺構出土遺物観察表（第 253 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
441	土師器	坏	［14.7］	(4.5)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　内面ヘラ磨き	下層	20%

表８　平安時代竪穴遺構一覧表

番号	位 置	主軸方向	平面形	規　模	壁 高	床面	壁溝	内　部　施　設					覆土	主な出土遺物	時　期	備　考
				長軸×短軸（m）	(cm)			主柱穴	出入り口	ピット	炉	貯蔵穴				重複関係（古→新）
1	Ｅ２d7	Ｎ－３°－Ｗ	隅丸長方形	6.18×3.42	10～32	傾斜	一部	－	－	1	－	－	人為	土師器片，須恵器片	10 世紀後葉	本跡→ SH ２，SK47・74 SK122 と新旧不明
2	Ｅ２e8	Ｎ－78°－Ｗ	隅丸長方形	［9.40］×3.92	25～35	平坦	－	－	－	－	－	－	人為	土師器片，須恵器片，灰釉陶器片	11 世紀前葉	SH １，SK116・124→本跡→ SH ６，SK46・74
3	Ｅ２h8	Ｎ－２°－Ｅ	隅丸長方形	9.34×3.60	26～42	傾斜	一部	－	－	4	2	－	自然人為	土師器片，灰釉陶器片，金床石ヵ，刀子	11 世紀前葉	SI57・65・67・73・74・81，SH ９，SK102・130→本跡→ SI59・62
4	Ｅ２b7	Ｎ－10°－Ｗ	方形	3.31×3.03	6～11	平坦	一部	－	－	－	－	－	－	土師器片，須恵器片	11 世紀前葉	SI39・49・99・104，SK143→本跡
5	Ｅ２i7	Ｎ－１°－Ｗ	隅丸長方形	2.60×2.15	28～32	一部高まり	－	－	－	－	－	－	自然人為	土師器片，須恵器片	10 世紀後葉	SI67・73→本跡→ SK80
6	Ｅ２f8	Ｎ－11°－Ｅ	隅丸長方形	3.60×3.20	16～45	平坦	－	－	－	1	－	－	人為	土師器片，須恵器片	11 世紀前葉	SH ２，SK124→本跡
7	Ｃ３a5	Ｎ－35°－Ｗ	長方形	2.43×1.92	6～16	傾斜	－	－	－	－	－	－	自然	土師器片，須恵器片	10 世紀後葉～11 世紀前葉	SI142→本跡→ SK200
8	Ｄ２g9	Ｎ－５°－Ｗ	長方形	3.58×2.60	104～112	平坦	－	－	－	1	－	－	人為	土師器片，緑釉陶器片	10 世紀後葉～11 世紀前半	TM １，SI ５・89→本跡
9	Ｅ２h7	Ｎ－88°－Ｗ	［隅丸長方形］	(2.54)×1.54	28	平坦	－	－	－	－	－	－	自然	土師器片，須恵器片	10 世紀前葉	SI57，SK130→本跡→ SH ３

(5)　焼土遺構

火が用いられた可能性がある土坑状の掘り込みを焼土遺構とした。以下，今回の調査で確認した２基について，遺構と遺物の特徴を解説する。

第１号焼土遺構（第 254 図）

位置　調査区北部のＣ３d5 区，標高 30 ｍの緩斜面部に位置している。

重複関係　第 151 号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　東部が調査区域外に延びているため，南北軸 0.92 ｍ，東西軸 0.50 ｍしか確認できなかった。平面形は不明である。深さは 28㎝で, 底面は平坦であり, 壁は外傾して立ち上がっている。壁面や底面の一部が, 被熱によって若干赤変しているが，明確ではない。

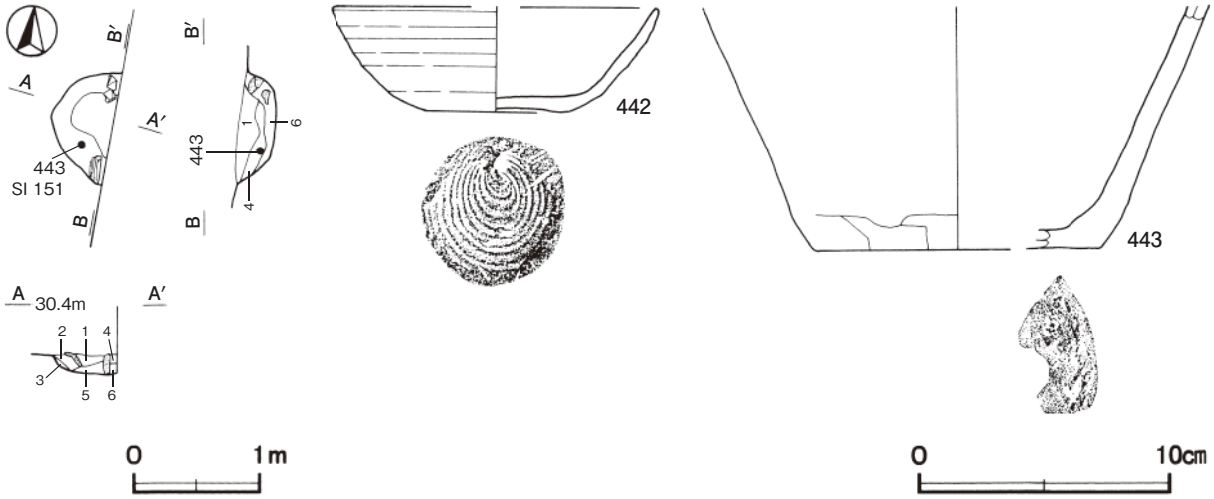
覆土　６層に分層できる。ブロック状の堆積状況から，埋め戻されている。第６層には，20 ～ 30㎝ほどの礫が含まれており，その多くが被熱により赤変している。

土層解説

1　黒　褐　色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2　黒　褐　色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，白色粒子少量，焼土粒子微量
5　黒　褐　色　焼土粒子少量，炭化粒子微量
6　褐　　色　礫多量，焼土ブロック・粘土ブロック中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片８点（坏３，甕２，甕類３），粘土塊１点（15.2 ｇ）が出土している。443 は南西壁際の覆土中層，442 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から10世紀中葉に比定できる。覆土に粘土や焼土を含んでいることから，住居の竈跡の可能性があるが，被熱の痕跡も明確でなく全容が不明であることから，焼土遺構として取り上げた。



第254図　第1号焼土遺構・出土遺物実測図

第1号焼土遺構出土遺物観察表（第254図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
442	土師器	坏	［12.7］	4.1	5.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	40%
443	土師器	甕	－	（9.6）	［11.4］	長石・石英・雲母・針状鉱物・角閃石	にぶい黄橙	普通	体部下端ヘラ削り	中層	10%

第２号焼土遺構（第255図）

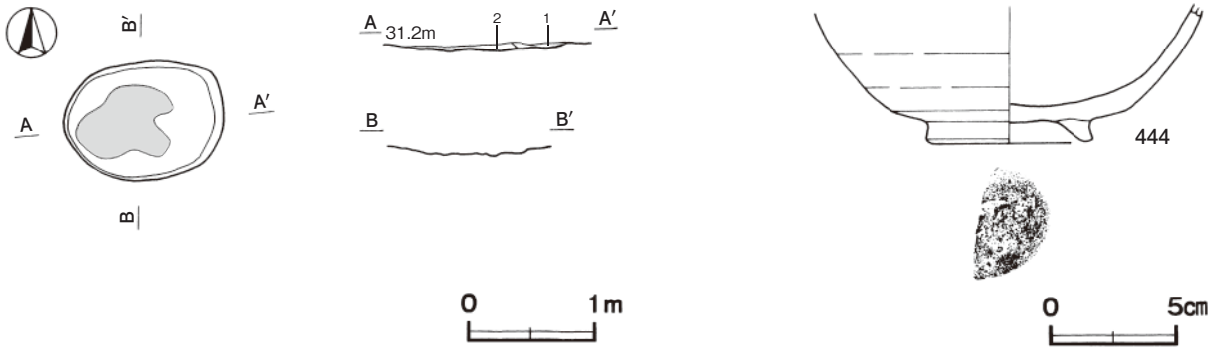
位置　調査区南部のＥ１h8区，標高31ｍの台地縁辺部に位置している。

規模と形状　長径1.28ｍ，短径0.94ｍの楕円形である。長径方向はＮ－86°－Ｅである。深さは５㎝で，底面は火を受けて赤変硬化しており，若干の凹凸がある。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土　２層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

１　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化粒子微量　　２　黒　褐　色　炭化物・焼土粒子中量，ロームブロック少量



第255図　第２号焼土遺構・出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片 13 点（坏７，高台付椀３，甕類３），須恵器片１点（甕）が出土している。444 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器により 10 世紀後葉から 11 世紀前葉と考えられる。底面に火を炊いた痕跡は確認できたが，性格は不明である。

第２号焼土遺構出土遺物観察表（第 255 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
444	土師器	高台付椀	－	(5.5)	6.4	長石・石英・雲母・針状鉱物	浅黄橙	不良	底部回転ヘラ切り	覆土中	40%

表９　平安時代焼土遺構一覧表

番号	位 置	長径方向	平 面 形	規　模		底　面	壁　面	覆　土	主 な 出 土 遺 物	備　考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					重複関係(古→新)
1	Ｃ３d5	－	不明	(0.92 × 0.50)	28	一部被熱痕	外傾	人為	土師器片	SI151 →本跡
2	Ｅ１h8	N－86°－E	楕円形	1.28 × 0.94	5	被熱痕	緩斜	人為	土師器片，須恵器片	

(5)　土坑

今回の調査で 19 基を確認した。その多くは性格不明である。以下，遺構と遺物の特徴を解説する。

第５号土坑（第 256・257 図）

位置　調査区中央部のＤ２e0 区，標高 33 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第１号墳と重複しており，出土土器から本跡が新しい。

規模と形状　径 1.1m ほどの円形である。深さ 58cmで，底面は平坦であり，壁はほぼ直立している。

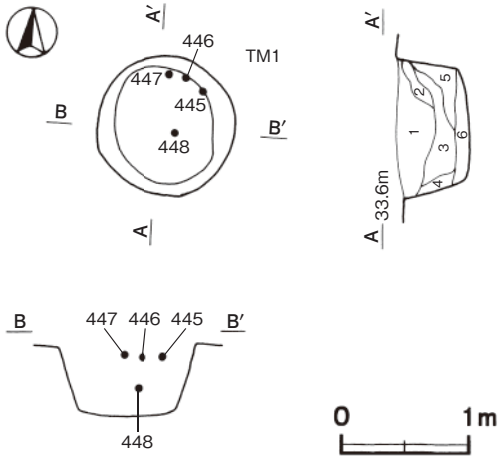
覆土　６層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

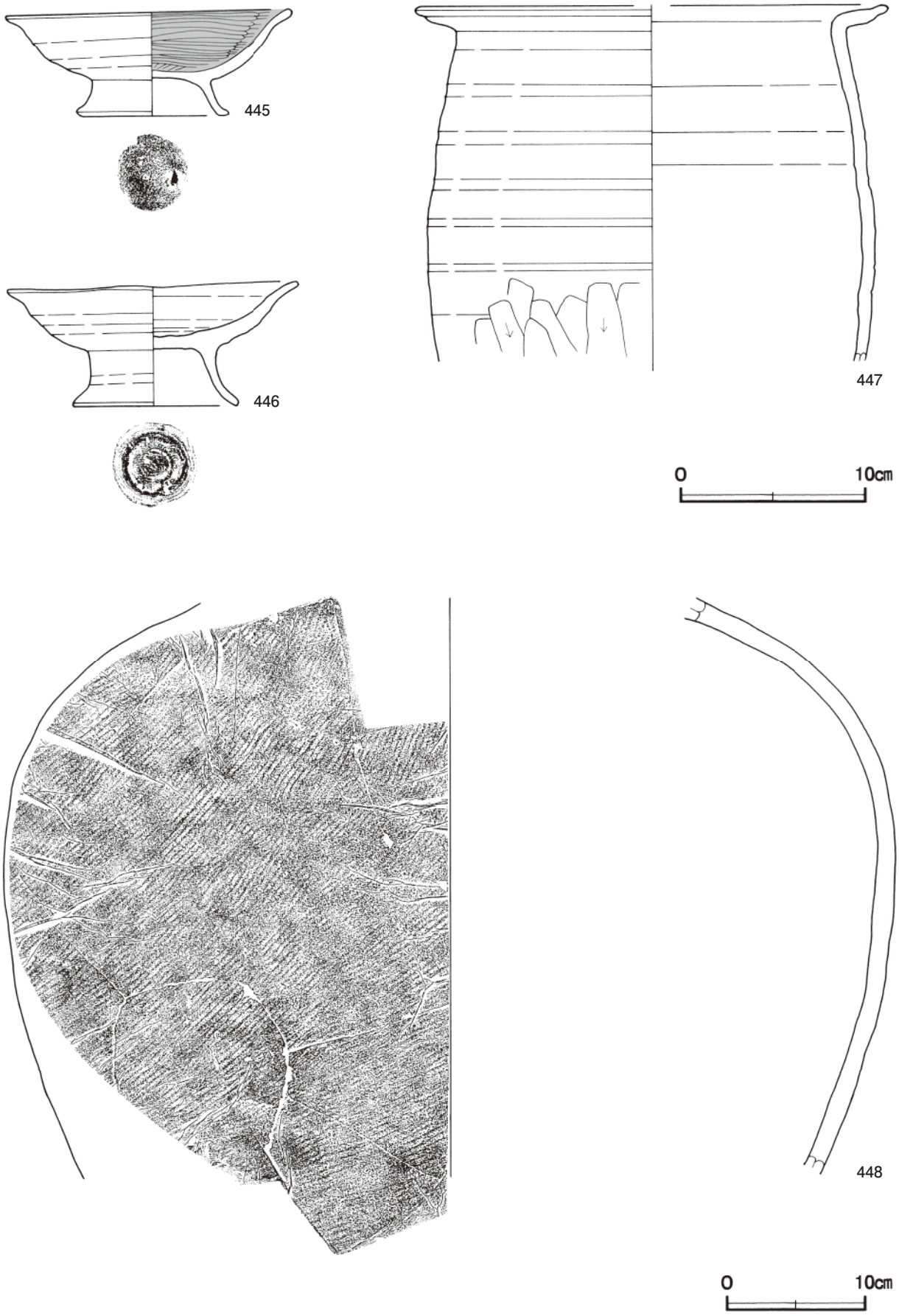
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック多量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量（第４層より暗い色調）
6　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片 15 点（高台付椀２，甕１，甕類 12），須恵器片２点（坏），石器１点（磨石）が出土している。また，混入した弥生土器片４点，須恵器の大甕片１点も出土している。土器は残存率が高く，大形の破片が多い。448 は中央部の覆土中層，445 ～ 447 は北壁際の覆土上層からそれぞれ出土しており，445 は逆位で，446 は斜位で出土している。448 の大甕は，本跡から南西方向約 20 mに位置する第７・15・25 号土坑から出土した土器片と接合している。

所見　古相の 448 の大甕が混入しているが，時期はその他の出土土器から 10 世紀後葉に比定できる。埋め戻しに伴って，土器が一括廃棄されたと考えられ，廃棄土坑に想定できる。本跡と第７・15・25 号土坑は，同一の土器の遺構間接合が確認されたことから，同時期に機能していた可能性がある。



第 256 図　第５号土坑実測図



第 257 図　第 5 号土坑出土遺物実測図

第５号土坑出土遺物観察表（第 257 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
445	土師器	高台付椀	15.3	5.7	7.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ切り	上層	95%　PL54
446	土師器	高台付椀	15.6	6.6	8.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ切り	上層	70%　PL54
447	土師器	甕	［25.0］	（19.2）	－	長石・石英・赤色粒子・角閃石	にぶい赤褐	普通	ロクロナデ　体部下半ヘラ削り	上層	20%　PL54
448	須恵器	大甕	－	（41.1）	－	長石	黄灰	良好	斜位の平行叩き　降灰による自然釉	中層	20%

第７号土坑（第 258・259 図）

位置　調査区中央部のＤ２g6 区，標高 33 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第１号溝に掘り込まれている。

規模と形状　南東部を第１号溝に掘り込まれているため，長軸は 1.48 ｍしか確認できず，短軸は 0.76 ｍである。平面形は台形状を呈し，長軸方向はＮ－ 86°－ Ｅである。深さ 12㎝で，断面形は皿状である。

覆土　２層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから，埋め戻されている。

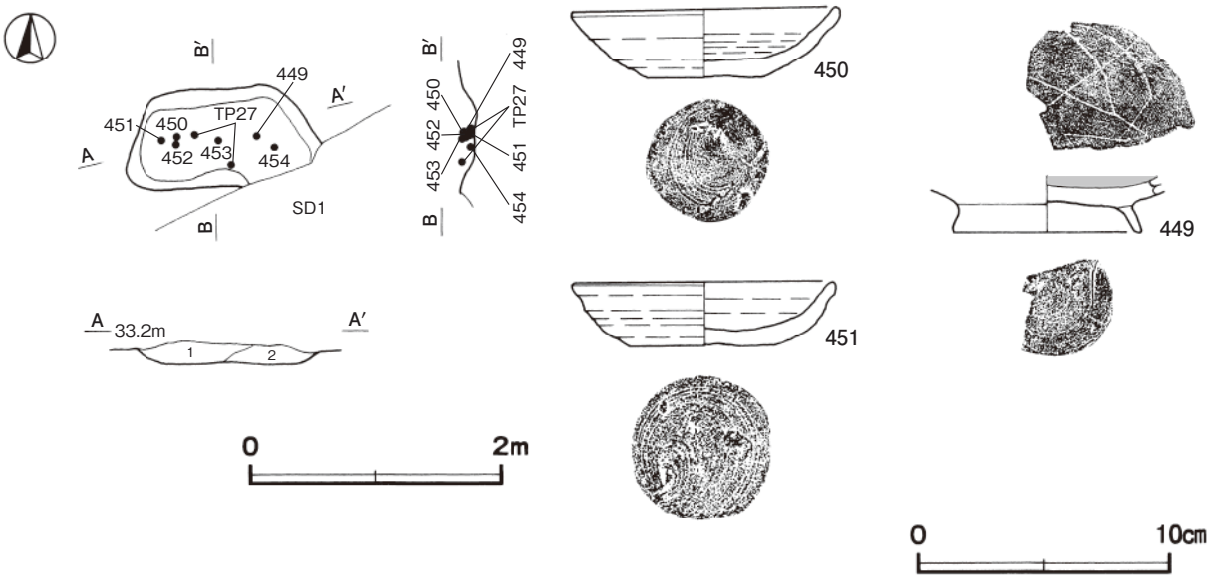
土層解説

１　極暗褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量

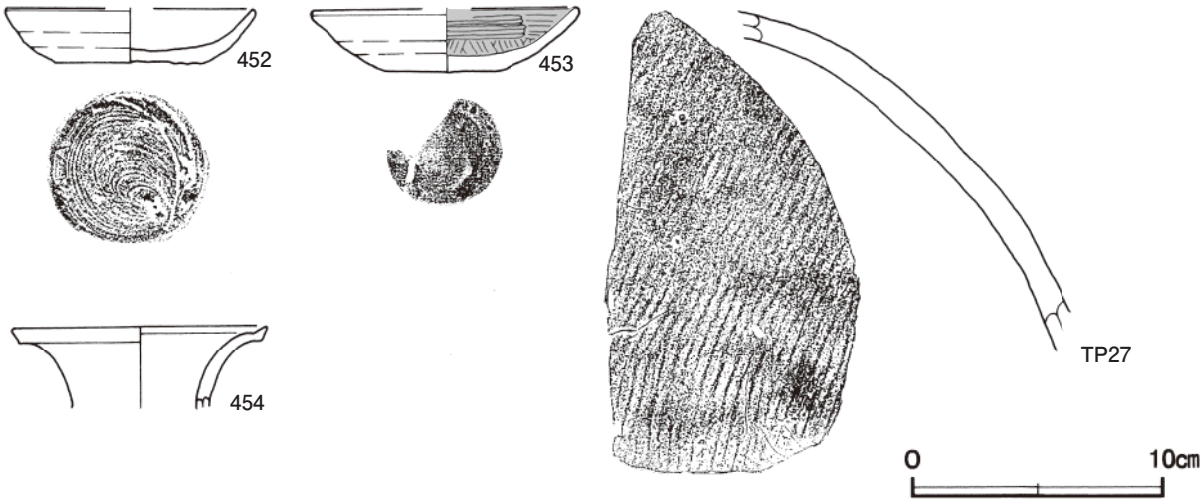
２　極暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片 103 点（坏 68，高台付椀１，小皿 10，長頸瓶１，甕１，甕類 22）が出土している。また，混入した須恵器の大甕片２点も出土している。450 ～ 453 の小皿は残存率が高く，西部の覆土上層から下層にかけて出土している。454 は東部の覆土下層，449 は東部の覆土上層，TP27 は中央部の覆土下層及び南壁際の覆土上層からそれぞれ出土している。そのうち，453 の小皿，454 の長頸瓶は，本跡と隣接する第 15 号土坑から出土した須恵器の大甕片とそれぞれ接合している。また，覆土下層から出土した須恵器片が，第５号土坑から出土した大甕（第 257 図 448）と接合している。

所見　本跡と第５・15 号土坑は，同一の土器の遺構間接合が確認されたことから，同時期に機能していた可能性がある。覆土下層に古相の須恵器の大甕片が混入しているが，時期はその他の出土土器から 10 世紀後葉に比定できる。埋め戻しに伴って，土器が一括廃棄されたと考えられ，廃棄土坑に想定できる。



第 258 図　第７号土坑・出土遺物実測図



第 259 図　第７号土坑出土遺物実測図

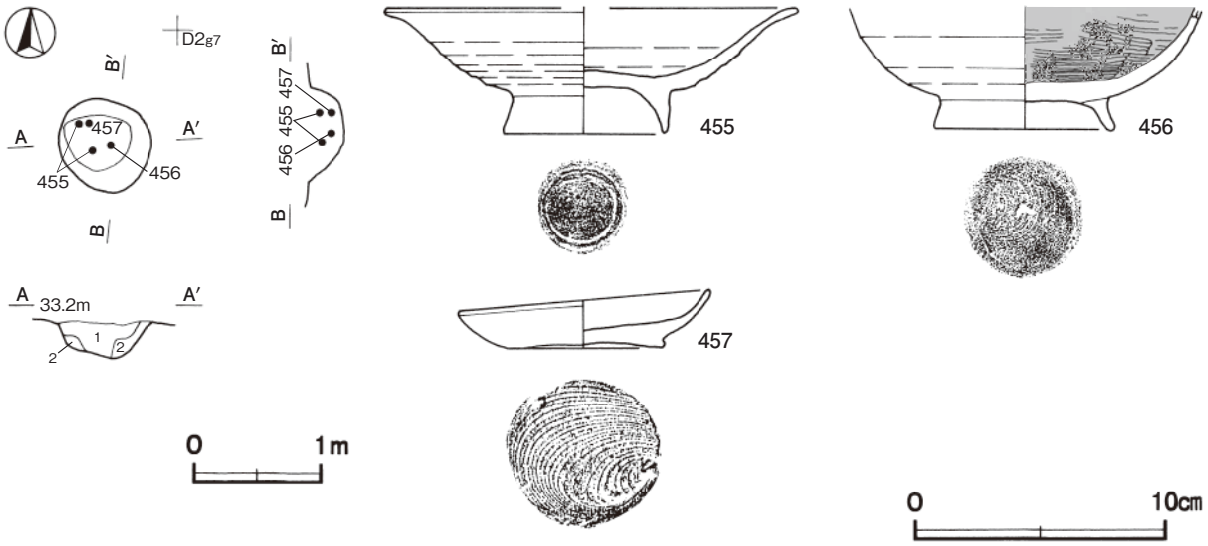
第７号土坑出土遺物観察表（第 258・259 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
449	土師器	高台付椀	－	(2.2)	[7.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	内面ヘラ磨き　底部回転糸切り　見込みに刻書	上層	10%
450	土師器	小皿	10.5	2.8	4.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	上層	70%　PL55
451	土師器	小皿	10.3	2.5	5.8	長石・石英・雲母・赤色粒子・角閃石	橙	普通	底部回転糸切り	下層	100%　PL55
452	土師器	小皿	[9.8]	2.2	6.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	上層	80%　PL55
453	土師器	小皿	[10.4]	2.6	4.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き　底部回転糸切り	上層	40%
454	土師器	長頸瓶	[10.0]	(3.3)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	外・内面ナデ調整	下層	10%

番号	種　別	器種	胎　土	色　調	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP27	須恵器	大甕	長石・石英	灰白	斜位の平行叩き　肩部降灰による自然釉	上層・下層	5％

第 11 号土坑（第 260 図）

位置　調査区中央部のＤ２g6 区，標高 33 ｍの平坦な台地上に位置している。



第 260 図　第 11 号土坑・出土遺物実測図

規模と形状　長径 0.79 m，短径 0.70 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 46゜－Ｗである。深さ 23cmで，底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　２層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることや残存率の高い土器片が出土していることから，埋め戻されている。

土層解説

１　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量　　２　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片 34 点（坏 22，高台付椀２，小皿３，甕類７）が出土している。また，混入した土師器片１点（高坏）も出土している。457 は，北壁際の覆土下層から斜位で出土している。455・456 は，中央部の覆土下層と覆土上層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から 10 世紀後葉に比定できる。性格は不明である。

第 11 号土坑出土遺物観察表（第 260 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
455	土師器	高台付椀	－	(4.7)	［7.0］	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	上層	20%
456	土師器	高台付椀	［16.1］	5.0	［6.5］	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	内面ヘラ磨き　底部回転糸切り	下層	20%
457	土師器	小皿	9.8	2.3	6.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	下層	100%　PL55

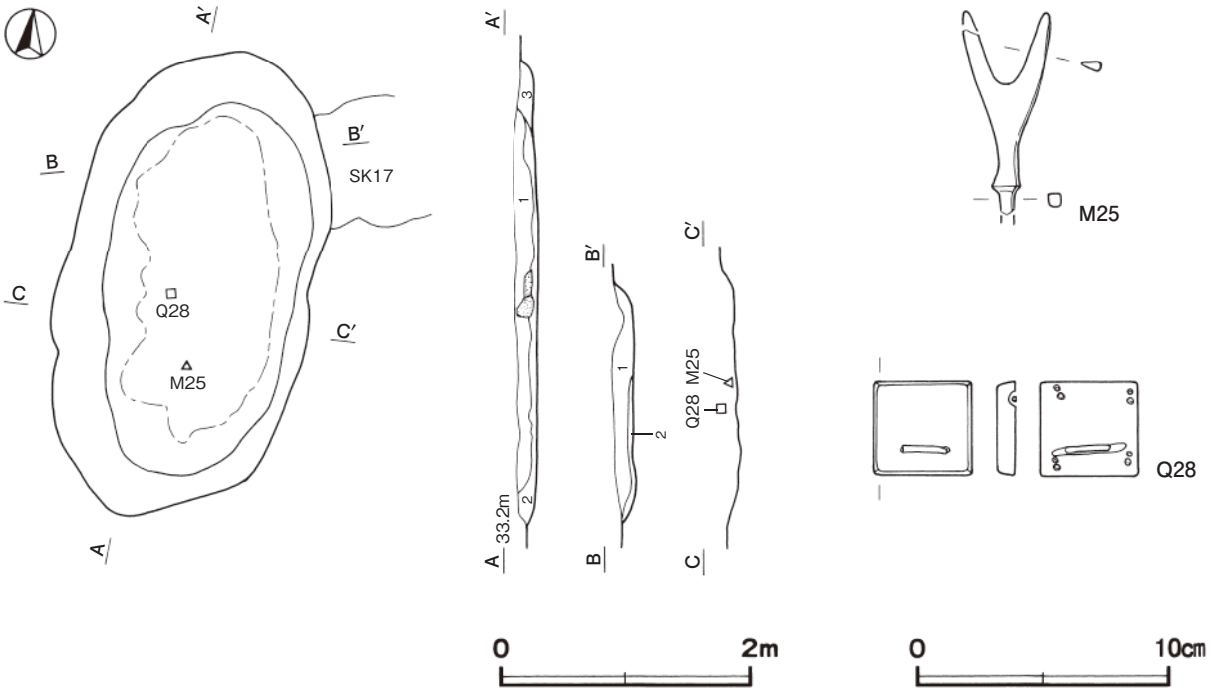
第 13 号土坑（第 261 図）

位置　調査区中央部のＤ２b6 区，標高 33 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 17 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　長径 3.76m，短径 2.04 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 13゜－Ｅである。深さ 13cmで，断面形は皿状である。

底面　壁際を除いて硬化している。



第 261 図　第 13 号土坑・出土遺物実測図

覆土　３層に分層できる。全体的に焼土粒子が多く含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説
1　暗　褐　色　焼土粒子中量，炭化粒子少量，ロームブロック微量
2　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量

遺物出土状況　土師器片 49 点（坏 33，小皿１，甕７，甕類８），須恵器片１点（瓶），石製品１点（腰帯具），鉄製品１点（鏃），粘土塊１点（6.3 ｇ）が出土している。また，混入した縄文土器片１点，弥生土器片９点，土師器片３点（高坏）も出土している。M25 は中央部の覆土下層，Q28 は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見　細片ではあるが，土師器の小皿片が覆土中から出土しており，時期は 10 世紀後半と考えられる。性格は不明である。

第 13 号土坑出土遺物観察表（第 261 図）

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 28	腰帯具	3.7	3.9	0.7	25.9	蛇紋岩	巡方　断面台形　裏面四隅に潜り孔	上層	PL64

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 25	鏃	(8.0)	(3.6)	0.3	(15.8)	鉄	鏃身部雁又式　茎部断面方形	下層	PL62

第 15 号土坑（第 262・263 図）

位置　調査区中央部のＤ２g6 区，標高 33 ｍの平坦な台地上に位置している。

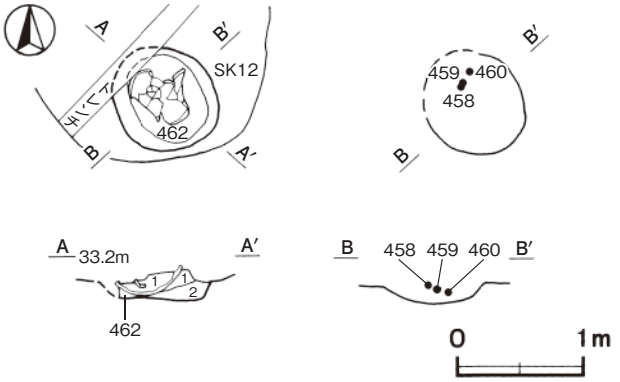
重複関係　第 12 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　長径は推定 0.89 ｍ，短径は 0.80 ｍの楕円形で，長径方向はＮ－ 45 °－ Ｗである。深さ 15㎝で，断面形は皿状である。

覆土　２層に分層できる。須恵器の大甕（462）が据えられた状態で出土しており，第１・２層は埋土と考えられる。

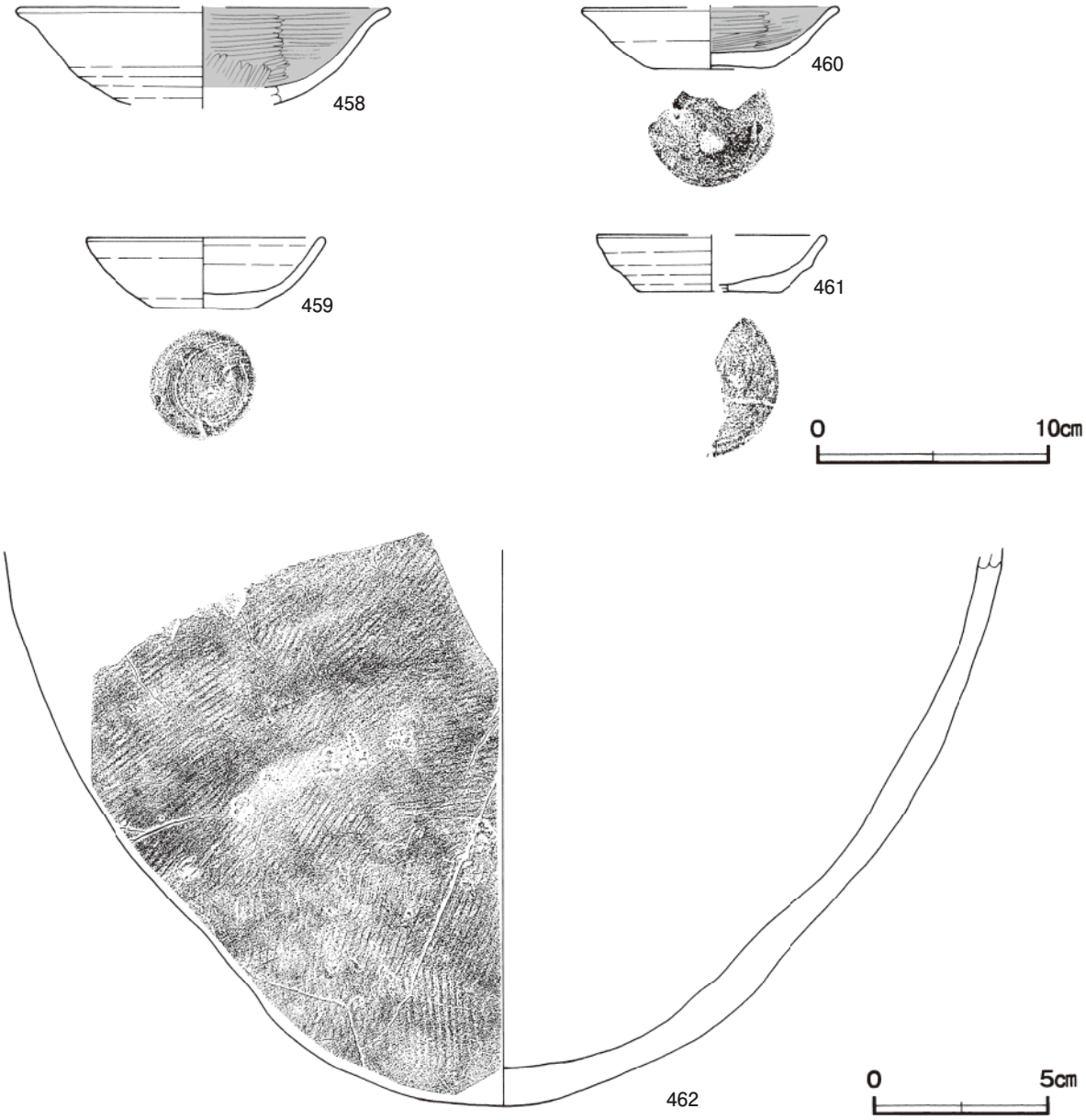
土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片 59 点（坏 22，高台付椀１，小皿４，甕３，甕類 29）が出土している。また，混入した縄文土器片７点，弥生土器片９点，古墳時代の土師器片７点（坩２，高坏５），奈良時代の須恵器の大甕片２点も出土している。462 の大甕は，中央部の底面に据えられた状態で出土しており，底部には放射状に割れ目が入っている。458・459 は中央部，460 は北壁寄りの覆土上層，461 は覆土中からそれぞれ出土している。なお，458 の高台付椀，462 の大甕は，本跡と隣接する第 25 号土坑から出土した土器片とそれぞれ接合している。また，覆土上層から出土した土器片が，第５号土坑から出土した大甕（第 257 図 448）と接合している。



第 262 図　第 15 号土坑出土遺物実測図

所見　時期は，458 ～ 461 の土器から 10 世紀後葉に比定できる。462 の大甕は丸底であり 8 世紀代の所産と考えられ，他の出土土器とは時期差が認められる。覆土の様相から，遺構の重複とは考えにくく，古手の土器がいずれからか搬入された可能性がある。また，大甕の底部は意図的に割られたと想定でき，容器としての機能を失っている。このことから，本来の使用とは別に何らかの儀礼に使用された可能性があるが，詳細については不明である。



第 263 図　第 15 号土坑出土遺物実測図

第 15 号土坑出土遺物観察表（第 263 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
458	土師器	高台付椀	［16.0］	（4.1）	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き	上層	30%
459	土師器	小皿	10.1	3.0	4.2	長石・石英・雲母・赤色粒子・針状鉱物	橙	普通	底部回転糸切り	上層	70%　PL54
460	土師器	小皿	［11.0］	2.6	5.6	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ切り	上層	40%
461	土師器	小皿	［10.0］	2.4	［6.0］	長石・石英・雲母・赤色粒子・角閃石	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	40%
462	須恵器	大甕	－	（32.0）	－	長石・石英	黄灰	良好	斜位の平行叩き　自然釉	底面	20%　PL54

第 25 号土坑（第 264 図）

位置　調査区中央部のＤ２g5 区，標高 33 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第１号ピット群を掘り込んでいる。

規模と形状　径 1.2 mほどの円形である。深さ 21cmで，底面は平坦であり，壁は緩やかに立ち上がっている。

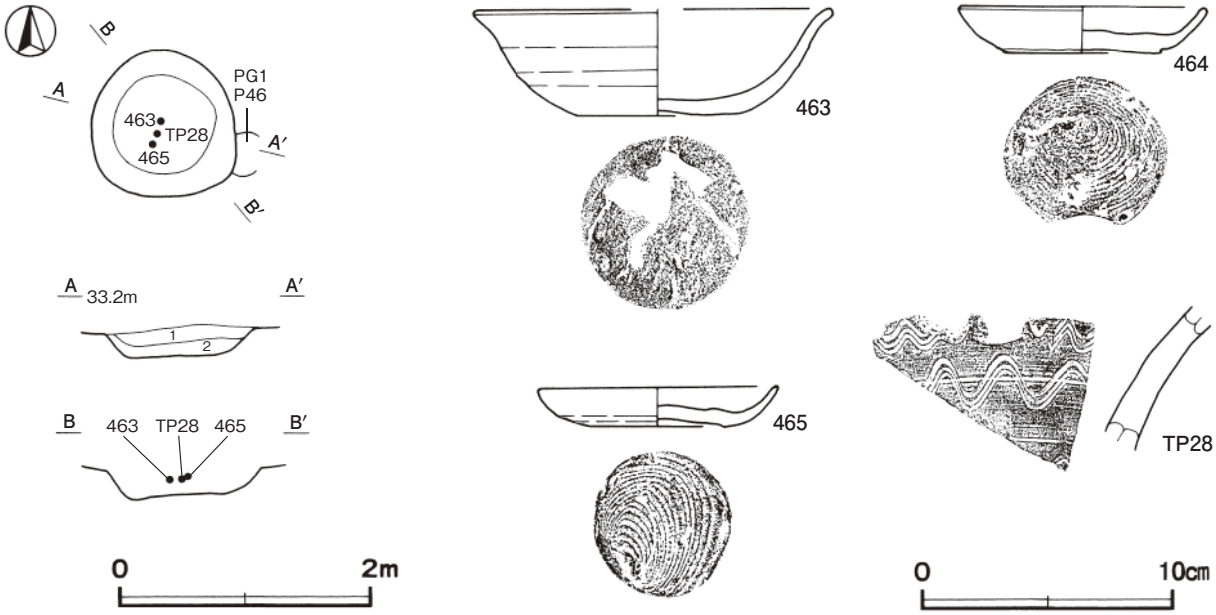
覆土　２層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

１　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量　　２　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片 15 点（坏４，小皿２，甕１，甕類８）が出土している。また，混入した縄文土器片１点，弥生土器片５点，須恵器片２点（甕，大甕）も出土している。463・465・TP28 は中央部の覆土上層，464 は覆土中からそれぞれ出土している。そのうち，463 の坏は第７号土坑から出土している土器片と，TP28 の甕は第 15 号土坑から出土した土器片とそれぞれ接合している。また，覆土上層から出土した須恵器片も，第５号土坑から出土した大甕（第 257 図 448）と接合している。

所見　覆土上層に古相の須恵器の大甕片が混入しているが，時期はその他の出土土器から 10 世紀後葉に比定できる。本跡と第５・７・15 号土坑は，同一の土器の遺構間接合が確認されたことから，同時期に機能していた可能性がある。第５・７号土坑と同様に残存率の高い遺物が出土しており，廃棄土坑の可能性がある。



第 264 図　第 25 号土坑・出土遺物実測図

第 25 号土坑出土遺物観察表（第 264 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
463	土師器	坏	[14.2]	4.2	6.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切りヵ	上層	50%　PL55
464	土師器	小皿	9.8	1.8	6.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	底部回転糸切り	覆土中	90%　PL55
465	土師器	小皿	9.4	1.6	5.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	上層	95%　PL55

番号	種　別	器種	胎　土	色　調	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP28	須恵器	甕	長石	褐灰	櫛歯状工具による波状文	上層	

第 43 号土坑（第 265 図）

位置　調査区中央部のＥ２b6 区，標高 33 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 39・104 号住居跡を掘り込んでいる。

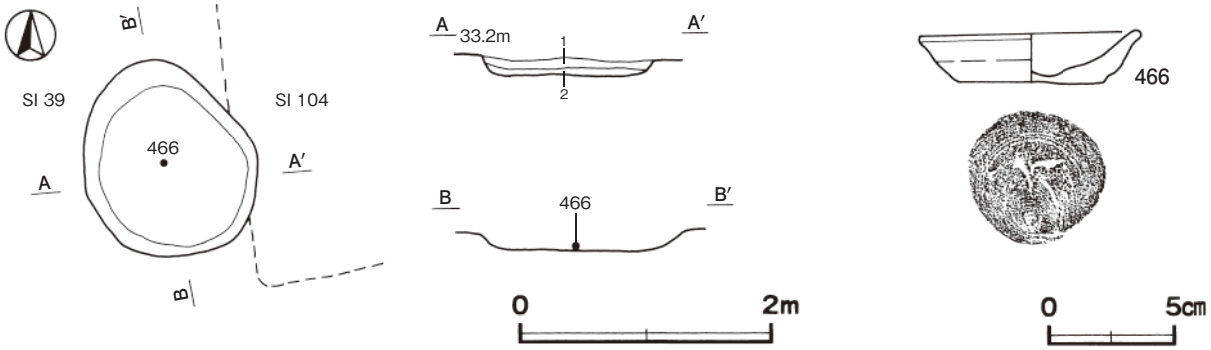
規模と形状　長径 1.59m，短径 1.34 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 25゜－ W である。深さ 15cmで，断面形は皿状である。

覆土　２層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説
1　黒　褐　色　炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子少量　　2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量

遺物出土状況　土師器片 17 点（坏６，小皿１，甕類 10）が出土している。また，混入した弥生土器片２点も出土している。466 は中央部の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から 11 世紀前葉に比定できる。性格は不明である。



第 265 図　第 43 号土坑・出土遺物実測図

第 43 号土坑出土遺物観察表（第 265 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
466	土師器	小皿	8.4	2.0	5.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	下層	95%　PL55

第 47 号土坑（第 266 図）

位置　調査区中央部のＥ２d7 区，標高 33 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第１号竪穴遺構を掘り込んでいる。

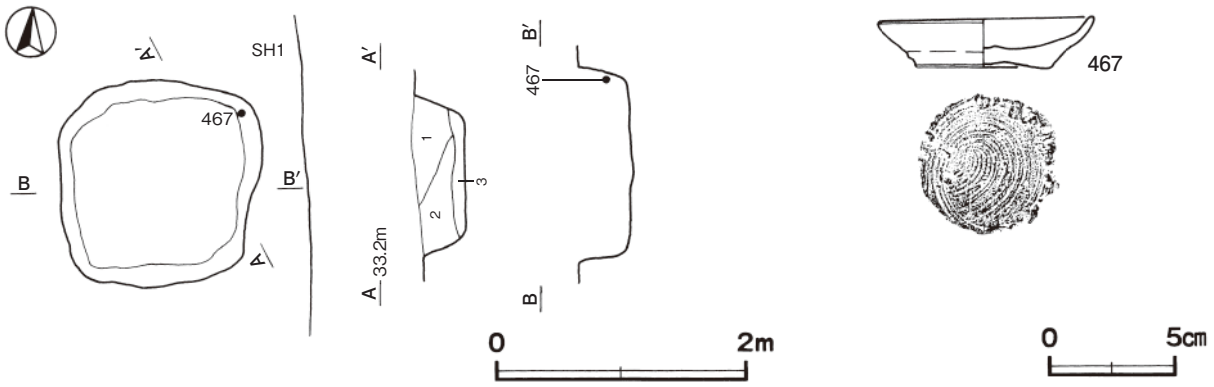
規模と形状　１辺が 1.6m ほどの隅丸方形である。深さ 43cmで，底面は平坦であり，壁はほぼ直立している。

覆土　３層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物中量，焼土ブロック・粘土粒子少量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片 39 点（坏 11，小皿１，甕１，甕類 26），須恵器片１点（甕）が出土している。また，混入した弥生土器片９点も出土している。467 は，北東コーナー部の覆土中層から正位で出土している。

所見　時期は，出土土器や重複関係から11世紀前葉に比定できる。性格は不明である。



第266図　第47号土坑・出土遺物実測図

第47号土坑出土遺物観察表（第266図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
467	土師器	小皿	8.4	2.0	5.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	中層	100%　PL55

第56号土坑（第267図）

位置　調査区中央部のＤ２j7区，標高33ｍの平坦な台地上に位置している。

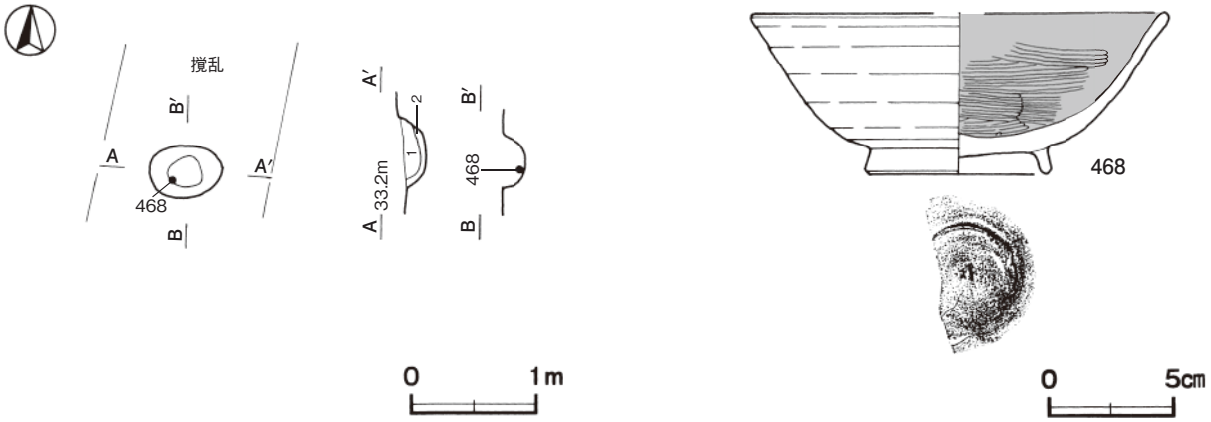
規模と形状　長径0.56m，短径0.42ｍの楕円形で，長径方向はＮ－79°－Ｅである。深さ18cmで，底面は皿状であり，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　２層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量　　2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量

遺物出土状況　土師器片３点（坏，高台付椀，甕類）が出土している。468は，西壁寄りの覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀後葉に比定できる。性格は不明である。



第267図　第56号土坑・出土遺物実測図

第 56 号土坑出土遺物観察表（第 267 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
468	土師器	高台付椀	［16.4.］	6.4	［7.0］	長石・石英・雲母・赤色粒子・針状鉱物・角閃石	にぶい赤褐	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	下層	50%

第 62 号土坑（第 268 図）

位置　調査区中央部のＣ２i5 区，標高 33 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 61 号土坑を掘り込み，第１号ピット群に掘り込まれている。

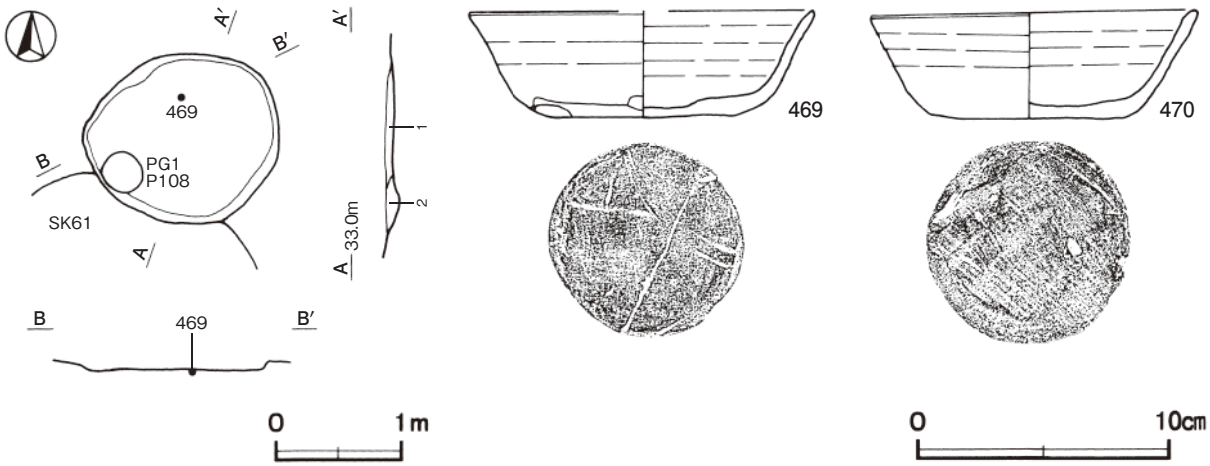
規模と形状　長径 1.57m，短径 1.35 ｍの楕円形で，長径方向はＮ－ 87 °－ Ｅである。深さ７㎝で，断面形は皿状である。

覆土　２層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説
1　極 暗 褐 色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量　　2　極 暗 褐 色　ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片４点（坏）が出土している。469 は北壁寄りの底面から正位で，470 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀後葉に比定できる。性格は不明である。



第 268 図　第 62 号土坑・出土遺物実測図

第 62 号土坑出土遺物観察表（第 268 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
469	土師器	坏	［13.6］	4.2	7.7	長石・石英・雲母・赤色粒子・針状鉱物	橙	普通	ロクロナデ　体部下端・底部手持ちヘラ削り	底面	70%　PL56
470	土師器	坏	12.8	4.4	7.9	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	ロクロナデ　底部一方向のヘラ削り	覆土中	90%　PL56

第 78 号土坑（第 269 図）

位置　調査区南部のＥ１i0 区，標高 31 ｍの台地縁辺部に位置している。

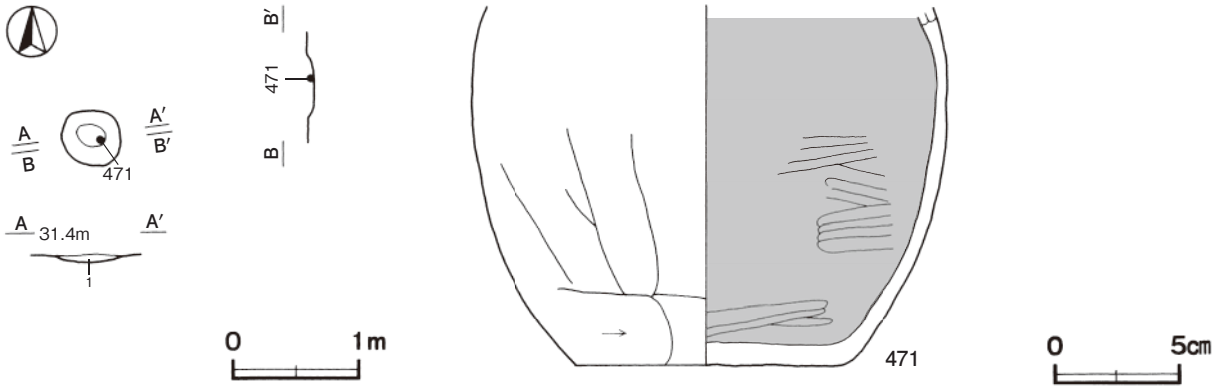
規模と形状　長径 0.51m，短径 0.44 ｍの楕円形で，長径方向はＮ－ 45 °－ Ｗである。深さ５㎝で，断面形は皿状である。

覆土　単一層である。ロームブロックが多く含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・細礫中量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片１点（鉢），須恵器片１点（甕）が出土している。また，混入した縄文土器片１点も出土している。471 は，中央部の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から平安時代と考えられる。性格は不明である。



第 269 図　第 78 号土坑・出土遺物実測図

第 78 号土坑出土遺物観察表（第 269 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
471	土師器	鉢	－	［14.2］	10.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラ磨き	下層	60%　PL55

第 82 号土坑（第 270 図）

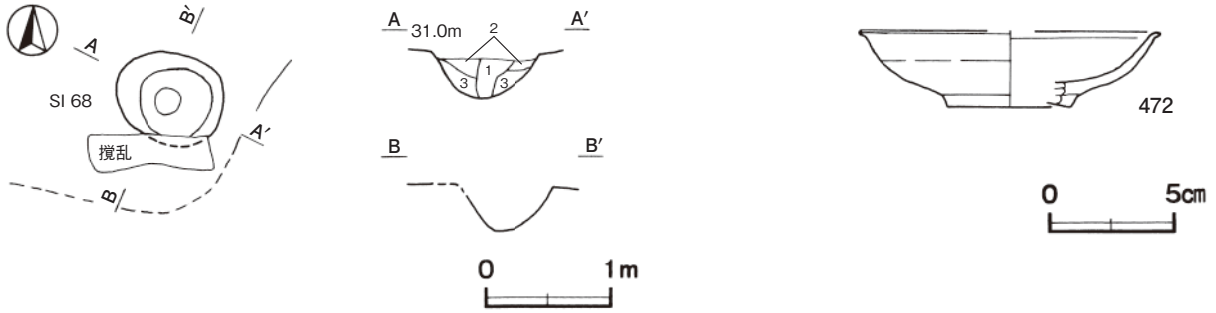
位置　調査区南部のＥ１h5 区，標高 31 ｍの台地縁辺部に位置している。

重複関係　第 68 号住居を掘り込んでいる。

規模と形状　長径 0.86m，短径 0.70 ｍの楕円形で，長径方向はＮ－ 82°－ Ｗである。深さ 35㎝で，底面は鍋底状であり，壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土　３層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，細礫微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・細礫少量



第 270 図　第 82 号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片 18 点（坏 12, 小皿 1 , 甕 1 , 甕類 4 ）が出土している。472 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から 10 世紀中葉に比定できる。覆土の様相から柱穴とみられるが，周囲に対になるピットが確認できなかったため，土坑として取り上げた。

第 82 号土坑出土遺物観察表（第 270 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
472	土師器	小皿	［11.8］	3.0	［5.0］	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ	覆土中	30%

第 88 号土坑（第 271 図）

位置　調査区南部のＥ１j7 区，標高 31 mの台地縁辺部に位置している。

規模と形状　径 0.5m ほどの円形で，深さ 24cmである。底面は南部に向かって傾斜し，柱のあたりとみられる径 30cmほどの楕円形の硬化範囲が確認されている。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　２層に分層できる。周囲から土の流入を示す自然堆積である。

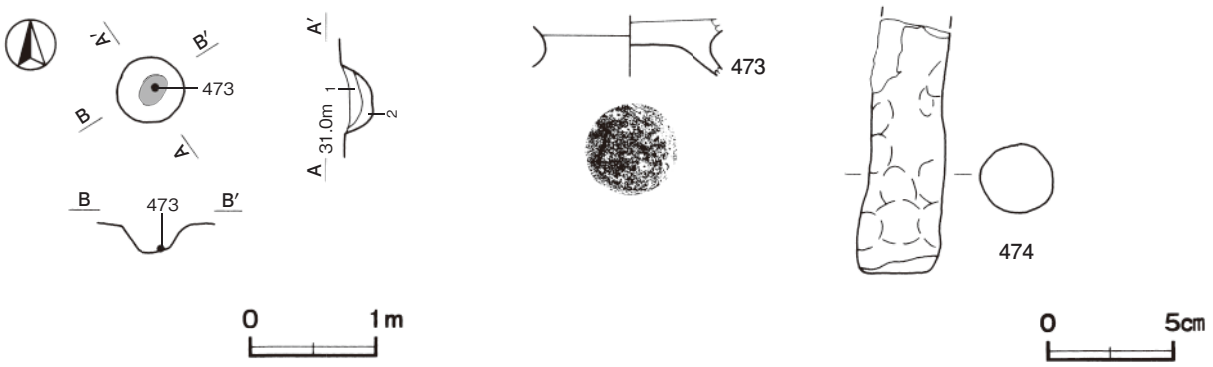
土層解説

1　褐　　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量

2　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況　土師器片 21 点（坏５, 高台付椀 1 , 甕類 14, 三足火舎ヵ 1), 須恵器片 1 点（蓋）が出土している。また, 混入した弥生土器片 1 点も出土している。473 は中央部の底面, 474 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から 10 世紀以降と考えられる。柱のあたりとみられる硬化範囲が確認されていることから柱穴とみられるが，周囲に対になるピットが確認できなかったため，土坑として取り上げた。



第 271 図　第 88 号土坑・出土遺物実測図

第 88 号土坑出土遺物観察表（第 271 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
473	土師器	高台付椀	－	(2.3)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ切りヵ	底面	20%
474	土師器	三足火舎ヵ	－	(10.1)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	脚部ナデ　指頭痕	覆土中	５%

第 89 号土坑（第 272 図）

位置　調査区中央部のＥ１j8 区，標高 31 mの台地縁辺部に位置している。

重複関係　第 47 号住居と重複しているが，新旧関係は不明である。

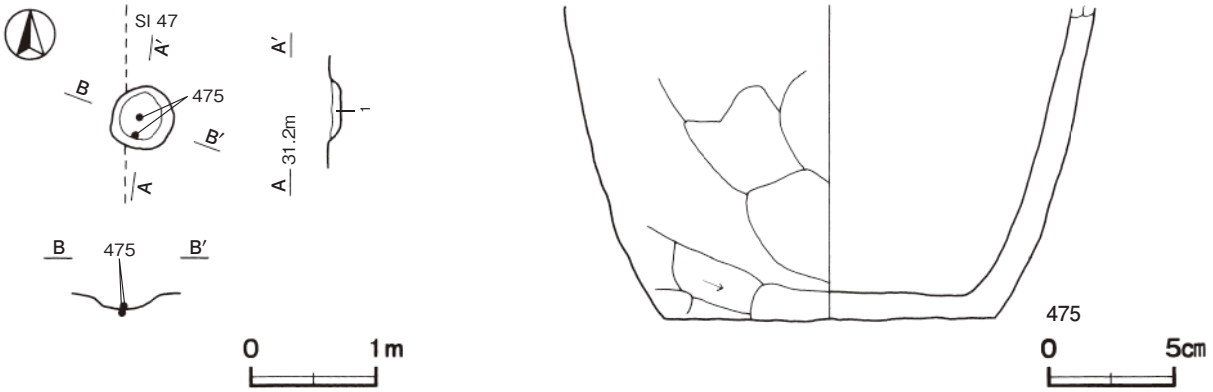
規模と形状　径 0.5m ほどの円形で，深さ 12cmである。断面形は皿状である。

覆土　単一層で，層厚が薄いことから，堆積状況は不明である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器の甕片１点（475）が，中央部の覆土下層から底面にかけて出土している。

所見　時期は，出土土器から平安時代と考えられる。性格は不明である。



第 272 図　第 89 号土坑・出土遺物実測図

第 89 号土坑出土遺物観察表（第 272 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
475	土師器	甕	－	(12.5)	13.2	長石・石英・雲母・赤色粒子・針状鉱物・角閃石	灰褐	普通	体部外面ヘラ削り	下層～底面	30%

第 102 号土坑（第 273 図）

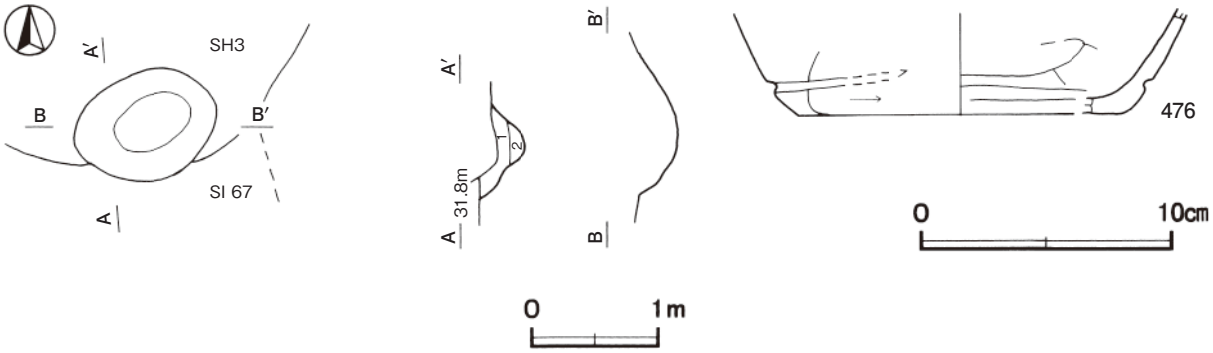
位置　調査区南部のＥ２i8 区，標高 31 mの緩斜面部に位置している。

重複関係　第 67 号住居・第３号竪穴遺構に掘り込まれている。

規模と形状　上位を重複する遺構に掘り込まれているため，長径 1.14 m，短径 0.85 m，深さ 35cmしか確認できなかった。平面形は楕円形で，長径方向はＮ－ 58 °－Ｅである。底面は鍋底状で，壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土　２層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説
1　暗　褐　色　焼土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量　　2　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量



第 273 図　第 102 号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片６点(坏１, 甕２, 甕類３)が出土している。また, 混入した古墳時代の土師器片１点(高坏）も出土している。476 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器や重複関係から 10 世紀前葉以前の平安時代と考えられる。性格は不明である。

第 102 号土坑出土遺物観察表（第 273 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
476	土師器	甕	－	(4.0)	[13.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	覆土中	10%

第 136 号土坑（第 274 図）

位置　調査区中央部のＥ２a7 区，標高 33 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 99 号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　１辺が 1.3m ほどの隅丸方形で, 深さ 22㎝である。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。

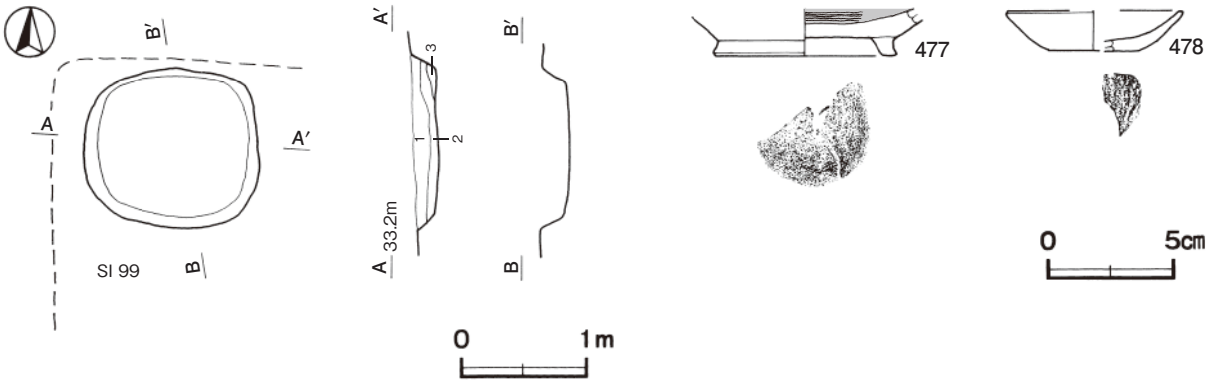
覆土　３層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

１　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
２　極 暗 褐 色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
３　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片 14 点（坏２，高台付椀１，小皿１，甕２，甕類８）が出土している。また，混入した古墳時代の土器片１点（高坏）も出土している。477・478 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器や重複関係から 10 世紀後葉に比定できる。性格は不明である。



第 274 図　第 136 号土坑・出土遺物実測図

第 136 号土坑出土遺物観察表（第 274 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
477	土師器	高台付椀	－	(1.9)	[7.1]	長石・石英・雲母・赤色粒子・針状鉱物	にぶい褐	普通	体部内面ヘラ磨き	覆土中	20%
478	土師器	小皿	[6.8]	1.6	[3.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子・針状鉱物	橙	普通	ロクロナデ	覆土中	20%

第 185 号土坑（第 275 図）

位置　調査区中央部のＤ２b4 区，標高 33 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 18 号住居跡を掘り込み，第 93 号住居に掘り込まれている。

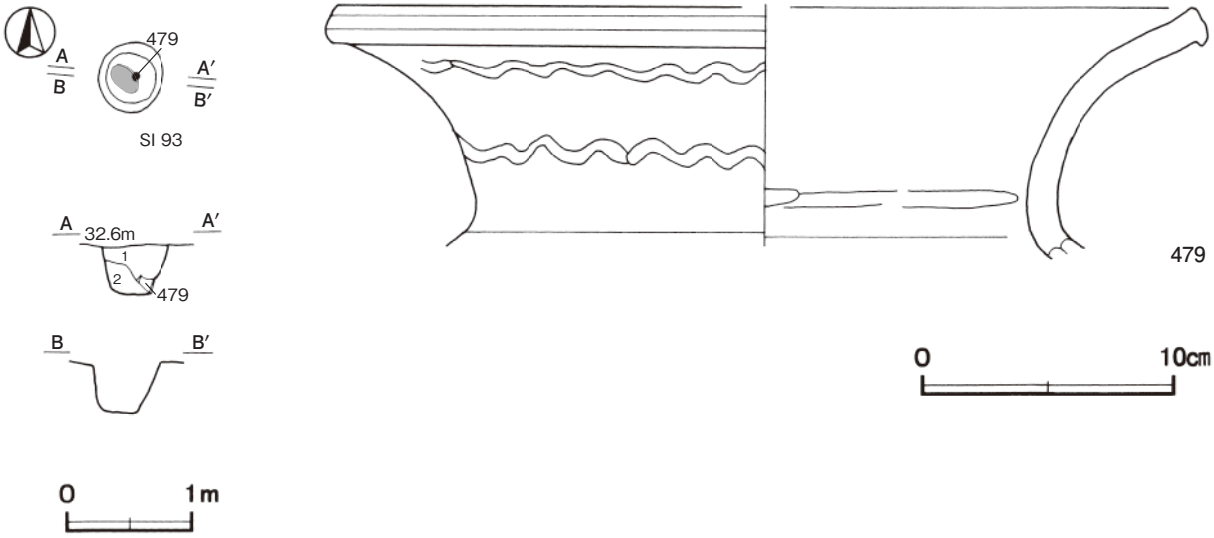
規模と形状　径0.5ｍほどの円形で，上位が第93号住居に掘り込まれているため，深さは39㎝しか確認できなかった。底面は平坦であり，柱のあたりとみられる径28㎝ほどの楕円形の硬化範囲が確認されている。壁は，ほぼ直立している。

覆土　２層に分層できる。覆土中に大形の土器片が含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子・鹿沼パミス微量
2　暗　褐　色　鹿沼パミス少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　須恵器の大甕片１点（479）が，中央部の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器や重複関係から９世紀代に比定できる。柱のあたりとみられる硬化範囲が確認されていることから柱穴とみられるが，周囲に対になるピットが確認できなかったため，土坑として取り上げた。



第275図　第185号土坑・出土遺物実測図

第185号土坑出土遺物観察表（第275図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
479	須恵器	大甕	［34.0］	（9.6）	－	長石・雲母・針状鉱物	灰黄褐	良好	頸部に棒状工具による波状文　内面ヘラナデ	下層	10%

第218号土坑（第276図）

位置　調査区中央部のＤ２f0区，標高33ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第１号墳を掘り込んでいる。

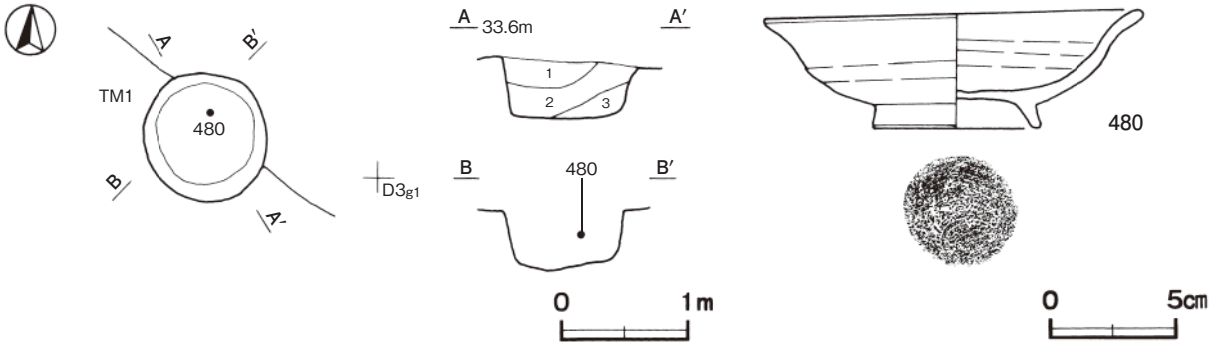
規模と形状　径0.9ｍほどの円形で，深さは34㎝である。壁はほぼ直立しており、底面は平坦である。

覆土　３層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片23点（坏11，高台付椀１，甕類11），須恵器片１点（甕）が出土している。また，混入した弥生土器片４点も出土している。480は，中央部の覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器から10世紀後葉に比定できる。性格は不明である。



第 276 図　第 218 号土坑・出土遺物実測図

第 218 号土坑出土遺物観察表（第 276 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
480	土師器	高台付椀	14.8	4.7	6.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	底部回転糸切り	中層	90%　PL56

第 252 号土坑（第 277 図）

位置　調査区南部のＥ２d8 区，標高 33 mの緩斜面部に位置している。

規模と形状　径 1.1 mほどの円形で，深さは 70㎝である。底面は平坦で，壁はほぼ直立している。

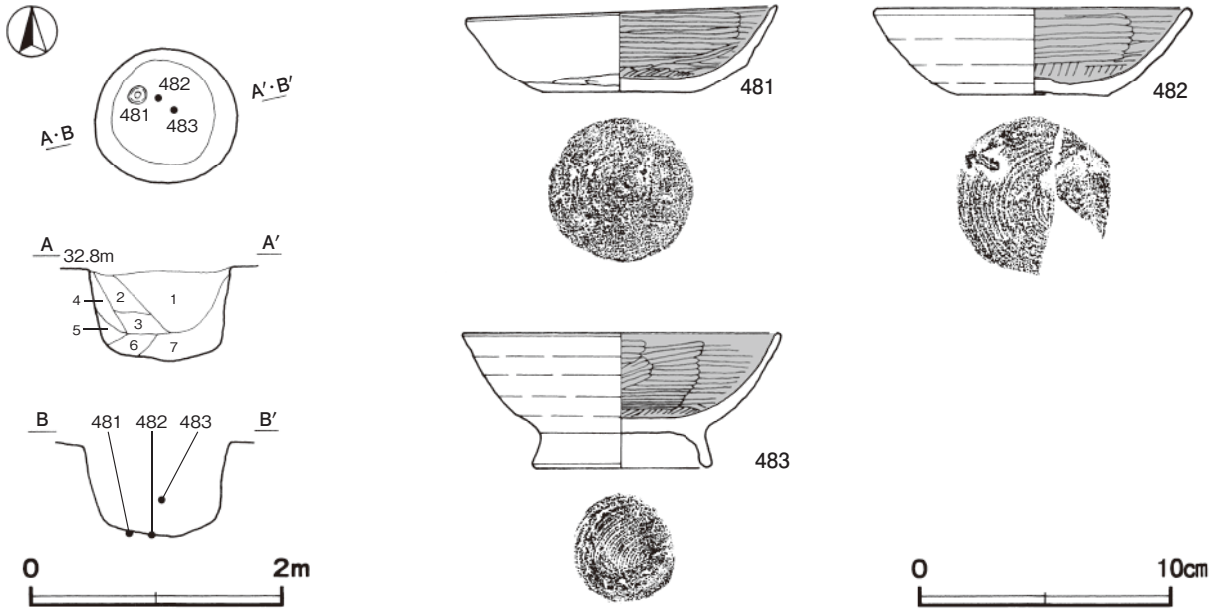
覆土　７層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化物微量
4　黒　褐　色　ロームブロック微量
5　褐　　色　ロームブロック多量
6　暗　褐　色　ロームブロック微量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片 36 点（坏 17，高台付椀３，甕３，甕類 13）が出土している。また，混入した縄文土器片１点，弥生土器片３点も出土している。481・482 は北部の底面，483 は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。481 は，逆位で出土している。

所見　時期は，出土土器から 10 世紀中葉に比定できる。性格は不明である。



第 277 図　第 252 号土坑・出土遺物実測図

第 252 号土坑出土遺物観察表（第 277 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
481	土師器	坏	12.2	3.5	6.0	長石・石英・雲母・赤色粒子・角閃石	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き　体部下端・底部回転ヘラ削り	底面	95%　PL56
482	土師器	坏	12.3	3.4	6.0	長石・石英・雲母・赤色粒子・針状鉱物	明赤褐	普通	内面ヘラ磨き　底部回転糸切り	底面	90%　PL56
483	土師器	高台付椀	12.4	5.4	6.8	長石・石英・雲母・赤色粒子・角閃石	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き　底部回転糸切り	中層	80%　PL56

表 10　平安時代土坑一覧表

番号	位 置	長径方向	平 面 形	規　　模		底　面〈断面形〉	壁　面	覆　土	主 な 出 土 遺 物	備　考 重複関係(古→新)
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
5	D 2 e0	－	円形	1.1	58	平坦	直立	人為	土師器片，須恵器片	TM 1 →本跡
7	D 2 g6	N － 86° － E	台形状	(1.48) × 0.76	12	〈皿状〉	－	人為	土師器片，須恵器片	本跡→ SD 1
11	D 2 g6	N － 46° － W	楕円形	0.79 × 0.70	23	平坦	外傾	人為	土師器片	
13	D 2 b6	N － 13° － E	楕円形	3.76 × 2.04	13	〈皿状〉	－	人為	土師器片，須恵器片，腰帯具，鉄鏃	SK17 →本跡
15	D 2 g6	N － 45° － W	楕円形	[0.89] × 0.80	15	〈皿状〉	－	人為	土師器片，須恵器片	SK12 →本跡
25	D 2 g5	－	円形	1.2	21	平坦	緩斜	人為	土師器片，須恵器片	PG 1 →本跡
43	E 2 b6	N － 25° － W	楕円形	1.59 × 1.34	15	〈皿状〉	－	人為	土師器片	SI39・104 →本跡
47	E 2 d7	－	隅丸方形	1.6	43	平坦	直立	人為	土師器片	SH 1 →本跡
56	D 2 j7	N － 79° － E	楕円形	0.56 × 0.42	18	皿状	外傾	人為	土師器片	
62	C 2 i5	N － 87° － E	楕円形	1.57 × 1.35	7	〈皿状〉	－	人為	土師器片	SK61 →本跡→ PG 1
78	E 1 i0	N － 45° － W	楕円形	0.51 × 0.44	5	〈皿状〉	－	人為	土師器片	
82	E 1 h5	N － 82° － W	楕円形	0.86 × 0.70	35	鍋底状	緩斜	人為	土師器片	SI68 →本跡
88	E 1 j7	－	円形	0.5	24	傾斜	外傾	自然	土師器片，須恵器片	
89	E 1 j8	－	円形	0.5	12	〈皿状〉	－	不明	土師器片	SI47 と新旧不明
102	E 2 i8	N － 58° － E	楕円形	(1.14 × 0.85)	(35)	鍋底状	緩斜	人為	土師器片	本跡→ SI67，SH 3
136	E 2 a7	－	隅丸方形	1.3	22	平坦	外傾	人為	土師器片	SI99 →本跡
185	D 2 b4	－	円形	(0.5)	39	平坦	直立	人為	須恵器片	SI18 →本跡→ SI93
218	D 2 f0	－	円形	0.9	34	平坦	直立	人為	土師器片，須恵器片	TM 1 →本跡
252	E 2 d8	－	円形	1.1	70	平坦	直立	人為	土師器片	

(6)　ピット群

今回の調査では，ピット群８か所を確認した。いずれも建物跡を想定できるような配置ではないが，第１号ピット群のピットからは，比較的残存率の高い遺物が出土しているため，当時代の遺構と判断した。以下，遺構と遺物の特徴を解説する。

第１号ピット群（第 278・279 図）

位置　調査区中央部の標高 33 mの平坦な台地上，C ２i5 ～ E ２b0 区にかけての南北 50 m，東西 28 mの範囲から柱穴状のピット 108 か所を確認した。

重複関係　第１号墳，第１・２・４・７～ 11・89・100・105 号住居跡，第１号堀立柱建物跡，第１・23・59・61・62 号土坑を掘り込み，第 20 号住居，第 25・137・247 号土坑，第１・４・５号溝に掘り込まれている。また，第 34・209・229 号土坑とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模や形状　ピットは長径 16 ～ 66cm，短径 15 ～ 56cmの円形または楕円形で，深さは５～ 110cmである。

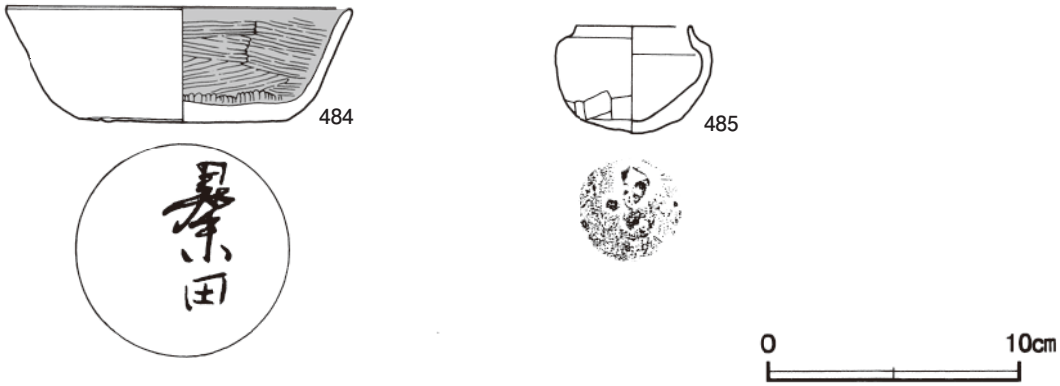
第 278 図　第 1 号ピット群実測図

遺物出土状況　土師器片 49 点（坏 13，高台付椀２，甕６，甕類 27, ミニチュア土器１），須恵器片４点（甕）が出土している。また，混入した縄文土器片１点，弥生土器片 15 点，古墳時代の土師器片２点（坏，高坏）も出土している。484 は P75 の覆土上層，485 は P95 の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見　ピットに重複があり，広範囲で確認されていることから，若干の時期差があると想定できるが，出土土器や重複関係により，時期は概ね９～ 10 世紀代の範疇に収まるものと考えられる。

第１号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ
1	D３c1	円形	43	37	15
2	D３c1	円形	46	40	24
3	D２f8	円形	19	19	23
4	D２g7	円形	(31)	30	20
5	D２e0	[円形]	38	[30]	22
6	D２e0	楕円形	40	32	34
7	D２e0	[円形]	[28]	28	13
8	D２e0	楕円形	34	30	43
9	D２e0	楕円形	30	24	40
10	D２f0	円形	40	39	31
11	D２f0	円形	42	42	32
12	D２f0	円形	26	26	27
13	D２e0	楕円形	29	26	36
14	D２b8	[円形]	[21]	[20]	(15)
15	D２b8	楕円形	29	22	45
16	D２b7	円形	24	22	46
17	D２b7	円形	22	20	43
18	D２b7	円形	24	23	19
19	D２f7	楕円形	53	44	49
20	D２f7	楕円形	54	34	35
21	D２a7	楕円形	26	23	40
22	D２g7	円形	26	24	74
23	D２e9	円形	18	16	33
24	D２d0	[円形]	－	－	28
25	D２d0	[円形]	－	－	30
26	D２d0	[円形]	－	－	29
27	D２d0	楕円形	34	23	24
28	D２d9	楕円形	41	36	37
29	D２d9	[円形]	37	(26)	39
30	D２d9	[円形]	38	(15)	23
31	D２d9	楕円形	23	20	9
32	D２c9	楕円形	42	35	66
33	D２c9	円形	16	15	50
34	D２c9	円形	44	44	58
35	D２c9	楕円形	43	24	56
36	D２b9	楕円形	35	25	84
37	D２b9	楕円形	30	26	53
38	D２b9	楕円形	38	34	72
39	D２b9	円形	60	56	65
40	D２a9	円形	30	29	77
41	D２g0	円形	28	27	84
42	D２a9	[楕円形]	(32)	26	110
43	D２h6	円形	30	28	18
44	D２j8	楕円形	30	22	35
45	D２d6	円形	20	19	24
46	D２g5	[円形]	35	(24)	8
47	D２g9	楕円形	28	20	45
48	D２g9	楕円形	29	20	45
49	D２g9	楕円形	21	16	49
50	D２g9	楕円形	44	34	53
51	D２f9	楕円形	24	16	81
52	D２g9	円形	44	43	58
53	D２g9	円形	34	31	72
54	D２h9	楕円形	38	34	49
55	D２g8	楕円形	34	28	54
56	D２h7	[楕円形]	(27)	24	70
57	D２g7	楕円形	30	27	46
58	D２g7	円形	29	27	66
59	D２h8	円形	45	44	62
60	D２h8	[円形]	39	(32)	24
61	D２h8	楕円形	40	22	47
62	D２d7	円形	24	23	13
63	D２d6	楕円形	24	20	26
64	D２d6	円形	44	43	62
65	D２c5	楕円形	30	26	26
66	D２j9	楕円形	28	25	33
67	E２a0	楕円形	44	28	58
68	E２a0	楕円形	18	15	53
69	E２a9	楕円形	33	29	54
70	欠番				
71	欠番				
72	欠番				
73	欠番				
74	欠番				
75	D２d7	楕円形	28	24	44
76	D２d7	楕円形	22	16	35
77	D２d8	[楕円形]	(28)	22	45
78	D２d7	円形	20	20	12
79	D２d7	円形	22	20	19
80	D２d8	楕円形	36	28	25
81	D２d8	楕円形	26	22	20
82	D２e8	楕円形	40	34	56
83	D２a8	楕円形	29	26	45
84	D２a8	楕円形	26	22	39
85	C２j8	円形	24	24	33
86	D２a8	楕円形	33	26	32
87	D２c7	楕円形	24	20	54
88	D２c7	不定形	51	45	93
89	D２d8	楕円形	33	28	33
90	D２d7	楕円形	36	22	28
91	D２d8	楕円形	36	31	66
92	D３f1	楕円形	38	32	65
93	D２b7	楕円形	66	52	74
94	D２c8	楕円形	28	22	71
95	D２f8	円形	30	30	5
96	D２g8	楕円形	40	36	11
97	D３f1	円形	34	34	55
98	D３f1	[楕円形]	26	(20)	11
99	D２c7	楕円形	22	19	30
100	D２c6	円形	21	20	44
101	D２e8	円形	31	30	87
102	D２d7	楕円形	46	40	48
103	D２i7	[円形]	(28)	(26)	(46)
104	E２a8	楕円形	36	32	8
105	D２c7	[円形]	(23)	23	24
106	D２d7	[円形]	(26)	(24)	24
107	C２i5	楕円形	35	30	15
108	C２i5	円形	33	30	10
109	C２i5	円形	28	28	16
110	C２i5	楕円形	26	20	17
111	D２i8	楕円形	28	20	9
112	D２i8	[円形]	(34)	(31)	(15)
113	D２a9	楕円形	28	23	11



第 279 図　第１号ピット群出土遺物実測図

第１号ピット群出土遺物観察表（第 279 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
484	土師器	坏	13.6	4.7	8.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	内面ヘラ磨き　底部手持ちヘラ削り 墨書「日奈田」	P75	60%　PL63
485	土師器	ミニチュア	4.6	4.3	4.2	長石・石英・雲母・赤色粒子・針状鉱物	にぶい黄橙	普通	壺形　体部外面ヘラ削り　内面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り	P95	100%　PL56

５　中世・近世の遺構と遺物

当時代の遺構は，墓坑２基，溝跡１条を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1)　墓坑

第１号墓坑（第 280 図）

位置　調査区中央部のＣ３i3 区，標高 33 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第１号墳，第 144 号住居跡を掘り込んでいる。

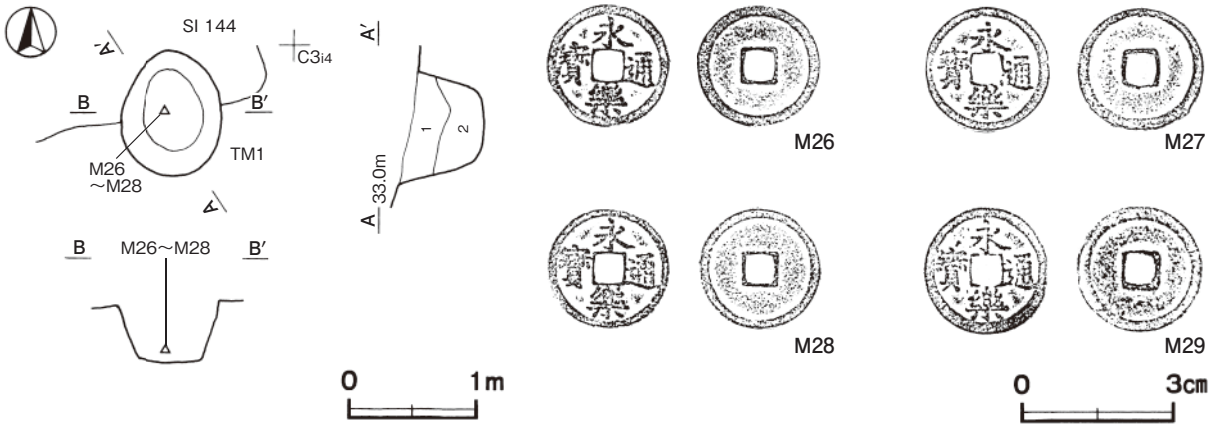
規模と形状　長径 0.99m，短径 0.78 ｍの楕円形で，長径方向はＮ－０°である。深さ 48cmで，底面は平坦であり，壁はほぼ直立している。

覆土　２層に分層できる。ロームブロックを主体とした埋葬時の埋め戻しである。

土層解説

１　暗　褐　色　ロームブロック多量

２　暗　褐　色　ロームブロック中量，骨片少量



第 280 図　第１号墓坑・出土遺物実測図

遺骸の特徴　骨片（大腿骨又は腓骨）や歯が出土している。骨は全体的に華奢であり，女性の可能性がある。また，歯は永久歯で極めて摩滅していることから，老年（60 歳以上）と考えられる。

遺物出土状況　銭貨４点（永樂通寶）が出土している。M26 ～ M28 は，中央部の覆土下層から重なりあって出土している。M29 は，覆土中から出土している。また，覆土下層から漆器の椀も出土しているが，素地の木質部は残存しておらず，漆塗膜の高台部のみが確認されているため，図示することはできない。

所見　銭貨や漆器の椀は，副葬品と考えられる。時期は，出土遺物から室町時代と考えられる。

第１号墓坑出土遺物観察表（第 280 図）

番号	銭　名	径	孔径	厚さ	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備　考
M26	永樂通寶	2.5	0.6	0.1	2.8	1408	銅	真書	下層	
M27	永樂通寶	2.5	0.6	0.1	2.5	1408	銅	真書	下層	PL62
M28	永樂通寶	2.4	0.6	0.1	2.1	1408	銅	真書	下層	PL62
M29	永樂通寶	2.5	0.6	0.1	2.6	1408	銅	真書	覆土中	

第２号墓坑（第 281 図）

位置　調査区中央部のＣ３i2 区，標高 33 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 11 号溝を掘り込んでいる。また，第１号墳とも重複しており，遺構の性格上本跡が新しい。

規模と形状　長径 1.26m，短径 0.84 ｍの楕円形で，長径方向はＮ－ 44 ゜－ Ｅである。深さ 49㎝で，底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がっている。

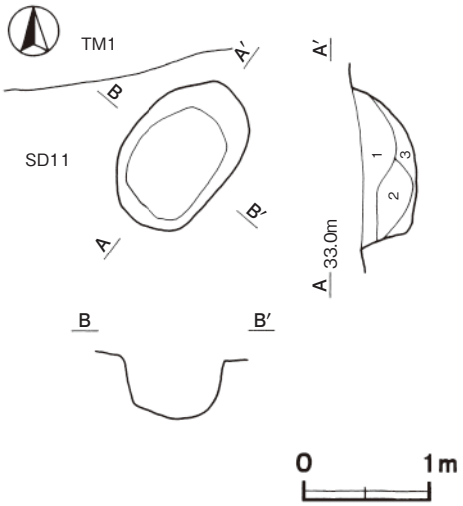
覆土　３層に分層できる。ロームブロックを主体とした埋葬時の埋め戻しである。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，鹿沼パミス微量
2　暗　褐　色　ロームブロック微量
3　灰　褐　色　ローム粒子中量

遺骸の特徴　骨片（大腿骨）や歯が，主に覆土下層から出土している。歯は永久歯で摩滅していることから，壮年（20 ～ 39 歳）以上と考えられる。

遺物出土状況　覆土中に混入した土師器の甕片が出土している。

所見　時期は，副葬品と考えられる遺物がないため明確でないが，第１号墓坑と隣接していることから，同墓坑とはあまり時期差がない室町時代と考えられる。



第 281 図　第２号墓坑実測図

表 11　中世・近世墓坑一覧表

番号	位 置	長径方向	平 面 形	規　模		底　面	壁　面	覆　土	主 な 出 土 遺 物	備　考
				長径×短径（m）	深さ（㎝）					重複関係(古→新)
1	Ｃ３i3	Ｎ－０°	楕円形	0.99 × 0.78	48	平坦	直立	人為	銭貨	TM １，SI144 → 本跡
2	Ｃ３i2	Ｎ－ 44°－Ｅ	楕円形	1.26 × 0.84	49	平坦	外傾	人為	土師器片	TM １，SD11 → 本跡

(2) 溝跡

今回の調査で，当時代の溝跡１条を確認した。規模や形状等については文章で解説し，平面図については遺構全体図（付図）で掲載する。

第５号溝跡（第 282 図）

位置　調査区中央部から南部のＤ２h0 ～ Ｆ ２a6 区，標高 31 ～ 33 ｍの台地部から緩斜面部にかけて構築されている。

重複関係　第１号墳，第９・12・16・42・43・60・92 号住居跡，第 28・44・92 号土坑，第６号溝跡，第１号ピット群を掘り込み，第 81 号土坑，第７・８号溝に掘り込まれている。

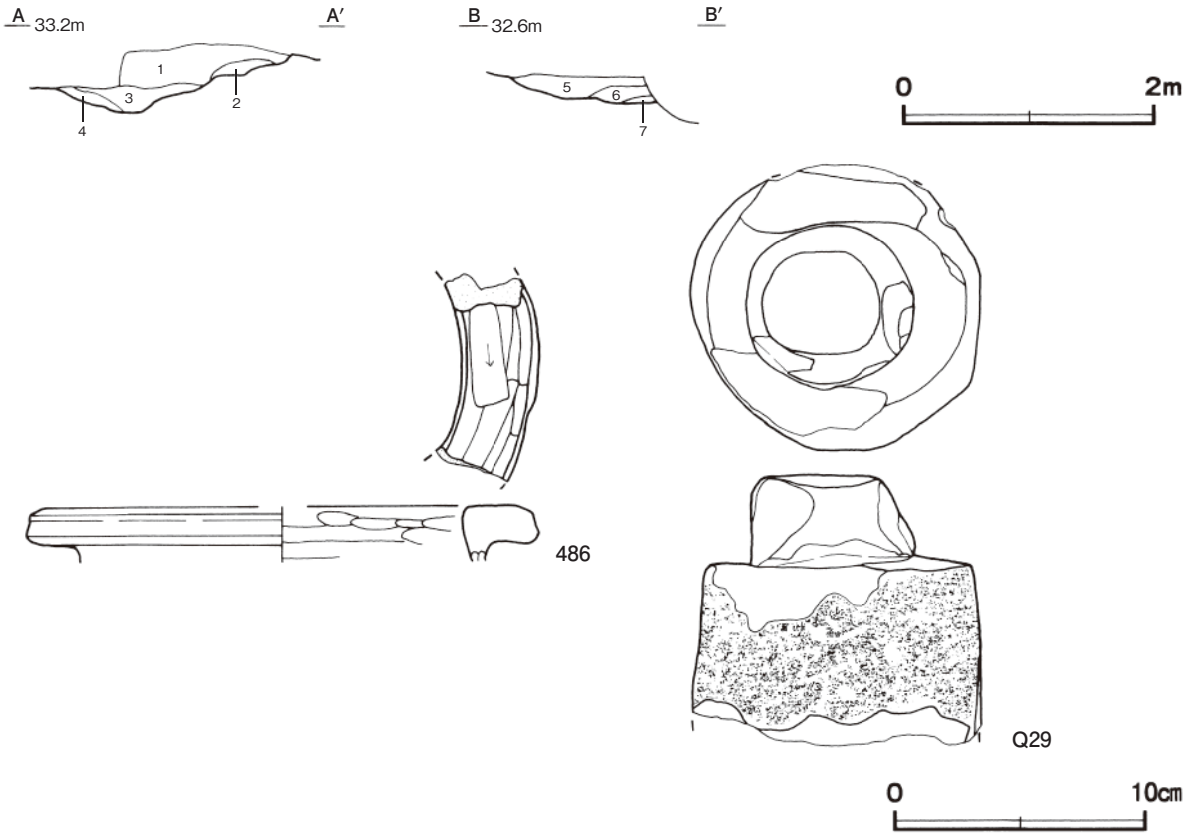
規模と形状　Ｄ２j5 区から北東方向（Ｎ－ 76°－Ｅ）と南東方向（Ｎ－ 165°－Ｅ）に延びており，Ｌ字状に屈曲している。確認できた長さは 64 ｍで，北東方向の端部は調査区以外に延びている。上幅 62 ～ 213㎝，下幅 22 ～ 114㎝，深さは 22㎝で，断面形は浅いＵ字状である。

覆土　７層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，細礫微量
4　褐　　色　ロームブロック・鹿沼パミス中量，細礫微量
5　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
6　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
7　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量

遺物出土状況　陶器片２点（碗・皿），土師質土器片１点（竈鍔），石製品１点（五輪塔）のほか，混入した縄文土器片８点，弥生土器片 13 点，土師器片 311 点，須恵器片 16 点も出土している。486・Q29 は中央部の覆土中からそれぞれ出土している。



第 282 図　第５号溝跡・出土遺物実測図

所見　伴う遺物が少ないため，時期は明確でないが，出土遺物から江戸時代と考えられる。性格については，何らかの区画溝と考えられるが，詳細は不明である。

第５号溝跡出土遺物観察表（第 282 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
486	土師質土器	竈鍔	［20.0］	（2.2）	－	長石・石英	橙	普通	上面をヘラ削り　口縁部内面ヘラナデ	中央部 覆土中	10%

番号	器　種	長さ	径（上）	径（下）	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q29	五輪塔	（10.7）	6.6	11.4	（1326.8）	花崗岩	正面に刻字（梵字ｱ）　摩滅のため判読不明	中央部 覆土中	PL60

６　その他の遺構と遺物

今回の調査で，時期や性格が明らかでない竪穴住居跡３軒，掘立柱建物跡１棟，道路跡１条，土坑 185 基，溝跡 12 条，ピット群７か所を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1)　竪穴住居跡

第 71 号住居跡（第 283 図）

位置　調査区南部のＥ１g4 区，標高 30 ｍの台地縁辺部に位置している。

確認状況　削平されており，大半が第 55 号住居に掘り込まれているため，竈の火床部と右袖部の一部しか確認できなかった。

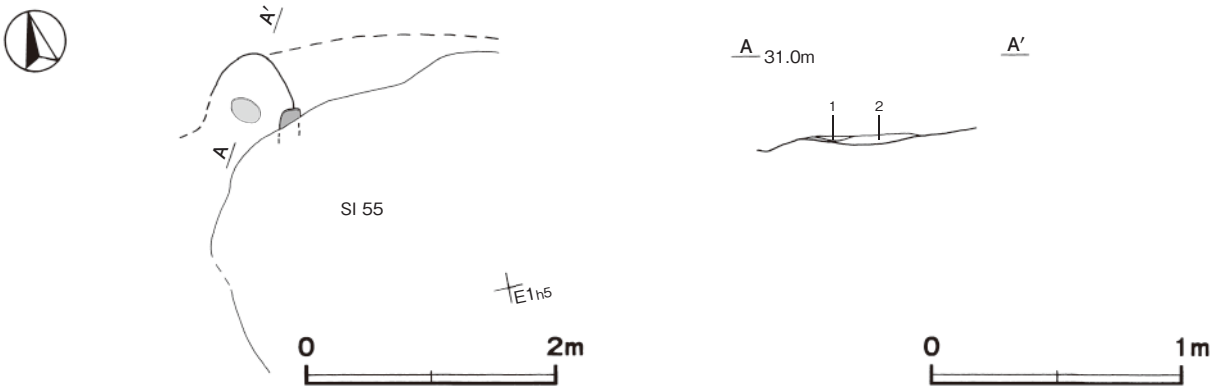
重複関係　第 55 号住居に掘り込まれている。

規模と形状　竈の一部が確認されたのみで，規模や形状は不明である。

竈　北壁に付設されていたと考えられる。火床面は径 20㎝ほどで，赤変硬化している。また火床部の東側に凝灰岩の切石が埋設されており，右袖部の基部と考えられる。

竈土層解説
１　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量　　２　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量

所見　遺物が出土しておらず全容が不明のため，時期は重複関係から 10 世紀前葉以前と考えられるが，明確ではない。



第 283 図　第 71 号住居跡実測図

第 75 号住居跡（第 284 図）

位置　調査区南部のＥ１h5 区，標高 31 ｍの台地縁辺部に位置している。

確認状況　削平されているため，床面が露出した状態で確認した。

重複関係　第 68 号住居，第 71・83 号土坑，第２号ピット群に掘り込まれている。

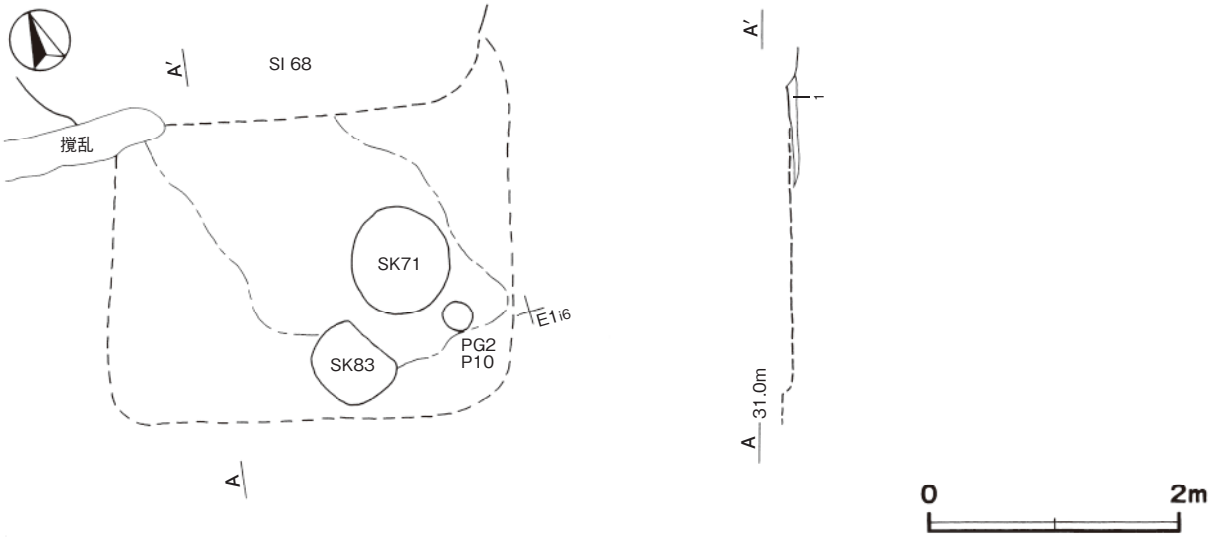
規模と形状　残存する床面の広がりから一辺が 3.2 ｍほどの方形または長方形と推定できる。

床　貼床の一部が残存しており，中央部が硬化していたと考えられる。貼床は細礫を少量含み，ロームブロックを主体とする第１層を埋土して構築している。

構築土　締まりが強い貼床の構築土である。

構築土土層解説
１　褐　　色　ロームブロック多量，細礫少量

所見　遺物が出土しておらず全容が不明のため，時期は重複関係から９世紀後葉以前と考えられるが，明確ではない。



第 284 図　第 75 号住居跡実測図

第 147 号住居跡（第 285 図）

位置　調査区北部のＢ２i9 区，標高 31 ｍの緩斜面部に位置している。

重複関係　第 117 ～ 119 号住居，第 172 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　周囲を重複する遺構に掘り込まれており，東壁を確認できなかったため，規模は明確でないが，平面形は残存する壁溝やピットから，方形または長方形と考えられる。南北軸方向はＮ－ 15 ゜－Ｗである。

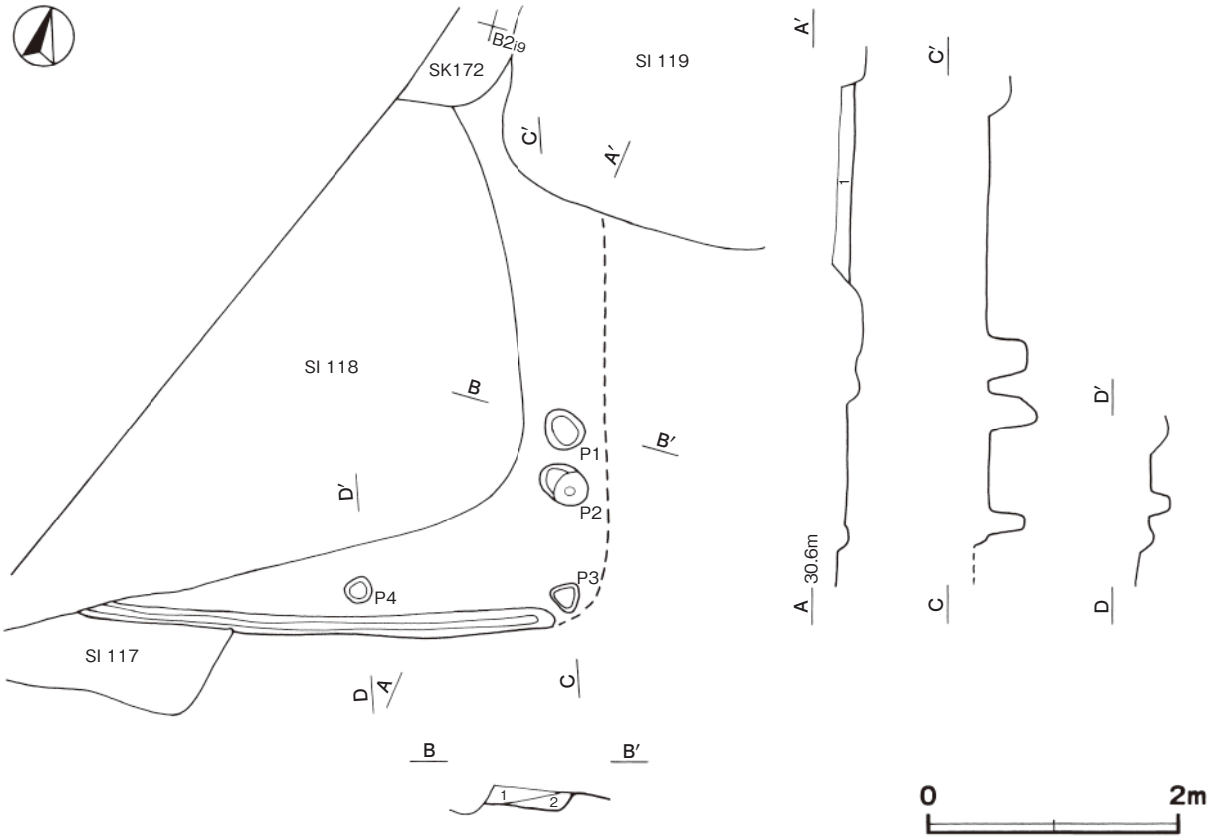
床　残存部は平坦で，顕著な硬化範囲は確認できなかった。南壁の壁下には，壁溝が存在している。

ピット　４か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 16 ～ 40㎝で，配置から壁柱穴の可能性がある。

覆土　２層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説
１　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・細礫少量　　２　暗　褐　色　ロームブロック多量

所見　遺物が出土しておらず全容が不明のため，時期は重複関係から６世紀後葉以前と考えられるが，明確ではない。



第 285 図　第 147 号住居跡実測図

表 12　その他の住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長軸×短軸（m）	壁高（cm）	床面	壁溝	内部施設 主柱穴	内部施設 出入り口	内部施設 ピット	内部施設 竈	内部施設 貯蔵穴	覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係（古→新）
71	E 1 g4	－	不明	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－		10 世紀前葉以前	本跡→ SI 55
75	E 1 h5	－	［方形・長方形］	［3.2］	－	－	－	－	－	－	－	－	－		9 世紀後葉以前	本跡→ SI 68，SK71・83，PG 2
147	B 2 i9	N － 15° － W	［方形・長方形］	－	－	平坦	一部	－	－	4	－	－	人為		6 世紀後葉以前	本跡→ SI 117 ～ 119，SK172

（2）　掘立柱建物跡

第 2 号掘立柱建物跡（第 286 図）

位置　調査区北部のＣ３a2 ～ Ｃ３c2 区，標高 30 mの緩斜面部に位置している。

確認状況　埋没谷の上部に構築されている。

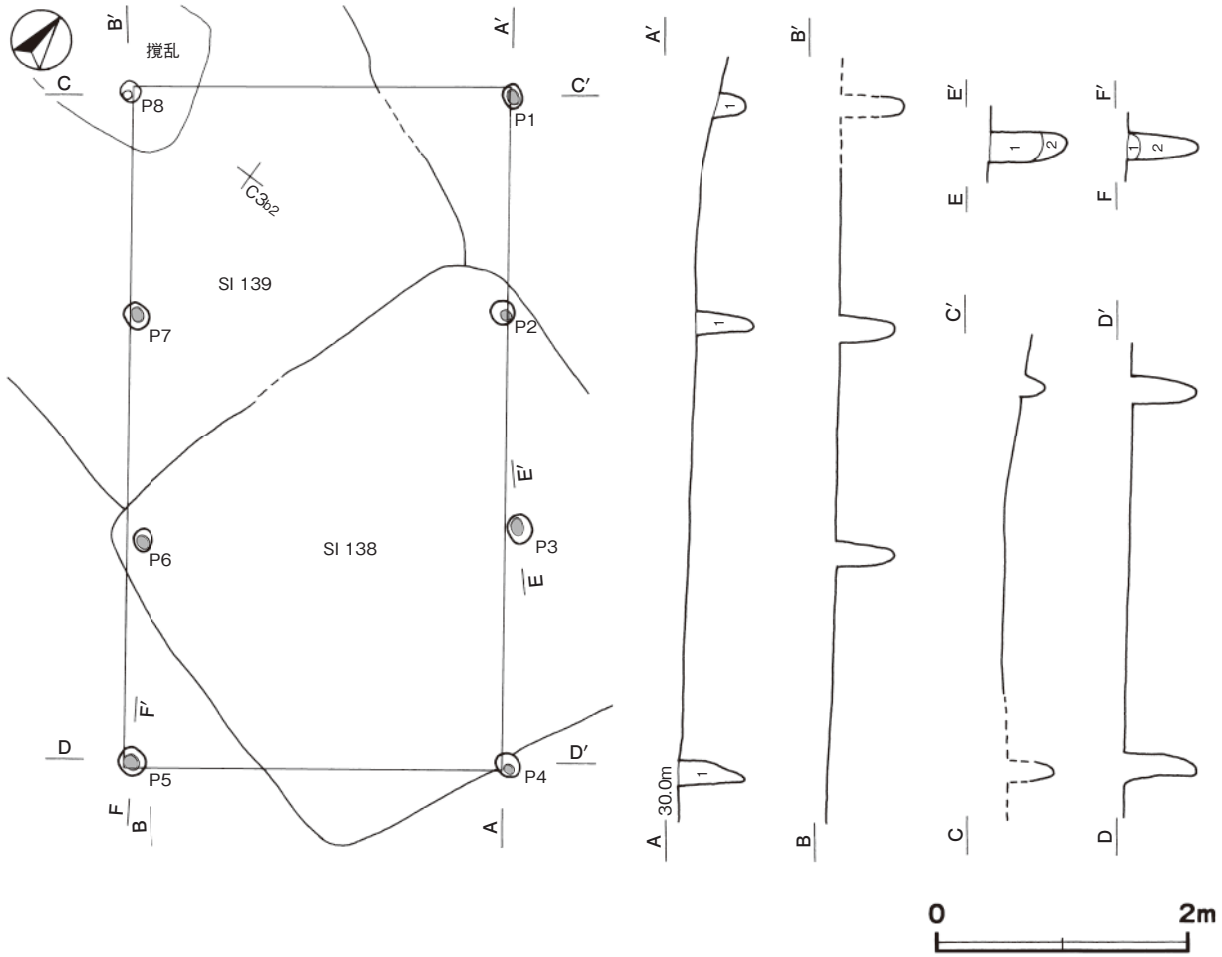
重複関係　第 138・139 号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　桁行３間，梁行１間の側柱建物跡で，桁行方向Ｎ － 36 ° － Ｗの南北棟である。規模は桁行 5.4 m，梁行 3.0 mで，面積 16.2㎡である。柱間寸法は，桁行が 1.8 m（６尺）で均等に配置されており，梁行は 3.0 m（10 尺）である。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　８か所。平面形は円形または楕円形で，長径 24 ～ 18 ㎝，短径 22 ～ 15㎝である。深さは 18 ～ 60㎝で，掘方の断面形はＵ字状である。第１・２層は柱の抜き取り痕である。Ｐ１～Ｐ７の底面に，径 10 ～ 20㎝ほどの柱のあたりとみられる円形または楕円形の硬化範囲が認められる。

柱穴土層解説（各柱穴共通）
1　極暗褐色　ロームブロック少量　　2　極暗褐色　ローム粒子微量

所見　時期は，重複関係から10世紀後葉以降と考えられるが，遺物が出土していないため明確ではない。



第286図　第2号掘立柱建物跡実測図

(3)　道路跡

第1号道路跡（第287図）

位置　調査区中央部のＣ３i2～Ｃ２j9区，標高33ｍの平坦な台地上に位置している。

確認状況　調査区壁面の土層観察にて，締まりが強く水平に堆積した層が確認でき，周囲を精査したところ部分的に硬化した範囲を確認した。

重複関係　第1号墳の周溝，第11号溝の覆土上面を路面としている。また，第12･13号溝跡，第232･275号土坑，第5号ピット群とも重複しているが，新旧関係は不明である。

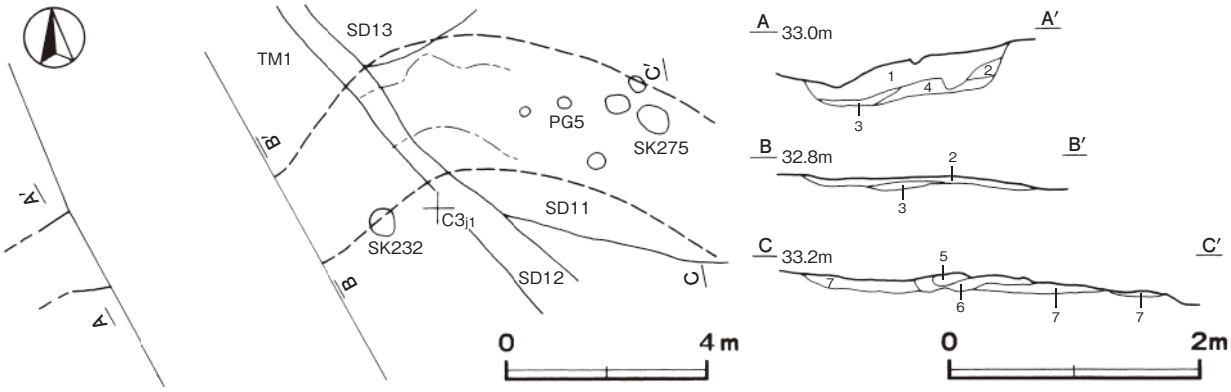
規模と形状　路面は部分的にしか確認できなかったため，規模や形状は明確でないが，土層観察から幅２ｍほどで東西方向に延びていたと想定できる。

構築土　７層に分層できる。ローム土を含む黒褐色や暗褐色の土を埋土して構築されており，全体的に締まりが強い。西部で確認された構築土は層厚も厚いため，部分的に埋土をして路面の補修が行われた可能性がある。

構築土土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
2　暗　褐　色　ロームブロック多量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量
4　褐　　色　ローム粒子多量
5　褐　灰　色　ローム粒子微量
6　黒　　色　ローム粒子少量
7　褐　　色　ローム粒子微量

所見　構築時期は，遺物が出土していないため不明である。



第 287 図　第 1 号道路跡実測図

(4)　土坑

今回の調査で，時期不明の土坑 186 基を確認した。そのうち，第 273・274 号土坑の覆土から多量の焼土を確認したが，火が用いられた痕跡は確認できず，覆土の様相から焼土は土坑内に投棄されたものと判断した。これらの土坑については文章で説明し，その他の土坑については，それぞれ実測図と土層解説及び一覧表のみ掲載する（第 290 ～ 301 図）。

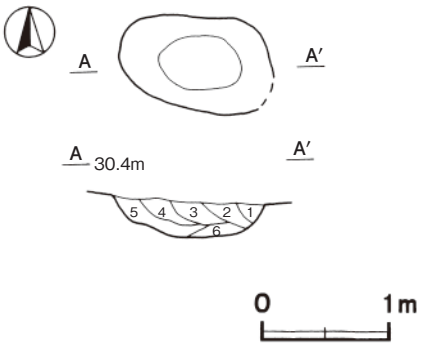
第 273 号土坑（第 288 図）

位置　調査区北部の B 2j0 区，標高 30 mほどの緩斜面部に位置している。

確認状況　埋没谷の上部に構築されている。

規模と形状　長径 1.26 m，短径 0.78 mの楕円形で，長径方向は N － 77 ° － W である。深さは 28cmで，底面は鍋底状である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土　6 層に分層でき，全体的に焼土が含まれている。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。



第 288 図　第 273 号土坑実測図

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　極 暗 褐 色　焼土ブロック・ローム粒子少量
3　暗　褐　色　焼土ブロック多量，ロームブロック少量
4　暗　褐　色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量
5　極 暗 褐 色　炭化物多量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
6　赤　褐　色　焼土粒子多量，ローム粒子少量

遺物出土状況　縄文土器片 1 点，弥生土器片 9 点，土師器片 59 点（坏 21，壺 1，甕類 37），粘土塊 1 点（4.4 g）が覆土中から出土しているが，混入と思われる。

所見　伴う遺物が出土していないため，時期や性格は不明である。

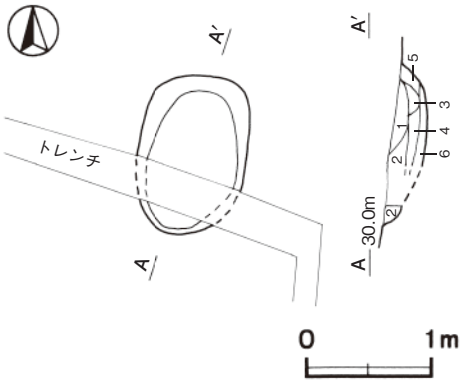
第 274 号土坑（第 289 図）

位置　調査区北部のＣ３c5 区，標高 30 mほどの緩斜面部に位置している。

確認状況　埋没谷の上部に構築されている。

規模と形状　長径 1.33 m，短径 0.88 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 15゜－ Ｅである。深さは 28㎝で，底面は皿状である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土　６層に分層でき，上層に焼土が多く含まれている。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。



第 289 図　第 274 号土坑実測図

土層解説

1　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子・粘土粒子少量，ローム粒子微量
2　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子・粘土粒子微量
3　暗　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片１点（甕類）が覆土中から出土しているが，混入と思われる。

所見　伴う遺物が出土していないため，時期や性格は不明である。

第３号土坑土層解説

1　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量

第４号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック中量，粘土粒子微量
2　にぶい褐色　ローム粒子中量，粘土粒子微量

第６号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック微量
4　褐　　色　ロームブロック中量

第８号土坑土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック多量

第９号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック中量

第 10 号土坑土層解説

1　にぶい褐色　ローム粒子多量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック微量
5　極暗褐色　ロームブロック微量
6　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量

第 14 号土坑土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
2　暗　褐　色　焼土ブロック中量，ロームブロック・粘土粒子少量
3　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量

第 17 号土坑土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
3　暗　褐　色　焼土粒子・粘土粒子少量，ロームブロック微量
4　にぶい褐色　ローム粒子少量

第 18 号土坑土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　褐　　色　炭化粒子・粘土粒子少量，ロームブロック微量

第 20 号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック･焼土ブロック中量，粘土ブロック･炭化物少量

第 21 号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第 24 号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 27 号土坑土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 31 号土坑土層解説

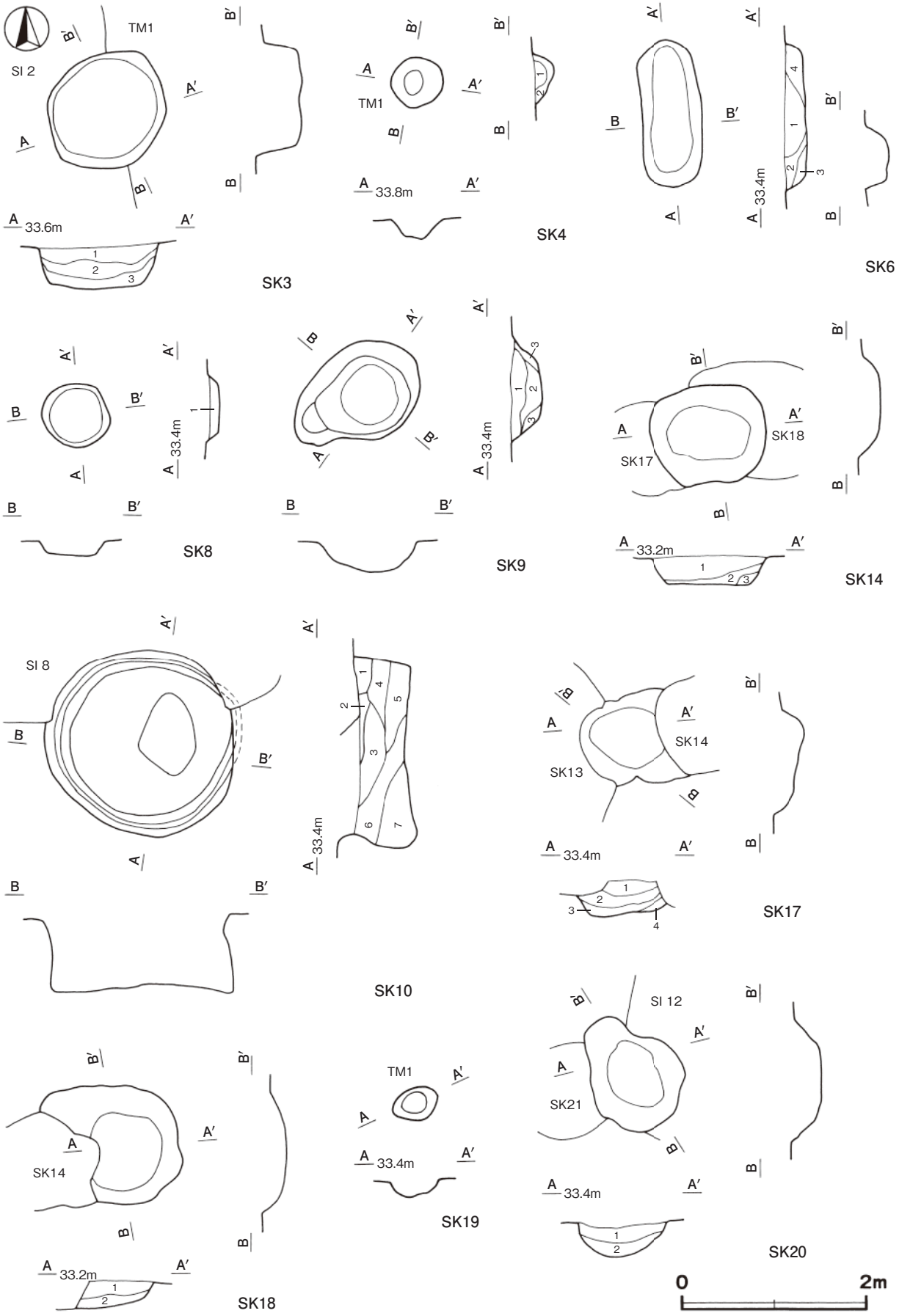
1　暗　褐　色　炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量

第 32 号土坑土層解説

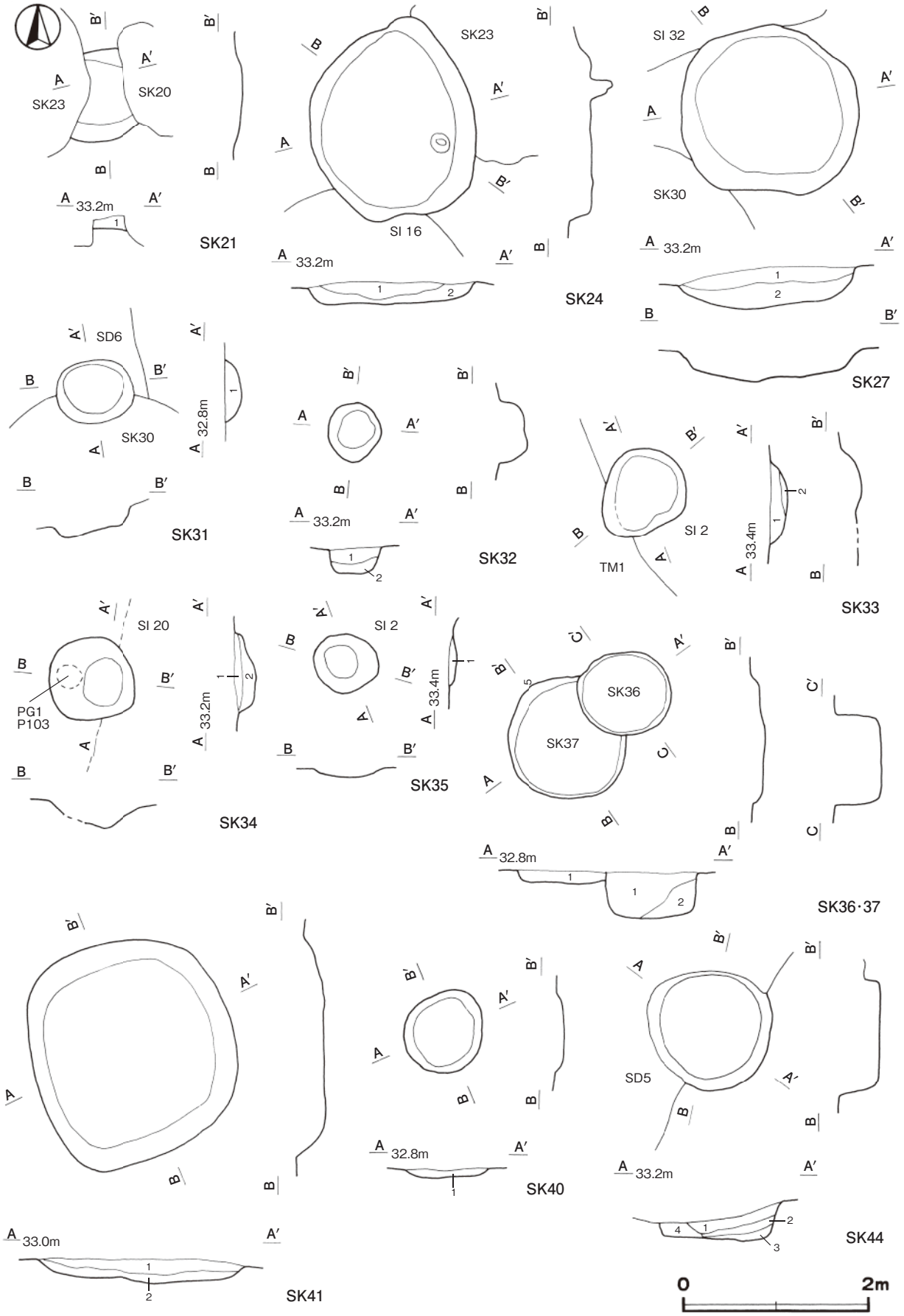
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量

第 33 号土坑土層解説

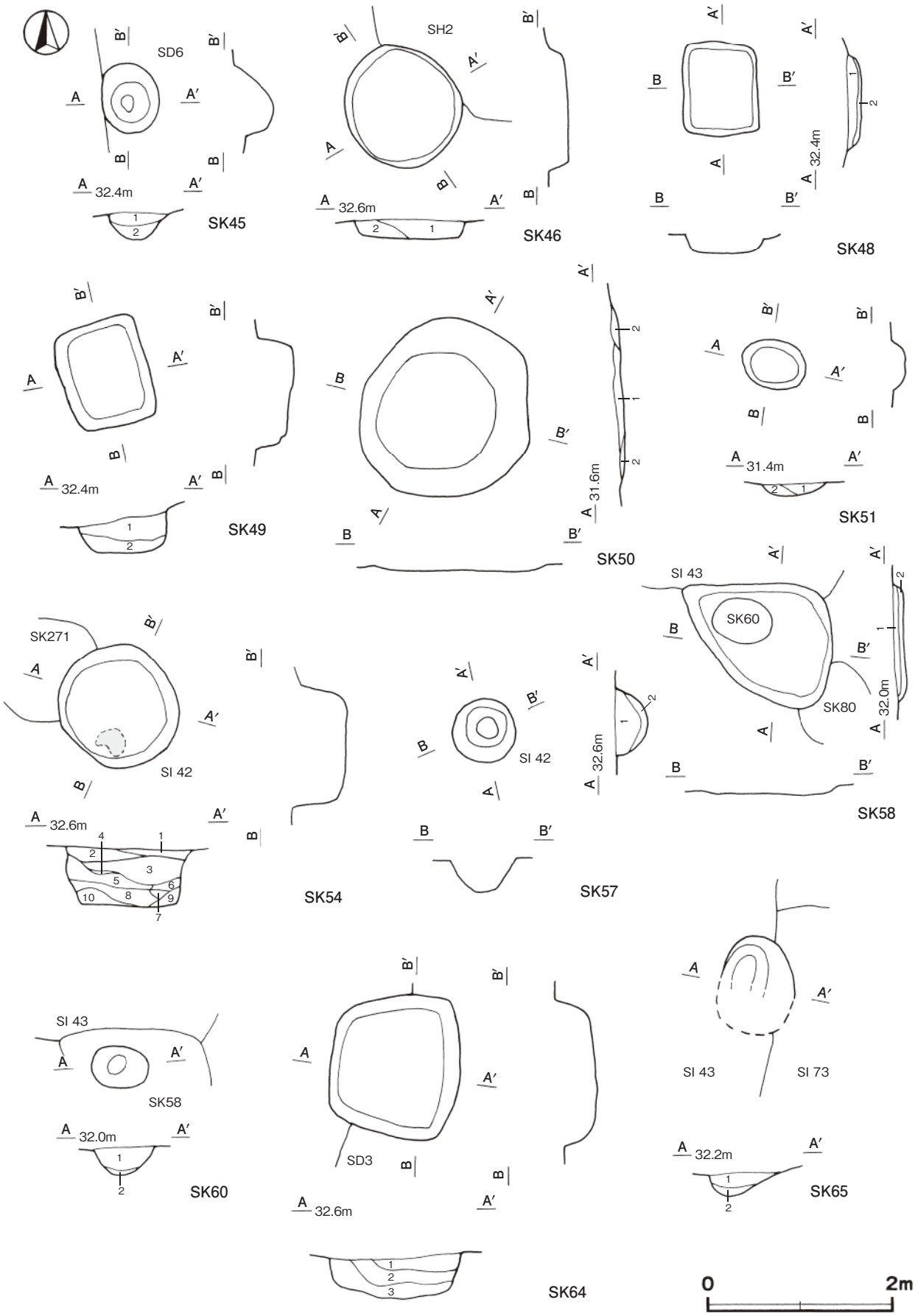
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量



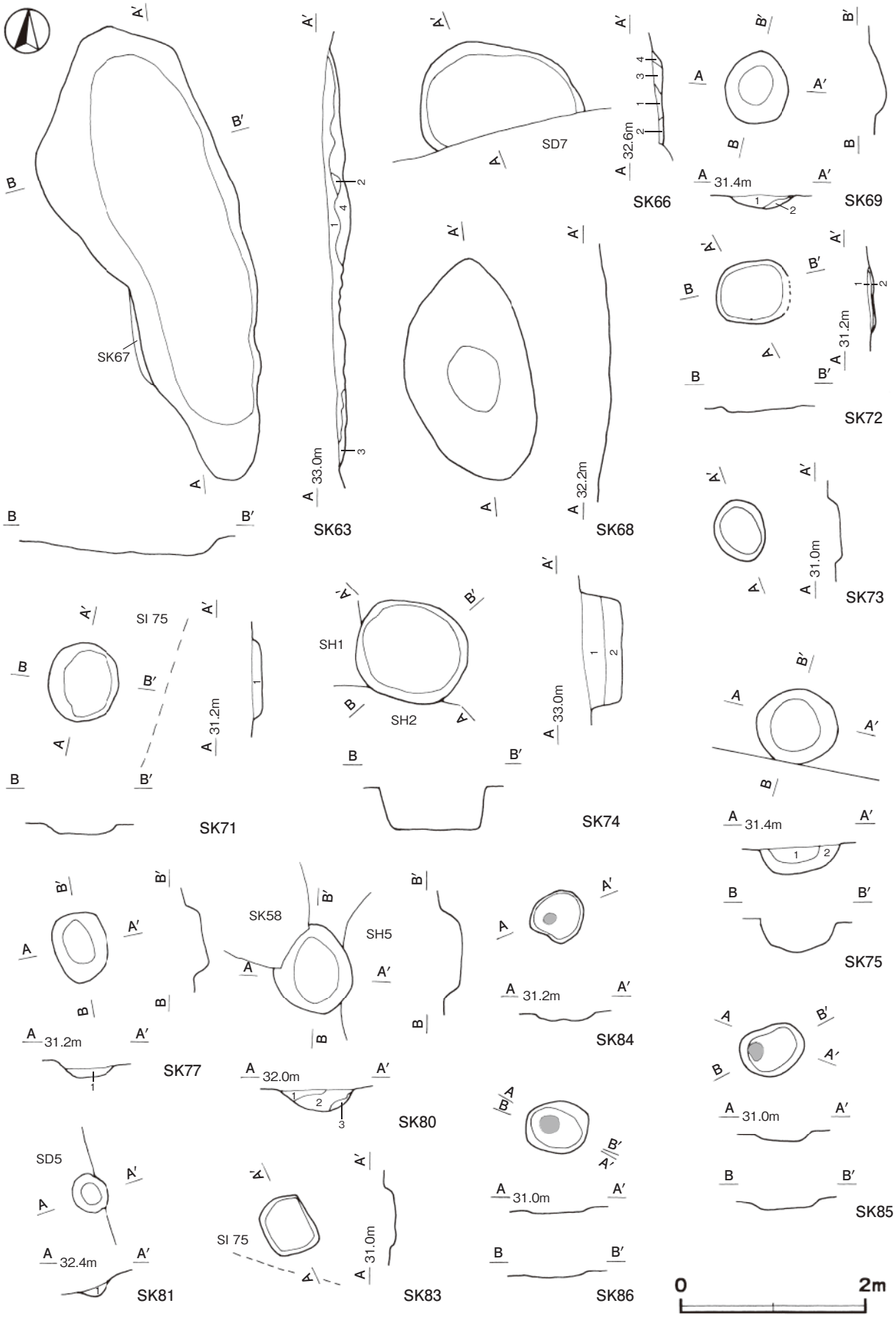
第 290 図　その他の土坑実測図（1）



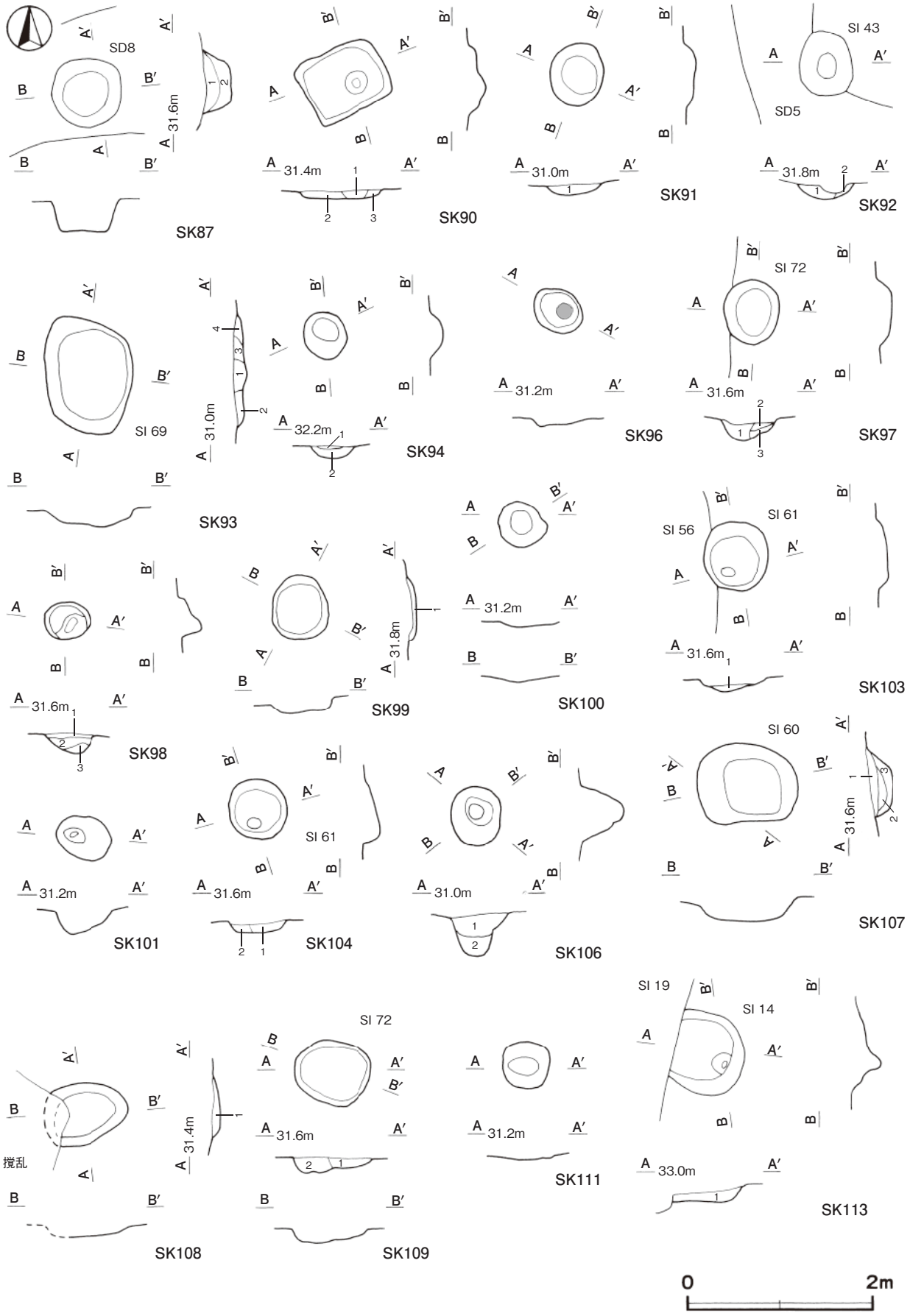
第 291 図　その他の土坑実測図（2）



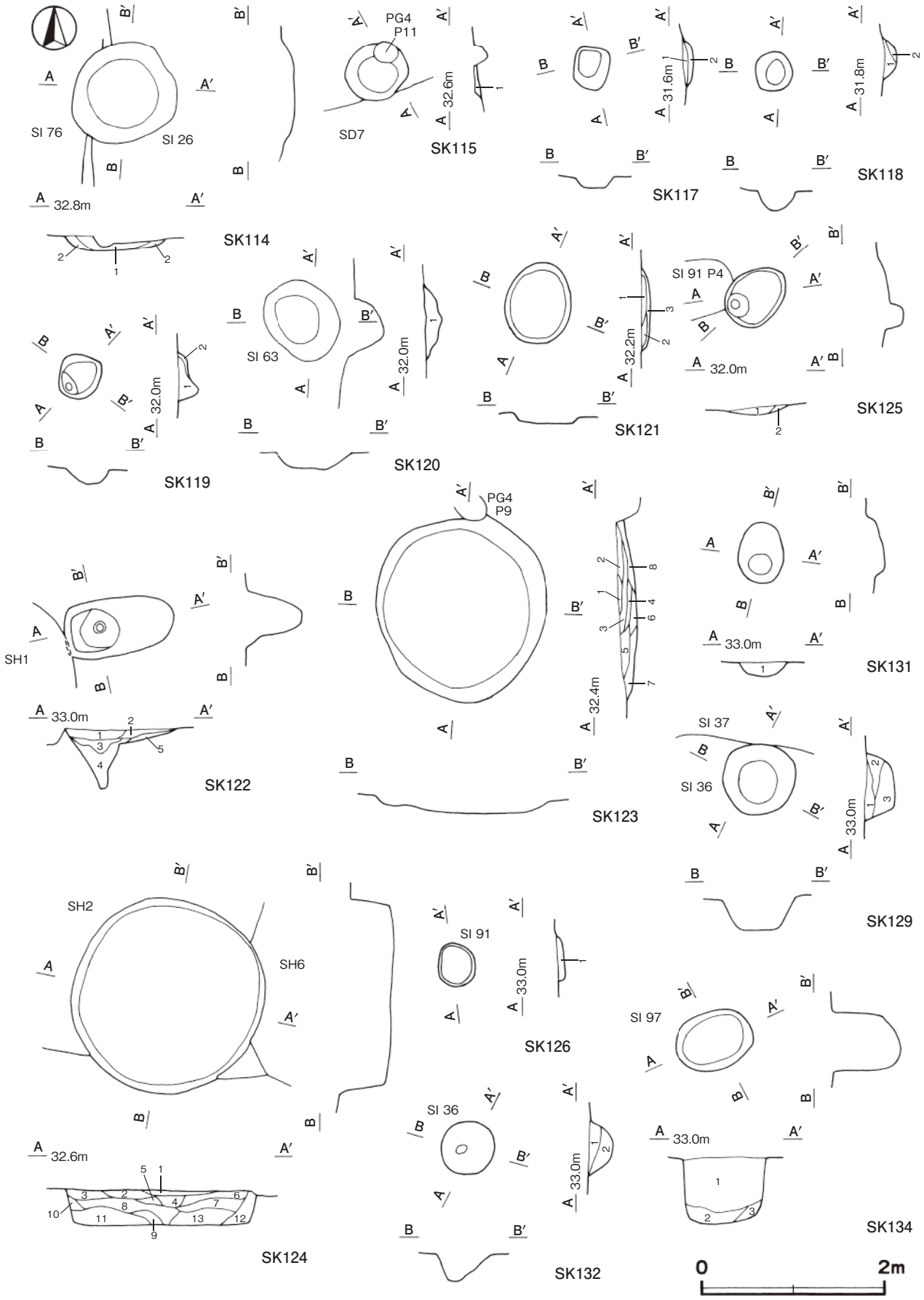
第 292 図　その他の土坑実測図（3）



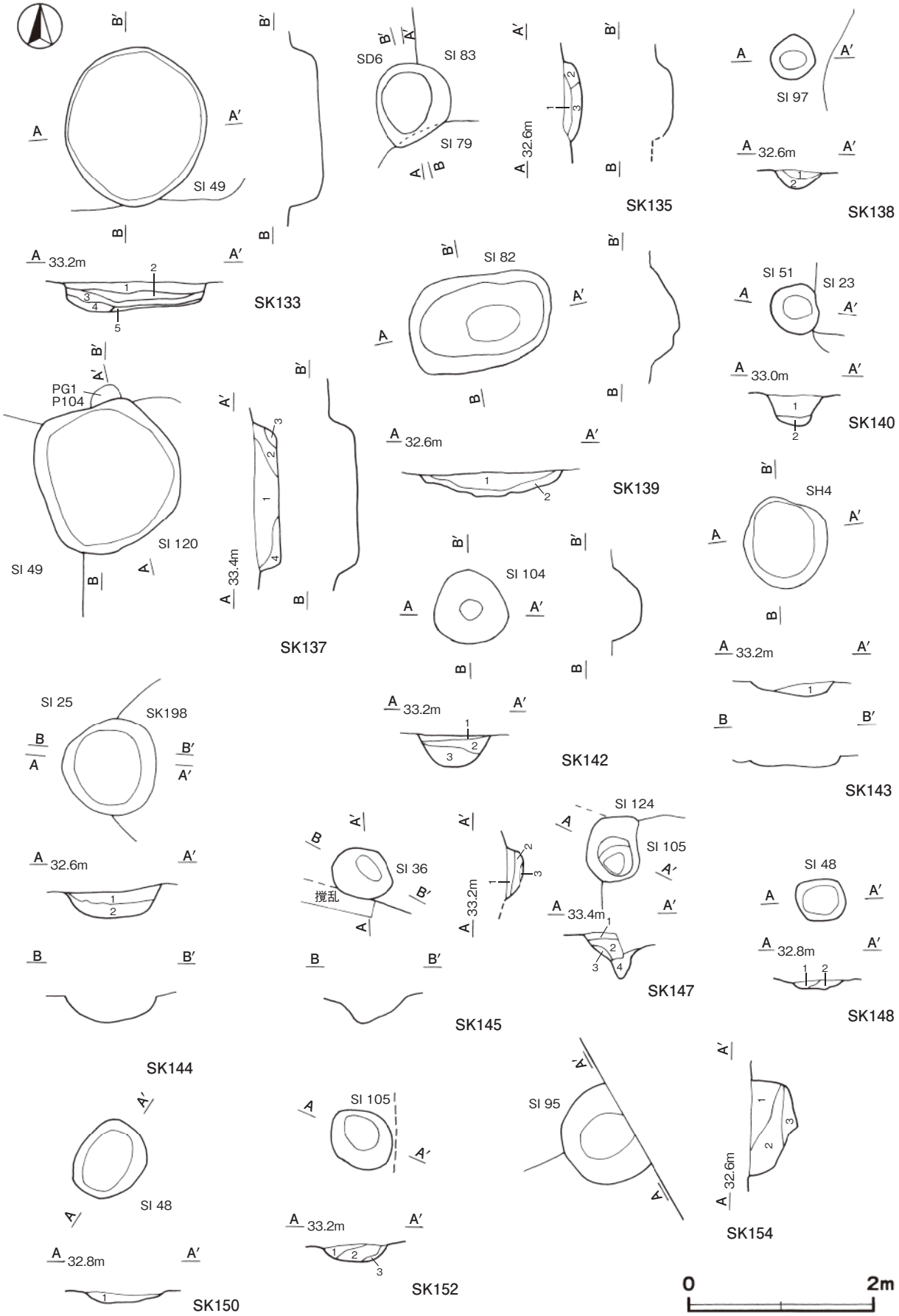
第 293 図　その他の土坑実測図（4）



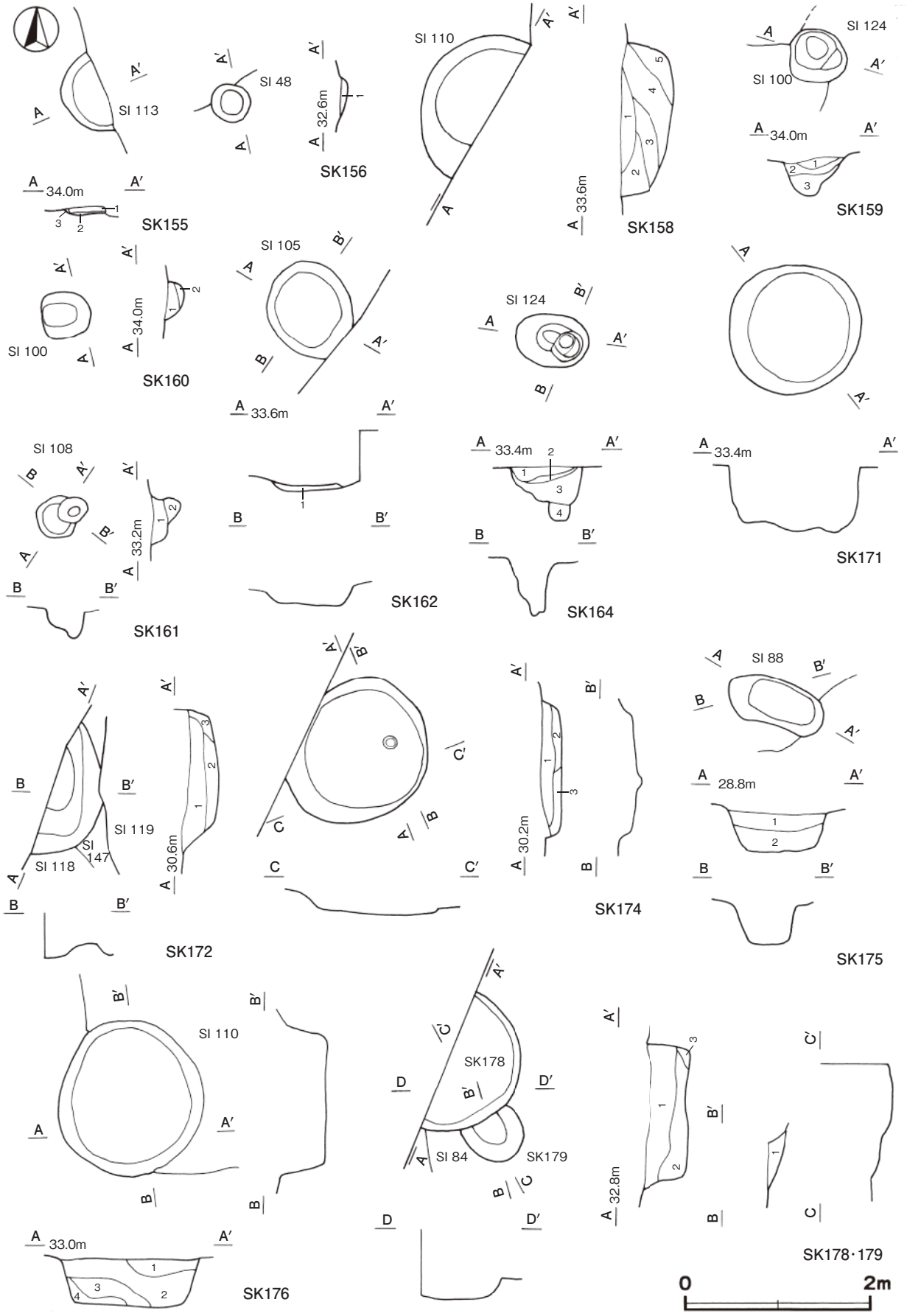
第 294 図　その他の土坑実測図（5）



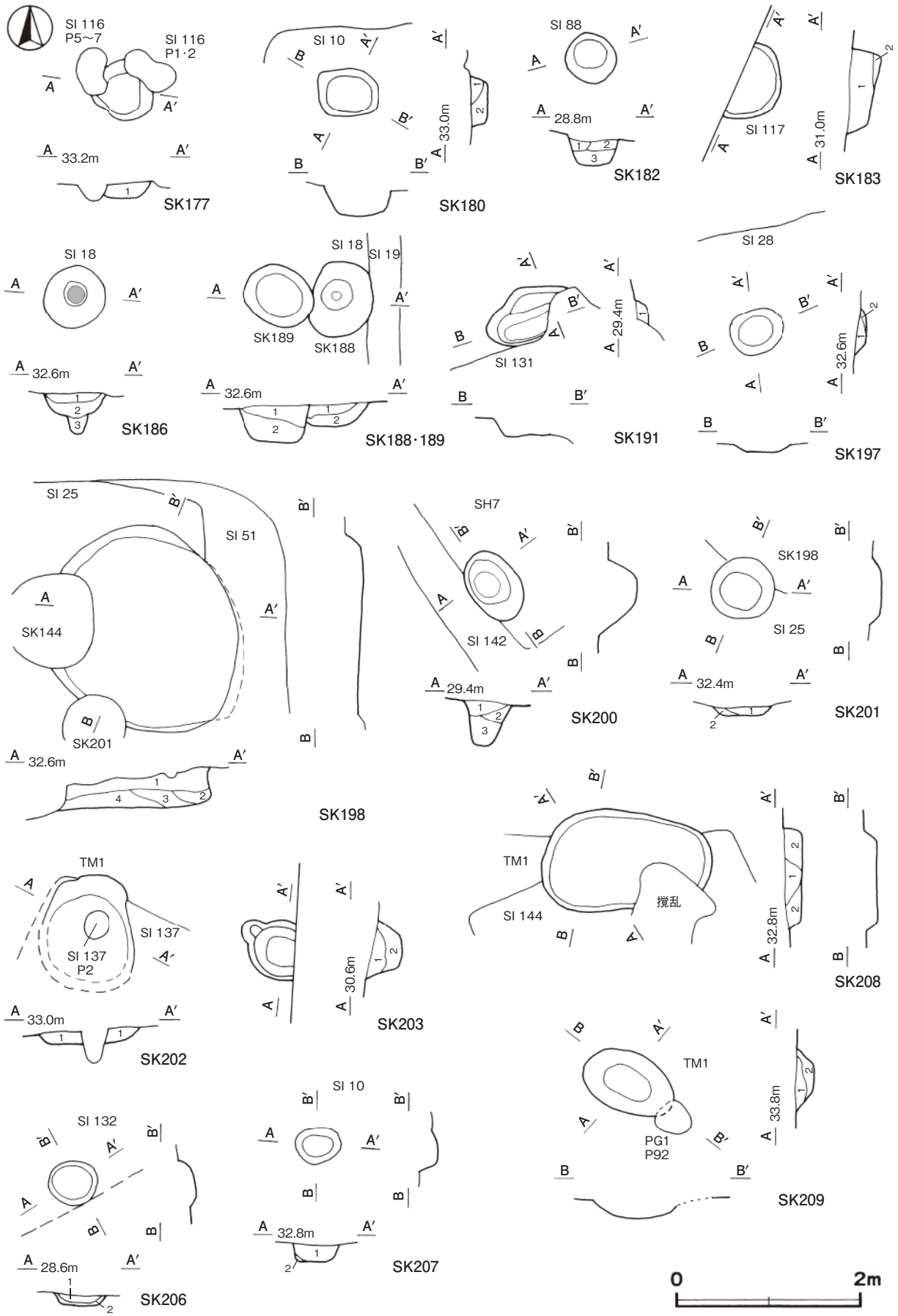
第 295 図　その他の土坑実測図（6）



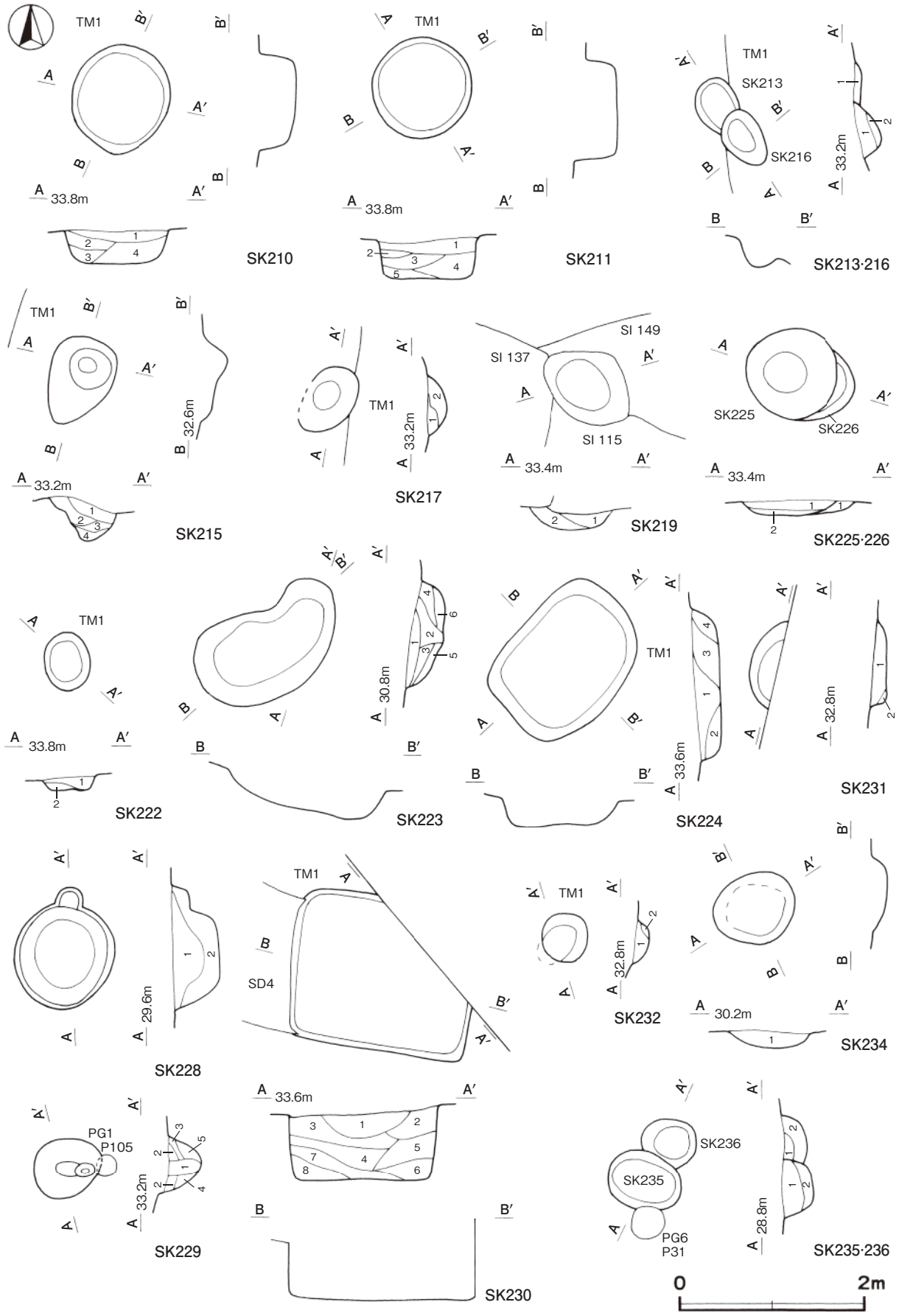
第 296 図　その他の土坑実測図（7）



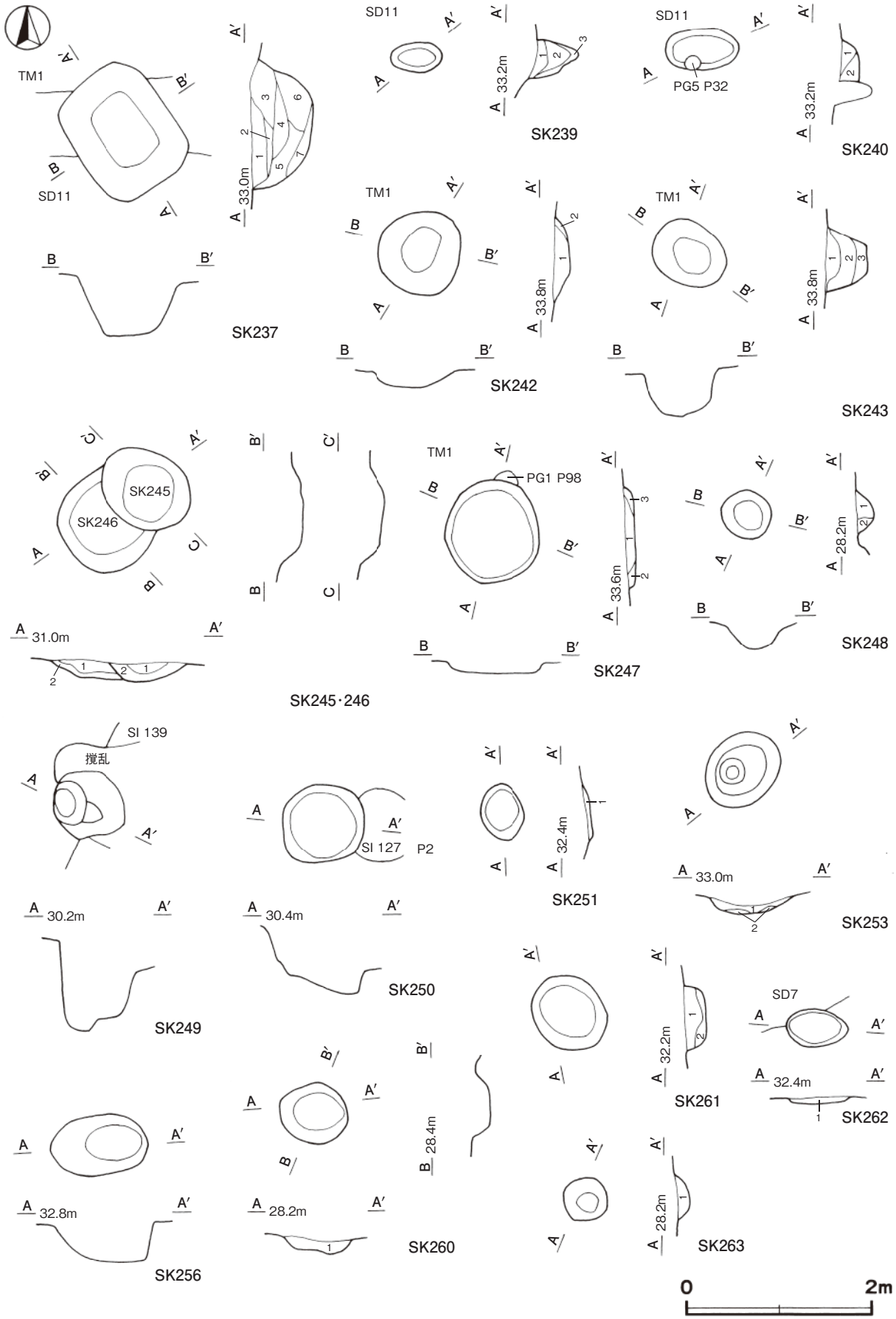
第 297 図　その他の土坑実測図（8）



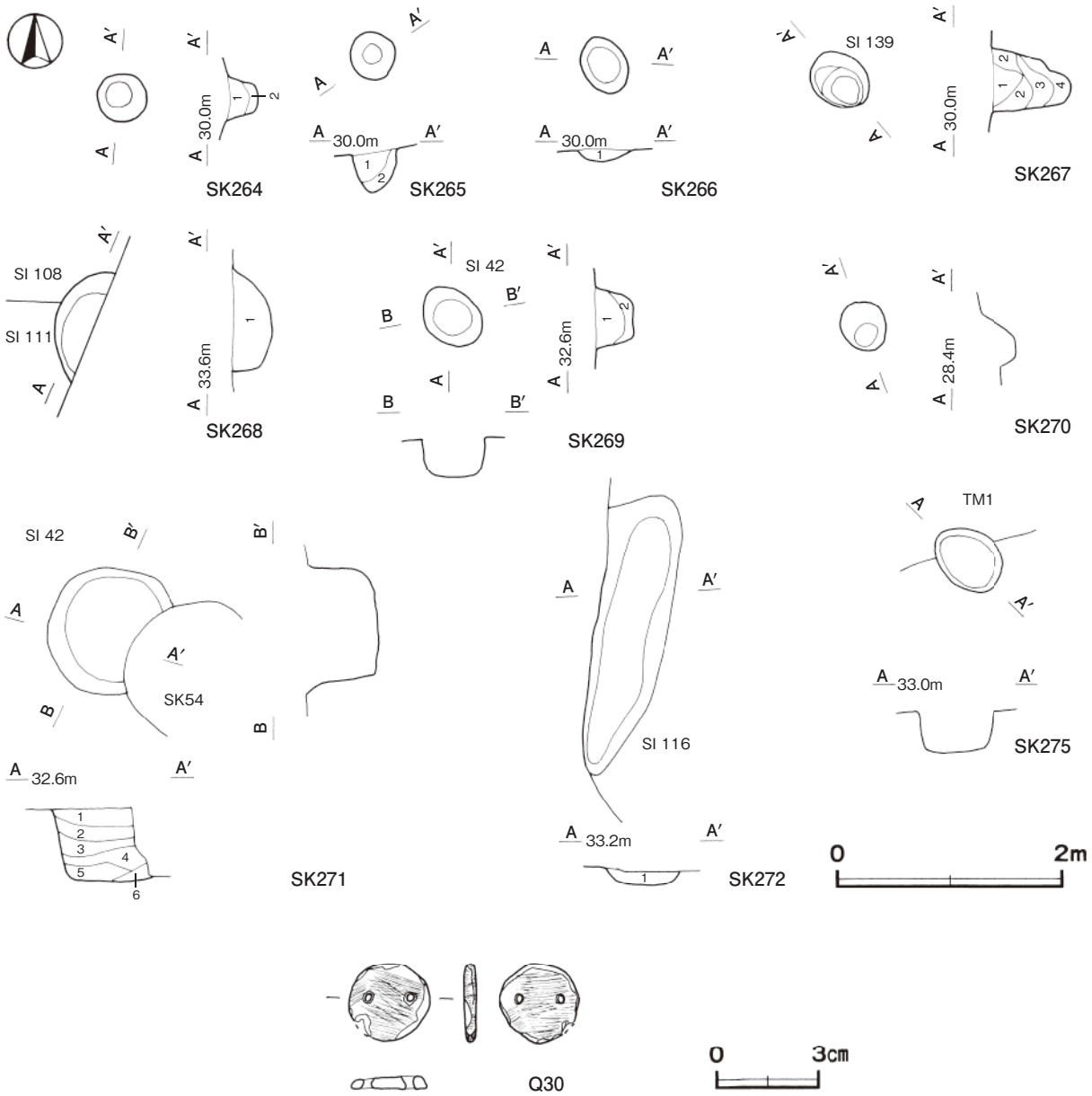
第 298 図　その他の土坑実測図（9）



第 299 図　その他の土坑実測図（10）



第 300 図　その他の土坑実測図（11）



第 301 図　その他の土坑・出土遺物実測図

第 34 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
2　にぶい黄褐色　ローム粒子・炭化粒子少量

第 35 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量

第 36 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量（第 1 層より明るい色調）

第 37 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 40 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 41 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 44 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・粘土粒子少量
4　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量

第 45 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 46 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量

第 48 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 49 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック多量

第 50 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　黒　褐　色　ロームブロック多量

第 51 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 54 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化粒子少量
3　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
4　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
5　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
6　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
7　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
8　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
9　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
10　極暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量

第 57 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 58 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量

第 60 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量

第 63 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・鹿沼パミス少量，焼土粒子微量
2　暗オリーブ褐色　ロームブロック・鹿沼パミス少量
3　オリーブ褐色　ロームブロック・鹿沼パミス少量
4　オリーブ褐色　ロームブロック中量，鹿沼パミス少量

第 64 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量（第 1 層より暗い色調）

第 65 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック･焼土ブロック･砂質粘土ブロック･炭化物微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量

第 66 号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量

第 69 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，細礫微量

第 71 号土坑土層解説
1　褐　　色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量

第 72 号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子・細礫少量，炭化粒子微量

第 74 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

第 75 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　中礫多量，焼土粒子少量
2　黒　褐　色　中礫・焼土粒子少量，炭化物微量

第 77 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子・細礫少量

第 80 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

第 81 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック微量

第 87 号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量

第 90 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量

第 91 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量

第 92 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，粘土粒子微量

第 93 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
3　暗　褐　色　焼土ブロック多量，ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 94 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

第 97 号土坑土層解説
1　灰　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

第 98 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

第 99 号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量

第 103 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

第 104 号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

第 106 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第 107 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土ブロック・炭化物少量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 108 号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子少量

第 109 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量

第 113 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

第 114 号土坑土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック少量
2　極暗褐色　ロームブロック中量

第 115 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第 117 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量

第 118 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子微量
2　褐　　色　粘土粒子少量，ロームブロック微量

第 119 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　粘土粒子微量

第 120 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

第 121 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
3　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量

第 122 号土坑土層解説
1　褐　　色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2　暗　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量

第 123 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　にぶい褐色　炭化粒子中量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック微量
4　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量
7　にぶい褐色　ローム粒子多量，鹿沼パミス微量
8　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量

第 124 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
5　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
6　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
7　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化物微量
8　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
9　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化物微量
10　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
11　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
12　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量（第 10 層より明るい色調）
13　褐　　色　ロームブロック中量，炭化物微量

第 125 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量
2　褐　　色　ロームブロック少量

第 126 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量

第 129 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第 131 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量

第 132 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス微量

第 133 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子多量
5　明　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量

第 134 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物少量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック微量

第 135 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ロームブロック多量

第 137 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量

第 138 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 139 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック多量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量，鹿沼パミス少量，焼土粒子微量

第 140 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量

第 142 号土坑土層解説
1　灰　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量

第 143 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　粘土粒子中量，ロームブロック少量

第 144 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子微量

第 145 号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，鹿沼パミス少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子・鹿沼パミス微量
3　黄　褐　色　ローム粒子中量，鹿沼パミス微量

第 147 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

第 148 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック中量

第 150 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量

第 152 号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　焼土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子・鹿沼パミス微量

第 154 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック多量

第 155 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック多量

第 156 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子中量

第 158 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量

第 159 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

第 160 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子少量

第 161 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　凝灰岩の小ブロック少量，ローム粒子･焼土粒子･炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

第 162 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化物・焼土粒子微量

第 164 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　明　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

第 172 号土坑土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック多量，細礫少量
3　暗　褐　色　ロームブロック多量

第 174 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量

第 175 号土坑土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 176 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第 177 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

第 178 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ロームブロック多量

第 179 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量

第 180 号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子・鹿沼パミス微量
2　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子微量

第 182 号土坑土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ロームブロック多量

第 183 号土坑土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック中量
2　極暗褐色　ロームブロック・細礫少量

第 186 号土坑土層解説
1　褐　　色　鹿沼パミス少量，ロームブロック・焼土粒子微量
2　黄　褐　色　ローム粒子・鹿沼パミス少量
3　褐　　色　ローム粒子中量

第 188 号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

第 189 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量

第 191 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 197 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　褐　　色　鹿沼パミス少量，ローム粒子・焼土粒子微量

第 198 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 200 号土坑土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量
2　極暗褐色　焼土ブロック多量，粘土ブロック中量，ロームブロック微量
3　黒　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子少量

第 201 号土坑土層解説
1　褐　　色　粘土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量
2　にぶい黄褐色　ローム粒子少量，粘土粒子微量

第 202 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス微量

第 203 号土坑土層解説
1　極暗褐色　今市 - 七本桜パミス少量
2　暗　褐　色　今市 - 七本桜パミス多量

第 206 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量

第 207 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量

第 208 号土坑土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック・炭化物少量
2　極暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子少量

第 209 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化物微量
2　暗　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック微量

第 210 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック・炭化粒子少量

第 211 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

第 213 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

第 215 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック微量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第 216 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック微量

第 217 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　炭化物・ローム粒子微量

第 219 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量

第 222 号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック少量

第 223 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　砂粒少量，今市 - 七本桜パミス微量
2　黒　褐　色　砂粒中量，今市 - 七本桜パミス少量
3　褐　　色　今市 - 七本桜パミス中量
4　褐　　色　砂粒多量
5　赤　褐　色　今市 - 七本桜パミス多量
6　明　褐　色　砂粒多量

第 224 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量

第 225 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

第 226 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量

第 228 号土坑土層解説
1　黒　　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量

第 229 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック微量
4　褐　　色　ローム粒子多量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 230 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量，黒色ブロック・炭化粒子少量，鹿沼パミス・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・黒色ブロック・炭化粒子少量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子・鹿沼パミス・今市 - 七本桜パミス微量
4　褐　　色　ロームブロック中量，黒色ブロック・鹿沼パミス少量
5　褐　　色　ロームブロック中量，黒色ブロック少量，鹿沼パミス微量
6　褐　　色　ロームブロック中量，黒色ブロック・鹿沼パミス微量
7　暗　褐　色　ロームブロック・鹿沼パミス少量，黒色ブロック微量
8　暗　褐　色　ロームブロック中量，黒色ブロック・鹿沼パミス微量

第 231 号土坑土層解説
1　灰　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量

第 232 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　褐　灰　色　ロームブロック少量

第 234 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量

第 235 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　極暗褐色　ロームブロック中量

第 236 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　極暗褐色　ロームブロック多量

第 237 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量
5　褐　　色　ロームブロック中量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量
7　褐　　色　ロームブロック多量

第 239 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，鹿沼パミス微量
2　黒　褐　色　鹿沼パミス少量，ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・鹿沼パミス少量

第 240 号土坑土層解説
1　灰　褐　色　ロームブロック・鹿沼パミス少量
2　褐　　色　ローム粒子中量，鹿沼パミス微量

第 242 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 243 号土坑土層解説
1　黒　　色　白色粒子少量，焼土ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・鹿沼パミス・白色粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量

第 245 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・鹿沼パミス微量
2　黒　褐　色　鹿沼パミス・赤色粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量

第 246 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量

第 247 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量

第 248 号土坑土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック中量，中礫少量
2　極暗褐色　ロームブロック少量

第 251 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化物・焼土粒子微量

第 253 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
2　褐　　色　ローム粒子多量

第 260 号土坑土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック中量

第 261 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第 262 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量

第 263 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 264 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック多量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 265 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック中量

第 266 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 267 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化物微量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　黒　褐　色　鹿沼パミス少量

第 268 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　炭化物少量，ロームブロック微量

第 269 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　明　褐　色　ロームブロック少量

第 271 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　極暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化物少量
5　黒　褐　色　ローム粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック多量

第 272 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

第 18 号土坑出土遺物観察表（第 301 図）

番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量（g）	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q30	双孔円板	2.3	0.3	左 0.3 右 0.4	2.6	滑石	全面研磨　一方向からの穿孔	上層	PL60

表13　その他の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面〈断面形〉	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					重複関係(古→新)
3	D 2 d9	N－30°－E	楕円形	1.40 × 1.20	46	平坦	直立	人為	縄文土器片，弥生土器片，土師器片，須恵器片	SI 2，TM 1 →本跡
4	D 2 e0	N－43°－E	楕円形	0.56 × 0.50	22	鍋底状	緩斜	人為	弥生土器片，土師器片	TM 1 →本跡
6	D 2 a7	N－2°－W	楕円形	1.58 × 0.65	26	平坦	外傾	人為	弥生土器片，土師器片	
8	D 2 e7	－	円形	0.73 × 0.71	18	平坦	外傾	人為	土師器片	
9	D 2 a7	N－52°－E	不整楕円形	1.53 × 1.05	34	鍋底状	緩斜	人為	土師器片	
10	D 2 j8	－	円形	2.10 × 1.97	75	中央部高まり	直立内湾	人為	縄文土器片，弥生土器片，土師器片，須恵器片	本跡→ SI 8
14	D 2 b6	N－85°－E	隅丸長方形	1.23 × 1.08	24	平坦	緩斜	人為	縄文土器片，弥生土器片，土師器片，須恵器片	SK17・18 →本跡
17	D 2 b6	N－85°－E	［楕円形］	(0.95) × 1.03	33	平坦	緩斜	自然	縄文土器片，土師器片	本跡→ SK13・14
18	D 2 b6	N－90°－E	［隅丸長方形］	(1.47) × 1.26	26	平坦	緩斜	自然	弥生土器片，双孔円板	本跡→ SK14
19	D 2 c9	N－24°－W	楕円形	0.52 × 0.36	17	〈皿状〉	－	－		TM 1と新旧不明
20	D 2 h6	N－36°－W	不整楕円形	1.30 × 1.05	28	平坦	緩斜	人為	弥生土器片，土師器片	SI12，SK21 →本跡
21	D 2 h6	－	不明	(1.03) × 0.68	9	〈皿状〉	－	不明	縄文土器片	本跡→ SK20・23
24	D 2 h5	N－3°－E	楕円形	2.15 × 1.79	25	平坦	外傾	人為	縄文土器片，弥生土器片，土師器片，剥片	SI16，SK23 →本跡
27	D 2 g5	－	円形	2.00 × 1.92	34	凹凸	外傾	人為	縄文土器片，弥生土器片，土師器片	SI32，SK30 →本跡
31	D 2 g4	N－86°－E	［楕円形］	0.85 × (0.68)	15	傾斜	外傾	自然	土師器片	SK30 →本跡 → SD 6
32	D 2 h7	N－6°－E	楕円形	0.63 × 0.57	32	平坦	直立	自然	弥生土器片，土師器片	SI 9・12と新旧不明
33	D 2 e9	N－34°－E	不整楕円形	1.00 × 0.90	20	平坦	緩斜	人為	土師器片	SI 2，TM 1 →本跡
34	D 2 i7	－	円形	0.92 × 0.88	22	鍋底状	緩斜	自然	土師器片	SI20 →本跡 PG 1と新旧不明
35	D 2 d9	N－74°－W	楕円形	0.70 × 0.62	5	〈皿状〉	－	自然	土師器片	SI 2，TM 1 →本跡
36	C 2 g5	N－80°－W	楕円形	1.05 × 0.94	50	平坦	直立	人為	土師器片	SK37 →本跡
37	C 2 g5	－	円形	1.33 × 1.30	16	平坦	外傾	人為	弥生土器片，土師器片	本跡→ SK36
40	C 2 h5	N－28°－E	楕円形	0.95 × 0.85	9	〈皿状〉	－	人為	土師器片	
41	C 2 h6	－	隅丸方形	2.37 × 2.25	28	凹凸	緩斜	人為	縄文土器片，弥生土器片，土師器片	
44	D 2 i5	－	［円形］	(1.36 × 1.31)	43	平坦	直立	人為	縄文土器片，弥生土器片，土師器片	本跡→ SD 5
45	D 2 d4	N－0°	楕円形	0.74 × 0.64	32	鍋底状	外傾	人為	土師器片	SD 6 →本跡
46	E 2 f7	－	円形	1.34 × 1.25	20	平坦	外傾	人為	弥生土器片，土師器片，須恵器片	SH 2 →本跡
48	D 2 i4	N－0°	長方形	1.02 × 0.80	20	平坦	外傾	人為	土師器片	
49	E 2 c4	N－14°－W	隅丸長方形	1.16 × 0.94	42	平坦	直立	人為		
50	E 1 e0	－	円形	1.98 × 1.85	7	〈皿状〉	－	人為	弥生土器片，土師器片	
51	E 1 f9	N－77°－W	楕円形	0.69 × 0.52	14	〈皿状〉	－	人為	土師器片	
54	E 2 g7	N－36°－W	［楕円形］	(1.34 × 1.20)	54	平坦	直立	人為	弥生土器片，土師器片，須恵器片	SK271 →本跡 → SI42
57	E 2 g7	－	円形	0.68 × 0.65	36	鍋底状	外傾	人為	弥生土器片，土師器片	SI42 →本跡
58	E 2 i7	－	不定形	1.45 × 1.34	10	〈皿状〉	－	人為	弥生土器片，土師器片	SI43，SK80 →本跡→ SK60
60	E 2 i7	N－85°－W	楕円形	0.62 × 0.46	32	鍋底状	外傾	人為	弥生土器片，土師器片	SI43，SK58 →本跡
63	E 2 d6	N－18°－W	不整楕円形	5.08 × 1.93	20	〈皿状〉	－	人為	土師器片	SK67 →本跡
64	D 2 i4	N－7°－E	長方形	1.55 × 1.40	40	凹凸	外傾	人為	土師器片，須恵器片，砥石	SD 3 →本跡
65	E 2 h7	N－9°－E	［楕円形］	[1.00] × 0.80	26	鍋底状	緩斜	人為	弥生土器片，土師器片	SI43・73 →本跡
66	E 2 f8	N－90°－E	［隅丸長方形］	0.89 × (0.53)	10	〈皿状〉	－	人為	土師器片	本跡→ SD 7
68	D 2 i3	N－6°－W	不整楕円形	2.40 × 1.36	12	〈皿状〉	－	－	縄文土器片，弥生土器片，土師器片	
69	F 2 a3	N－8°－E	楕円形	0.78 × 0.70	16	〈皿状〉	－	自然	縄文土器片，土師器片	
71	E 1 h5	－	円形	0.86 × 0.79	12	〈皿状〉	－	人為	土師器片	SI75 →本跡
72	E 1 h6	N－88°－E	楕円形	0.80 × 0.70	6	〈皿状〉	－	自然	土師器片	
73	E 1 h6	N－19°－W	楕円形	0.67 × 0.54	10	〈皿状〉	－	－	土師器片	
74	E 2 e8	N－65°－W	楕円形	1.21 × 1.05	45	平坦	直立	人為	弥生土器片，土師器片，須恵器片	SH 1・2 →本跡
75	F 2 b3	－	円形	0.86 × 0.82	33	鍋底状	外傾	人為	弥生土器片，土師器片	
77	F 2 a9	N－15°－W	楕円形	0.77 × 0.58	21	傾斜	外傾	人為	土師器片	

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面〈断面形〉	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					重複関係(古→新)
80	E 2 i7	N－11°－W	楕円形	0.96 × 0.82	22	平坦	緩斜	人為	土師器片	SH 5→本跡 →SK58
81	E 2 g6	－	円形	0.41 × 0.41	10	〈皿状〉	－	不明		SD 5→本跡
83	E 1 h5	N－28°－W	隅丸長方形	0.64 × 0.54	10	〈皿状〉	－	－		SI75→本跡
84	E 1 h7	－	円形	0.55 × 0.54	8	〈皿状〉	－	－		
85	E 1 i6	N－62°－E	楕円形	0.68 × 0.55	11	〈皿状〉	－	－		
86	E 1 i7	N－86°－W	楕円形	0.66 × 0.56	7	〈皿状〉	－	－		
87	E 2 j8	－	［円形］	(0.74 × 0.72)	(30)	平坦	外傾	自然	弥生土器片，土師器片	本跡→SD 8
90	E 1 g9	N－63°－E	長方形	0.91 × 0.76	10	〈皿状〉	－	人為	土師器片	
91	E 1 h6	N－21°－E	楕円形	0.69 × 0.59	15	〈皿状〉	－	人為	土師器片	SI68→本跡
92	E 2 i6	N－4°－W	［楕円形］	(0.70 × 0.58)	(14)	〈皿状〉	－	自然	土師器片	本跡→SI43， SD 5
93	E 1 g5	N－8°－E	不整楕円形	1.18 × 0.97	20	鍋底状	緩斜	人為	土師器片，須恵器片	SI69→本跡
94	E 2 h9	N－20°－W	楕円形	0.53 × 0.45	16	〈皿状〉	－	自然	土師器片	
96	E 1 i7	N－47°－W	楕円形	0.58 × 0.48	7	〈皿状〉	－	－		
97	F 2 a4	N－2°－W	楕円形	0.73 × 0.61	17	〈皿状〉	－	人為	土師器片	SI72→本跡
98	F 2 a3	N－84°－W	楕円形	0.51 × 0.42	26	凹凸	外傾	自然	土師器片	
99	E 2 i0	－	円形	0.67 × 0.61	14	〈皿状〉	－	不明	弥生土器片，土師器片	
100	E 1 h8	N－75°－W	不整楕円形	0.54 × 0.47	9	〈皿状〉	－	－	須恵器片	
101	E 1 h8	N－74°－W	楕円形	0.61 × 0.47	30	鍋底状	外傾	－		
103	F 2 a5	－	円形	0.77 × 0.75	11	〈皿状〉	－	不明		SI56・61→本跡
104	F 2 a5	－	円形	0.67 × 0.63	18	〈皿状〉	－	人為		SI69→本跡
106	E 1 i6	N－5°－W	楕円形	0.65 × 0.56	46	〈U字状〉	－	自然	土師器片	
107	E 2 j6	N－83°－E	不整楕円形	1.08 × 0.85	27	平坦	緩斜	人為	弥生土器片，土師器片， 須恵器片	SI60・61→本跡
108	E 1 h9	N－81°－E	［楕円形］	[0.92] × 0.67	17	〈皿状〉	－	自然	土師器片，陶器片	
109	E 2 j4	N－75°－W	楕円形	0.83 × 0.68	15	〈皿状〉	－	人為	土師器片	SI72→本跡
111	E 1 h7	－	方形	0.51 × 0.50	8	〈皿状〉	－	－		
113	D 2 a6	N－75°－W	［楕円形］	(0.75 × 0.89)	(14)	〈皿状〉	－	人為	土師器片	本跡→SI14・19
114	C 2 f4	N－65°－E	［楕円形］	(1.18 × 1.06)	(11)	〈皿状〉	－	人為		本跡→SI26 SI76と新旧不明
115	E 2 f9	N－74°－E	［楕円形］	0.70 × (0.62)	6	〈皿状〉	－	不明	弥生土器片，土師器片， 須恵器片	本跡→SD 7， PG 4
117	E 3 g2	N－15°－E	隅丸長方形	0.46 × 0.38	12	〈皿状〉	－	自然		
118	E 3 g2	－	円形	0.44 × 0.41	23	鍋底状	緩斜	自然		
119	E 3 g1	N－46°－E	楕円形	0.54 × 0.48	18	鍋底状	緩斜	自然		
120	E 2 h9	N－38°－W	［楕円形］	(0.92 × 0.78)	(18)	〈皿状〉	－	自然	弥生土器片，土師器片	本跡→SI63
121	E 2 g0	N－10°－E	楕円形	0.89 × 0.73	11	〈皿状〉	－	人為		
122	E 2 d8	N－78°－E	楕円形	1.21 × 0.64	56	二段	外傾 緩斜	人為		SH 1と新旧不明
123	E 2 g9	－	円形	2.02 × 1.90	19	〈皿状〉	－	人為	縄文土器片，弥生土器片， 土師器片	本跡→PG 4
124	E 2 f8	－	［円形］	(2.23 × 2.15)	(53)	平坦	直立	人為	縄文土器片，弥生土器片， 土師器片	本跡→SH 2・6
125	C 2 i7	N－48°－E	楕円形	0.74 × 0.57	25	〈皿状〉	－	人為	弥生土器片，土師器片	SI91→本跡
126	C 2 i7	N－25°－W	楕円形	0.48 × 0.43	9	〈皿状〉	－	人為		SI91→本跡
129	D 2 j7	－	円形	0.83 × 0.81	35	平坦	緩斜	人為		SI36・37→本跡
131	E 2 d8	N－3°－E	楕円形	0.67 × 0.52	20	鍋底状	緩斜	自然		
132	D 2 j6	－	円形	0.63 × 0.59	30	鍋底状	緩斜	自然		SI36・37→本跡
133	E 2 b8	N－3°－E	楕円形	1.72 × 1.53	36	平坦	直立	人為	弥生土器片，土師器片	SI49→本跡
134	D 2 b4	N－66°－E	楕円形	0.87 × 0.64	77	平坦	直立	人為	弥生土器片，土師器片	SI97→本跡
135	D 2 a3	N－17°－E	［楕円形］	(0.93 × 0.81)	(20)	鍋底状	緩斜	人為	土師器片	本跡→SI83，SD 6 SI79と新旧不明
137	E 2 a8	－	隅丸方形	1.59 × 1.52	25	平坦	外傾	自然	縄文土器片，弥生土器片， 土師器片	SI49・120，PG 1→本跡
138	D 2 b4	－	円形	0.48 × 0.46	18	〈皿状〉	－	人為		SI97→本跡
139	C 2 g7	N－79°－E	［楕円形］	(1.54 × 1.20)	(31)	凹凸	緩斜	人為	土師器片	本跡→SI82

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面〈断面形〉	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					重複関係（古→新）
140	D 2 e5	−	円形	0.55 × 0.50	27	鍋底状	外傾	人為	土師器片	SI23・51 →本跡
142	E 2 b7	N − 14° − W	［楕円形］	(0.95 × 0.78)	(33)	平坦	緩斜	人為	土師器片	SI39・49 →本跡 → SI104
143	E 2 b7	−	［不整円形］	(1.00 × 0.92)	(10)	〈皿状〉	−	人為	土師器片	本跡→ SH 4
144	D 2 d4	−	［円形］	(1.06 × 1.04)	(26)	鍋底状	外傾	人為	縄文土器片，弥生土器片，土師器片	SK198 →本跡 → SI25
145	E 2 a7	N − 66° − W	楕円形	0.68 × 0.56	35	鍋底状	緩斜	人為		SI36・37・49 →本跡
147	D 2 j9	N − 0°	楕円形	0.69 × 0.58	49	〈U 字状〉	−	人為		SI105・124 と新旧不明
148	C 2 f6	N − 63° − W	楕円形	0.56 × 0.49	11	〈皿状〉	−	人為	土師器片	SI48 →本跡
150	C 2 f6	N − 27° − E	楕円形	0.89 × 0.73	13	〈皿状〉	−	人為	土師器片	SI48 →本跡
152	E 2 a0	N − 26° − W	楕円形	0.75 × 0.63	19	平坦	緩斜	人為	縄文土器片，土師器片	SI105 と新旧不明
154	C 2 d6	N − 31° − W	［円形 楕円形］	1.04 × (0.75)	49	凹凸	外傾	人為		SI95 →本跡
155	D 3 b3	−	［円形］	0.86 × (0.46)	8	〈皿状〉	−	人為		本跡→ SI113 TM 1 と新旧不明
156	C 2 f6	−	円形	0.43 × 0.42	8	〈皿状〉	−	人為		SI48 →本跡
158	E 2 a9	−	［円形］	1.67 × (0.87)	54	鍋底状	直立	人為	弥生土器片，土師器片，須恵器片	SI110 →本跡
159	D 2 j9	−	円形	0.62 × 0.57	47	鍋底状	緩斜	自然		SI100・124 と新旧不明
160	D 2 j9	N − 82° − E	楕円形	0.55 × 0.49	21	鍋底状	緩斜	自然		SI100 →本跡
161	D 3 i1	N − 58° − E	［不定形］	(0.56 × 0.46)	(30)	二段	直立	自然		本跡→ SI108
162	E 2 a0	N − 8° − W	［楕円形］	(1.05 × 0.91)	(20)	平坦	緩斜	自然		本跡→ SI105
164	D 2 j0	N − 83° − W	楕円形	0.79 × 0.59	60	〈U 字状〉	−	人為		SI124 →本跡
171	D 2 h0	−	円形	1.46 × 1.41	72	凹凸	直立	−	土師器片	
172	B 2 i8	N − 3° − W	［円形 楕円形］	(1.40 × 0.58)	35	鍋底状	緩斜	人為	土師器片	SI118・147 →本跡→ SI119
174	B 2 h9	N − 48° − E	楕円形	1.65 × 1.45	22	平坦	外傾	人為	土師器片，須恵器片，磁器片	
175	B 3 e4	N − 70° − W	楕円形	1.10 × 0.52	43	平坦	外傾	人為		SI88 →本跡
176	E 2 b8	−	［円形］	(1.69 × 1.58)	48	平坦	直立	人為	弥生土器片，土師器片	本跡→ SI110
177	E 2 b9	N − 32° − W	［不定形］	(0.68 × 0.51)	16	平坦	外傾	自然	土師器片	本跡→ SI116
178	C 2 e5	N − 22° − E	［円形 楕円形］	1.55 × (0.78)	46	平坦	直立	人為	土師器片	SI84，SK179 →本跡
179	C 2 e5	N − 33° − W	［楕円形］	0.60 × (0.46)	18	〈皿状〉	−	人為		SI84 →本跡 → SK178
180	D 2 d6	N − 59° − W	［楕円形］	(0.74 × 0.59)	(25)	平坦	外傾	人為		本跡→ SI10
182	B 3 e4	−	円形	0.56 × 0.55	32	平坦	外傾	人為		SI88 →本跡
183	B 2 j8	N − 5° − E	［隅丸方形］	0.84 × (0.48)	32	傾斜	外傾	人為	弥生土器片，土師器片	SI117・118 →本跡
186	D 2 b4	−	［円形］	(0.70 × 0.66)	(46)	二段	外傾	自然		本跡→ SI18
188	D 2 a4	N − 19° − E	楕円形	0.86 × 0.67	23	平坦	緩斜	自然		SI18・19 →本跡 → SK189
189	D 2 a4	N − 58° − W	楕円形	0.75 × 0.52	42	平坦	外傾	自然	縄文土器片，土師器片	SI18・19，SK188 →本跡
191	B 3 f2	N − 66° − W	［不定形］	(0.78) × 0.61	20	二段	緩斜	人為		本跡→ SI131
197	C 2 j4	N − 58° − E	［楕円形］	(0.57 × 0.48)	10	〈皿状〉	−	自然		本跡→ SI28 SI15・19 と新旧不明
198	D 2 d5	N − 18° − W	［楕円形］	(2.31 × 2.00)	40	平坦	直立	人為	土師器片，鉄滓	本跡→ SI25・51，SK144・201
200	C 3 b5	N − 33° − W	楕円形	0.80 × 0.54	47	平坦	外傾 緩斜	人為	土師器片	SI142，SH 7 →本跡
201	D 2 d4	−	［円形］	(0.70 × 0.68)	9	〈皿状〉	−	自然		SI198 →本跡 → SI24・25
202	D 2 g0	N − 3° − E	［隅丸長方形］	［1.26 × 1.01］	16	平坦	緩斜	自然	土師器片	TM 1 →本跡 → SI137
203	C 3 d5	N − 74° − W	［円形 楕円形］	0.62 × (0.52)	35	鍋底状	外傾	自然		
206	B 3 f3	N − 88° − E	楕円形	0.53 × 0.47	18	平坦	外傾	人為		SI132 →本跡
207	D 2 d6	N − 85° − E	［楕円形］	(0.49 × 0.39)	20	平坦	外傾	自然	土師器片，須恵器片	本跡→ SI10
208	C 3 h3	N − 86° − W	隅丸長方形	1.78 × 1.12	18	平坦	外傾	人為		TM 1，SI144，→本跡
209	D 3 f1	N − 63° − W	楕円形	(1.00) × 0.65	24	鍋底状	緩斜	自然	弥生土器片，土師器片	TM 1，PG 1 と新旧不明
210	D 3 g2	N − 4° − E	楕円形	1.18 × 1.04	39	平坦	直立	人為	土師器片	TM 1 と新旧不明
211	D 3 f2	−	円形	1.10 × 1.05	48	平坦	直立	人為	刀子	TM 1 →本跡
213	D 2 c7	N − 35° − W	［楕円形］	(0.43) × 0.42	6	〈皿状〉	−	自然		TM 1 →本跡 → SK216
215	D 2 b8	N − 18° − E	楕円形	1.00 × 0.71	30	鍋底状	緩斜	人為		TM 1 →本跡

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面〈断面形〉	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					重複関係(古→新)
216	D 2 c7	N－35°－W	楕円形	0.64 × 0.40	22	鍋底状	緩斜	自然		TM 1，SK213 →本跡
217	D 2 c7	N－30°－E	楕円形	0.75 × 0.51	20	鍋底状	緩斜	自然		TM 1 →本跡
219	D 3 g1	N－55°－W	［楕円形］	(1.07 × 0.80)	18	鍋底状	緩斜	自然	弥生土器片，土師器片	TM 1 →本跡 →SI115・137・149
222	D 3 f1	N－5°－W	楕円形	0.61 × 0.49	17	平坦	外傾	人為	弥生土器片，土師器片	TM 1 と新旧不明
223	C 2 d0	N－49°－E	不定形	1.70 × 0.97	54	鍋底状	外傾	人為	磨石	
224	D 3 f1	N－44°－E	隅丸長方形	1.64 × 1.25	32	平坦	外傾	人為	弥生土器片，土師器片	TM 1 と新旧不明
225	D 2 h0	－	円形	1.01 × 0.99	14	〈皿状〉	－	人為	弥生土器片，土師器片	SK226 →本跡
226	D 2 h0	－	不明	(0.83 × 0.21)	13	〈皿状〉	－	人為		本跡→ SK225
228	C 3 d1	N－7°－E	楕円形	1.32 × 1.06	50	平坦	外傾	自然		
229	D 2 c7	N－33°－E	楕円形	0.73 × 0.64	35	鍋底状	外傾	人為	弥生土器片	PG 1 と新旧不明
230	D 3 e2	N－79°－W	［長方形］	(1.96) × 1.60	64	平坦	直立	人為	土師器片	本跡→ SD 4 TM 1 と新旧不明
231	C 3 g4	N－13°－E	［円形 楕円形］	(0.96 × 0.28)	18	平坦	外傾 緩斜	人為		
232	C 2 j0	－	円形	0.56 × 0.52	13	〈皿状〉	－	人為		TM 1 →本跡
234	C 3 c4	N－35°－E	隅丸長方形	0.85 × 0.77	16	〈皿状〉	－	自然	弥生土器片，土師器片	
235	B 3 e6	N－70°－W	楕円形	0.82 × 0.64	34	平坦	外傾	人為		SK236 →本跡 →PG 6
236	B 3 d6	N－62°－W	［楕円形］	0.56 × (0.48)	30	鍋底状	外傾	人為		本跡→ SK235
237	C 3 i4	N－33°－W	隅丸長方形	1.37 × 1.08	65	平坦	外傾	人為		TM 1，SD11 →本跡
239	C 3 j4	N－90°	楕円形	0.55 × 0.31	52	〈U字状〉	－	自然		SD11 →本跡 TM 1 と新旧不明
240	C 3 j3	N－90°	楕円形	0.78 × 0.46	30	平坦	外傾	人為		SD11→本跡→PG 5 TM 1 と新旧不明
242	D 3 a3	－	円形	0.90 × 0.90	19	鍋底状	緩斜	人為		TM 1 と新旧不明
243	D 3 a3	N－50°－W	楕円形	0.83 × 0.68	49	鍋底状	外傾	自然		TM 1 と新旧不明
245	C 3 e4	N－44°－W	楕円形	1.02 × 0.83	20	平坦	外傾	自然		SK246 →本跡
246	C 3 e3	N－40°－W	［円形 楕円形］	1.05 × (0.64)	20	鍋底状	外傾	自然		本跡→ SK245
247	D 3 f1	－	円形	1.09 × 1.05	12	〈皿状〉	－	自然		PG 1 →本跡 TM 1 と新旧不明
248	B 3 c7	－	円形	0.53 × 0.53	24	鍋底状	外傾	人為	土師器片	
249	C 3 b1	N－64°－W	楕円形	0.84 × 0.72	72	〈U字状〉	－	－	縄文土器片，弥生土器片，土師器片	SI139 →本跡
250	B 2 j0	－	円形	0.88 × 0.86	28	鍋底状	外傾	－		SI127 →本跡
251	E 2 f0	N－9°－W	楕円形	0.60 × 0.46	5	〈皿状〉	－	自然		
253	E 2 d8	N－47°－E	楕円形	0.90 × 0.70	10	〈皿状〉	－	人為	弥生土器片，土師器片	
256	E 2 d8	N－85°－E	楕円形	1.06 × 0.64	40	平坦	外傾 緩斜	－	弥生土器片，土師器片，須恵器片	
260	B 3 d6	N－83°－W	楕円形	0.75 × 0.66	18	平坦	緩斜	人為		
261	E 2 g0	N－36°－W	楕円形	0.88 × 0.72	24	平坦	外傾	自然	土師器片	
262	E 2 g9	N－84°－W	楕円形	0.65 × 0.40	7	〈皿状〉	－	自然		SD 7 →本跡
263	B 3 c7	－	円形	0.47 × 0.47	12	〈皿状〉	－	人為	土師器片	
264	B 2 g0	－	円形	0.42 × 0.40	24	〈U字状〉	－	人為	弥生土器片，土師器片	
265	B 2 g0	N－0°	楕円形	0.44 × 0.39	34	〈U字状〉	－	人為		
266	B 2 h9	N－32°－W	楕円形	0.54 × 0.40	9	〈皿状〉	－	人為		
267	C 3 b1	N－55°－W	楕円形	0.56 × 0.48	68	平坦	直立	人為		SI139 →本跡
268	D 3 i1	N－23°－E	［円形 楕円形］	(1.05 × 0.35)	32	鍋底状	外傾 緩斜	自然		SI108・111 →本跡
269	E 2 g6	N－50°－W	楕円形	0.60 × 0.47	35	平坦	直立	自然		SI42 →本跡
270	B 3 d6	N－27°－W	楕円形	0.46 × 0.41	30	平坦	緩斜	－	土師器片	
271	E 2 g6	－	［円形］	(1.12 × 1.08)	62	平坦	直立	人為	土師器片	本跡→ SI42，SK54
272	E 2 b8	N－14°－E	［楕円形］	(2.60 × 0.65)	12	〈皿状〉	－	人為	縄文土器片，弥生土器片，土師器片	本跡→ SI116
273	B 2 j0	N－77°－W	楕円形	1.26 × 0.78	28	鍋底状	緩斜	人為	縄文土器片，弥生土器片，土師器片	
274	C 3 c5	N－15°－E	楕円形	1.33 × 0.88	28	鍋底状	緩斜	人為	土師器片	
275	C 3 j2	N－46°－W	楕円形	1.32 × 1.08	38	平坦	直立	－		TM 1 →本跡 SF 1 と新旧不明

(5) 溝跡（第 302・303 図）

今回の調査で，時期不明の溝跡 12 条を確認した。以下，断面図と土層解説，一覧表を掲載し，平面図については遺構全体図（付図）で掲載する。

第 1 号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量

第 3 号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化物微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量
5　黒　褐　色　ローム粒子少量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 4 号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　褐　　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック中量
4　褐　　色　ロームブロック多量
5　褐　　色　ロームブロック多量（第 4 層より暗い色調）
6　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 6 号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 7 号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量

第 8 号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　細礫少量，ローム粒子微量
4　暗　褐　色　細礫中量，ローム粒子・焼土粒子微量

第 10 号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　中礫少量，ロームブロック・焼土粒子微量
2　極暗褐色　ロームブロック少量
3　極暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
6　褐　　色　ロームブロック中量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量
8　極暗褐色　ロームブロック中量
9　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量

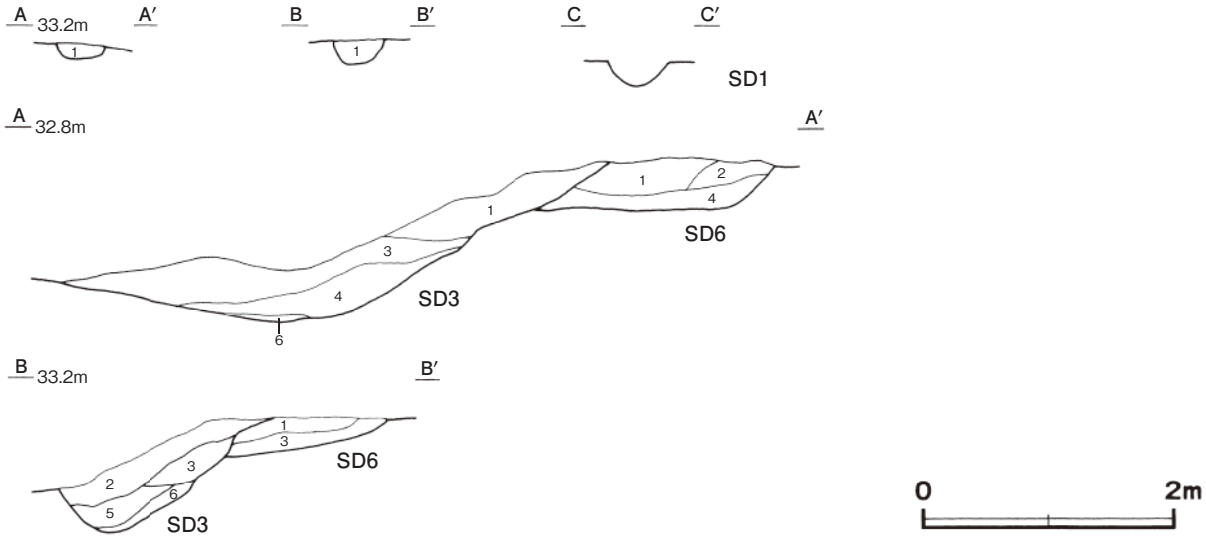
第 11 号溝跡土層解説
1　褐　　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・鹿沼パミス微量

第 12 号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量

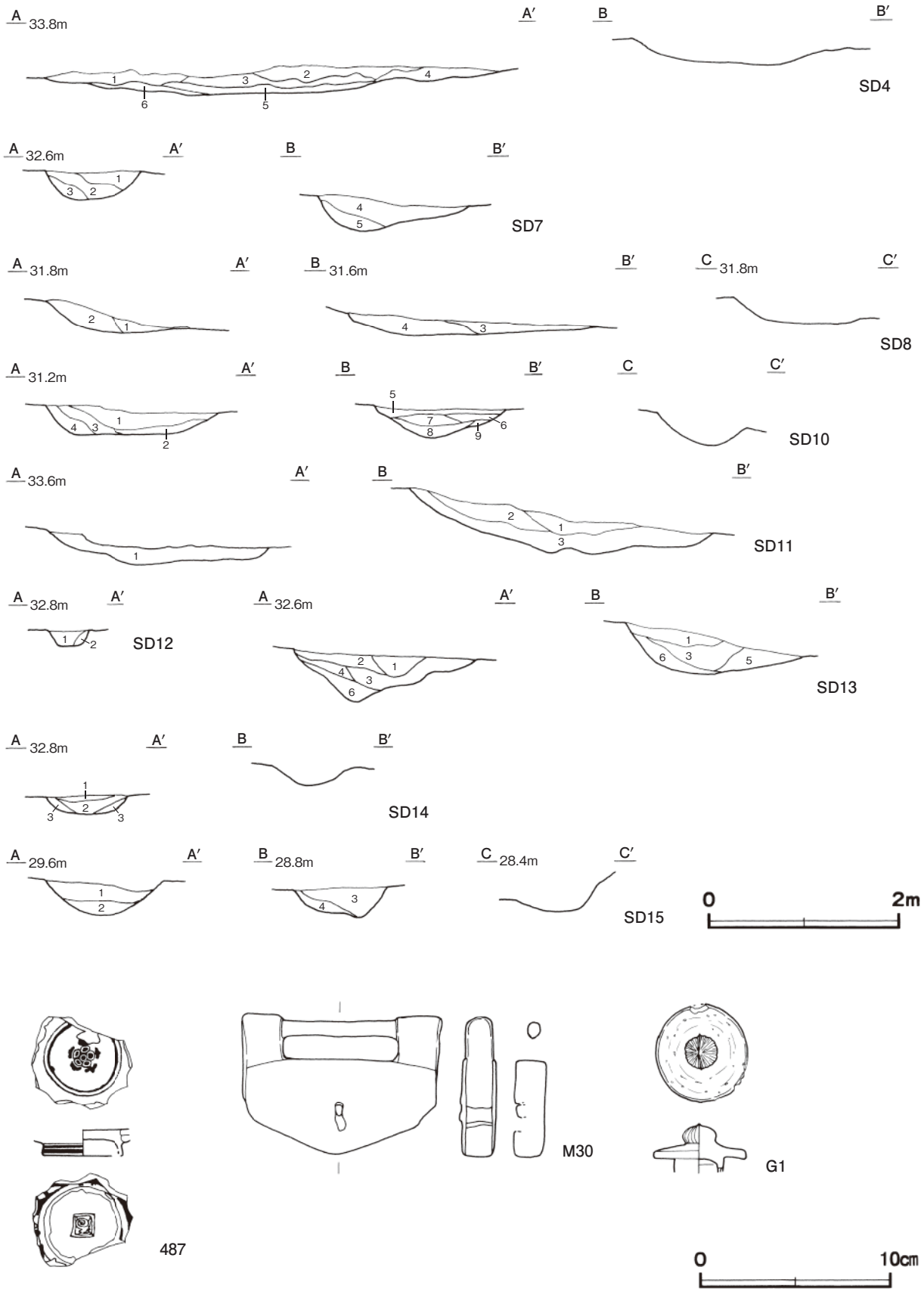
第 13 号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック微量
4　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 14 号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量

第 15 号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　細礫中量，ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック・細礫少量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　褐　　色　ロームブロック中量



第 302 図　その他の溝跡実測図



第 303 図　その他の溝跡，第３・13・15 号溝跡出土遺物実測図

第３号溝跡出土遺物観察表（第 303 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土・釉　薬	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
487	磁器	皿	－	(1.3)	[4.2]	緻密　透明	灰白	良好	見込二重円に五弁花文　銘二重角に渦福	北部覆土中	10%

第 13 号溝跡出土遺物観察表（第 303 図）

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M30	錠前	7.4	10.6	1.8	303.4	鉄	中央部に鍵穴　全面腐食により色調不明	上層	

第 15 号溝跡出土遺物観察表（第 303 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	重量	色　調	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
G 1	ガラス製品	蓋	－	(2.4)	－	(32.4)	透明	つまみに合わせ目が残存　ガラス内に気泡	下層	90%

表 14　その他の溝跡一覧表

番号	位　置	方　向	形　状	規　模				断　面	壁　面	覆　土	主な出土遺物	備　考
				長さ(m)	上幅 (cm)	下幅 (cm)	深さ(cm)					重複関係（古→新）
1	D 2f8 ～D 2h5	N－59°－E	直線	(14.6)	32 ～ 50	13 ～ 26	19	U 字状	緩斜	人為	縄文土器片，弥生土器片，土師器片，須恵器片	SI 1，SK 7，SD 6，PG 1→本跡
3	D 2a3 ～E 2h6	N－15°－W	直線	(71.4)	54 ～ 220	16 ～ 56	54	U 字状	緩斜	自然	縄文土器片，弥生土器片，土師器片，須恵器片，陶磁器片，瓦片	SK64，SD 6→本跡
4	D 2a0 ～D 3e2	－	弧状	(21.0)	132 ～ 230	60 ～ 114	20	浅い U 字状	緩斜	人為	縄文土器片，弥生土器片，土師器片，須恵器片，紡錘車，鉄滓	PG 1→本跡→ SK230 TM 1と新旧不明
6	C 2j3 ～D 2j5	N－15°－W	直線	(40.8)	78 ～ 196	－	26	[U字状]	緩斜	人為	土師器片，須恵器片，陶器片	SI16・21・24・25・31・32・51・70・83・93・97・98，SK30・31・135→本跡→SK45，SD1・3・5
7	E 2f0 ～E 2h6	N－20°－E N－73°－E	L 字状	20.2	30 ～ 116	14 ～ 30	15 ～ 30	U 字状	緩斜	人為	弥生土器片，土師器片，須恵器片	SI42・57，SK66・115・130，SD 5→本跡→ SK262
8	E 3i3 ～F 2b5	N－73°－E N－43°－E	L 字状	(36.0)	102 ～ 220	20 ～ 105	24 ～ 36	浅い U 字状	緩斜	自然	弥生土器片，土師器片，須恵器片，陶器片	SI52・60・61・64，PG 4，SD 5→本跡→ SK87
10	C 2a8 ～C 2c9	N－40°－W	直線	(10.4)	34 ～ 56	34 ～ 56	26	U 字状	緩斜	人為	縄文土器片，弥生土器片，土師器片，須恵器片	SI87・122・125→本跡
11	C 3i1 ～C 3i4	N－46°－W N－90°－E	L 字状	(13.0)	38 ～ 80	38 ～ 80	28	浅い U 字状	緩斜	自然	縄文土器片，弥生土器片，土師器片，須恵器片，灰釉陶器片，磁器片	TM 1→本跡→第２号墓　坑，SK237・239・240，PG 5，SF 1
12	C 2h0 ～C 3j2	N－44°－E	直線	9.20	12 ～ 30	12 ～ 30	32	U 字状	外傾緩斜	自然	縄文土器片，弥生土器片，土師器片	TM 1，PG 5，SD13→本跡 SF 1と新旧不明
13	C 2f8 ～C 3i0 C 3h1 ～C 3f3	N－32°－W N－52°－E	L 字状	(15.0) (13.0)	34 ～ 60	34 ～ 60	88 ～ 98	U 字状	外傾緩斜	人為	土師器片，陶器片，錠前	TM 1→本跡→ SD12 SF 1と新旧不明
14	C 3f4 ～C 3h2	N－55°－E	直線	(14.0)	18 ～ 30	18 ～ 30	38	U 字状	緩斜	自然		TM 1→本跡
15	B 3d2 ～B 3b7	N－49°－W N－38°－E	クランク状	(26.5)	22 ～ 52	22 ～ 52	20 ～ 66	U 字状	緩斜	人為	ガラス蓋	PG 6→本跡

(6)　ピット群

第２号ピット群（第 304 図）

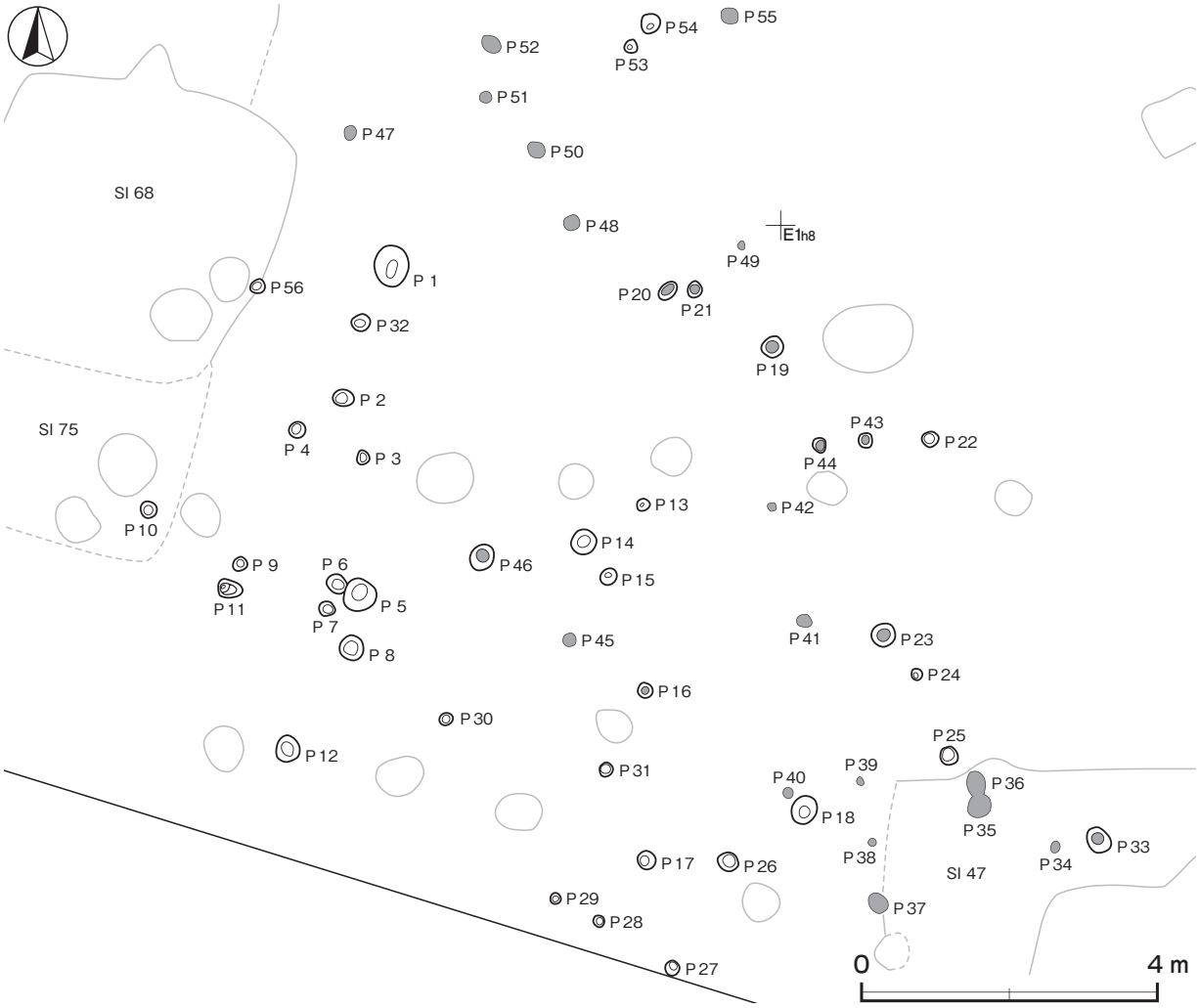
位置　調査区南部の標高 30 mの台地縁辺部，E 1 g6 ～ E 1 j9 区にかけての南北 13 m，東西 14 mの範囲から，柱穴状のピット 56 か所を確認した。

重複関係　第 47・68・75 号住居跡を掘り込んでいる。

規模　平面形は長径 16 ～ 56cm，短径 15 ～ 46cmの円形または楕円形で，深さは２～ 48cmである。なお，P 16，P 19 ～ P 21，P 23，P 33 ～ P 52，P 55 は，柱のあたりとみられる円形または楕円形の硬化範囲が露出した状態で確認されているため，深さは不明である。ピットの分布状況から建物跡は想定できない。

遺物出土状況　土師器片５点（坏１・高台付椀１・甕類３）がP 1・P 2・P 19・P 23・P 50 から出土している。いずれも細片である。

所見　時期・性格ともに不明である。



第 304 図　第２号ピット群実測図

第２号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ
1	E 1 h6	楕円形	56	46	19
2	E 1 h6	楕円形	30	24	28
3	E 1 h6	楕円形	20	17	21
4	E 1 h6	円形	23	22	29
5	E 1 i6	円形	44	44	37
6	E 1 i6	楕円形	29	25	28
7	E 1 i6	楕円形	24	21	26
8	E 1 i6	円形	34	34	28
9	E 1 i6	円形	20	20	32
10	E 1 h5	円形	24	24	41
11	E 1 i6	楕円形	35	26	48
12	E 1 i6	円形	36	34	30
13	E 1 h7	楕円形	20	18	13
14	E 1 i7	円形	36	35	23
15	E 1 i7	楕円形	25	22	15
16	E 1 i7	円形	21	21	5

番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ
17	E 1 i7	楕円形	27	24	12
18	E 1 i8	楕円形	40	35	10
19	E 1 h7	円形	30	29	14
20	E 1 h7	楕円形	31	18	4
21	E 1 h7	円形	22	20	3
22	E 1 h8	楕円形	25	22	3
23	E 1 i8	円形	34	32	13
24	E 1 i8	楕円形	18	16	3
25	E 1 i8	円形	26	26	3
26	E 1 j7	楕円形	30	26	7
27	E 1 j7	円形	22	20	10
28	E 1 j7	円形	16	16	4
29	E 1 j7	円形	16	15	5
30	E 1 i6	円形	19	18	9
31	E 1 i7	円形	20	20	5
32	E 1 h6	楕円形	27	22	11

番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ
33	E 1 j9	楕円形	38	30	2
34	E 1 j8	［楕円形］	(17)	(12)	－
35	E 1 i8	［円形］	(33)	(30)	－
36	E 1 i8	［楕円形］	(31)	(24)	－
37	E 1 j8	［楕円形］	(30)	(24)	－
38	E 1 j8	［円形］	(11)	(11)	－
39	E 1 i8	［楕円形］	(12)	(10)	－
40	E 1 i8	［円形］	(15)	(14)	－
41	E 1 i8	［楕円形］	(22)	(19)	－
42	E 1 h7	［円形］	(12)	(11)	－
43	E 1 h8	楕円形	21	19	12
44	E 1 h8	楕円形	21	19	7
45	E 1 i7	［円形］	(19)	(18)	－
46	E 1 i6	楕円形	38	33	21
47	E 1 g6	［楕円形］	(20)	(17)	－
48	E 1 g7	［円形］	(22)	(22)	－

番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ
49	Ｅ１h7	［円形］	(11)	(10)	－
50	Ｅ１g7	［楕円形］	(27)	(24)	－
51	Ｅ１g7	［円形］	(17)	(16)	－

番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ
52	Ｅ１g7	［楕円形］	(29)	(21)	－
53	Ｅ１g7	円形	19	19	14
54	Ｅ１g7	円形	30	28	23

番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ
55	Ｅ１g7	［円形］	(25)	(24)	－
56	Ｅ１h6	円形	22	20	4

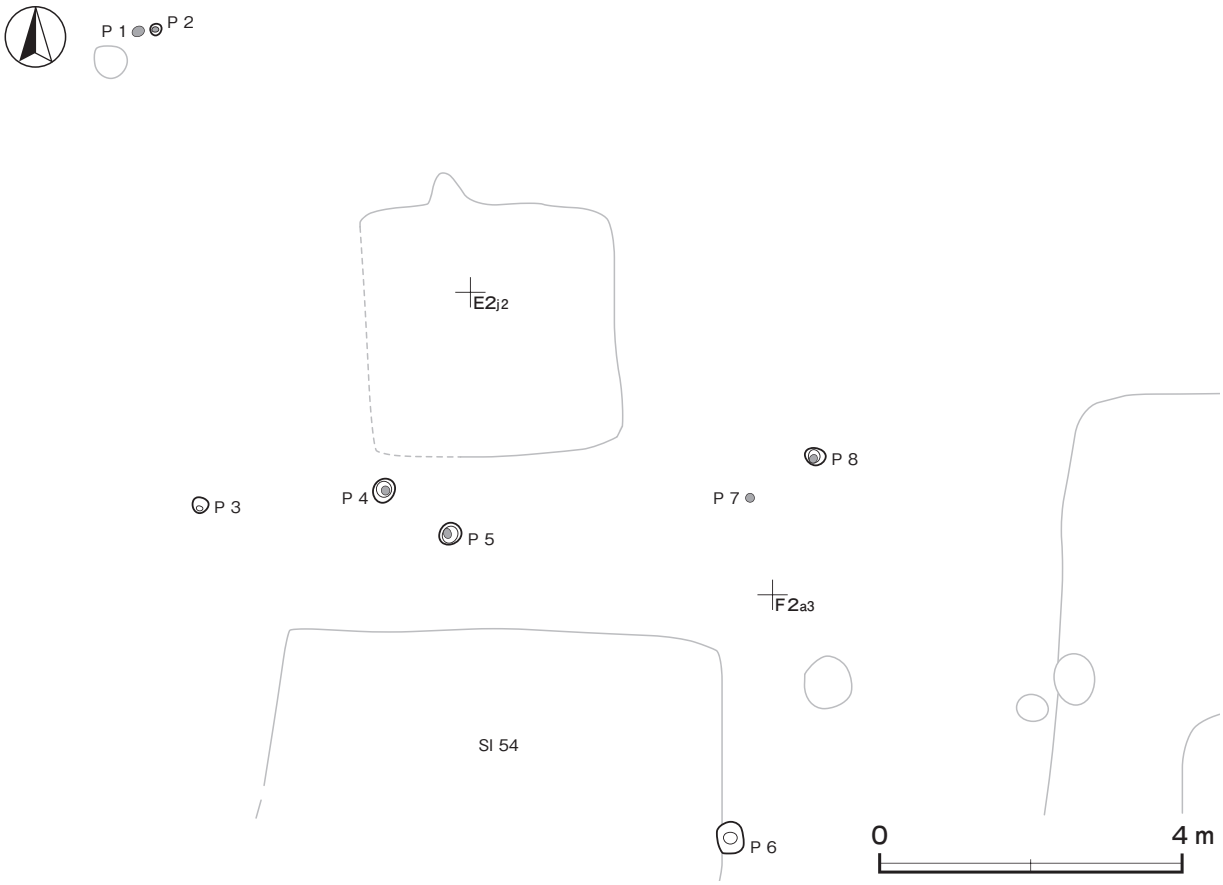
第３号ピット群（第 305 図）

位置　調査区南部の標高 30 mの台地縁辺部，Ｅ１i0 ～ Ｆ２a2 区にかけての南北 11 m，東西 10 mの範囲から，柱穴状のピット８か所を確認した。

重複関係　第 54 号住居跡を掘り込んでいる。

規模　平面形は長径 18 ～ 44cm，短径 17 ～ 39cmの円形または楕円形で，深さは２～ 23cmである。なお，Ｐ１・Ｐ２・Ｐ４・Ｐ５・Ｐ７・Ｐ８は，柱のあたりとみられる円形または楕円形の硬化範囲が露出した状態で確認されているため，深さは不明である。ピットの分布状況から建物跡は想定できない。

所見　遺物が出土しておらず，時期・性格ともに不明である。



第 305 図　第３号ピット群実測図

第３号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ
1	Ｅ１i0	［楕円形］	(16)	(14)	－
2	Ｅ１i0	円形	18	17	5
3	Ｅ２j1	円形	22	22	23

番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ
4	Ｅ２j1	楕円形	36	30	13
5	Ｅ２j1	楕円形	32	28	6
6	Ｆ２a2	楕円形	44	39	15

番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ
7	Ｅ２j2	［円形］	(12)	(11)	－
8	Ｅ２j3	楕円形	30	24	2

第４号ピット群（第 306 図）

位置　調査区南部の標高 32 ｍの緩斜面部，Ｅ２f6 ～ Ｅ２j9 区にかけての南北 17 ｍ，東西 19 ｍの範囲から，柱穴状のピット 11 か所を確認した。

重複関係　第 42・62・63・65 号住居跡，第 115・123 土坑を掘り込み，第８号溝に掘り込まれている。

規模　平面形は長径 24 ～ 58㎝，短径 24 ～ 40㎝の円形または楕円形で，深さは 15 ～ 49㎝である。ピットの分布状況から建物跡は想定できない。

遺物出土状況　土師器片７点（坏３，甕類４）がＰ４・Ｐ５から出土している。

所見　時期・性格ともに不明である。

第 306 図　第４号ピット群実測図

第４号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ
1	Ｅ２j9	円形	30	28	31
2	Ｅ３g1	円形	37	37	24
3	Ｅ２j8	［楕円形］	(23)	(20)	(８)
4	Ｅ２i9	楕円形	48	40	16

番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ
5	Ｅ２i9	楕円形	42	32	24
6	Ｅ２h0	円形	35	32	46
7	Ｅ２h9	円形	32	30	38
8	Ｅ２h9	楕円形	58	40	49

番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ
9	Ｅ２g9	楕円形	37	31	25
10	Ｅ２f6	円形	38	35	35
11	Ｅ２f9	円形	24	24	15

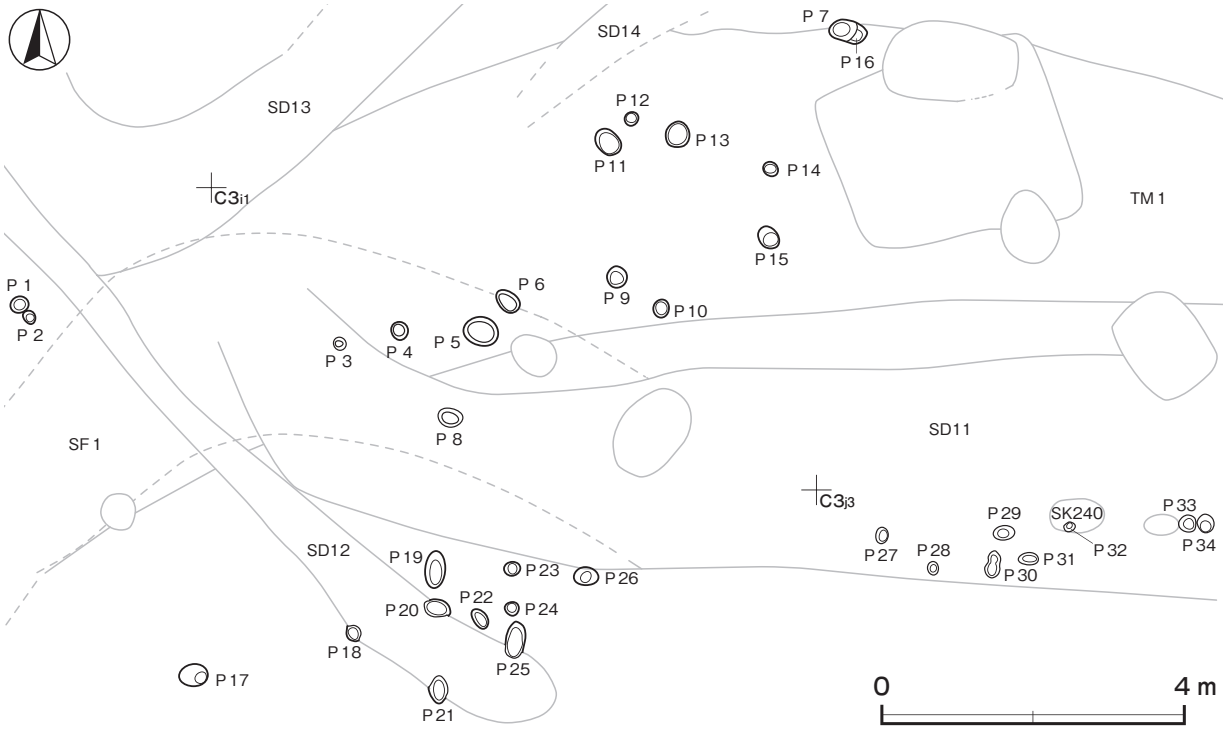
第５号ピット群（第 307 図）

位置　調査区北部の標高 32 ～ 33 ｍの平坦な台地上，Ｃ２i0 ～ Ｃ３j4 区にかけての南北９ｍ，東西 16 ｍの範囲から，柱穴状のピット 34 か所を確認した。

重複関係　第１号墳，第 240 号土坑を掘り込み，第 11・12 号溝に掘り込まれている。また，第１号道路跡と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模　平面形は長径 18 ～ 50㎝，短径 16 ～ 40㎝の円形または楕円形で，深さは 17 ～ 90㎝である。ピットの分布状況から建物跡は想定できない。

所見　遺物が出土しておらず，時期・性格ともに不明である。



第 307 図　第５号ピット群実測図

第５号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ
1	Ｃ２i0	円形	24	23	43
2	Ｃ２i0	楕円形	20	16	42
3	Ｃ３i1	［円形］	(18)	(18)	(62)
4	Ｃ３i1	円形	24	24	53
5	Ｃ３i1	楕円形	50	40	56
6	Ｃ３i1	楕円形	38	26	46
7	Ｃ３h2	楕円形	36	28	40
8	Ｃ３i1	［楕円形］	(34)	(28)	(36)
9	Ｃ３i2	円形	28	28	52
10	Ｃ３i2	円形	25	24	17
11	Ｃ３h2	楕円形	38	30	56
12	Ｃ３h2	円形	18	17	49

番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ
13	Ｃ３h2	楕円形	36	32	34
14	Ｃ３h2	楕円形	24	20	49
15	Ｃ３i2	楕円形	31	26	45
16	Ｃ３h3	［楕円形］	(26)	(18)	24
17	Ｃ３j0	楕円形	40	30	60
18	Ｃ３j1	［円形］	(20)	(20)	(40)
19	Ｃ３j1	楕円形	50	26	86
20	Ｃ３j1	［楕円形］	(35)	(24)	83
21	Ｃ３j1	［楕円形］	(38)	23	(37)
22	Ｃ３j1	楕円形	30	18	70
23	Ｃ３j1	円形	23	22	81
24	Ｃ３j1	円形	20	19	90

番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ
25	Ｃ３j2	［楕円形］	(51)	27	83
26	Ｃ３j2	楕円形	32	25	77
27	Ｃ３j3	［楕円形］	(24)	(18)	(50)
28	Ｃ３j3	［楕円形］	(18)	(15)	(35)
29	Ｃ３j3	［楕円形］	(32)	(20)	(41)
30	Ｃ３j3	［楕円形］	(36)	(23)	(45)
31	Ｃ３j3	［楕円形］	(28)	(18)	(42)
32	Ｃ３j3	［楕円形］	(16)	(14)	(45)
33	Ｃ３j4	［楕円形］	(25)	(22)	(38)
34	Ｃ３j4	［円形］	(16)	(16)	(24)

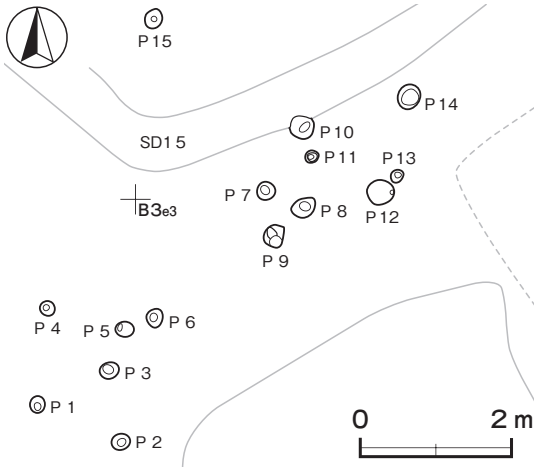
第６号ピット群（第 308 図）

位置　調査区北部の標高 29 ｍの緩斜面部，Ｂ３d3 ～ Ｂ３e2 区にかけての南北６ｍ，東西６ｍの範囲から，柱穴状のピット 15 か所を確認した。

重複関係　第 15 号溝に掘り込まれている。

規模　平面形は長径 19 ～ 37㎝，短径 18 ～ 35㎝の円形又は楕円形で，深さは 47 ～ 126㎝である。ピットの分布状況から建物跡は想定できない。

所見　遺物が出土しておらず，時期・性格ともに不明である。



第 308 図　第６号ピット群実測図

第６号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ
1	Ｂ３e2	楕円形	25	22	60
2	Ｂ３e2	円形	25	24	101
3	Ｂ３e2	円形	27	25	126
4	Ｂ３e2	円形	21	21	55
5	Ｂ３e2	楕円形	25	21	76

番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ
6	Ｂ３e3	円形	25	24	74
7	Ｂ３d3	円形	26	25	69
8	Ｂ３e3	楕円形	32	27	89
9	Ｂ３e3	楕円形	30	26	73
10	Ｂ３d3	［円形］	32	(31)	71

番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ
11	Ｂ３d3	円形	19	19	73
12	Ｂ３d3	円形	37	35	96
13	Ｂ３d3	楕円形	21	18	71
14	Ｂ３d3	円形	34	31	108
15	Ｂ３d3	楕円形	29	25	47

第７号ピット群（第 309 図）

位置　調査区北部の標高 28 ｍの緩斜面部，Ｂ３c6 区 ～Ｂ３e6 区にかけての南北６ｍ，東西４ｍの範囲から，柱穴状のピット 20 か所を確認した。

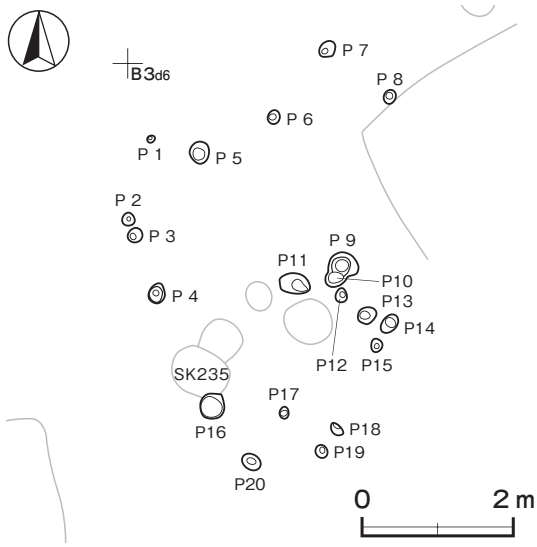
確認状況　埋没谷の上部に構築されている。

重複関係　第 235 号土坑を掘り込んでいる。

規模　平面形は長径 12 ～ 43㎝，短径 11 ～ 33㎝の円形又は楕円形で，深さは９～ 55㎝である。ピットの分布状況から建物跡は想定できない。

遺物出土状況　銭貨１点（銭種不明）がＰ４から出土している。

所見　時期・性格ともに不明である。



第 309 図　第７号ピット群実測図

第７号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ
1	Ｂ３d6	円形	12	11	9
2	Ｂ３d6	楕円形	20	18	10
3	Ｂ３d6	円形	21	20	55

番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ
4	Ｂ３d6	楕円形	29	23	42
5	Ｂ３d6	楕円形	31	27	31
6	Ｂ３d6	楕円形	20	17	28

番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ
7	Ｂ３c6	楕円形	25	22	19
8	Ｂ３d6	楕円形	20	18	33
9	Ｂ３d6	［楕円形］	41	(30)	27

番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ
10	Ｂ３d6	［楕円形］	31	（21）	25
11	Ｂ３d6	楕円形	43	30	40
12	Ｂ３d6	楕円形	20	16	30
13	Ｂ３d6	楕円形	27	23	46

番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ
14	Ｂ３d6	楕円形	31	21	45
15	Ｂ３d6	楕円形	20	17	45
16	Ｂ３e6	円形	34	33	47
17	Ｂ３e6	楕円形	17	13	30

番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ
18	Ｂ３e6	楕円形	22	14	54
19	Ｂ３e6	楕円形	20	18	46
20	Ｂ３e6	楕円形	29	22	26

第８号ピット群（第 310 図）

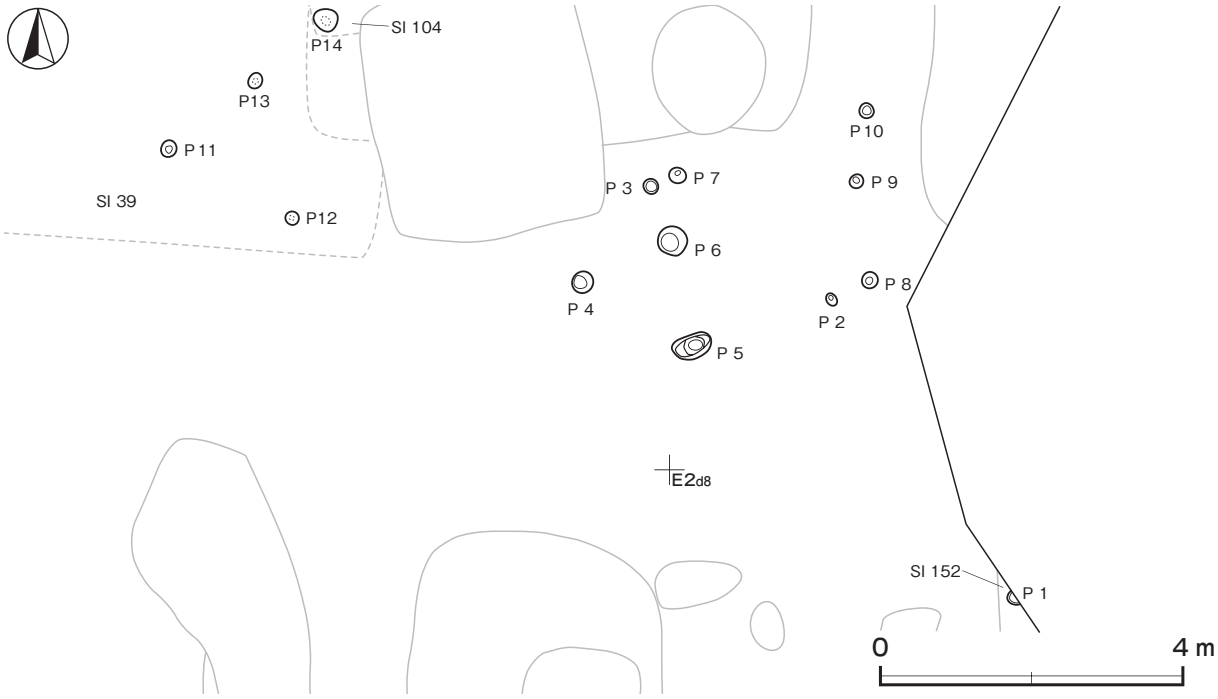
位置　調査区中央部の標高 30 ｍの平坦な台地上，Ｅ２b6 ～Ｅ２d9 区にかけての南北８ｍ，東西 12 ｍの範囲から，柱穴状のピット 14 か所を確認した。

重複関係　第 39・104・152 号住居跡を掘り込んでいる。

規模　平面形は長径 20 ～ 54㎝，短径 16 ～ 39㎝の円形または楕円形で，深さは 16 ～ 77㎝である。ピットの分布状況から建物跡は想定できない。

遺物出土状況　弥生土器片１点，土師器片４点（坏１，高坏１，甕類２）が，Ｐ５から出土している。

所見　時期・性格ともに不明である。



第 310 図　第８号ピット群実測図

第８号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ
1	Ｅ２d9	［円形］	20	（11）	30
2	Ｅ２c8	楕円形	20	16	21
3	Ｅ２c7	円形	21	21	19
4	Ｅ２c7	円形	30	30	34
5	Ｅ２c8	楕円形	54	33	66

番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ
6	Ｅ２c8	円形	40	39	77
7	Ｅ２c8	円形	24	22	38
8	Ｅ２c8	円形	23	22	40
9	Ｅ２c8	楕円形	20	18	21
10	Ｅ２b8	円形	22	22	16

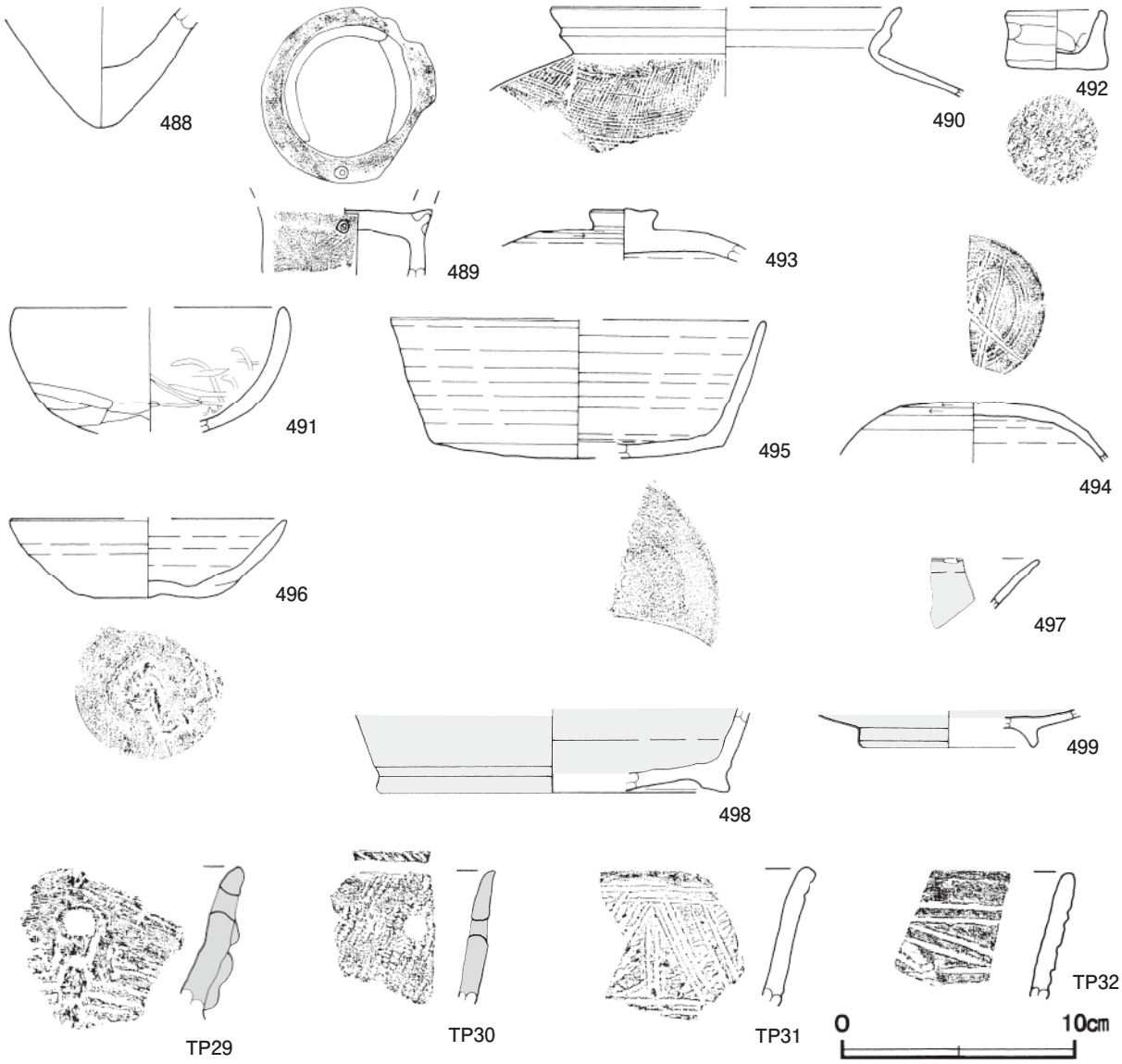
番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ
11	Ｅ２b6	円形	23	22	30
12	Ｅ２i9	円形	20	20	－
13	Ｅ２h9	楕円形	24	20	－
14	Ｅ２h9	円形	35	34	－

表 15　その他のピット群一覧表

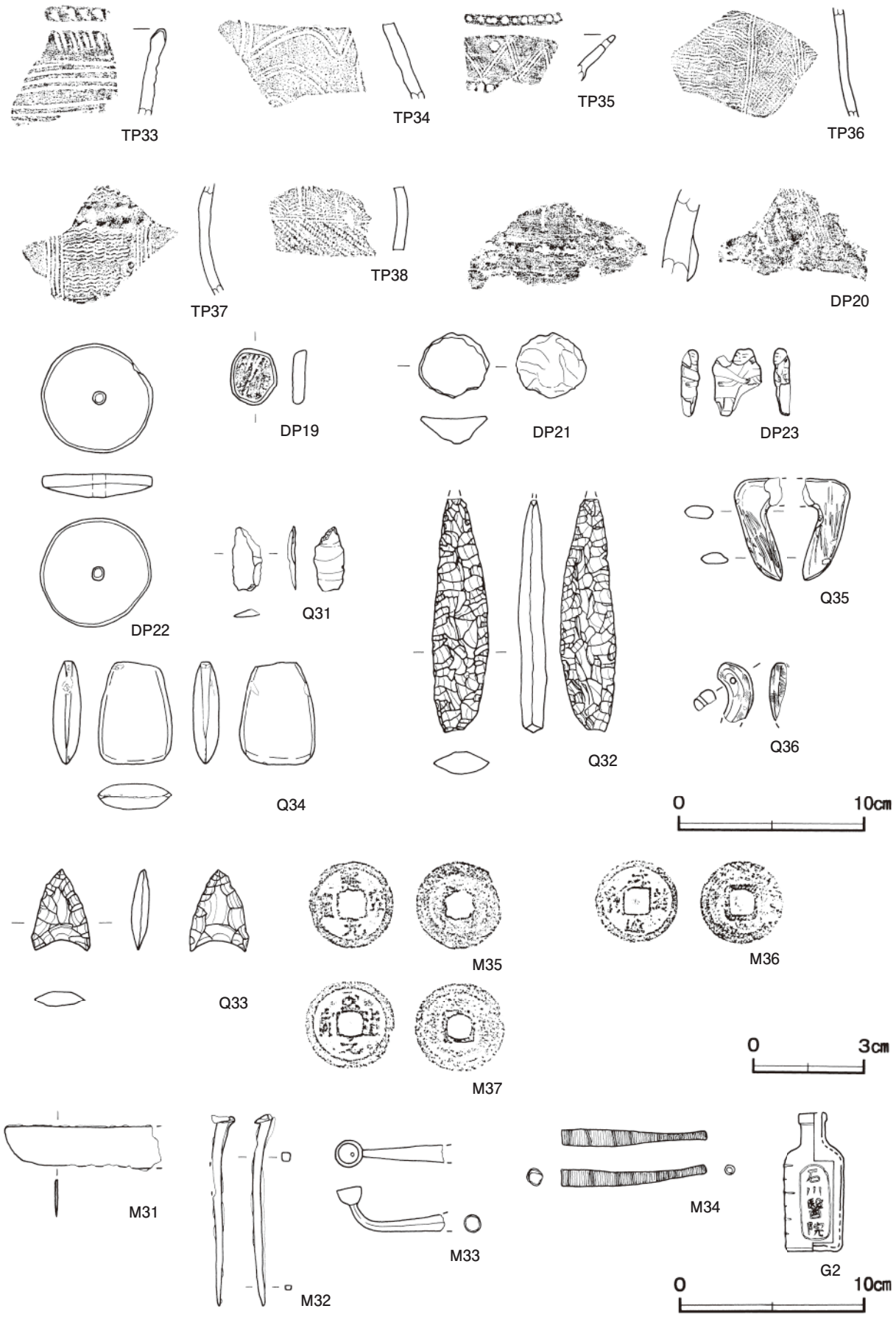
番号	位 置	範囲	柱　穴					主な出土遺物	備　考
			柱穴数	平面形	長径	短径	深さ		重複関係（古→新）
2	E 1 g6 ～ E 1 j9	南北 13 m，東西 14 m	56	円形・楕円形	16 ～ 56	15 ～ 46	2 ～ 48	土師器片	SI47・68・75 →本跡
3	E 1 i0 ～ F 2 a2	南北 11 m，東西 10 m	8	円形・楕円形	18 ～ 44	17 ～ 39	2 ～ 23		SI54 →本跡
4	E 2 f6 ～ E 2 j9	南北 17 m，東西 19 m	11	円形・楕円形	24 ～ 58	24 ～ 40	15 ～ 49	土師器片	SI42・62・63・65，SK115・123 →本跡 →SD 8
5	C 2 i0 ～ C 3 j4	南北 9 m，東西 16 m	34	円形・楕円形	18 ～ 50	16 ～ 40	17 ～ 90		TM 1，SK240 →本跡→ SD11・12 SF 1 と新旧不明
6	B 3 d3 ～ B 3 e2	南北 6 m，東西 6 m	15	円形・楕円形	19 ～ 37	18 ～ 35	47 ～ 126		本跡→ SD15
7	B 3 c6 ～ B 3 e6	南北 6 m，東西 4 m	20	円形・楕円形	12 ～ 43	11 ～ 33	9 ～ 55	銭貨	SK235 →本跡
8	E 2 b6 ～ E 2 d9	南北 8 m，東西 12 m	14	円形・楕円形	20 ～ 54	16 ～ 39	16 ～ 77	弥生土器片，土師器片	SI39・104・152 →本跡

（7）　遺構外出土遺物

遺構に伴わない遺物について，実測図（第 311・312 図）及び観察表で掲載する。



第 311 図　遺構外出土遺物実測図（1）



第 312 図　遺構外出土遺物実測図（２）

遺構外出土遺物観察表（第 311・312 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
488	縄文土器	深鉢	－	(5.2)	－	長石・石英・赤色粒子・細礫	にぶい赤褐	普通	尖底土器底部	SI15	５％
489	弥生土器	高坏ヵ	－	(3.3)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子・針状鉱物	にぶい黄橙	普通	鋸歯状の条線文	埋没谷（トレンチ３）	５％　PL56
490	土師器	台付甕	[15.0]	(3.9)	－	長石・石英・赤色粒子・角閃石	にぶい黄橙	普通	肩部，縦位のち横位のハケ目調整	SI26	５％　PL56
491	土師器	坏	[11.5]	(5.4)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラナデ　内面ヘラ磨き	SI97	40％　PL56
492	土師器	ミニチュア	4.0	2.6	4.0	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	にぶい橙	普通	外・内面ナデ	表土（北部）	90％
493	須恵器	蓋	－	(2.3)	－	長石・石英・細礫	灰	良好	天井部回転ヘラ削り	表土（北部）	20％　PL56
494	須恵器	蓋	－	(2.6)	－	長石・石英	黄灰	良好	天井部右回りの回転ヘラ削り　ヘラ記号	SI24	30％
495	須恵器	坏	[16.0]	6.0	[12.6]	長石	黄灰	良好	底部回転ヘラ削り	SI28	30％
496	土師器	坏	[11.8]	3.4	6.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り	表土（中央部）	50％
497	緑釉陶器	皿	－	(2.2)	－	緻密	オリーブ灰	良好	ロクロナデ	表土（D 2e5）	５％ 猿投　PL64
498	灰釉陶器	瓶	－	(3.6)	[15.0]	緻密	灰	良好	ロクロナデ	SD11	５％ 猿投　PL63
499	灰釉陶器	椀	－	(1.6)	7.4	緻密	灰黄褐	良好	釉漬け掛け	表土（北部）	５％ 猿投　PL63

番号	種　別	器種	胎　土	色　調	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP29	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明褐	波頂部直下に円孔　口縁部を隆帯で区画し，平行する連続刺突文を充填	SI113	PL57
TP30	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	黒褐	口唇部に刻み　LR の単節縄文	SI31	PL57
TP31	縄文土器	深鉢	長石・針状鉱物	にぶい赤褐	半截竹管による平行沈線文　地文は撚糸文	SK10	PL57
TP32	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒褐	半截竹管による平行沈線文	SI 1	PL57
TP33	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	赤褐	口唇部に刻み　口縁部に平行沈線が巡る	表土（中央部）	PL57
TP34	弥生土器	壺	長石・雲母	橙	２条一組の平行沈線で文様を描出	SI138	PL57
TP35	弥生土器	壺	長石	にぶい黄橙	口唇部に刻み　櫛歯状工具による鋸歯状文	TM 1	PL57
TP36	弥生土器	壺	長石・雲母	にぶい黄橙	櫛歯状工具（３本）の縦区画内に斜格子文及び波状文を充填	SI54	PL57
TP37	弥生土器	壺	長石・雲母	暗赤褐	櫛歯状工具（４本）の縦区画内に波状文を充填	SI 6	PL57
TP38	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	灰褐	櫛歯状工具（３本）によって文様を描出　附加条二種縄文	SK127	PL57

番号	器　種	長さ・径	幅	厚さ	重量	胎土	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
DP19	土器片円盤	3.1	2.5	0.7	5.4	長石・石英・雲母・赤色粒子・針状鉱物	周縁部研磨　撚糸文	SK30	PL59
DP20	円筒埴輪	(5.0)	－	－	(71.2)	長石・石英・赤色粒子・細礫	内面ハケ目調整	表土（北部）	
DP21	不明土製品	3.8	－	1.5	11.8	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	周縁部を打ち欠き調整　表面は皿状に凹む　背面指頭痕	表土（北部）	PL59
DP22	紡錘車	6.1	－	1.3	47.7	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	孔径 0.7㎜　両面ナデ	SD 4	PL58
DP23	泥面子	(3.7)	2.7	1.0	(6.1)	長石	型押成形　裏面ナデ	表土（中央部）	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
Q 31	剥片	3.5	1.7	0.4	1.9	頁岩	二次加工痕を有する　裏面左側縁に緩斜度調整	表土	PL60
Q 32	尖頭器	(12.7)	3.1	1.6	(58.7)	頁岩	先端部欠損　柳葉形　両面調整	表土（南部）	PL60
Q 33	石鏃	2.2	1.6	0.5	1.1	チャート	両面押圧剥離　凹基無茎鏃	表土（中央部）	PL60
Q 34	磨製石斧	5.5	4.0	1.4	59.6	緑色凝灰岩	全面を研磨	TM 1	PL59
Q 35	玦状耳飾	5.5	(2.6)	0.7	(12.3)	雲母片岩	全面を研磨　研磨による擦痕が残存	TM 1	PL59
Q 36	勾玉	(3.2)	(1.9)	(0.9)	(5.2)	滑石	全面を研磨　裏面剥離	表土（中央部）	PL60

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
M31	短刀ヵ	(8.4)	(2.3)	(0.1)	(8.3)	鉄	断面三角形	表土	
M32	釘	10.3	1.0	0.3～0.5	(14.3)	鉄	断面方形	TM 1	
M33	煙管	(6.0)	(1.4)	(0.9)	(5.9)	銅	雁首のみ	表土（中央部）	PL62
M34	煙管	7.8	0.9	0.9	4.7	銅	吸い口部のみ	表土（中央部）	PL62

番号	銭　名	径	孔径	厚さ	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備　考
M35	熙寧元寳	2.4	0.7	0.1	2.0	1068	銅	真書	表土（南部）	
M36	元豊通寳	2.3	0.7	0.1	1.7	1078	銅	行書	表土（中央部）	
M37	至道元寳	2.4	0.6	0.1	2.6	995	銅	行書	表土（中央部）	

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	重量	色　調	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
G 2	ガラス製品	薬瓶	1.5	7.5	2.6	27.0	透明	首部まで合わせ目　胴部に「石川醫院」の浮き字	表土（南部）	100%

第4節 ま　と　め

1　はじめに

当遺跡は，常陸太田市の南部に位置し，亀作川左岸の標高約30ｍの台地上に立地している。遺跡が立地する台地は，多賀山地の裾野から南西方向に延びる舌状台地で，三方が谷底平野に向かって落ち込み，北東側が多賀山地につながる丘陵地となっている。遺跡の範囲は，南北200ｍ，東西400ｍほどで，東西に延びており，調査区はその西端部にあたる。調査の結果，竪穴住居跡133軒，古墳１基，掘立柱建物跡２棟，竪穴遺構９基，地点貝塚１か所，墓坑２基などが確認でき，縄文時代から平安時代にかけての集落跡，古墳時代中期の古墳，中世の墓域であることが判明した。本節では，各時代の出土土器や集落の様相を概観し，遺跡の性格について若干の考察を加えることでまとめとしたい。

2　縄文時代

当時代の遺構として，調査区北部の緩斜面部から第１号地点貝塚，中央部の平坦な台地上から第１号土坑を確認した。第１号地点貝塚から出土している土器群は，胎土に繊維を含み，地文はループ文を多様し，地文の範囲は口縁部まで及んでいる。これらの特徴から，前期前半の関山Ⅱ式に併行する時期の土器群と考えられる。当遺跡から西方1.5㎞に位置する森東貝塚からは，同時期の土器が出土しており，口唇部直下に縦位の短沈線が施文されているのが特徴である。当遺跡から出土している土器にも共通性がみられ（TP １），鈴木素行氏が提唱している「森東式土器」の範疇に含まれるものと考えられる[1)]。

第１号地点貝塚は，緩斜面部に位置する埋没谷の堆積土中から，貝の散布範囲を確認している。埋没谷から出土している土器は，磨滅した縄文土器や弥生土器の細片であり，埋没谷の形成過程で，土坑状の掘り込みに貝を投棄したものと考えられる。出土している貝はヤマトシジミが主体で，前期の貝塚である森東貝塚や築崎貝塚[2)]など周辺の貝塚と同様の傾向にあり，縄文海進時には，当地は海水が入り交じる河口付近であったと考えられる。

なお，第１号土坑の時期は中期後葉であり，前期前半以降も断続的ながら，台地上には人々の営みが続いていたことがうかがえる。

3　弥生時代

当時代の遺構は，調査区北部の緩斜面部に位置する埋没谷の上面で，第127号住居跡を確認した。出土している土器は，摩滅した細片が多い。残存率が高く伴う遺物と判断できるのは，ピットから出土している２の壺であり，時期決定の指標となる遺物である。口唇部に縄文が施文され，口唇部直下に巡る隆帯には，連続する刺突文を有し，以下無文となり，頸部下端には三角形の区画内に斜格子文が施文されている。これらの特徴から，時期は後期前半と考えられる[3)]。

遺構の規模と形状から，竪穴住居跡と判断したが，柱穴にあたるピットや炉など付随施設が確認できず，床面の硬化も認められなかった。これらの確認状況や周囲に当該期の遺構が存在しないことから，作業小屋的な一時的な居住空間として使用されたものと考えられる。

4　古墳時代

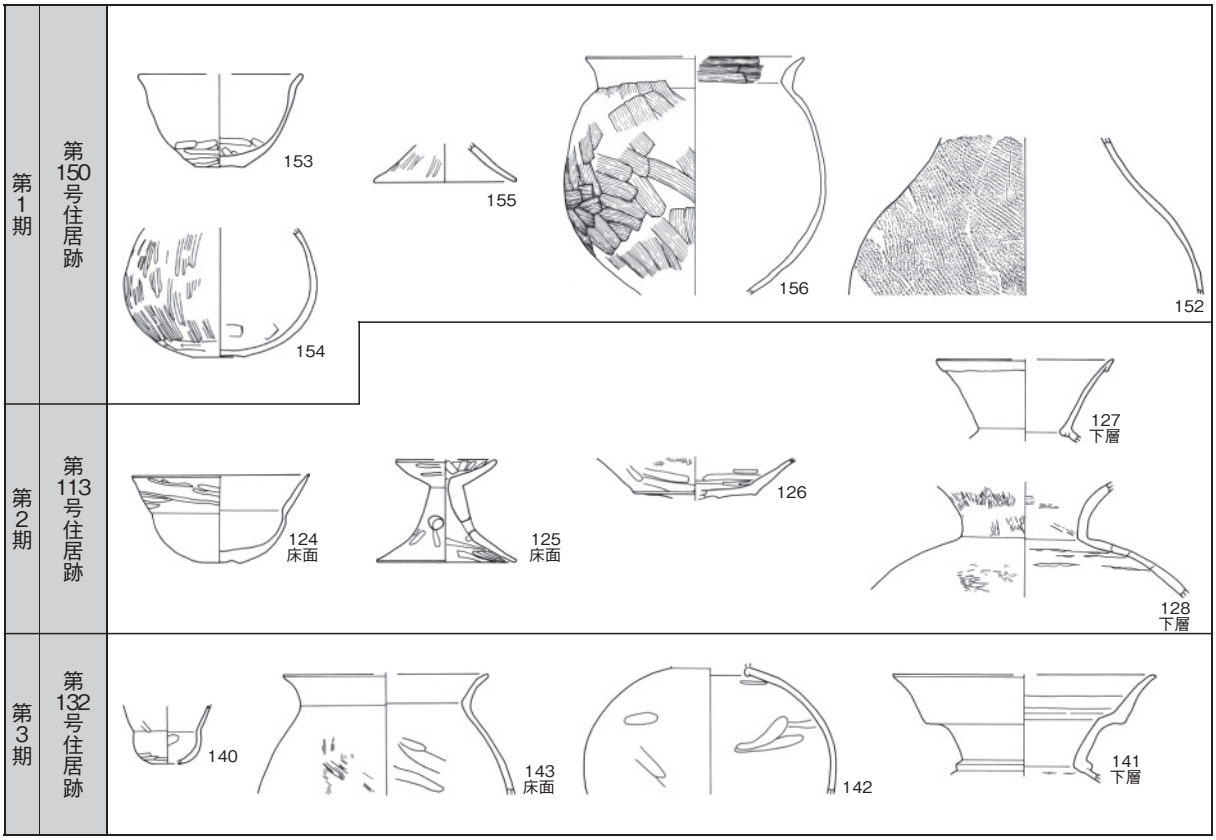
当時代の遺構は，調査区中央部の平坦な台地上を中心として，北部と南部の緩斜面部まで広がって分布している。古墳１基，竪穴住居跡 36 軒，円筒形土坑５基，土坑 12 基を確認し，前期から後期にかけての集落跡で，中期前半には古墳が築造されたことが判明した。以下，出土土器の様相を分類し，各時期の様相について述べる。

⑴　出土土器について（第 313 ～ 316 図）

前期（第１～３期），中期（４期～６期），後期（７期～ 11 期）の 11 時期に分類し，各期の器種組成や器形，手法の特徴について述べる。

第１期　第 150 号住居跡の土器群が該当する。器種は，弥生土器の壺，土師器の椀・坩・器台ヵ・甕が出土している。弥生土器の壺（152）は文様帯の区画がなく，附加条縄文が全面に施文されており，弥生土器の最終末的な様相を呈している。なお，土師器に共伴すると考えられる弥生土器は，第２期以降は出土していない。土師器の坩（154）は，体部外面はヘラ磨き調整で，底部は平底であり，やや中央部が凹んでいる。甕（156）は，口縁部が外反し，体部は球形を呈しており，ハケ目調整が施されている。

第２期　第 113 号住居跡の土器群が該当する。器種は，土師器の小形坩・器台・高坏・壺が出土している。当期から，小形坩が出現する。小形坩（124）は，口縁部が体部から明瞭に屈曲して立ち上がっており，底部は平底で中央部がやや凹んでいる。器台(125)は，脚部が受け部下位から外反して延びている。壺(127・128）は口縁部が外反し，複合口縁を有するもの（127）も確認されている。

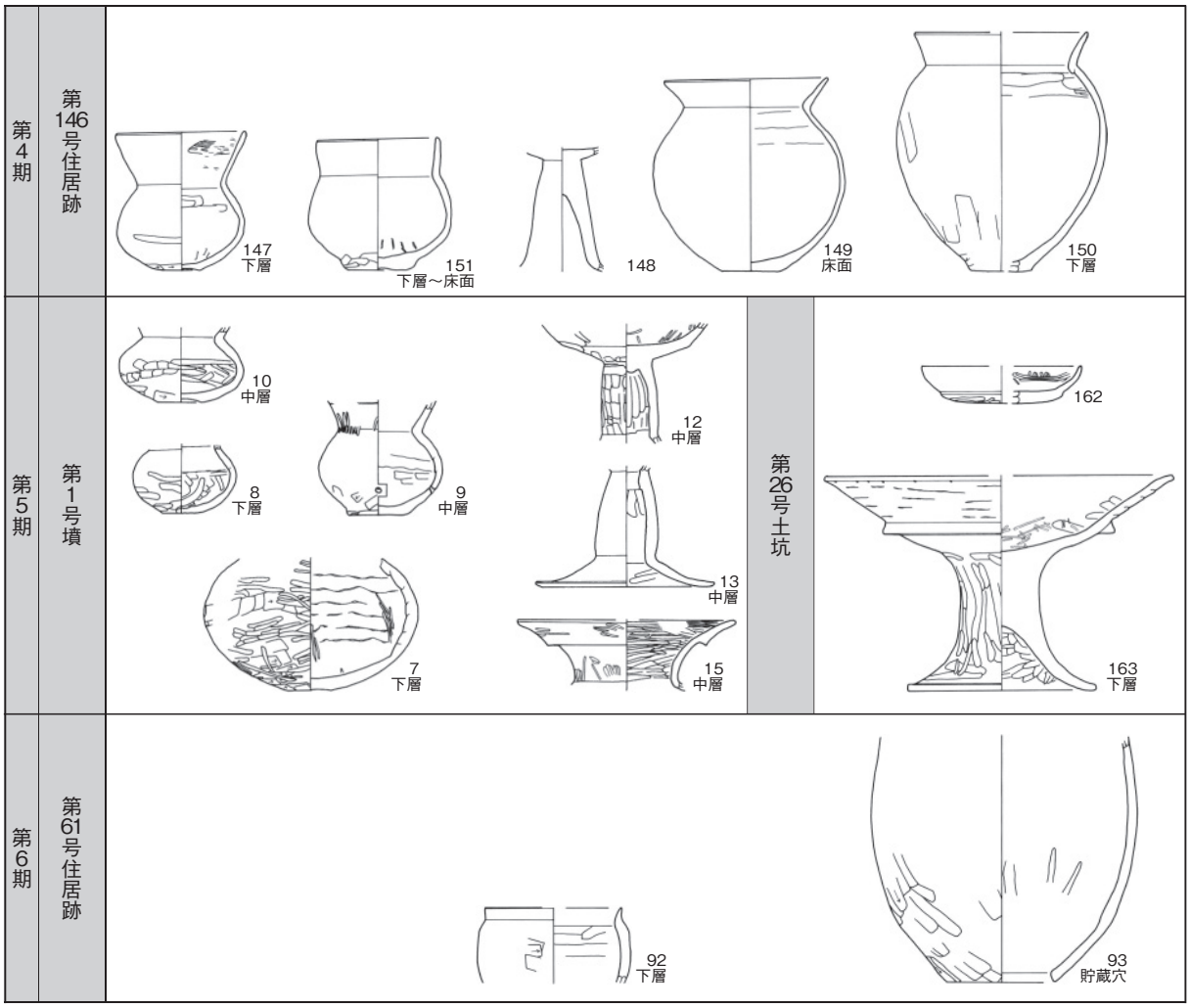


第 313 図　日向遺跡古墳時代出土土器①　（S ＝ 1 ／ 6）

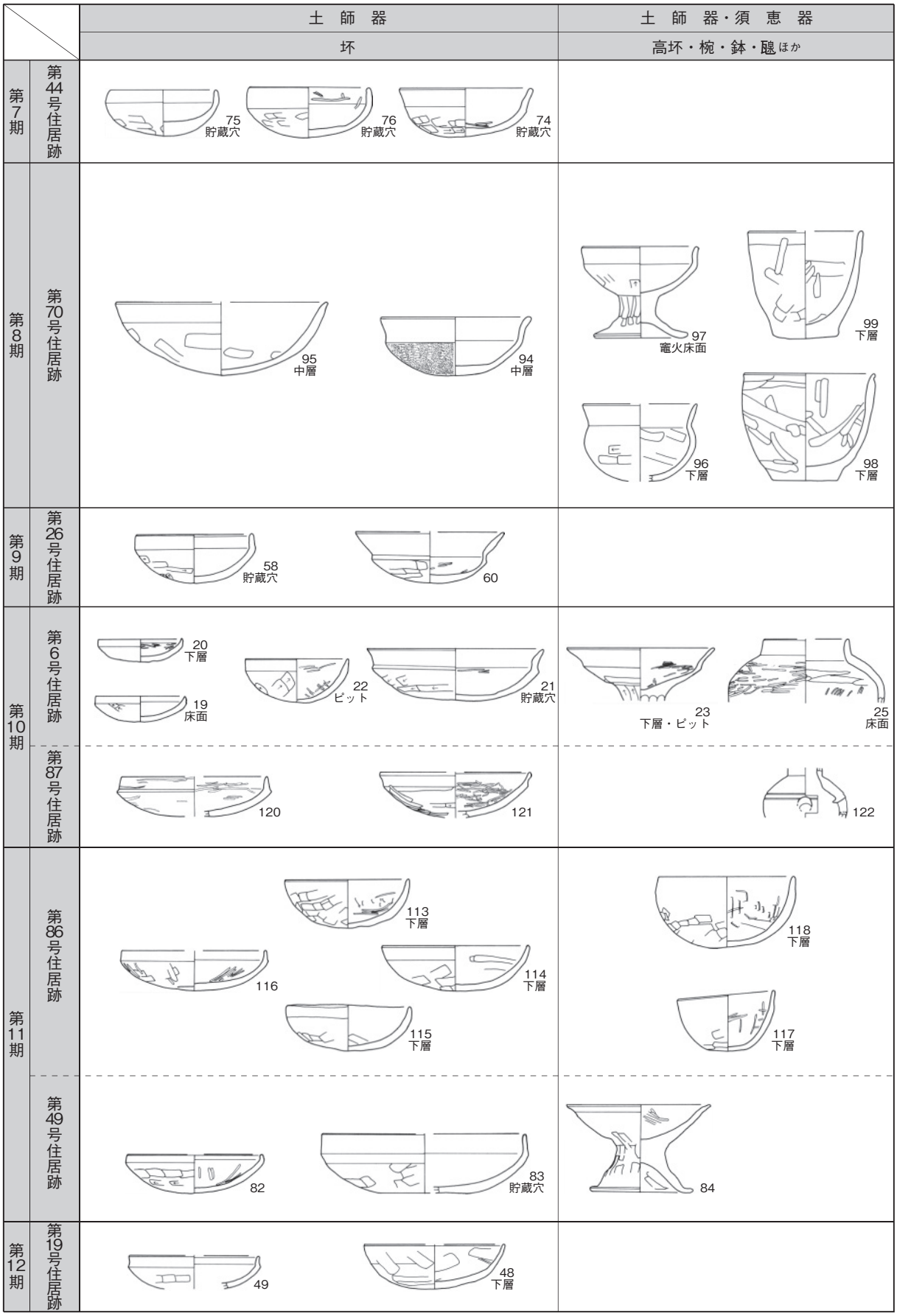
第３期　第132号住居跡の土器群が該当する。器種は，土師器の小形坩･壺･甕が出土している。小形坩（140）は，口縁部から体部にかけての屈曲が弱く，底部は平底である。甕（143）は，口縁部が外反し，体部にはハケ目調整が施されている。また，壺（141・142）も一定量が出土し，有段口縁のもの（141）も確認されている。

第４期　第146号住居跡の土器群が該当する。器種は，土師器の小形坩・高坏・甕・小形甕が出土している。小形坩（147）は，体部が丸みを帯び，口縁部は外傾して立ち上がっている。また底部が平底で，中央部がやや凹んでいる。甕（149・150）は口縁部がやや外反し，体部は球状を呈している。底部が突出するものもみられる（150）。

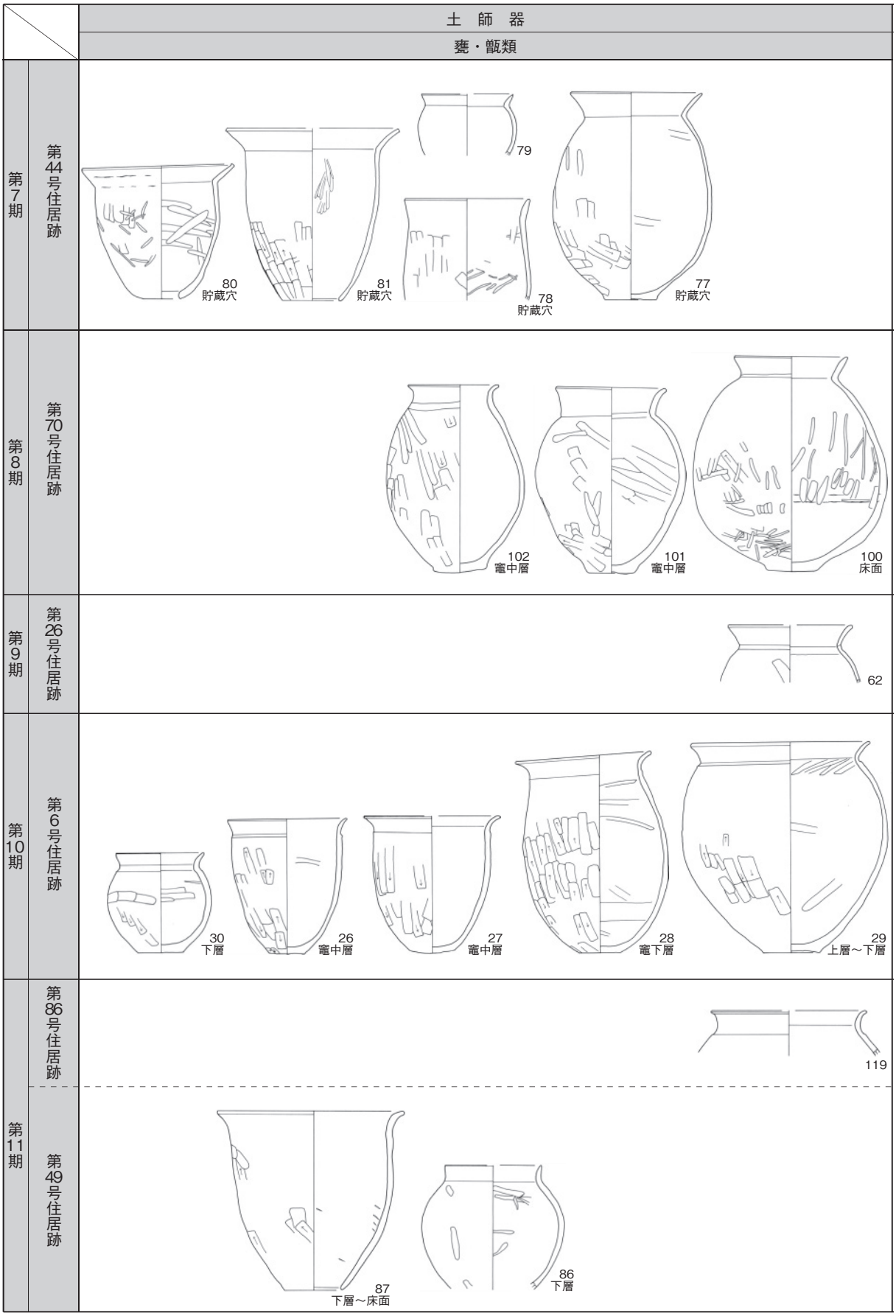
第５期　第１号墳，第26号土坑の土器群が該当する。器種は，土師器の小形坩・坩・高坏・瓲ヵ・壺・椀が出土している。小形坩（８･10）は，体部中位が最大径となり，扁平な印象を受ける。底部は平底で，中央部が凹むものもある（10）。９の土器は，体部下半に焼成前に穿孔された孔が１か所確認されており，瓲の可能性がある。口縁部はやや外反し，外面に浅い沈線が巡っており，底部はやや突出している。高坏は，脚部が中空（12・13）で，外面がヘラ削り調整（12・163）のものが主体である。第26号土坑から出土している高坏（163）は，坏部の下位に断面形が三角の隆帯が巡り，部分的に赤彩された痕跡が確認できる。壺（15）は有段口縁であるが，内面の段が失われている。椀（162）は，丸底で口縁部が内傾して立ち上がっ



第314図　日向遺跡古墳時代出土土器②　（S ＝ 1 ／ 6）



第 315 図　日向遺跡古墳時代出土土器③　（S ＝ 1 ／ 6 ）



第 316 図　日向遺跡古墳時代出土土器④　（S ＝ 1 ／ 8）

ている。同じ土坑から出土している163の高坏とともに，他に系統的につながる土器が見あたらず，客体的な土器と考えられる。

第６期　第61号住居跡の土器群が該当する。器種は，土師器の椀・甑が出土している。斜面部に構築されており，削平されているため，提示できる資料が少ない。特出すべき点は，甑（93）の出現である。新たな調理具の出現は，調理方法に変化が現れたことを示唆している。器形は，体部から底部にかけて，やや丸みを帯びている。

第７期　第44号住居跡の土器群が該当する。器種は，土師器の坏・甕・小形甕・甑が出土している。当期から，坏が器種構成に加わり主体となる。底部は丸底で，口縁部が直立するもの（75・76）とやや外反するもの（74）とがある。甕（77～79）は，この頃から大・小の分化が進み，目的によって使い分けられていたと想定できる。77の甕は，口縁部が体部から「く」の字状に屈曲して立ち上がり，体部は長胴で，底部は突出している。甑（80・81）は，大・小二つの法量があり，いずれの体部もやや丸みを帯び，口縁部は外傾して立ち上がっている。

第８期　第70号住居跡の土器群が該当する。器種は，土師器の坏・椀・高坏・鉢・甕・小形甕が出土している。坏は，椀形で口縁部と体部の境が明確でないもの（95）と口縁部が外反するもの（94）があり，後者は東北系の土器の影響を受けた器形と考えられている[4)]。高坏（97）は赤彩されており，脚部が短く裾部で大きく開いている。甕は，口縁部が短く，外反して立ち上がるもの（102）と口縁部が比較的長く，体部から「く」の字状に屈曲して立ち上がるもの（100・101）がある。体部は前者が長胴で，後者は長胴のもの（101）と球胴のもの（102）とがあり，底部はいずれも突出している。

第９期　第26号住居跡の土器群が該当する。器種は，土師器の坏・椀・甕が出土している。坏は口縁部が直立するもの（58）と外反するもの（60）とがあり，外・内面とも赤彩されている。後者の坏は，前段階の94の坏と同系統の土器と考えられ，口縁部がより外側に外反して，体部が浅くなり，口縁部と体部の境に明瞭な段を有している。

第10期　第６・87号住居跡の土器群が該当する。器種は，土師器の坏・椀・高坏・壺・甕・小形甕，須恵器の瓶が出土している。坏は，口径に対して器高が低くなる傾向にあり，当期以降，扁平化していく。また黒色処理されたものが多くなる（20・120・121）。口縁部が外反するもの（21）は，口縁部が短くなり外側に広がる傾向も弱まる。なお，当期以降は確認できなくなる。高坏（23）は坏部のみが出土しているが，坏と同様に黒色処理されている。甕は，長胴のもの（26～28）と球胴のもの（29）とがあるが，前者が主体である。口縁部が短くなる傾向にあり，外反して立ち上がっている。また，口縁部が横ナデされることによって，口縁部と体部との境には，明確な段差が生じている（26・27・29）。なお，第87号住居跡からは，須恵器の瓶（122）が覆土中から出土している。やや厚手の作りで，体部には浅い２条の沈線が巡っている。胎土や色調から猿投産の可能性がある。

第11期　第86・49号住居跡の土器群が該当する。器種は，土師器の坏・椀・高坏・鉢・甕・甑が出土している。坏は，より扁平なものが多くなり，口径も拡大傾向にある。また，口縁部と体部の境が不明瞭な椀形ものが増加してくる（113～115）。鉢（117）はやや小振りで，黒色処理されている。甑（87）は，口縁部が短くなり，外反して立ち上がっている。底部もやや小さめである。高坏（84）は，脚部から裾部にかけては太く「ハ」の字状に開いている。

第12期　第19号住居跡の土器群が該当する。器種は，土師器の坏・椀・甑が出土している。坏（48・49）は，前段階とは一転して口径がやや縮小している。

以上，古墳時代の出土土器について通観したが，概ね従来の研究成果による編年と齟齬が生じることはなく，各期の年代的位置づけは，**第１期**が４世紀前葉，**第２期**が４世紀中葉，**第３期**が４世紀後葉，**第４期**が５世紀前葉，**第５期**が５世紀中葉，**第６期**が５世紀後葉，**第７期**が５世紀末葉～６世紀初頭，**第８期**が６世紀前葉，**第９期**が６世紀中葉，**第 10 期**が６世紀後葉，**第 11 期**が６世紀末葉～７世紀初頭，**第 12 期**が７世紀前葉に比定できる[5)]。

⑵　集落の変遷について（第 316 ～ 319 図）

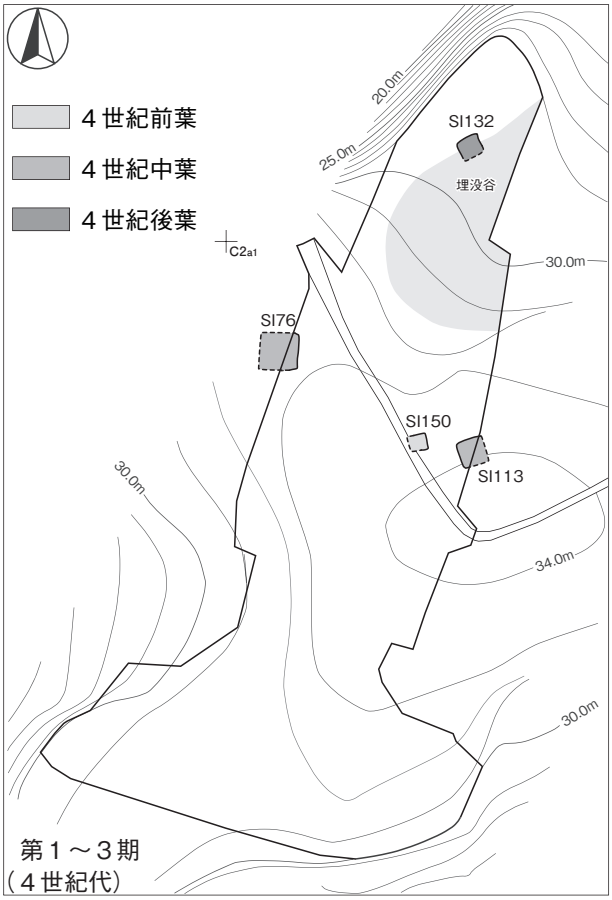
ここでは前項の時期区分に従って，出土遺物や住居構造にも一部触れながら，当該期の集落の変遷について述べる。なお，住居跡の規模については，重複が著しいため便宜上，一辺が４ｍ未満のものは小形，４～６ｍのものは中形，６ｍ以上のものは大形と呼称する。

第１期　第 150 号住居跡が該当する。調査区中央部の平坦な台地上に，小形住居跡１軒のみが確認されている。集落の広がりや規模は不明であるが，弥生時代後期以降，当期から再び集落の形成が始まる。また，弥生土器の共伴が確認されている。

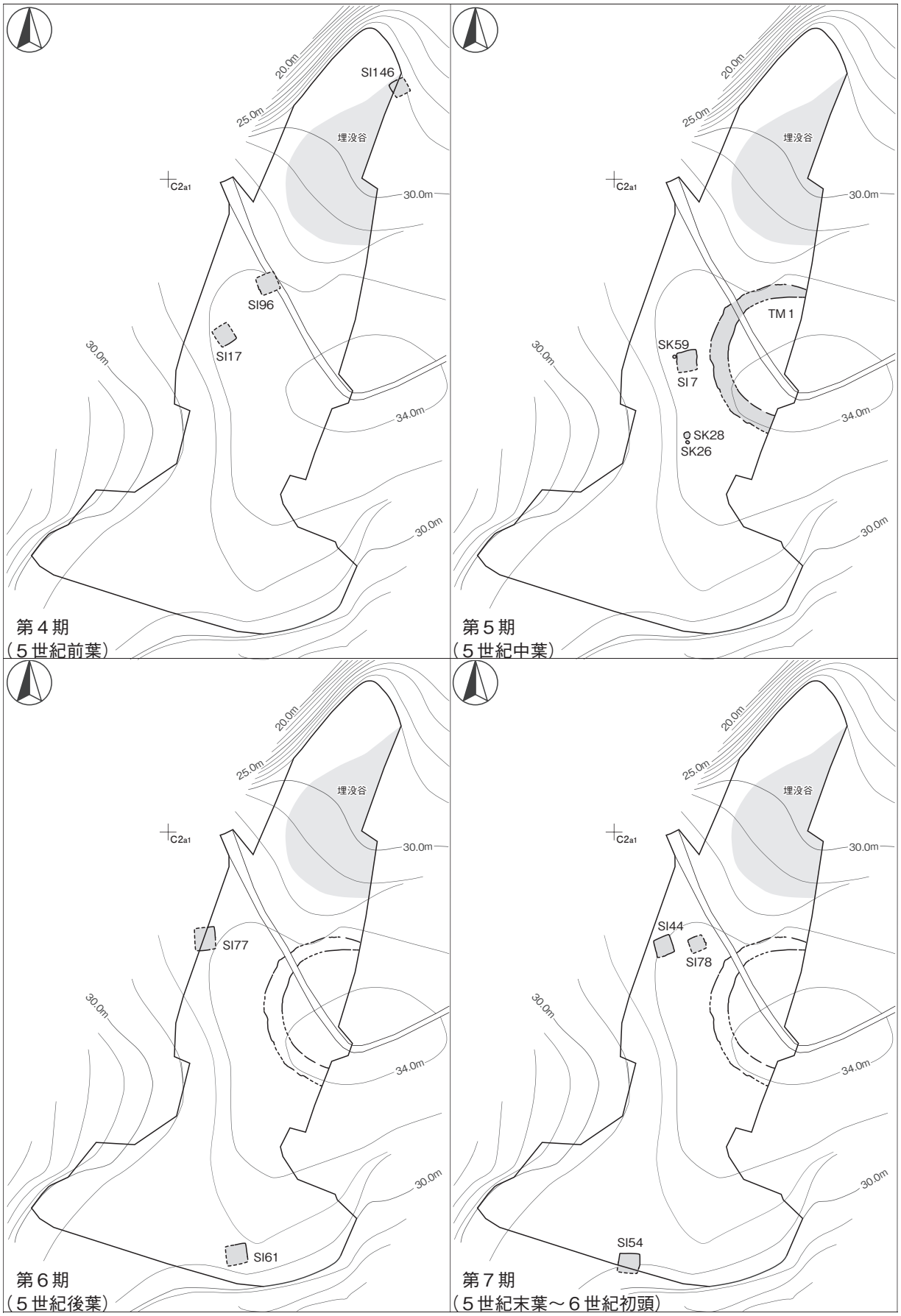
第２期　第 76・113 号住居跡が該当する。調査区中央部の平坦な台地上に，大形住居跡，中形住居跡各１軒が確認されている。第 113 号住居跡は，前段階の第 150 号住居跡と南北の軸方向（以下軸方向とする）もほぼ同じで隣接していることから，同一集団による作り替えが想定できる。

第３期　第 132 号住居跡が該当する。調査区北部の緩斜面部に，中形住居跡１軒が確認されている。当住居跡が位置する北部の緩斜面部には，縄文時代から弥生時代にかけて形成された埋没谷が，調査区域外から南西方向に延びてきており，その埋没谷に面して構築されている。占地に違いがみられることや位置関係から，新たな単位集団とみられる。なお，第 132 号住居跡からは，生産具として土製の紡錘車が出土している。

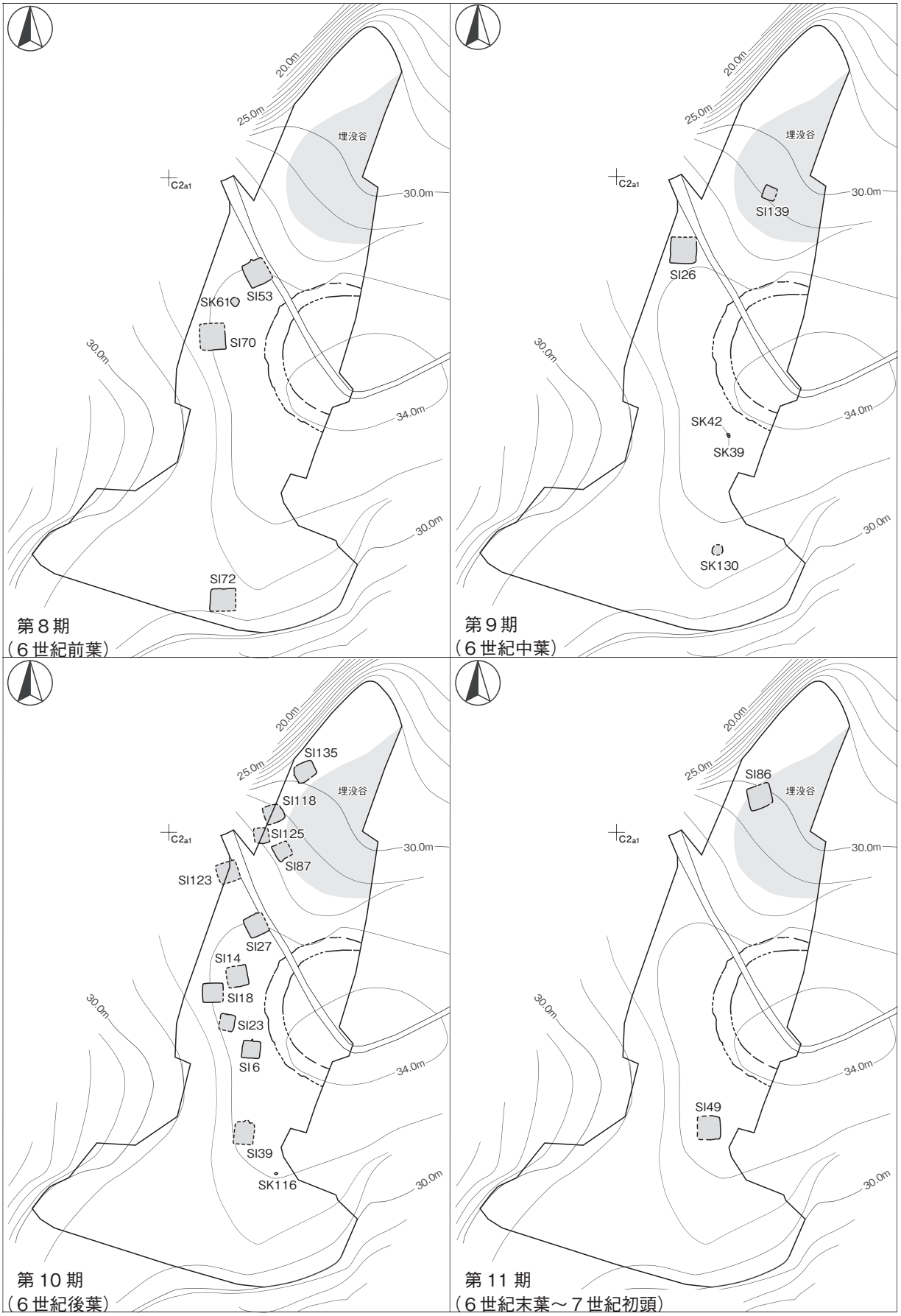
第４期　第 17・96・146 号住居跡が該当する。北部の緩斜面部に１軒，中央部の平坦な台地上に２軒の住居跡が確認されており，北部と南部の２つの単位集団が確認できる。なお，遺構が調査区外に延びていることや重複のため，規模は不明である。北部の第 146 号住居跡は，前段階の第 132 号住居跡と近接し，軸方向もほぼ同じであることから，同一集団による作り替えが想定できる。中央部の２軒は重複が著しく，規模や軸方向が明確でないため断定できないが，位置関係から同一集団とみて差し支えはないものと考えられる。



第 316 図　日向遺跡古墳時代遺構配置①



第 317 図　日向遺跡古墳時代遺構配置②



第 318 図　日向遺跡古墳時代遺構配置③

第５期　第１号墳，第７号住居跡，第 26・28・59 号土坑が該当する。第１号墳を含め，住居跡や土坑は中央部の平坦な台地上に集約される。第１号墳が築造された時期であり，第１号墳の周溝と隣接して，中形の第７号住居跡が確認されている。覆土は薄く，遺物の出土量が少ないため，第１号墳と併存していたか否かは断定できない。第 59 号土坑は，第７号住居跡と隣接していることから，住居跡との関連が想定できる。掘り込みは浅いが，甕の底部が出土していることから，貯蔵を目的とした施設の可能性がある。第 26 号土坑は，規模や形状から住居跡の貯蔵穴の可能性があるが，周囲に床やピットなど付随施設が確認できず，土坑として取り上げた。第 28 号土坑は，径 1.9 mほどで円筒形土坑としたものである，規模や形状から貯蔵穴などの可能性があるが，他の遺構との関連が明確でなく，性格については不明である。第１号墳は，東半部が調査区域外に延び，墳丘部は削平されており，周溝のみが確認されている。残存する周溝から墳丘径は 35 mほどと推定され，その形状から円墳とみられるが，築造時期から前方後円墳の可能性もある。

第６期　第 61・77 号住居跡が該当する。調査区中央部の平坦な台地上に大形住居跡１軒，南部の緩斜面部に中形住居跡１軒が確認されている。当期から南部への進出も始まり，集落も広がりを見せるようになる。また，この頃から住居跡の規模も，１辺が５～６ｍほどの中形から大形の規模の住居跡が増加してくる。第 61 号住居跡からは炉跡が４か所確認されており，当期まで炉の使用が確認できる。また同住居跡からは，調理具である甑が出土している。

第７期　第 44・54・78 号住居跡が該当する。調査区中央部に中形住居跡１軒，規模不明の住居跡１軒，南部の緩斜面部に中形住居跡１軒が確認されている。前段階に続いて中央部と南部に２つの単位集団が存在し，それぞれの単位集団が継続しているものと思われる。当該期は竈の導入期にあたり，いずれの住居跡からも竈が確認されている。第 44 号住居跡の竈は残存状況が良好であり，導入期の竈の様相がよく確認できる。竈は東壁の南寄りに付設されており，煙道部が壁外まで掘り込まれておらず，火床面と隣接した煙道部側から，円筒形土製品（DP ５）が立位で確認されている。この円筒形土製品については，県内では古墳時代後期から出現し，平安時代まで残存し，用途としては竈の構築材や支脚として利用されていることが指摘されている[6)]。その分布は県央地域から県南・県西地域に集中しており，希薄な地域にあたる県北地域に所在する当遺跡で，竈導入期に円筒形土製品が確認されたことは，注目に値する。

第８期　第 53・70 号住居跡，第 61 号土坑が該当する。調査区中央部の平坦な台地上に，大形住居跡，中形住居跡各１軒，円筒形土坑１基が確認されている。また，第 72 号住居跡も，前段階に構築された第 54 号住居跡と隣接し軸方向も同じであることから，作り替えが想定でき，当期に帰属すると考えられる。これら確認状況から，中央部と南部の２つの単位集団はそのまま存続しているものと思われる。なお，第 70 号住居跡の竈は，支脚として高坏が転用されている。

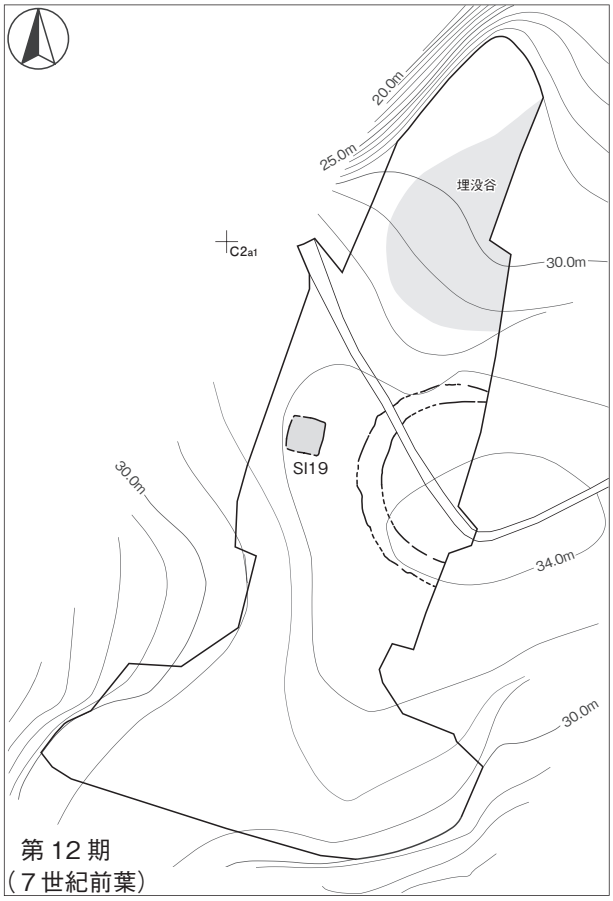
第９期　第 26･139 号住居跡，第 39･42･130 号土坑が該当する。調査区北部の緩斜面部に小形住居跡１軒，中央部の平坦な台地上に大形住居跡１軒，土坑２基，南部の緩斜面部に土坑１期が確認されている。中央部で確認されている第 26 号住居跡は，東壁に竈，南東コーナー部に貯蔵穴を付設し，近接する第 44 号住居跡（第７期），第 70 号住居跡（第８期）から続く住居構造を踏襲しており，同一集団による作り替えが想定できる。なお，第 26 号住居跡は，２条の間仕切り溝が確認されている。

第 10 期　第６・14・18・23・27・39・87・118・123・125・135 号住居跡，第 116 号土坑が該当し，住居数が急激に増加し，集落の最盛期を迎える。調査区北部の緩斜面部からに中央部の平坦な台地上にかけて，集落は広域に展開しており，遺構の分布も密である。住居跡は大形住居跡４軒，中形住居跡５軒，不明２

軒で，住居の大形化傾向がうかがえる。住居構造においては，当該期から凝灰岩の切石が焚き口部の補強材として使用された竈が出現する（第６･39 号住居跡）。主な遺物としては，第６号住居跡から鉄製の鋤先，第 27 号住居跡から石製の紡錘車が出土している。また，第 135 号住居跡からは，内面に漆が付着した土師器の坏が出土している。

第 11 期　第 49・86 号住居跡が該当し，前段階から一転して住居跡の数が急激に減少する。調査区北部の緩斜面部に大形住居跡１軒，中央部の平坦な台地上に大形住居跡１軒がそれぞれ確認されている。第 86 号住居跡の竈は，補強材として凝灰岩の切石が使用されており，前段階からの竈の構造を踏襲するものである。また，２条の間仕切り溝も確認されている。主な遺物として，第 49 号住居跡から鉄製品の鎌が出土している。

第 12 期　第 19 号住居跡が該当する。調査区中央部に位置する大形住居跡１軒のみが確認されており，当期をもって８世紀後葉に至るまで，集落は一時期断絶する。当住居跡からは，鉄製の鋤先が出土しており，第 10 期以降，鉄製の農耕具が安定して供給されていた様相がうかがえる。なお，当住居跡からは間仕切り溝３条が確認されている。他に間仕切り溝が確認された第 26 号住居跡（第９期），第 86 号住居跡（第 11 期）とともに一辺が６ｍを超える大形住居跡であることから，住居の規模が，間仕切りを設置する上での一つ目安になったことは容易に想像できる。



第 319 図　日向遺跡古墳時代遺構配置④

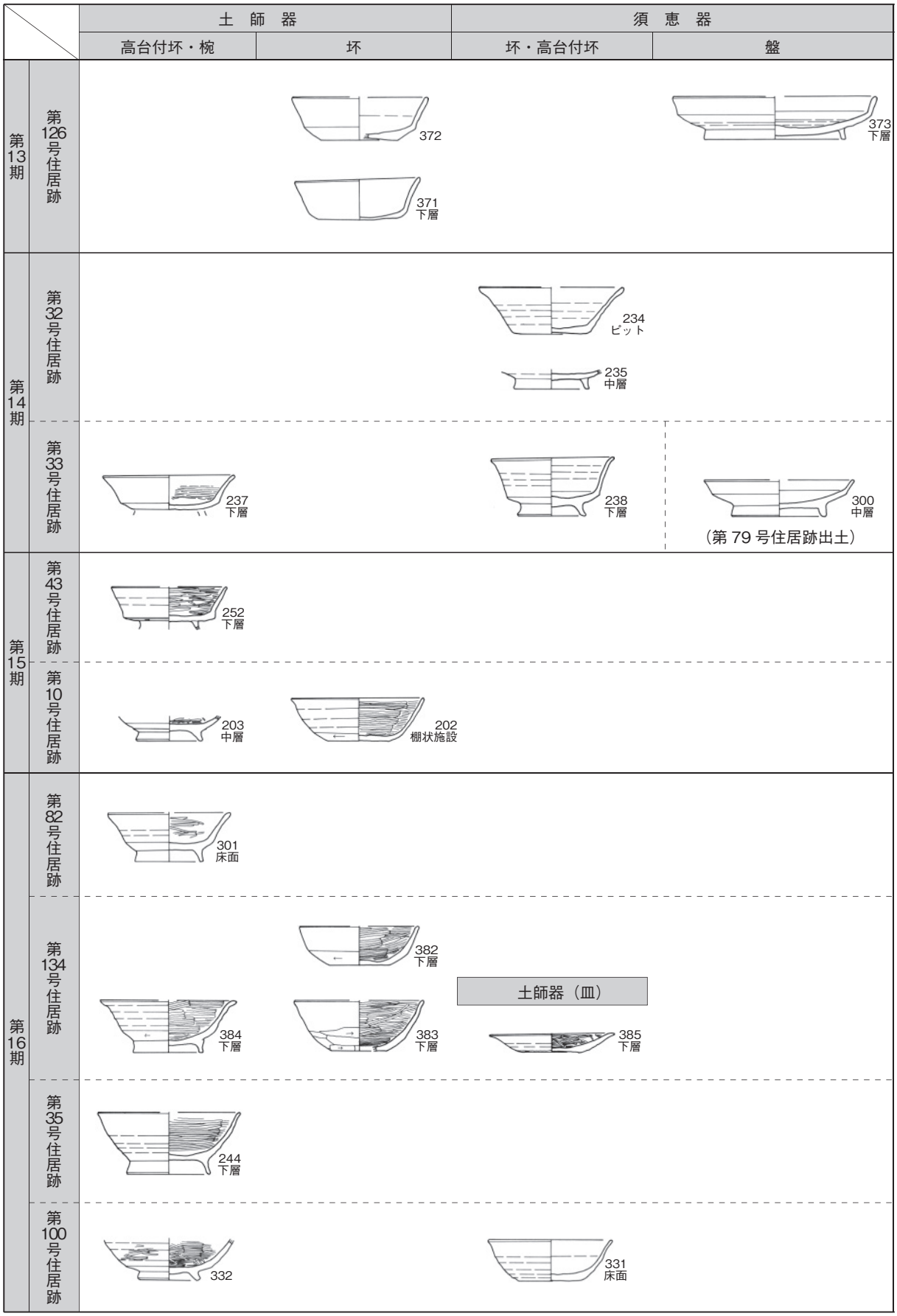
5　奈良・平安時代

当時代の遺構は，調査区中央部の平坦な台地上を中心として，北部の緩斜面部から南部の台地縁辺部にかけて広域に分布している。竪穴住居跡 93 軒，掘立柱建物跡１棟，竪穴遺構９基，焼土遺構２基，土坑 19 基，ピット群１か所を確認し，８世紀後葉から 11 世紀前葉にかけての集落跡であることが判明した。以下，出土土器の様相を分類し，各時期の様相について述べる。

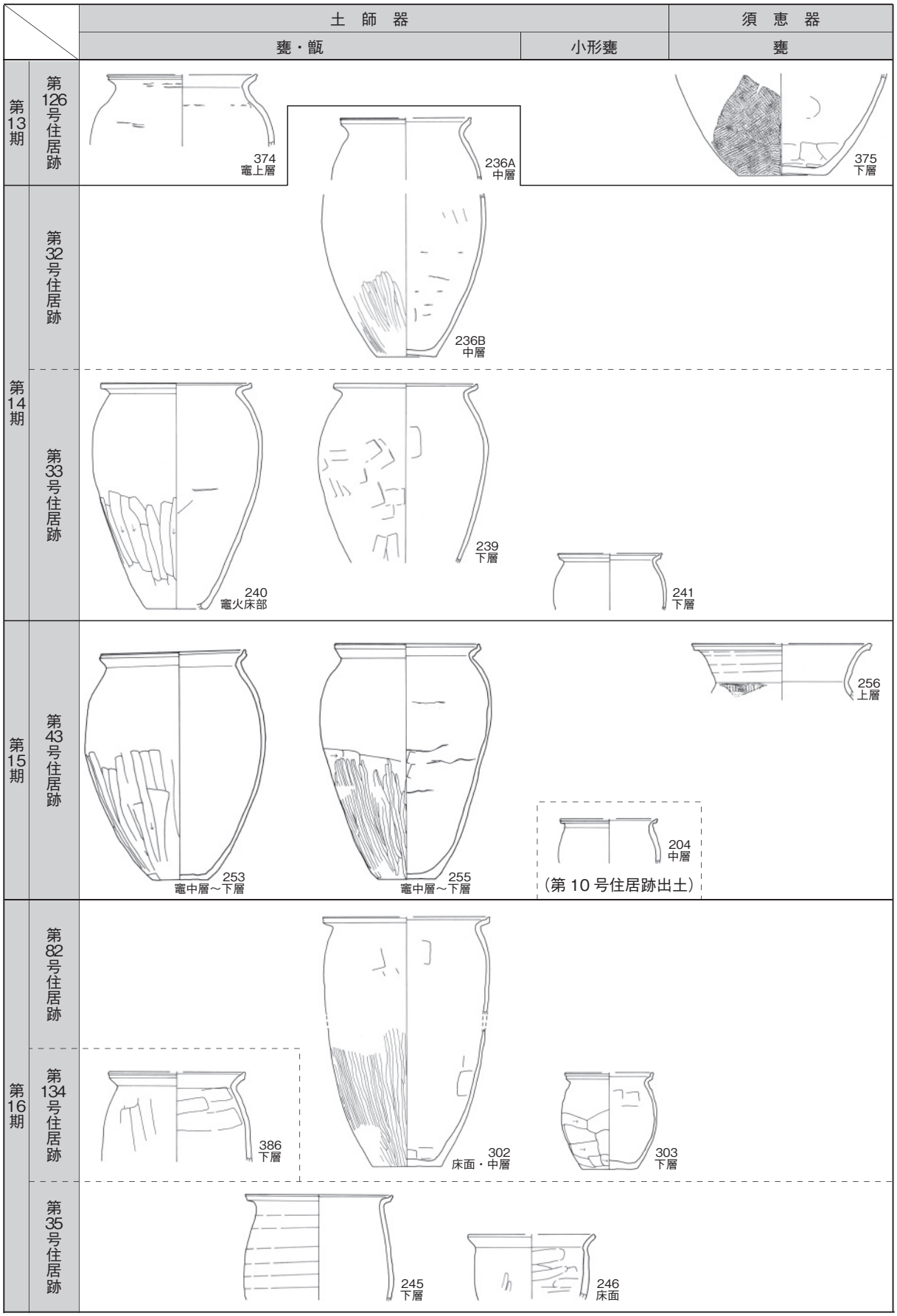
⑴　出土土器について（第 320 ～ 323 図）

８時期に分類し，各期の器種組成や器形，手法の特徴について述べる。なお，古墳時代の時期区分と混乱をさけるため，古墳時代からの通し番号を使用する。

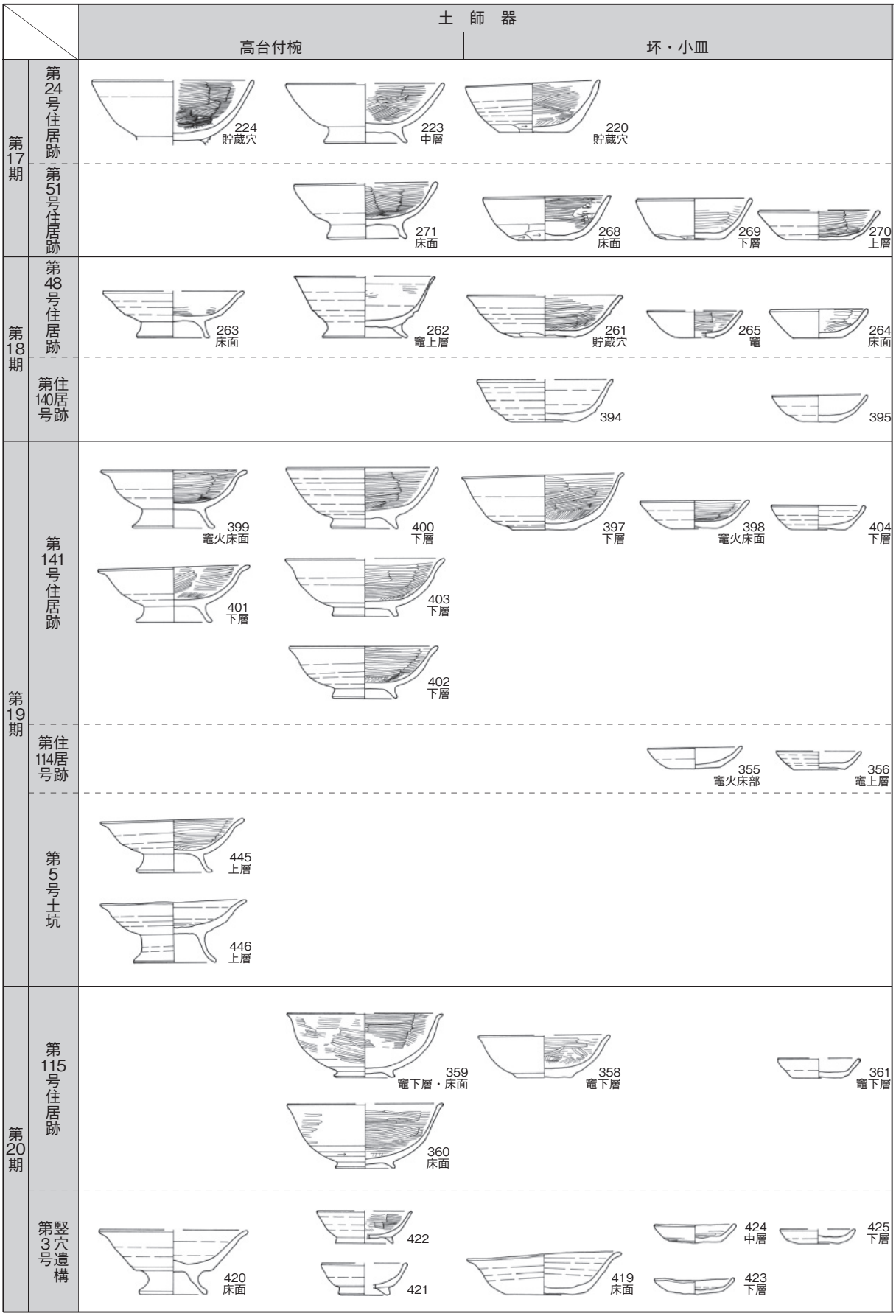
第 13 期　第 126 号住居跡の土器群が該当する。器種は，土師器の坏･甕，須恵器の盤･甕が出土している。土師器の坏（371・372）は，形状から須恵器を模倣したものと考えられ，他に第 106 号住居跡からも同様



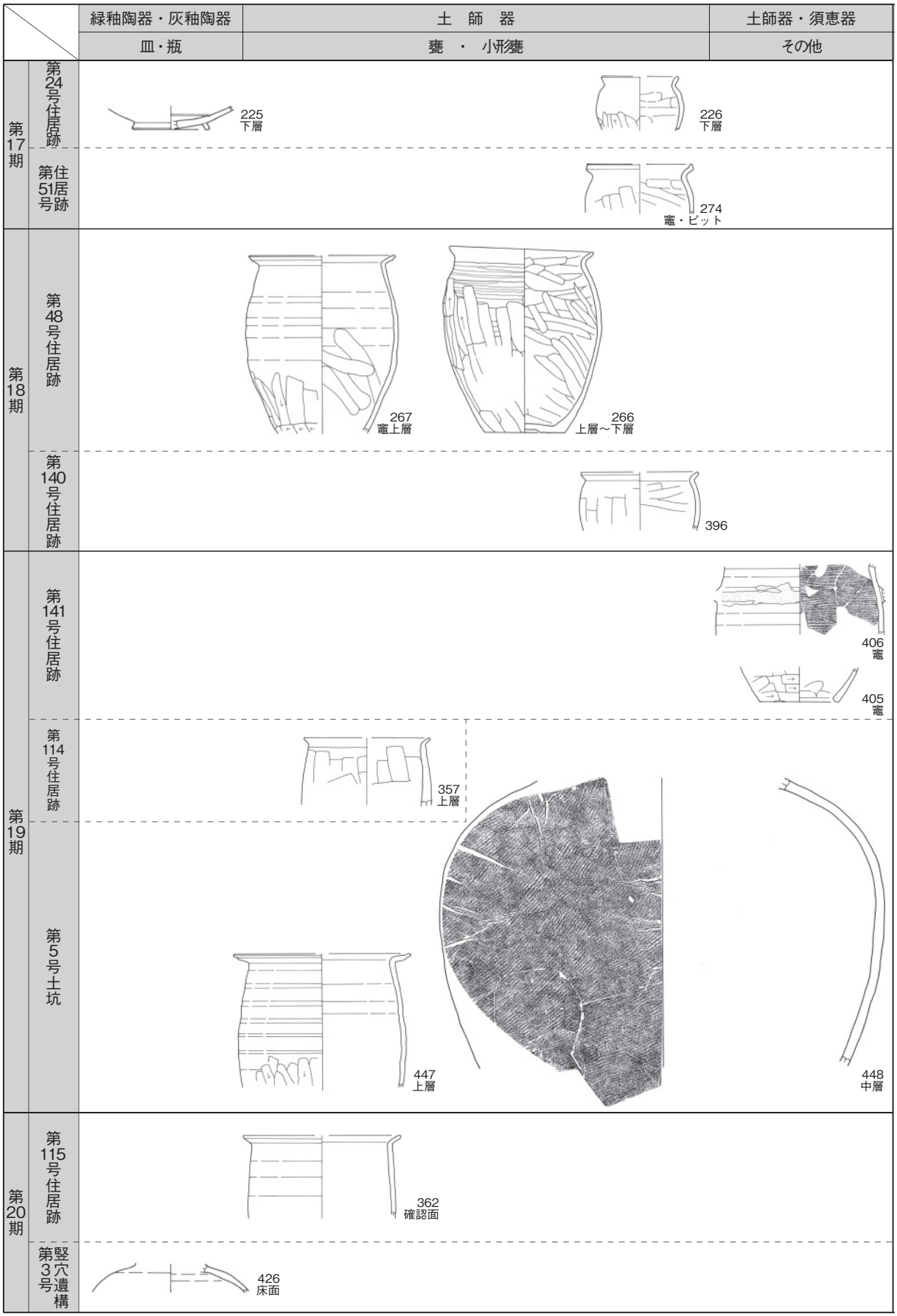
第320図　日向遺跡奈良・平安時代出土土器①　（S＝1／6）



第 321 図　日向遺跡奈良・平安時代出土土器②　（S ＝ 1 ／ 8）



第 322 図　日向遺跡奈良・平安時代出土土器③　（S ＝ 1 ／ 6 ）



第 323 図　日向遺跡奈良・平安時代出土土器④　（緑釉・灰釉陶器Ｓ＝１／６　その他Ｓ＝１／８）

の模倣坏（340・341）が出土している。土師器の甕（374）は肩部がやや張っており，口縁端部がつまみ上げられている。須恵器の甕（375）は平底で，体部には縦・横位の平行叩きが施されている。盤（373）は，口径が20cmを超える比較的大形のものである。

第14期　第32・33・79号住居跡の土器群が該当する。器種は，土師器の高台付坏・甕・小形甕，須恵器の坏・高台付坏・盤が出土している。当該期からロクロで整形された土師器が出現し，高台付坏が器種構成に加わる。須恵器の高台付坏（238）は，底部に対して器高が高めで，焼成は良好である。盤は前段階と比べるとやや小振りになる。須恵器の供膳具は，当期をもってほとんど確認できなくなる。甕(236)は，口縁端部がつまみ上げられ，体部下半がヘラ磨きされたいわゆる「常総型甕」である[7]。また，体部下半がヘラ削りされる甕も併存している（240）。

第15期　第10・43号住居跡の土器群が該当する。器種は，土師器の高台付坏・甕・小形甕，須恵器の甕が出土している。高台付坏（252）は口径が縮小傾向にあり，口縁部もあまり外反しなくなる。内面は前段階と同様にヘラ磨きが施され，黒色処理されている。また，当期からロクロで整形された土師器の坏（202）が出現する。体部下端及び底部は回転ヘラ削り調整で，内面はヘラ磨きが施され，黒色処理されている。土師器の甕は，口縁部上位の屈曲が明瞭になり，体部下半がヘラ削り調整されている甕（253）とヘラ磨き調整（255）されている甕がある。須恵器の甕（256）は，口縁部が無文で，体部には縦位の平行叩きが施されている。

第16期　第35・82・100・134号住居跡の土器群が該当する。器種は，土師器の高台付椀・皿・甕・小形甕，須恵器の坏が出土している。土師器の高台付椀（244・301・384）は，底部から体部への立ち上がりが丸みを帯びるようになり，口縁端部がやや外反している。また口径に対して器高が増し，やや深みのある作りとなっている。土師器の坏（382・383）も同様に，前段階より深みのある作りとなっている。また，体部下端及び底部の調整が，回転ヘラ削り調整（382）のほか，手持ちヘラ削り調整（383）のものも出現する。皿は当期のみ確認できる器種で，内面がヘラ磨きを施され，黒色処理されているもの(294(SI69)，385）と不調整のもの（258（SI45））とある。須恵器の坏（331）は，共伴している土師器の高台付椀（332）から，当期に帰属する土器と考えられる。色調は浅黄橙色で還元焔焼成されておらず，底部の切り離し技法は回転糸切りである。また，胎土に針状鉱物や角閃石を含むことから，在地産と考えられ，近隣に未確認の窯跡が存在するものと思われる。土師器の甕は，「常総型甕」（302）が残る一方で，ロクロで整形された在地色の強い「ロクロ甕」（245）が当期から出現する[8]。

第17期　第24・51号住居跡の土器群が該当する。器種は，土師器の坏・高台付椀，小形甕，緑釉陶器の皿が出土している。土師器の高台付椀（223・224・271）は，体部がより丸みを帯び，高台が外側に開き外反するになる。坏は，体部下端及び底部が，手持ちヘラ削り調整（220・268・269）のものが主体であるが，底部を回転ヘラ切り後，ナデ調整のみのもの（270）もある。小形甕（226）のなかには，口縁端部をつまみ上げしない甕も出現する。緑釉陶器の皿（225）は，底部は丸みを帯び，外に開く角高台を有している。胎土や器形から，猿投産で黒笹90号窯式期の製品と考えられる[9]。

第18期　第48・140号住居跡の土器群が該当する。器種は，土師器の坏・高台付椀・小皿・甕・小形甕が出土している。当該期より土師器の小皿が出現する。口径が10cm程度で，器高が3cm程度であり，内面がヘラ磨きをされているもの（264・265）と不調整のもの（395）がある。高台付椀は，浅身で高台がやや高くなるもの（263）が出現し，法量の分化が進んでいる様相がうかがえる。また，高台付椀や坏の口縁端部が外反するようになり，以降後続する時期のものは，より顕著になる。坏は，体部下端や底部の

調整が省略されるようになり，ナデ調整のみで底部の切り離し技法が確認できるものが多くなる。261 と 394 の坏は，底部にいずれも回転糸切り痕が確認できる。土師器の甕（266・267）は，口縁端部が丸みを帯びるようになり，ロクロ甕が主体となる。

第 19 期　第 114・141 号住居跡，第５号土坑の土器群が該当する。器種は，土師器の坏・高台付椀・小皿・甕・甑・羽釜，須恵器の大甕が出土している。土師器の高台付椀は，やや深身で，底径が小さく高台も低くくなるもの（400・402・403）と浅身で口縁端部が強く外反し，足高の高台がつくもの（399・401・445･446）とあり，後者は内面が不調整のもの（446）も出現する。坏（397）は，口縁端部が強く外反し，体部下端や底部の調整は省略され，底部には回転糸切り痕が確認できる。小皿（355・356・398・404）は，法量が縮小傾向にあり，全体的に扁平な印象を受けるようになる。なお，底部の切り離し技法は，いずれも回転糸切りである。土師器の甕は胴長で，口縁部が外側に開き強く屈曲するロクロ甕（447）と口縁部が短く屈曲する甕（357）とがある。その他，出土量は少ないが，羽釜（406）や甑（405）などの調理具も認められる。須恵器の大甕（448）は，体部に斜位の平行叩きが施されている。他の出土土器とは時期差があり，混入でいずれからか持ち込まれた可能性がある。

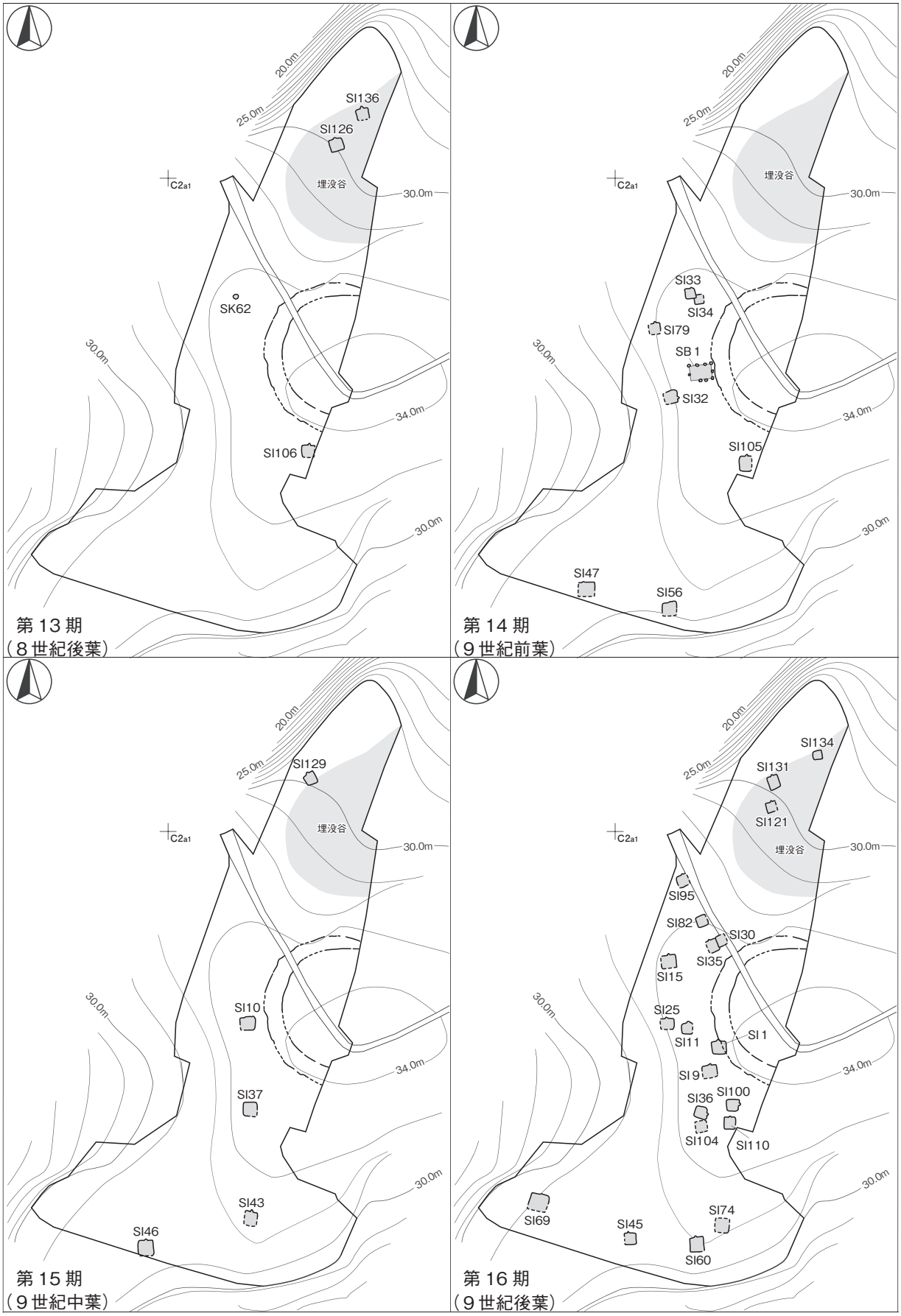
第 20 期　第 115 号住居跡，第３号竪穴遺構の土器群が該当する。器種は，土師器の坏・高台付椀・小皿・甕，須恵器の坏，灰釉陶器の瓶が出土している。土師器の高台付椀は，浅身で内面が不調整の足高高台のもの（420），外・内面ともにヘラ磨きが施され，ハの字に開く低い高台のもの（359・360），口径が 10cm ほどで椀型の小振りのもの（421・422）に大別でき，法量の分化が進んでいる。坏は内面にヘラ磨きが施されるもの（358）と不調整のものと（419）と存在するが，総じて内面のヘラ磨き調整が省略される傾向にある。小皿は口径が 10cm以下で，器高が２cmほどの小振りのものが多くなり，扁平化している。底部の切り離し技法は，423・424 が回転ヘラ切りで，425 が回転糸切りである。甕（362）は寸胴形のロクロ甕で，口縁部が短く屈曲する。また，共伴している灰釉陶器（426）は瓶類（広口瓶ヵ）で，猿投産の折戸 53 号窯式期以降の製品と考えられる。

奈良・平安時代の出土土器については，８時期の変遷が認められる。各期の年代的位置づけは，周辺遺跡の土器様相[10]や施釉陶器の年代観に，遺構の重複関係を加味し，**第 13 期**が８世紀後葉，**第 14 期**が９世紀前葉，**第 15 期**が９世紀中葉，**第 16 期**が９世紀後葉，**第 17 期**が 10 世紀前葉，**第 18 期**が 10 世紀中葉，**第 19 期**が 10 世紀後葉，**第 20 期**が 11 世紀前葉に比定できる。

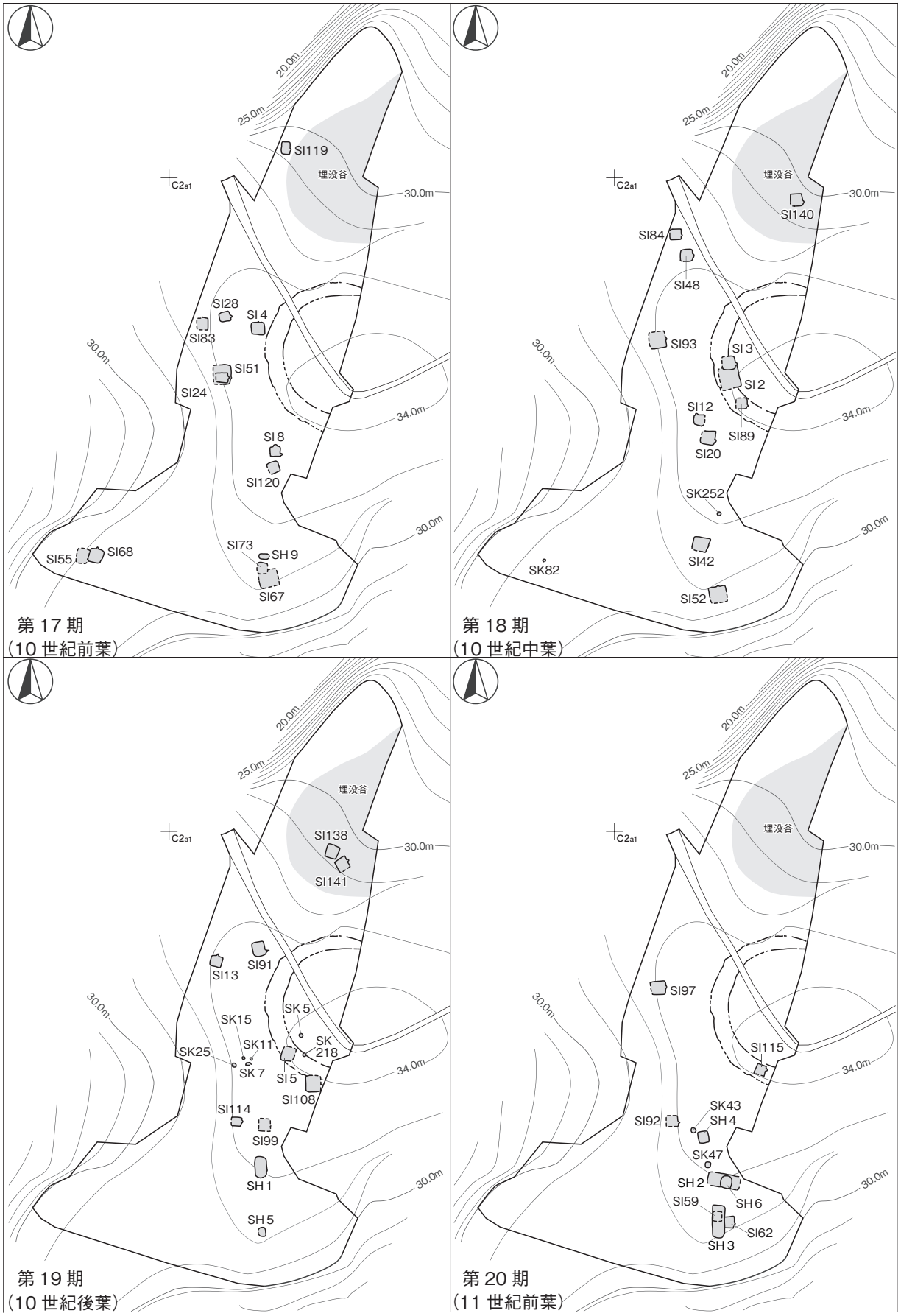
(2)　集落の変遷について（第 324・325 図）

ここでは前項の時期区分に従って，出土遺物や住居構造にも一部触れながら，当該期の集落の変遷について述べる。

第 13 期　第 106・126・136 号住居跡 , 第 62 号土坑が該当する。調査区北部の緩斜面部に住居跡２軒，中央部の平坦な台地上に住居跡１軒，土坑１基が確認されており，住居跡の規模は，一辺が 3.5 ～ 3.9 mほどである。北部の住居は緩斜面部に位置する埋没谷の上面に，中央部の住居は第１号墳と隣接する台地上に構築されており，占地に違いがみられる。出土遺物に顕著な違いは確認できないが，第 136 号住居跡からは，鉄製品の鎌が出土しており，農業生産に従事する上で，耕作地に近い谷部を居住地にした可能性がある。第 126 号住居跡の竈には，袖部の先端に凝灰岩の切石が使用されており，古墳時代後期以来の構築方法が踏襲されている。



第324図　日向遺跡奈良・平安時代遺構配置①



第325図　日向遺跡奈良・平安時代遺構配置②

第 14 期　第 32 ～ 34・56・79・105 号住居跡，第 1 号掘立柱建物跡が該当する。また，出土遺物からは時期が限定できなかったが，第 56 号住居跡と近接し，軸方向がほぼ同じ第 47 号住居跡も，当期に帰属するものと考えられる。調査区中央部の平坦な台地上に住居跡 5 軒，掘立柱建物跡 1 棟，南部の緩斜面部に住居跡 2 軒が確認されている。住居跡の規模は，一辺が 2.7 mほどの小形の住居跡（第 34 号住居跡）から 4.2 mほど中形の住居跡（第 105 号住居跡）まで存在し，住居間の格差が広がっている。集落の中心は平坦な台地上に移り，住居数も増加している。第 1 号掘立柱建物跡と第 32 号住居跡は軸方向が同一であり，隣接していることから併存していたと考えられる。また，第 33 号住居跡と第 34 号住居跡は重複しており，第 33 号住居が掘り込んでいる。竈は北壁に付設されているものが主体であるが，一部に東壁に付設されている住居跡も確認できる（第 32・105 号住居跡）。第 32 号住居跡の竈は，凝灰岩の切石が構築材として使用されている。また，第 105 号住居跡は，残存状況は不良であるが竈が 2 か所確認されており，作り替えの可能性がある。当期において，鉄製品はほとんど出土していないが，第 33・79・105 号住居跡からは砥石が確認されており，一定量の製品が流通していたと推測できる。

第 15 期　第 10・37・43・46・129 号住居跡が該当する。前段階で集約化傾向にあった集落は，一転して拡散傾向に転じ，南北に広がりをみせる。住居跡は，調査区北部の緩斜面部から 1 軒，中央部の平坦な台地上から 2 軒，南部の緩斜面部から 1 軒，台地縁辺部から 1 軒が確認されている。住居跡の規模は一辺が 3.5 ～ 4.5 mほどで，やや拡大する。第 10 号住居跡は，竈の両側に棚状施設があり，西壁と平行する幅 1.4 mほどの床面が一段高くなっており，ベット状を呈している。第 37 号住居跡の竈は東壁に付設されており，その他の住居跡は北（西）壁に付設されている。また，竈に凝灰岩の切石が構築材として使用されている住居跡は，第 10・43・46 号住居跡で，その割合が増加している。主な遺物として，第 129 号住居跡から生産具である石製の紡錘車が出土している。

第 16 期　第1・9・11・15・25・30・35・36・45・60・69・74・82・95・100・104・110・121・131・134 号住居跡が該当し，住居跡が最も多く確認されている時期である。住居跡は，北部の緩斜面部から 3 軒，中央部の平坦な台地上から 13 軒，南部の緩斜面部から台地縁辺部にかけて 4 軒が確認されている。第 30 号住居跡と第 35 号住居跡は重複しており，第 30 号住居が掘り込んでいる。重複している住居跡や密接する住居跡（第 36・104 号住居跡）が存在することから，同一期内においても多少の時期差が生じているものと思われる。住居跡の規模は，一辺が 4 m前後のものが主体であるが，第 134 号住居跡のように 1 辺が 2.7 mほどの小形の住居跡も存在する。第 134 号住居跡は，調査区北部の埋没谷に面する緩斜面部に位置し，集落の北端部にあたる。南東コーナー部の覆土上層から床面にかけて焼土が確認されており，コーナー部に竈が作られていた可能性がある。住居跡の規模や竈の位置に特異性が認められることから，住居以外の施設とも考えられる。当期における竈の位置は，北壁に付設されている住居跡が主体であるが，東壁に付設されている住居跡（第 36・100・104 号住居跡）も増加する。竈の構築材として凝灰岩の切石が使用されている，もしくはその可能性がある住居跡は，竈が確認できた 17 軒の住居跡のうち 5 軒である。なお，第 36・60 号住居跡は，竈と炉が併設されている。第 1 号住居跡は，第 1 号墳の周溝の覆土を掘り込んで構築されており，当期にはすでに周溝が埋没していたことがうかがえる。主な遺物として，第 1 号住居跡から銅製品の鞘尻金具，鉄製品の刀子，第 45・60 号住居跡から灰釉陶器片，第 110 号住居跡から鉄製品の鎌，第 121 号住居跡から石製品の紡錘車が出土している。

第 17 期　第 4 ・24・28・51・55・67・68・73・83・119・120 号住居跡，第 9 号竪穴遺構が該当する。また，後述するが，北壁と東壁に竈が付設されている第 8 号住居跡も当期に帰属する可能性がある。北部の

緩斜面部から住居跡１軒，中央部の平坦な台地上から住居跡７軒，南部の緩斜面部から台地縁辺部にかけて４軒の住居跡と竪穴遺構１基が確認されている。住居跡の数はやや減少するものの，依然として確認されている住居跡の数は多い。重複する住居跡も少なからず存在し（第 24・51 号住居跡，第 55・68 号住居跡，第 67・73 号住居跡），前段階と同様に，同一期内においても多少の時期差が生じているものと思われる。住居跡の規模は，第８・28 号住居跡のように１辺が３ｍほどの小形のものが増える一方で，第 51 号住居跡のように一辺が 5.6 ｍほどのやや大形の住居跡も存在している。竈は，東壁に付設される住居跡が主体となり，凝灰岩の切石が使用されている住居跡は４軒（第４・28・83・120 号住居跡）である。第８号住居跡は，北壁と東壁から竈が２か所確認されており，竈の作り替えの可能性がある。竈が北壁から東壁に移行する段階の住居と考えられ，当期に帰属する可能性がある。主な遺物として，第 119 号住居跡から灰釉陶器片と鉄製品の刀子，第 51 号住居跡から緑釉陶器片（皿），鉄製品の紡錘車，内面に漆が付着した土師器の坏，須恵器の円面硯，第 67・68 号住居跡から灰釉陶器片が出土している。

第 18 期　第２・３・12・20・42・52・48・84・89・93・140 号住居跡，第 82・252 号土坑が該当する。北部の緩斜面部から住居跡１軒，中央部の平坦な台地上から住居跡８軒，南部の緩斜面部に２軒の住居跡と土坑１基，台地縁辺部に土坑１基が確認されている。第２・３・89 号住居跡は，古墳の周溝の覆土上面に構築されており，古墳の存在は意識されていたものの，周溝は完全に埋没し，すでに集落の一部に取り込まれていたのであろう。住居跡の規模は，前段階の傾向とあまり変わりはないが，第２号住居跡は１辺が６ｍ以上あり，突出している。周溝の覆土を掘り込み構築されており，掘り込みが浅いため，形状は明確でないが，その規模や竈が確認できなかったことから，次期以降に出現する６～９ｍほどの大形の竪穴遺構（第１～３号竪穴遺構）との関連が想定される。竈は一部の例外を除き，東壁に付設されており，凝灰岩の切石が使用されている住居跡は４軒（第 20・52・84・93 号住居跡）である。主な遺物として，第２号住居跡から墨書土器２点（水ヵ），第３号住居跡から灰釉陶器片，鉄製品の刀子，第 20 号住居跡から緑釉陶器片，煤が付着した小皿，第 93 号住居跡から灰釉陶器片が出土している。

第 19 期　第５・13・91・99・108・114・138・141 号住居跡，第１・５号竪穴遺構，第５・７・11・15・25・218 号土坑が該当する。北部の緩斜面部から住居跡２軒，中央部の平坦な台地上から住居跡６軒と土坑６期，南部の緩斜面部に住居跡２軒が確認されている。住居跡の規模は，一辺が４ｍを超えるものは少なくなり，やや縮小する。また，住居跡の軸方向に統一性が無くなり，方位軸に対して対して，振り幅が大きい住居跡（第 91・138・141 号住居跡）が増加している。竈も東壁に付設されているものが主体であるが，北壁や北東壁に付設されている住居跡も少なくない。竈の構築材として凝灰岩の切石が使用されている住居跡は，竈が確認された住居跡７軒のうち，第 13 号住居跡を除く６軒で，凝灰岩が竈を構築する上で欠かせない部材になっている。また，第 13 号住居跡の竈も，焚口部の補強材として板状の雲母片岩が袖部の先端に使用されており，竈の構築方法については集落内で共通認識が図られていた様相がうかがえる。なお，第 13 号住居跡は竈に炉が併設されており，砥石や台石などの出土遺物から，住居兼工房跡の可能性がある。また，当期から出現する大形の竪穴遺構（第１号竪穴遺構）も，規模や形状から工房跡の可能性があるが，いずれの遺構も生産の対象物を特定するには至らなかった。調査区中央部から確認されている土坑群は，第５・７・15・25 号土坑の出土土器が遺構間で接合しており，同時期に機能していた可能性がある。それぞれの土坑からは残存率の高い土器が出土していることから，廃棄土坑の可能性がある。第 15 号土坑からは，底部が意図的に割られたと想定できる須恵器の大甕が，据えられた状態で出土している。何らかの儀礼に使用された可能性があるが，詳細は不明である。主な遺物として，第 91 号

住居跡から鉄鏃（雁又式），第13号住居跡から鉄製品の短刀が出土している。

第20期　第97・115号住居跡，第２～４号竪穴遺構，第43・47号土坑が該当する。また，重複関係から第59・62・92号住居跡も当期に帰属する可能性がある。中央部の平坦な台地上から住居跡３軒と竪穴遺構１基，土坑１基，南部の緩斜面部に住居跡２軒と竪穴遺構３基，土坑１基が確認されている。住居跡の数は激減し，当期をもって集落は終焉を迎える。住居跡の規模は前段階と同様にやや小形で，竈は東壁に付設されている。また，第97号住居跡は，竈の構築材として凝灰岩が使用されている。長軸が９ｍを超える大形の遺構である第２・３号竪穴遺構は，規模や形状から工房跡の可能性があり，第３号竪穴遺構からは炉が確認されていることや金床石とみられる石も出土していることから，鍛冶関連の工房跡が想定できる。主な遺物として，第97号住居跡から土製紡錘車，鉄鏃，第115号住居跡，第２号竪穴遺構から灰釉陶器片，第３号竪穴遺構から鉄製品の刀子，灰釉陶器片が出土している。

6　中世・近世

中世に至って当地は墓域として，土地地用されている。調査区中央部の平坦な台地状から，２基の墓坑が確認されている。２基の墓坑は隣接しており，時期差はあまりないものと考えられ，第１号墓坑から出土している銭貨（永樂通寶）から，時期は室町時代と考えられる。また，調査区中央部から南部にかけて確認されているＬ字状に屈曲する溝は，出土遺物から時期は江戸時代まで下るものと考えられる。性格については，何らかの区画溝と考えられるが，同時期の遺構が他に確認されていないため，詳細は不明である。

7　遺跡の性格について

当遺跡は，縄文時代以降，断続的ながら近世に至るまで人々の営みが確認できるが，主体となるのは継続的に集落が営まれた古墳時代及び奈良時代から平安時代である。ここでは，当該期の集落から遺跡の性格について考えてみたい。

古墳時代の集落は，４世紀前葉に始まり７世紀前葉に至るまで，住居数の増減はあるものの継続的に営まれている。４世紀前葉の第150号住居跡からは，弥生土器の壺が共伴している。４世紀代の集落は１，２軒と小規模であり，当集落は自然発生的な村落と言えよう。５世紀代には，墳丘径が35ｍほどと推定される第１号墳が築造される。周溝のみの確認ではあるが，周溝からは計画的な人員の配置のもとで，当墳が築造された様相が確認できる。久慈川流域の同時期の古墳として，市内の梵天山古墳群に属する阿弥陀塚古墳があり，墳丘径は40ｍほどの円墳とされ，時期は表採遺物の円筒埴輪片から５世紀前半と考えられている[11]。埴輪の有無などに違いがあり，単純比較はできないが，当遺跡の第１号墳も規模の点では遜色がなく，計画的に人員を配置し築造している点など，相当数の人員を動員できる有力者が当地にも存在したことが想定できる。なお，調査区内で確認できた古墳は１基のみであるが，調査区と近接する北東側の台地上には，横穴式石室の古墳１基が現存している[12]。亀作川をのぞむ舌状台地の縁辺部は周囲からの景観も良く，中期以降も後期に至るまで，複数の古墳が築造されていたと考えられる。

第１号墳が築造された後も同墳に隣接して住居が構築され，集落は継続している。古墳時代において，集落の居住域と古墳の築造される墓域が重複して確認されることは少なくないが，概して古墳の築造後は，集落が確認できなくなるが一般的である。そこには居住域と墓域という概念が存在するものと思われる。当遺跡の確認状況は一見すると，居住域と墓域という概念が希薄な印象を受けるが，古墳と住居は一定の距離を

保って構築されており，第１号墳が位置する中央部の台地は，集落の人々にとって侵かすことができない神聖な場所と思われる。古墳とその後に続く時期の住居跡とが隣接して確認されている状況は，土地利用ができる台地が限られている当地の地形的な制約に起因するものと思われる。

古墳が築造された後，５世紀末には集落内に竈が導入され，住居数も増加傾向に転じる。６世紀代に入って，農耕具である鎌や鋤先などの鉄製品が確認できるようになる。それらの製品を配分できる有力者層の存在がうかがえ，飛躍的に作業の効率化が進み，集落が繁栄したものと考えられる。６世紀後葉は，古墳時代において住居跡が最も多く確認された時期であり，規模は大形化する傾向にある。その後は，一転して住居数は減少し，７世紀前葉をもって，集落は一時期断絶する。

以上，各時期の様相から古墳時代の集落は，自然発生的に形成された集落が，やがて有力者層に取り込まれ，ある程度の力を持った有力者のもと，農耕に従事している単位集団のムラとは言えるのではないだろうか。

古墳時代以降，しばらく集落は断絶し，８世紀後葉になって再び集落が形成されるようになる。９世紀代になり住居数も著しく増加し，掘立柱建物も構築されている。ところが，住居数は増加傾向にある一方で，掘立柱建物は９世紀前葉の１棟のみである。掘立柱建物は倉庫として使用されたものと考えられ，貯蔵域が調査区外に存在したとも想定できるが，このような事例は，ひたちなか市の武田西塙遺跡[13]の集落の様相と類似している。武田西塙遺跡は，200 軒以上の住居跡が確認されている７世紀から 11 世紀にかけての集落である。確認された掘立柱建物跡は５棟にも満たず，継続して構築されることはなく単発的であり，水田経営の不安定な状態を示唆するものと考えられている[14]。

９世紀後葉には集落は広域に展開するようになり，住居数もピークを迎える。この頃から灰釉陶器・緑釉陶器が集落内にもたらされるようになり，鉄製品の出土量も増加している。また，第１号ピット群から出土し，底部に「日奈田」と墨書された土器も，器形や調整から当期の土器と考えられ，当地が古代から「ひなた」と呼称されていたことを証明する好資料となるであろう。律令期において当地は久慈郡世矢郷に属し，「日奈田」は郷内の村落名と考えられる。なお，墨書土器は，他に２点（水ヵほか）しか出土しておらず，「日奈田」の墨書土器を始め，刀子や円面硯など，集落内で文字が使用されていた痕跡は確認できるものの，出土量が極めて少ない。

10 世期代に入っても，集落は一定の規模を保ちながら継続するが，10 世期後葉以降に長軸が６～９ｍほどの大形の竪穴遺構が出現する。この竪穴遺構は，生産の対象物を明確にできなかったが，規模や形状から工房跡の可能性がある。また，当期の第 13 号住居跡を含め，竈と炉が併設して確認されている住居跡が，９世期後葉以降５軒確認されている。これらの住居跡も，工房としての機能を兼ね備えていた可能性があり，農耕に従事するかたわらで何らかの生産を行っていたもの考えられる。

10 世期後葉になると，住居の竈の位置や軸方向に統一性は無くなる。こうした状況は，律令体制の崩壊とは無縁ではないものと考えられる。その後，住居数は激減し，11 世期前葉に集落は終焉を迎える。

当該期の集落は，継続的に営まれ，灰釉陶器や緑釉陶器，鉄製品などが一定量流通していることから，有力者の保護のもと発展したと言えよう。しかしながら，掘立柱建物が単発的にしか構築されていないことから，その水田経営は決して安定したものではなく，生活手段として新たな生産体制を構築し，工房跡の可能性がある大形の竪穴遺構が出現したのではないだろうか。

8　おわりに

今回の調査にて，当遺跡の集落は，古墳時代から平安時代に至るまで，一時期の断続期をはさみながら継続的に営まれていることが判明した。また，古墳時代中期には，有力者の存在をうかがわせる古墳が築造されており，古墳と集落の関係を考えるうえで，貴重な調査事例になるものと考えられる。当地においては，当該期の集落の調査事例は少なく，今回の調査成果が，当地における集落の様相を解明をうえで，一助となれば幸いである。

註

1）鈴木素行「関山式土器の「伜」 －関東地方東部における黒浜式の土器編年を考える・まえに－」『茨城県考古学協会誌』第８号　1996 年７月

2）常陸太田市史編さん委員会編『常陸太田市史　通史編　上巻』常陸太田市役所　1984 年３月

3）海老澤稔「茨城県における弥生後期の土器編年」『東日本弥生時代後期の土器編年』第９回　東日本埋蔵文化財研究会　2000 年１月

4）浅井哲也「古墳時代の土器－常陸の古墳時代後期の土器編年確立にむけて－」『紀要』第 34 号　茨城県立太田第一高等学校　1998 年３月

5）a 浅井哲也「茨城県における古墳時代前期の土器」『領域の研究　－阿久津久先生還暦記念事業実行委員会－』阿久津久先生還暦記念事業実行委員会　2003 年４月

b 樫村宣行「和泉式土器編年考－茨城県を中心として－」『研究ノート』第５号　茨城県教育財団　1996 年６月

c 樫村宣行・浅井哲也「常陸地域の 鬼高式土器－久慈川･那珂川流域を中心として－」『月刊考古学ジャーナル』 ニュー･サイエンス社　1992 年１月

6）駒澤悦郎「古代の竈をめぐる諸問題－茨城県内における円筒形土製品の出現と消滅について－」『年報 28〈平成 20 年度〉』財団法人茨城県教育財団　2009 年７月

7）樫村宣行「「常総型甕」編年小考－茨城県南部を中心として－」『列島の考古学』渡辺誠先生還暦記念論集刊行会　1998 年２月

8）佐々木義則他「武田石高遺跡　奈良・平安時代編」『(財）ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告』第 19 集　2000 年１月

9）齋藤孝正『日本の美術 409　越周窯青磁と緑釉・灰釉陶器』至文堂　2000 年６月

10）a 茨城県立歴史館『茨城県史料＝考古資料編　奈良・平安時代』茨城県　1995 年３月

b 浅井哲也「茨城県内における奈良・平安時代の土器（Ⅰ)」『研究ノート　創刊号』財団法人茨城県教育財団　1992 年７月

11）稲田健一「茨城県久慈川・那珂川流域の前期～中期初頭の古墳」『《シンポジウム》前期古墳の初段階と大型古墳の出現発表要旨資料』東北・関東前方後円墳研究会　2009 年２月

12）調査区と近接する民家の敷地内に，古墳が１基存在している。石室が開口しており，横穴式石室であることがわかる。住民によれば，石室は古くから開口していたようで，防空壕や倉庫として利用されていたこともあったようである。

13）佐々木義則「武田西塙遺跡　奈良・平安時代編」『(財）ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告』第 24 集　2002 年３月

14）佐々木義則「武田遺跡群からみた奈良・平安時代の集落」『武田遺跡群　総括・補遺編』ひたちなか市教育委員会・ひたちなか市文化・スポーツ振興公社　2010 年３月

参考文献

樫村宣行「那珂川以北を中心とする「切石組み竈」の一考察」『領域の研究　－阿久津久先生還暦記念事業実行委員会－』阿久津久先生還暦記念事業実行委員会　2003 年４月

写　真　図　版

墨書土器「日奈田」（赤外線写真）

調査区全景

調査区全景（北西上空から）

調 査 前 現 況

第 1 号地点貝塚
土 層 断 面

第127号住居跡
遺物出土状況

第　1　号　墳
遺物出土状況

第　1　号　墳
遺物出土状況

第　1　号　墳
遺物出土状況

第１号墳周溝
中央部完掘状況

第１号墳周溝
南部完掘状況

第６号住居跡
遺物出土状況

第 6 号住居跡
竈構築材出土状況

第 6 号住居跡
完　掘　状　況

第 17 号住居跡
貯蔵穴遺物出土状況

第18・70号住居跡
完　掘　状　況

第19号住居跡
鋤先出土状況

第19号住居跡
完　掘　状　況

第26・48号住居跡
完　掘　状　況

第27・53・82・94号住居跡
完　掘　状　況

第44号住居跡
貯蔵穴遺物出土状況

第44号住居跡
完掘状況

第44号住居跡
竈完掘状況

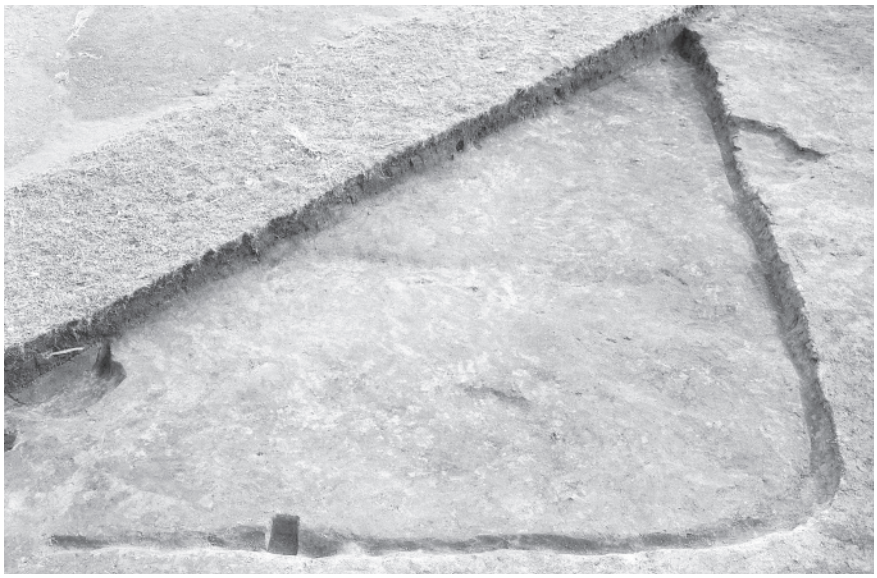
第70号住居跡
遺物出土状況

第70号住居跡
竈完掘状況

第86号住居跡
遺物出土状況

第86号住居跡
完掘状況

第113号住居跡
遺物出土状況



第113号住居跡
完掘状況

第118・147号住居跡
完掘状況

第132号住居跡
遺物出土状況

第132号住居跡
完掘状況

第146号住居跡
遺物出土状況

第 23 号　土　坑
遺 物 出 土 状 況

第 30 号　土　坑
遺 物 出 土 状 況

第 26 号　土　坑
遺 物 出 土 状 況

第 116 号 土 坑
遺 物 出 土 状 況

第 1 号 住 居 跡
鞘尻金具出土状況

第 1 号 住 居 跡
竈凝灰岩出土状況

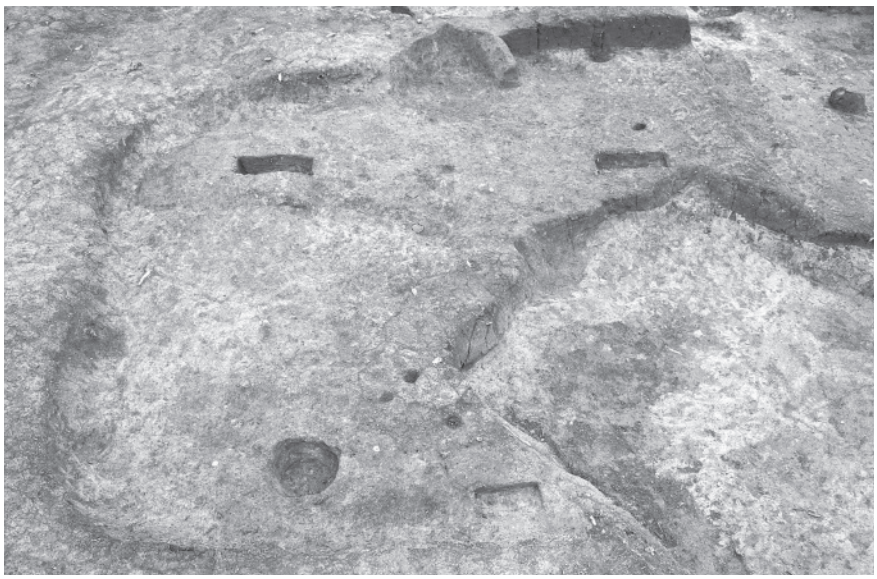
第１号住居跡
完　掘　状　況

第２号住居跡
遺物出土状況

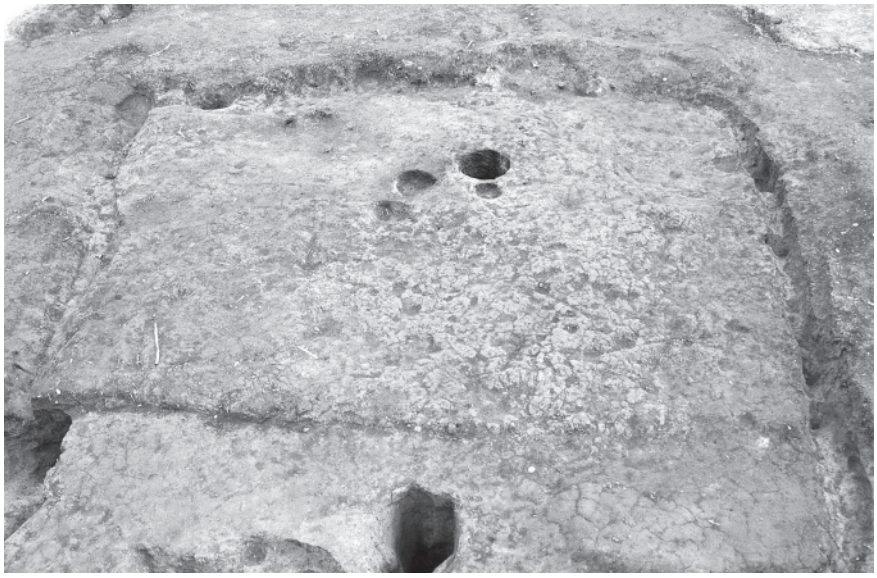
第４号住居跡
完　掘　状　況

第10号住居跡
遺物出土状況

第10号住居跡
完掘状況



第11号住居跡
完掘状況



第20号住居跡
完掘状況

第28号住居跡
竈遺物出土状況

第33号住居跡
遺物出土状況

第33号住居跡
竈遺物出土状況

第33号住居跡
完掘状況

第34号住居跡
完掘状況

第37号住居跡
完掘状況

第43号住居跡
竈遺物出土状況

第43号住居跡
竈完掘状況

第43号住居跡
完掘状況

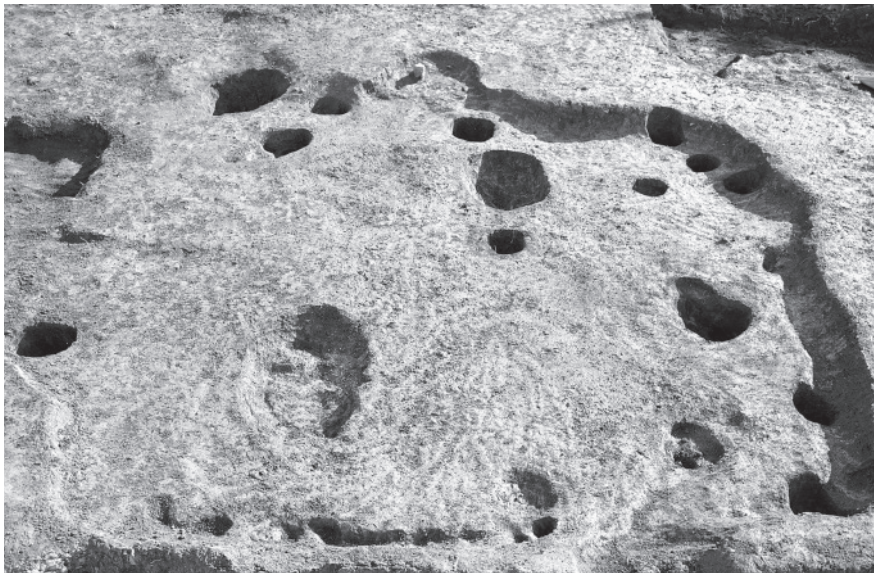
第46・47号住居跡
完掘状況

第52号住居跡
完掘状況

第79号住居跡
完掘状況

第91号住居跡
鉄鏃出土状況

第92号住居跡
完掘状況



第100号住居跡
完掘状況

第105号住居跡
遺物出土状況

第106号住居跡
完掘状況

第110号住居跡
完掘状況

第119号住居跡
刀子出土状況

第126号住居跡
遺物出土状況

第126号住居跡
竈凝灰岩出土状況

第126号住居跡
完掘状況

第129号住居跡
完掘状況

第134号住居跡
遺物出土状況

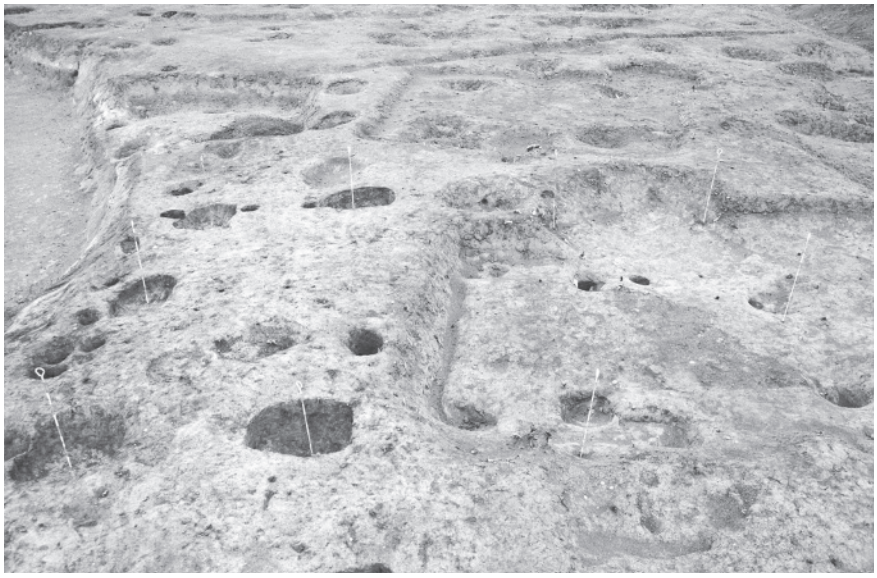
第134号住居跡
完掘状況

第138・139号住居跡
完掘状況

第140号住居跡
完掘状況

第140号住居跡
竈完掘状況

第144号住居跡
完掘状況



第１号掘立柱建物跡
完　掘　状　況

第１号竪穴遺構
完　掘　状　況

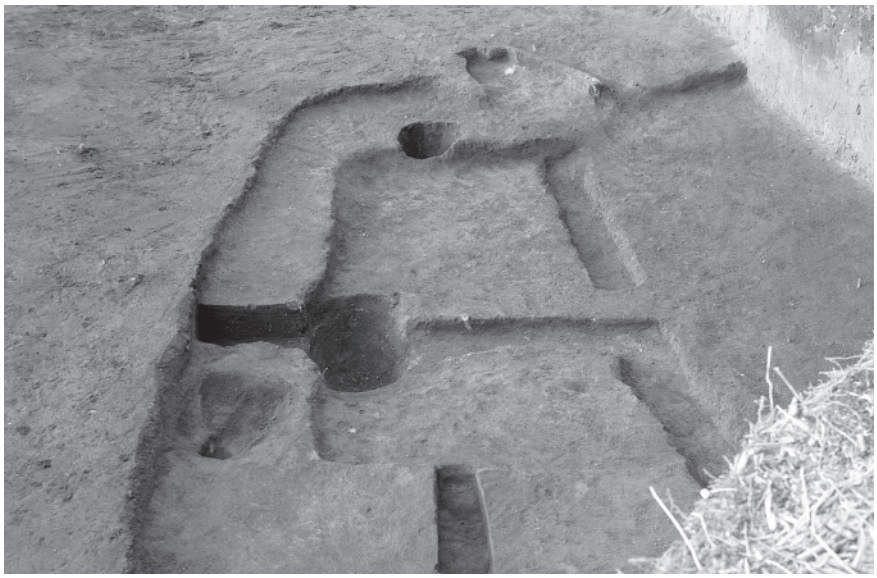
第２号竪穴遺構
遺物出土状況

第３号竪穴遺構
遺物出土状況

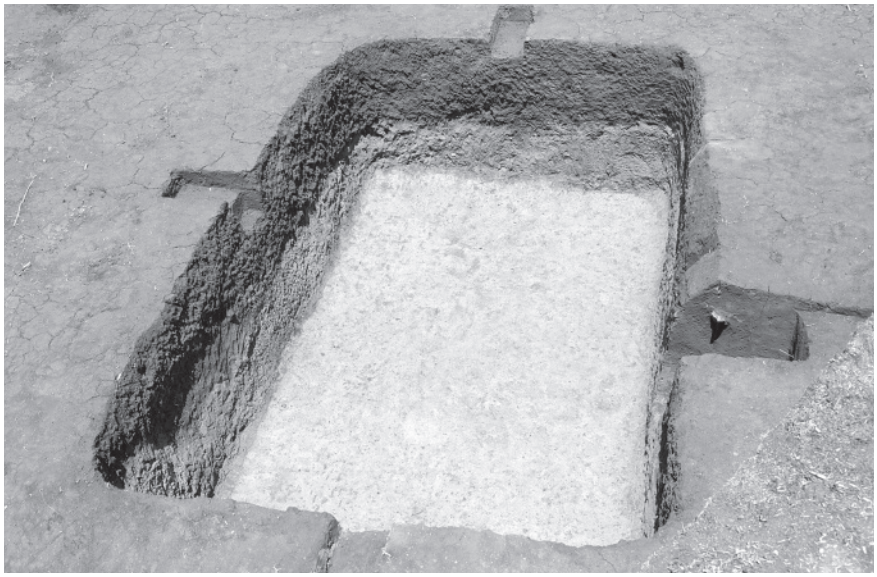
第３号竪穴遺構
完掘状況

第４号竪穴遺構
完掘状況

第６号竪穴遺構
粘土出土状況



第７号竪穴遺構
完　掘　状　況



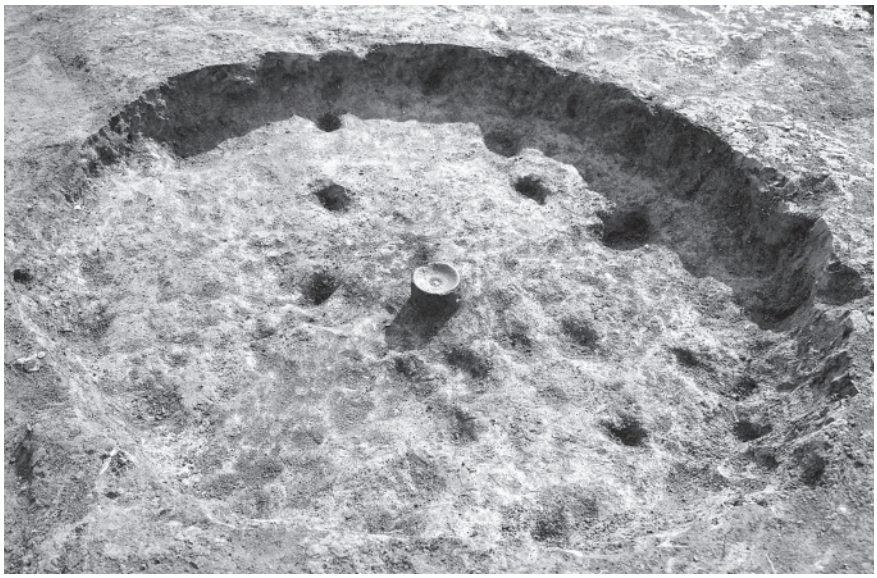
第８号竪穴遺構
完　掘　状　況

第 5 号 土 坑
遺 物 出 土 状 況

第 7 号 土 坑
遺 物 出 土 状 況

第 11 号 土 坑
遺 物 出 土 状 況

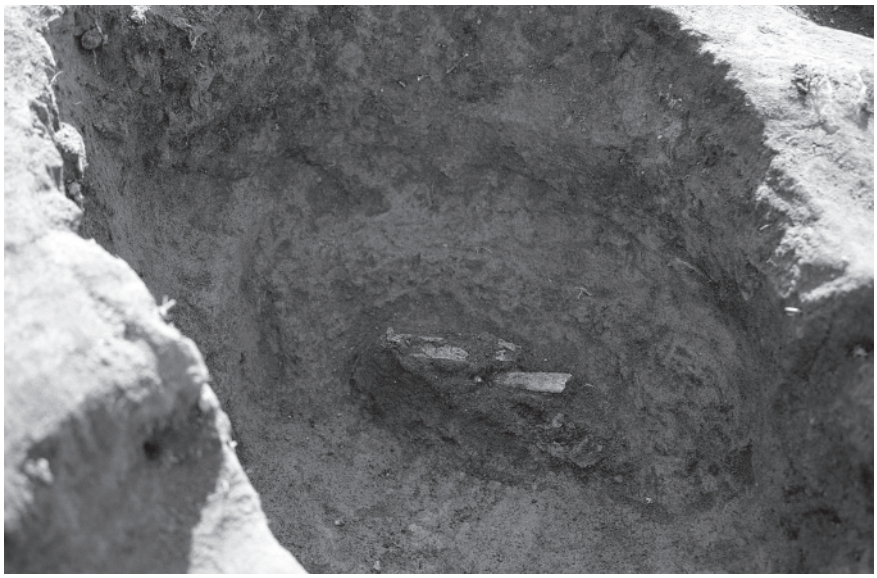
第 15 号　土　坑
遺 物 出 土 状 況



第 43 号　土　坑
遺 物 出 土 状 況

第 62 号　土　坑
遺 物 出 土 状 況

第 252 号 土 坑
遺 物 出 土 状 況



第 1 号 墓 坑
骨 片 出 土 状 況

第 5 号 溝 跡
完 掘 状 況

SI 127-2

TM 1 -11

TM 1 -10

TM 1 - 9

TM 1 -14

TM 1 - 5

TM 1 -16

TM 1 -13

第127号住居跡，第１号墳出土土器

TM 1 -15

TM 1 -12

SI 6-21

SI 6-22

SI 6-23

SI 6-25

SI 6-30

SI 6-26

第６号住居跡，第１号墳出土土器

SI 6-19

SI 6-20

SI 14-33

SI 14-34

SI 14-35

SI 6-27

SI 6-29

SI 6-28

第6・14号住居跡出土土器

SI 17-38

SI 39-70

SI 23-53

SI 23-51

SI 23-55

SI 23-52

SI 18-47

SI 23-56

第17・18・23・39号住居跡出土土器

SI 26-58

SI 44-75

SI 26-59

SI 27-63

SI 26-60

SI 27-65

SI 23-57

SI 31-69

第23・26・27・31・44号住居跡出土土器

SI 44-78

SI 44-76

SI 44-74

SI 44-81

SI 44-80

第44号住居跡出土土器

SI 54-90

SI 70-94

SI 53-89

SI 70-95

SI 49-87

SI 49-84

SI 44-77

第44・49・53・54・70号住居跡出土土器

SI 70-97

SI 70-98

SI 70-103

SI 70-99

SI 70-101

SI 70-100

第70号住居跡出土土器

SI 86-115

SI 86-117

SI 86-113

SI 86-118

SI 86-114

SI 78-111

SI 86-116

SI 70-102

SI 77-109

第70・77・78・86号住居跡出土土器

SI 87-122

SI 118-132

SI 118-131

SI 118-130

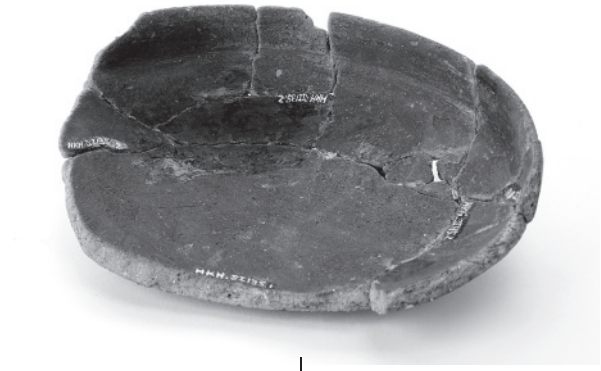
SI 113-124

SI 113-125

SI 113-128

SI 96-123

第87・96・113・118号住居跡出土土器



第118・132・135・146号住居跡，第26号土坑出土土器

SK39-165

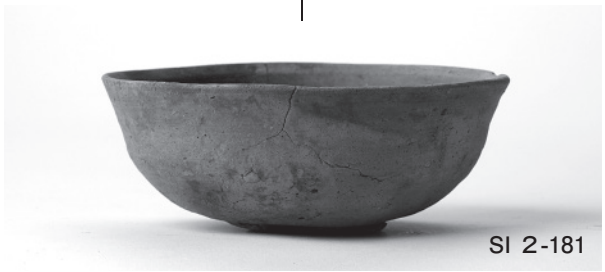
SK214-175

SK76-168

SK116-170

SK220-176

第39・76・116・214・220号土坑出土土器



第２・３・４号住居跡出土土器

SI 13-212

SI 10-202

SI 5-196

SI 24-220

SI 9-199

SI 29-230

SI 13-211

SI 13-210

SI 13-214

第5・9・10・13・24・29号住居跡出土土器

SI 37-248

SI 52-277

SI 33-237

SI 48-264

SI 48-263

SI 35-245

SI 33-238

SI 35-244

SI 33-240

第33・35・37・48・52号住居跡出土土器

SI 43-255

SI 51-268

SI 51-269

SI 43-254

SI 48-267

SI 43-253

SI 48-266

第43・48・51号住居跡出土土器

SI 59-284

SI 83-304

SI 89-312

SI 79-300

SI 51-273

SI 82-303

SI 67-292

SI 83-308

SI 57-282

第51・57・59・67・79・82・83・89号住居跡出土土器

SI 97-324

SI 97-328

SI 95-323

SI 91-316

SI 97-326

SI 93-322

SI 91-318

SI 99-330

SI 84-310

第84・91・93・95・97・99号住居跡出土土器

SI 104-336

SI 114-355

SI 100-331

SI 105-337

SI 106-343

SI 110-352

SI 106-342

SI 108-351

SI 106-344

SI 106-345

第100・104・105・106・108・110・114号住居跡出土土器

SI 120-367

SI 134-385

SI 119-364

SI 134-382

SI 121-369

SI 134-383

SI 126-371

SI 134-384

SI 126-372

SI 126-373

第119・120・121・126・134号住居跡出土土器

SI 138-392

SI 141-404

SI 140-395

SI 141-398

SI 140-394

SI 141-397

SI 136-387

SI 141-399

SI 141-400

SI 141-401

第136・138・140・141号住居跡出土土器

SI 141-402

SI 141-403

SI 141-406

SH２-414

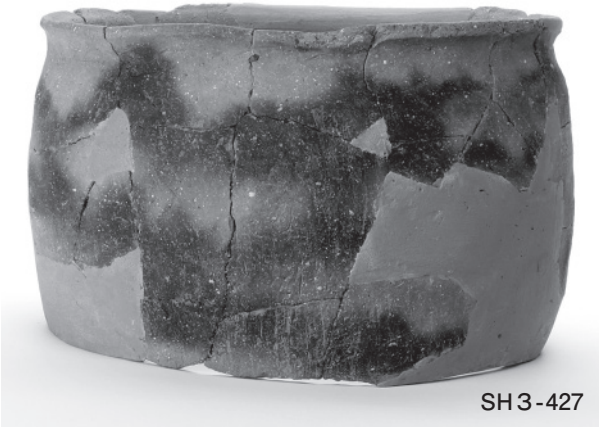
SH３-420

SH３-425

SH３-423

SH３-424

SH３-419


SH３-427

第141号住居跡,第２・３号竪穴遺構出土土器

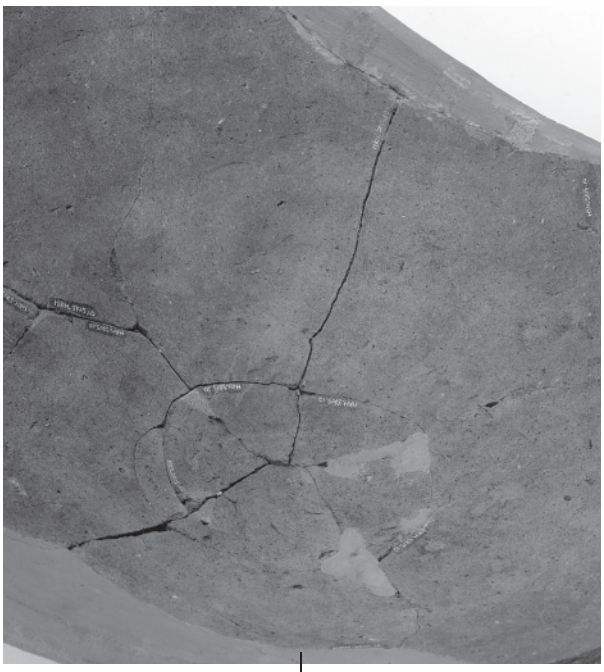
SH４-429

SH６-434

SK５-445

SK15-459

SK５-446



SK５-447

SK15-462

第４・６号竪穴遺構，第５・15号土坑出土土器

SK７-452

SK43-466

SK７-451

SK47-467

SK７-450

SK11-457

SK25-465

SK25-464

SK25-463

SK78-471

第７・11・25・43・47・78号土坑出土土器

SK62-470

SK252-481

SK62-469

SK252-482

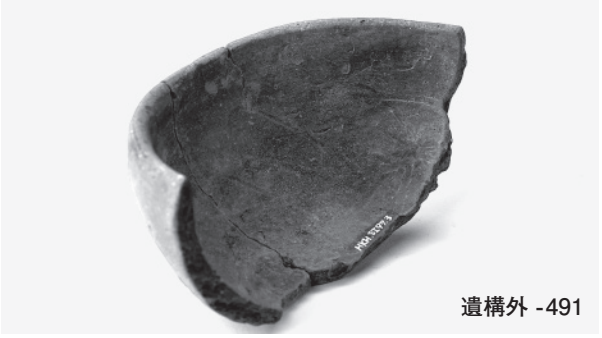
SK218-480

SK252-483

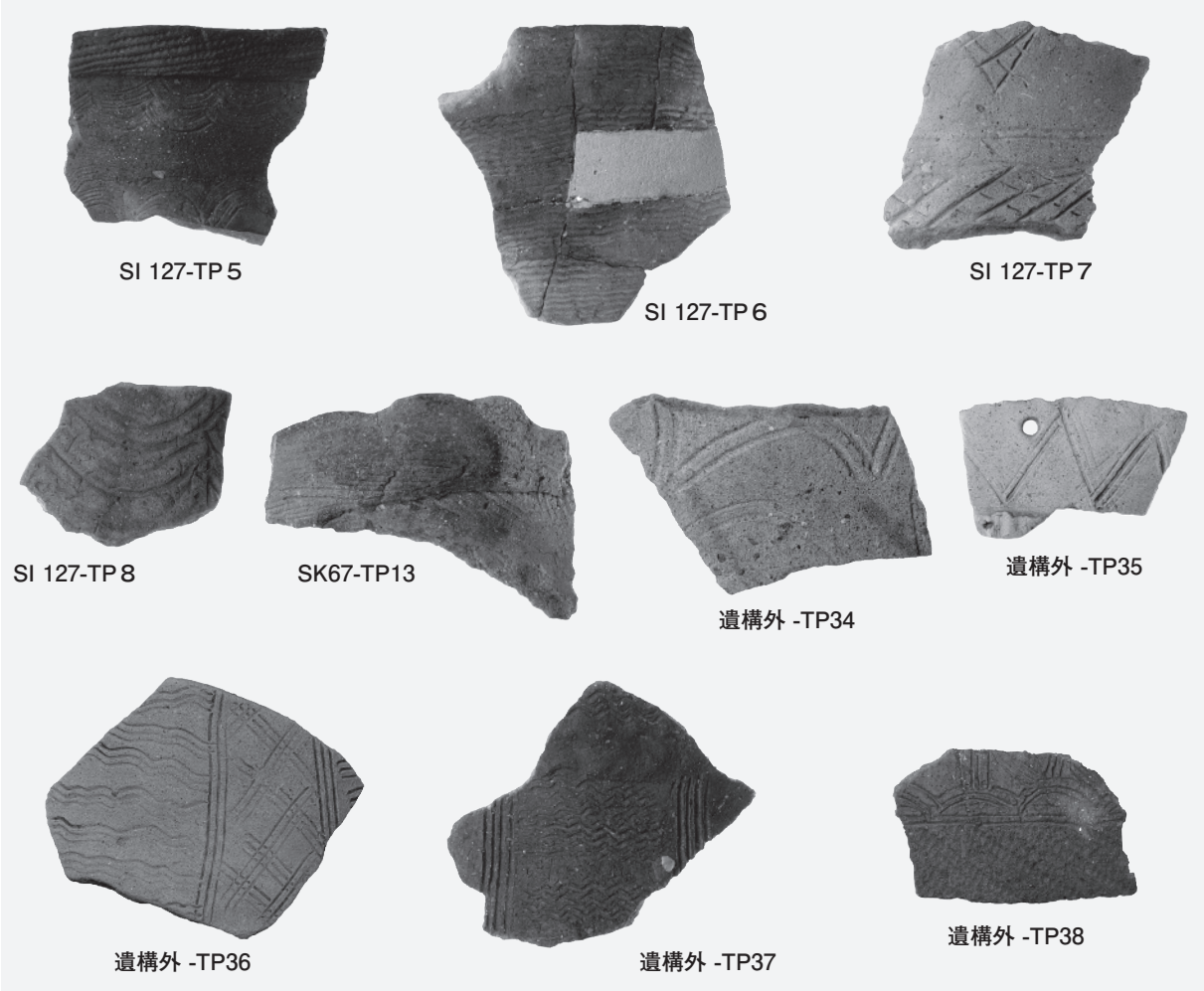
PG 1 -485

遺構外 -489

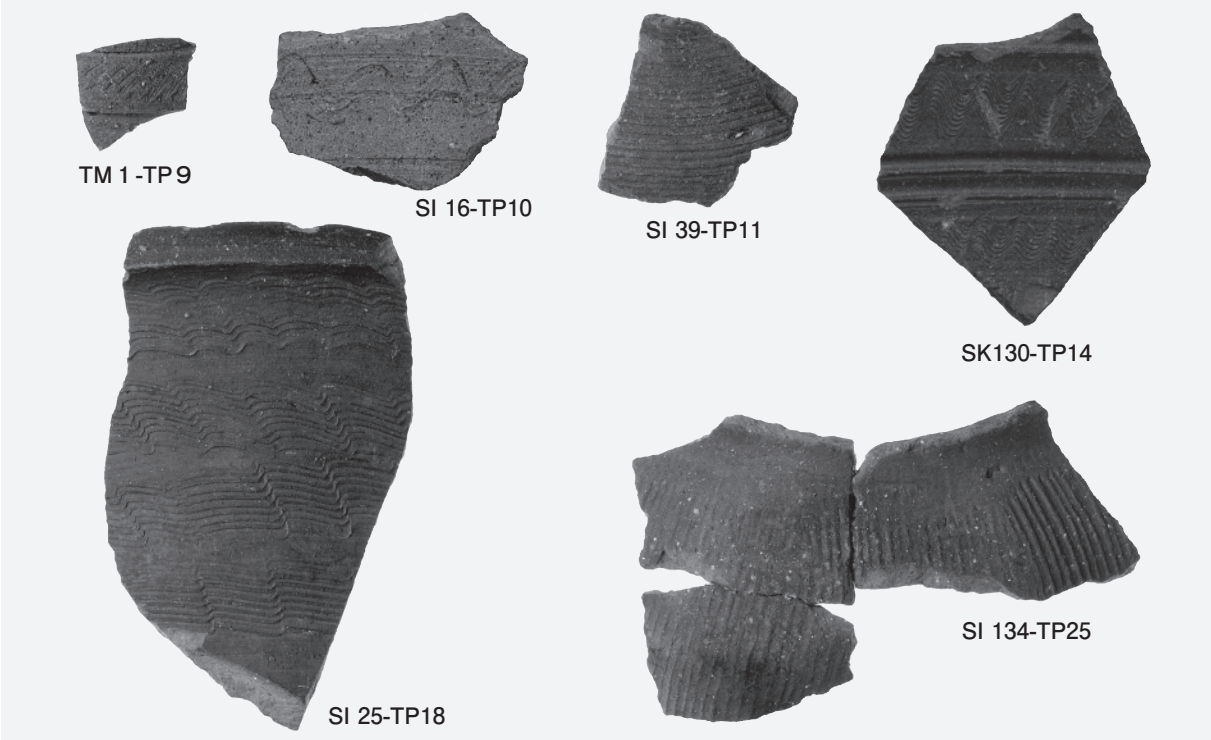
遺構外 -490

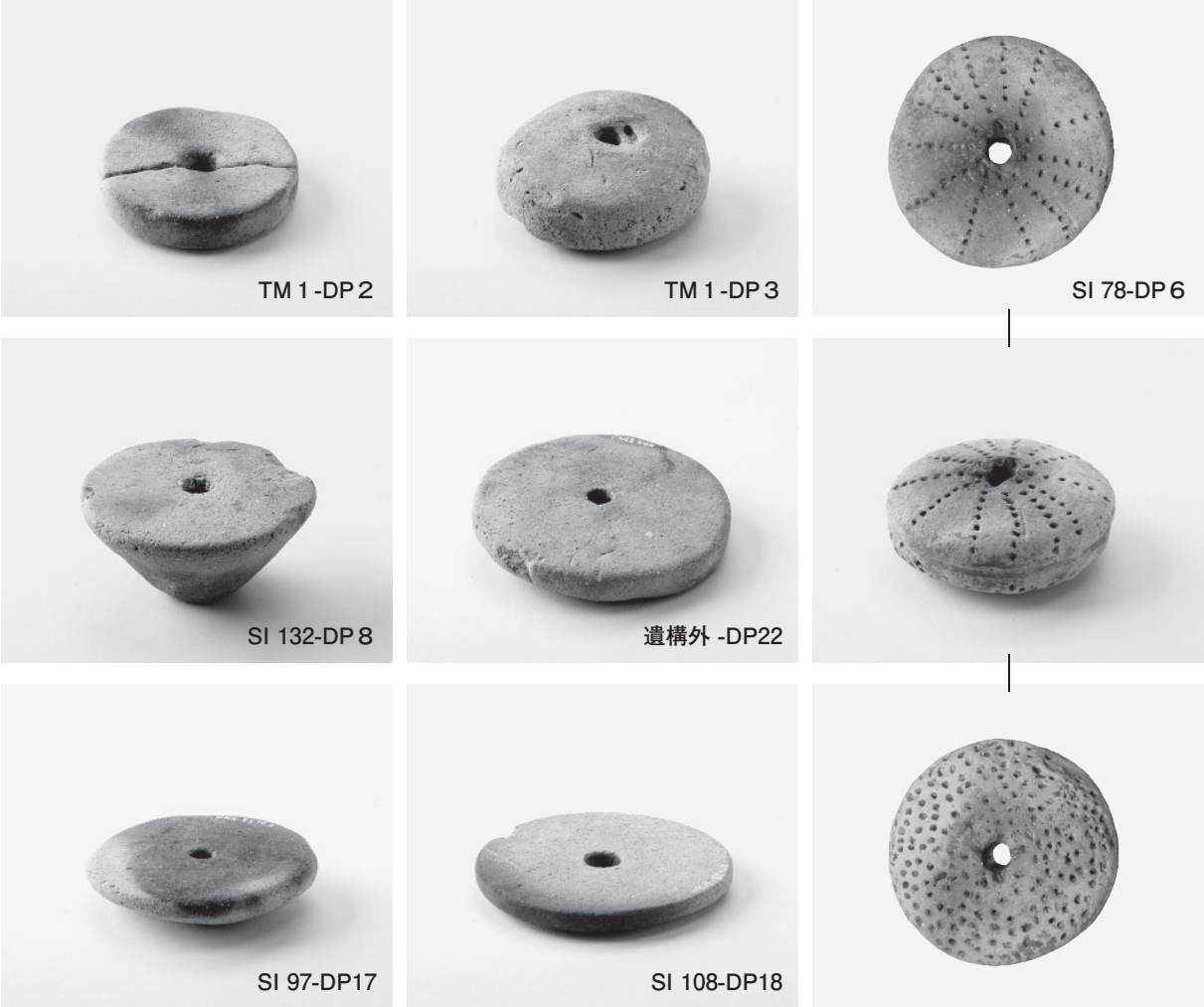

遺構外 -491

第62・218・252号土坑，第１号ピット群，遺構外出土土器



第１号地点貝塚，第127号住居跡，第１・67号土坑，遺構外出土土器





第１号墳，第16・25・39・78・97・108・132・134号住居跡，第130号土坑，遺構外出土土器・土製品

SI 87-DP 7

TM 1 -DP 1

遺構外 -DP19

遺構外 -DP21

SI 15-DP 9
SI 15-DP10
SI 15-DP11

SI 25-DP12

SI 48-DP14

SI 44-DP 5

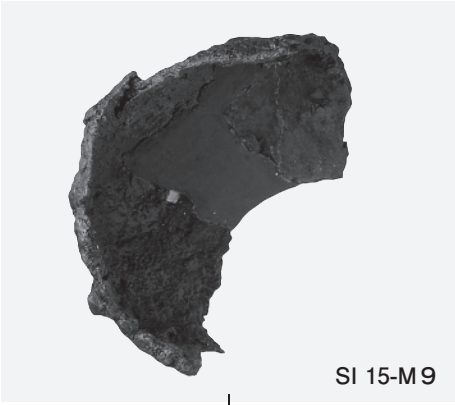
遺構外 -Q35
遺構外 -Q34

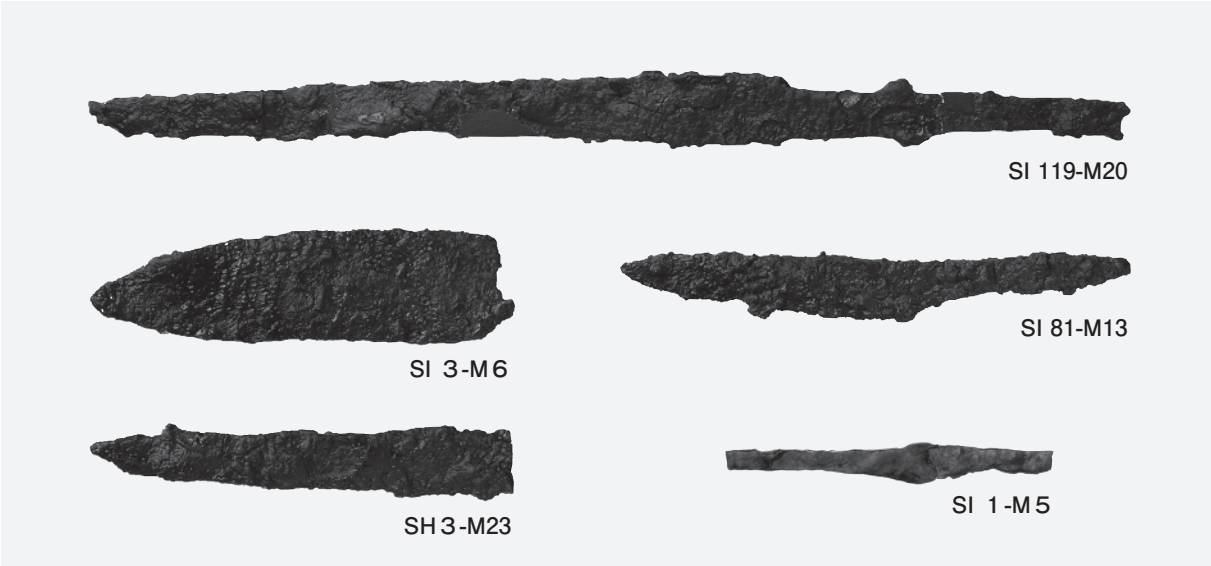
SI 121-Q24

SI 129-Q25

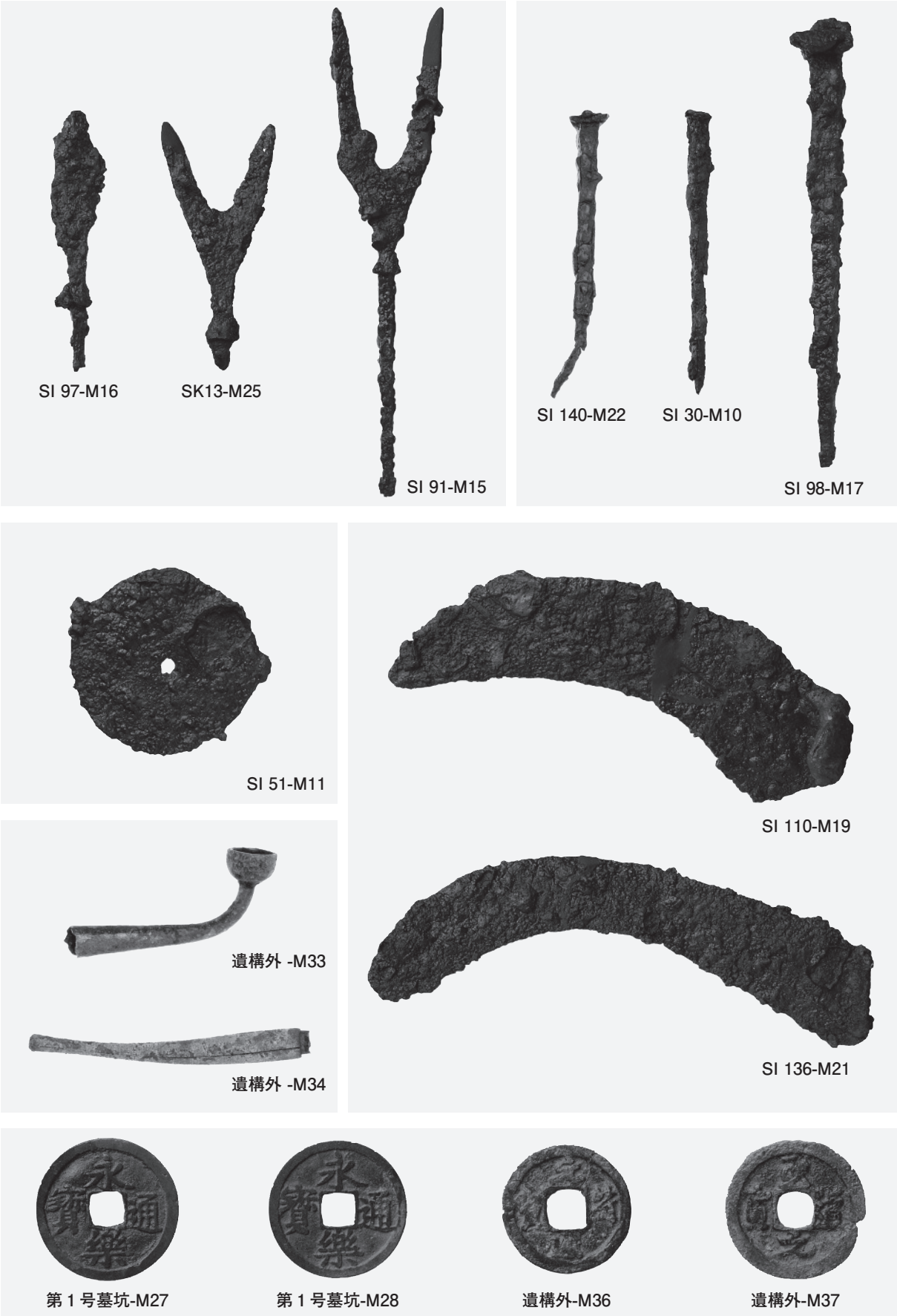
第 1 号墳，第15・25・44・48・87・121・129号住居跡，遺構外出土土製品・石器・石製品

第１号墳，第13・18・28・53・86・87・140号住居跡，第18号土坑，第５号溝跡，遺構外出土石器・石製品





第１・３・６・13・15・19・81・119号住居跡，第３号竪穴遺構出土金属製品



第30・51・91・97・98・110・136・140号住居跡，第 1 号墓坑，第13号土坑，遺構外出土金属製品・銭貨

第１・３・24・108号住居跡，第２号竪穴遺構，第１号ピット群，遺構外出土墨書土器・灰釉陶器・緑釉陶器・鞘尻金具

SI 119-366

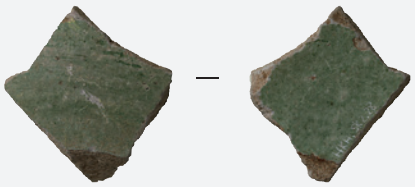
SI 120-368

SI 60-285

SI 24-221

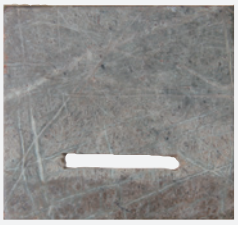
SI 51-272

SI 24-222



SH５-439

遺構外-497



SK13-Q28

SI 51-276

第24・51・60・119・120号住居跡，第５号竪穴遺構，第13号土坑，遺構外出土須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・腰帯具

抄　　録

ふりがな	ひなたいせき
書名	日向遺跡
副書名	一般国道293号常陸太田東バイパス及び主要地方道日立笠間線バイパス整備事業地内埋蔵文化財調査報告書
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第365集
著者名	小川貴行　松林秀和
編集機関	公益財団法人茨城県教育財団
所在地	〒310－0911　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　　TEL 029－225－6587
発行日	2013（平成25）年3月15日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
日向遺跡	茨城県常陸太田市亀作町字日向53番地ほか	08212－056	36度31分58秒	140度33分53秒	28～33 m	20100601～20110331	7,550 ㎡	一般国道293号常陸太田東バイパス及び主要地方道日立笠間線バイパス整備事業に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
日向遺跡	集落跡	縄文	地点貝塚　1か所 土坑　1基	縄文土器	出土遺物には，現在の字名と同じ読み方ができる「日奈田」と書かれた墨書土器が出土しており，郷内の詳細な地名を考察する上で貴重な資料となる。
		弥生	竪穴住居跡　1軒	弥生土器	
		古墳	竪穴住居跡　36軒 円筒形土坑　5基 土坑　12基	土師器，須恵器，土製品（円筒形土製品），石器（磨石・凹石・砥石・台石），石製品（勾玉・管玉・臼玉・紡錘車），鉄製品（鋤先・鎌）	
		奈良・平安	竪穴住居跡　93軒 掘立柱建物跡　1棟 竪穴遺構　9基 焼土遺構　2基 土坑　19基 ピット群　1か所	土師器，須恵器，灰釉陶器，緑釉陶器，石製品（腰帯具・砥石），金属製品（鞘尻金具・短刀・刀子・鉄鏃・鎌・紡錘車・釘）	
		不明	竪穴住居跡　3軒 掘立柱建物跡　1棟 道路跡　1条 土坑　186基 溝跡　12条 ピット群　7か所	縄文土器，弥生土器，土師器，須恵器，陶器，磁器，土製品（土器片円盤・円筒埴輪・紡錘車・泥面子），石器（尖頭器・石鏃・磨製石斧），石製品（紡錘車・双孔円板・玦状耳飾），鉄製品（釘・煙管）	
	古墳	古墳	古墳　1基	土師器，須恵器，土製品（土玉・紡錘車）石製品（砥石・管玉・双孔方板）	
	その他の墳墓	中世・近世	墓坑　2基 溝跡　1条	陶器，土師質土器，石製品（五輪塔），銭貨（永樂通寶）	

要約	当遺跡は古墳時代及び奈良・平安時代を中心とした複合遺跡である。古墳時代の集落は，前期に始まり，中期に古墳が築造された後も後期に至るまで継続して営まれている。奈良・平安時代の集落は，90軒以上の住居跡が確認でき，当該期において住居の形態や位置がどのように移行してゆくのかを知る上で貴重な資料となる。また，工房跡の可能性のある大形の竪穴遺構が3基確認されている。

仕　　様

編　　集　ＯＳ　Microsoft Windows 7
Home Premium.ServicePack1
レイアウト　Adobe InDesign CS５
図版作成　Adobe Illustorator CS５
写真調整　Adobe Photoshop CS５
Scanning　6×７film　Nikon SUPER COOLSCAN9000ED
組　　版　OpenType13級リュウミンPro・Ｌ基本
Adobe InDesign CS５
印　　刷　オフセット印刷
写真製版　スクリーン線数　モノクロ175線　カラー210線
・印刷所へは，Adobe Indesign CS５でレイアウトしたものを入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第365集

日　向　遺　跡

一般国道293号常陸太田東バイパス及び主要地方道
日立笠間線バイパス整備事業地内埋蔵文化財調査報告書

下　巻

平成25（2013）年　3月12日　印刷
平成25（2013）年　3月15日　発行

発行　公益財団法人茨城県教育財団
〒310－0911　水戸市見和１丁目356番地の２
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL　029－225－6587
ＨＰ　http：//www.ibaraki-maibun.org

印刷　株式会社あけぼの印刷社
〒310－0804　水戸市白梅１丁目２番11号
TEL　029－227－5505